

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガクコホクジン シズカリコカガク 学校法人 静岡理科大学								
フリガナ大学の名称	シズカリコカガク 静岡理科大学 (Shizuoka Institute of Science and Technology)								
大学本部の位置	静岡県袋井市豊沢2200番地の2								
大学の目的	本学は、学校教育法及び教育基本法に基づき、科学・技術に関する学術を研究教授し、国際的視野と技術者としての使命感を持った向上心溢れる人材の育成、及び実践的研究により社会に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	土木工学の専門知識および関連技術を修得するとともに、種々のプロジェクト推進を体験することにより、主体的に環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する観点から、地域社会の課題を発見し、他者と連携して課題解決に取り組む実践力を養う。ここから得られた広範な視野と能動的な行動力を礎として、社会基盤整備や防災・減災の発展に貢献できる人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	理工学部 【Faculty of Science and Technology】 土木工学科 【Department of Civil Engineering】 計	4	50	—	200	学士（工学） 【Bachelor of Engineering】	令和4年4月1年次	静岡県袋井市豊沢2200番地の2	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	○理工学部 土木工学科【定員増】（50）（令和3年6月認可申請）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	理工学部土木工学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
教員の組織概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
	新設分	理工学部 土木工学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
			人	人	人	人	人	人	人
			5 (3)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (4)	0 (0)	61 (61)
	計		5 (3)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (4)	0 (0)	— (—)
	既設分	理工学部 機械工学科 電気電子工学科 物質生命科学科 建築学科 情報学部 コンピュータシステム学科 情報デザイン学科 教育開発センター 先端機器分析センター 計	8 (8)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	63 (63)
			6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	57 (57)
			7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	58 (58)
			4 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	80 (80)
			5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	56 (56)
7 (7)			4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	49 (49)	
1 (1)			2 (2)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
0 (0)			0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
計		38 (38)	29 (29)	7 (7)	0 (0)	74 (74)	0 (0)	— (—)	
合計		43 (41)	32 (30)	7 (0)	0 (0)	82 (78)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		28 (28)	18 (18)	46 (46)					
	技 術 職 員		6 (6)	2 (2)	8 (8)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	3 (3)	5 (5)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		36 (36)	23 (23)	59 (59)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	68,035㎡	0㎡	0㎡	68,035㎡					
	運 動 場 用 地	24,611㎡	0㎡	0㎡	24,611㎡					
	小 計	92,646㎡	0㎡	0㎡	92,646㎡					
	そ の 他	111,655㎡	0㎡	0㎡	111,655㎡					
	合 計	204,301㎡	0㎡	0㎡	204,301㎡					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	31,114㎡ (27,343㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	31,114㎡ (27,343㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	26室	7室	116室	4室 (補助職員 人)	1室 (補助職員 人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	理工学部 土木工学科			8 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分を 含む。 視聴覚資料		
	理工学部土木工学科	1,999 [199] (1,333 [133])	20 [10] (16 [8])	4 [4] (3 [3])	2,800 (2,600)	- (-)	- (-)			
	計	1,999 [199] (1,333 [133])	20 [10] (16 [8])	4 [4] (3 [3])	2,800 (2,600)	- (-)	- (-)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数						
	1,672㎡	254		124,324						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	1,217㎡	テニスコート 3面			トレーニング室					
経 費 の 見 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 ※図書費には電子 ジャーナル・データ ベースの整備費（運用 コスト含む）を含む
		教員1人当り研究費等		550千円	550千円	550千円	550千円	-	-	
		共同研究費等		1,700千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円	-	-	
		図書購入費	7,060千円	1,930千円	1,930千円	1,930千円	850千円	-	-	
	設備購入費	80,000千円	80,000千円	80,000千円	80,000千円	80,000千円	-	-		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,540千円	1,250千円	1,260千円	1,270千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

既設大学等の状況	大学の名称	静岡理工科大学							所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
	理工学部		240		960		1.08		
	機械工学科	4	75	—	300	学士(工学)	(1.10)	平成3年度	
	電気電子工学科	4	60	—	240	学士(工学)	(1.15)	平成3年度	
	物質生命科学科	4	55	—	220	学士(理学)	(1.01)	平成3年度	
	建築学科	4	50	—	200	学士(工学)	(1.09)	平成29年度	
	情報学部		130		520		1.10		
	コンピュータシステム学科	4	60	—	240	学士(情報学)	(1.10)	平成20年度	
	情報デザイン学科	4	70	—	280	学士(情報学)	(1.10)	平成20年度	
	理工学研究科		25		50		0.79		
	システム工学専攻	2	15	—	30	修士(理工学) 修士(技術経 営)	(0.89)	平成8年度	
	材料科学専攻	2	10	—	20	修士(理工学) 修士(技術経 営)	(0.62)	平成8年度	
附属施設の概要	<p>名称：総合技術研究所 目的：産学官との共同研究及び企業・地域社会に対する研究指導の推進 所在地：静岡県袋井市豊沢2200番地の2（静岡理工科大学敷地内） 設置年月：平成3年4月 規模等：学内の研究実験室と研究室の一部を充当</p> <p>名称：工作センター 目的：金属やガラスの加工技術の実習、研究に必要な器具を製作するための施設 所在地：静岡県袋井市豊沢2200番地の2（静岡理工科大学敷地内） 設置年月：平成3年4月 規模等：平屋建 延床面積308㎡</p> <p>名称：夢創造ハウス 目的：学生の機械加工や電気・電気関連の実習のための施設 所在地：静岡県袋井市豊沢2200番地の2（静岡理工科大学敷地内） 設置年月：平成18年12月 規模等：2階建 延床面積628㎡</p> <p>名称：エンジン実験棟 目的：エンジン性能試験や実験のための施設 所在地：静岡県袋井市豊沢2200番地の2（静岡理工科大学敷地内） 設置年月：平成18年12月 規模等：平屋建 延床面積101㎡</p> <p>名称：先端機器分析センター 目的：機器の性能維持や新しい活用法の開発及び研究・教育活動を支援するため 所在地：静岡県袋井市豊沢2200番地の2（静岡理工科大学敷地内） 設置年月：平成23年3月 規模等：3階建 延床面積626㎡</p> <p>名称：やらまいか創造工学センター 目的：学生が主体的に学ぶ教育や地域企業と連携して研究を推進するための施設 所在地：静岡県袋井市豊沢2200番地の2（静岡理工科大学敷地内） 設置年月：平成25年6月 規模等：3階建 延床面積1,268㎡</p> <p>名称：構造実験棟 目的：耐震実験等の静的構造実験を行うための施設 所在地：静岡県袋井市豊沢2200番地の2（静岡理工科大学敷地内） 設置年月：平成29年5月 規模等：平屋建 延床面積260㎡</p> <p>名称：環境実験棟 目的：照明の明るさや色温度など光環境の実験を行うための施設 所在地：静岡県袋井市豊沢2200番地の2（静岡理工科大学敷地内） 設置年月：平成29年5月 規模等：平屋建 延床面積112㎡</p>								

※情報学部は学部で一括募集し、2年進級時に学科配属を

学校法人 静岡理工科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	
静岡理工科大学				
理工学部	3年次			
機械工学科	75	0	300	
電気電子工学科	60	0	240	
物質生命科学科	55	0	220	
建築学科	50	0	200	
情報学部	3年次			
コンピュータシステム学科	60	0	240	
情報デザイン学科	70	0	280	
計	370	0	1480	
静岡理工科大学大学院				
理工学研究科				
システム工学専攻(M)	15	-	30	
材料工学専攻(M)	10	-	20	
計	25	0	50	
静岡産業技術専門学校				
コンピュータ科(2年制)	40	-	80	
みらい情報科(4年制)	25	-	100	
CG技術科(3年制)	30	-	90	
ゲームクリエイト科(3年制)	30	-	90	
建築科(2年制)	30	-	60	
CADデザイン科(2年制)	20	-	40	
医療事務科(2年制)	20	-	40	
こども保育科(3年制)	20	-	60	
計	215	0	560	
沼津情報・ビジネス専門学校				
コンピュータ科(2年制)	40	-	80	
ゲームクリエイト科(3年制)	20	-	60	
高度ITビジネス科(4年制)	20	-	80	
CGデザイン科(3年制)	20	-	60	
ビジネス科(2年制)	20	-	40	
医療事務科(2年制)	20	-	40	
公務員科(1年制)	10	-	10	
公務員科(2年制)	10	-	20	
国際ビジネス科(3年制)	20	-	60	
こども保育科(3年制)	20	-	60	
製菓・製パン科(2年制)	30	-	60	
計	230	0	570	
浜松未来総合専門学校				
グラフィックデザイン科(3年制)	20	-	60	
メイク・ブライダル科(2年制)	20	-	40	
デジタルコンテンツ科(3年制)	20	-	60	
セキュリティネットワーク科(2年制)	20	-	40	
AI×コンピュータ科(2年制)	50	-	100	
ゲームクリエイト科(3年制)	25	-	75	
CADデザイン科(2年制)	20	-	40	
国際IT・CAD科(2年制)	20	-	40	
医療事務科(2年制)	25	-	50	
国際観光・ビジネス科(2年制)	20	-	40	
未来こども科(2年制)	40	-	80	
国際介護福祉科(2年制)	30	-	60	
計	310	0	685	

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
静岡理工科大学				
理工学部	3年次			
機械工学科	75	0	300	
電気電子工学科	60	0	240	
物質生命科学科	55	0	220	
建築学科	50	0	200	
土木工学科	50	0	200	学科の設置(届出)
情報学部	3年次			
コンピュータシステム学科	60	0	240	
情報デザイン学科	70	0	280	
計	420	0	1680	
静岡理工科大学大学院				
理工学研究科				
システム工学専攻(M)	15	-	30	
材料工学専攻(M)	10	-	20	
計	25	0	50	
静岡産業技術専門学校				
コンピュータ科(2年制)	40	-	80	
みらい情報科(4年制)	25	-	100	
CG技術科(3年制)	30	-	90	
ゲームクリエイト科(3年制)	30	-	90	
建築科(2年制)	30	-	60	
CADデザイン科(2年制)	20	-	40	
医療事務科(2年制)	20	-	40	
こども保育科(3年制)	20	-	60	
計	215	0	560	
沼津情報・ビジネス専門学校				
コンピュータ科(2年制)	40	-	80	
ゲームクリエイト科(3年制)	20	-	60	
高度ITビジネス科(4年制)	20	-	80	
CGデザイン科(3年制)	20	-	60	
ビジネス科(2年制)	20	-	40	
医療事務科(2年制)	20	-	40	
公務員科(1年制)	10	-	10	
公務員科(2年制)	10	-	20	
国際ビジネス科(3年制)	20	-	60	
こども保育科(3年制)	20	-	60	
製菓・製パン科(2年制)	30	-	60	
計	230	0	570	
浜松未来総合専門学校				
グラフィックデザイン科(3年制)	20	-	60	
メイク・ブライダル科(2年制)	20	-	40	
デジタルコンテンツ科(3年制)	20	-	60	
セキュリティネットワーク科(2年制)	20	-	40	
AI×コンピュータ科(2年制)	50	-	100	
ゲームクリエイト科(3年制)	25	-	75	
CADデザイン科(2年制)	20	-	40	
国際IT・CAD科(2年制)	20	-	40	
医療事務科(2年制)	25	-	50	
国際観光・ビジネス科(2年制)	20	-	40	
未来こども科(2年制)	40	-	80	
国際介護福祉科(2年制)	30	-	60	
計	310	0	685	

静岡デザイン専門学校			
ファッションビジネス科(2年制)	20	-	40
ファッションデザイン科(3年制)	20	-	60
ブライダル・ビューティー科(2年制)	30	-	60
グラフィックデザイン科(3年制)	60	-	180
プロダクトデザイン科(3年制)	20	-	60
インテリアデザイン科(3年制)	20	-	60
フラワーデザイン科(2年制)	20	-	40
計	190	0	500
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校			
国際エアライン科(2年制)	30	-	60
観光・ホテルブライダル科(2年制)	30	-	60
国際コミュニケーション科(2年制)	30	-	60
国際交流科(3年制)	20	-	60
計	110	0	240

静岡デザイン専門学校			
ファッションビジネス科(2年制)	20	-	40
ファッションデザイン科(3年制)	20	-	60
ブライダル・ビューティー科(2年制)	30	-	60
グラフィックデザイン科(3年制)	60	-	180
プロダクトデザイン科(3年制)	20	-	60
インテリアデザイン科(3年制)	20	-	60
フラワーデザイン科(2年制)	20	-	40
計	190	0	500
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校			
国際エアライン科(2年制)	30	-	60
観光・ホテルブライダル科(2年制)	30	-	60
国際コミュニケーション科(2年制)	30	-	60
国際交流科(3年制)	20	-	60
計	110	0	240

教育課程等の概要

(理工学部土木工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
I類 (人間・文化科目)	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			3	1						
	スポーツ1	1前	1					○								兼2
	Advanced English 1	1前		2				○								兼4
	General English 1	1前		2				○								兼4
	Advanced English 2	1後		2				○								兼4
	General English 2	1後		2				○								兼4
	Advanced English 3	2前		2				○								兼4
	General English 3	2前		2				○								兼4
	Advanced English 4	2後		2				○								兼4
	General English 4	2後		2				○								兼4
	文学	1前		2			○									兼1
	文化と文明	1後		2			○									兼1
	心理学	2前		2			○									兼1
	歴史学	2前		2			○									兼1
	現代生活論	3前		2			○									兼1
	芸術論	2後		2			○									兼1
	国際関係論	1前		2			○									兼1
	政治学	1後		2			○									兼1
	経済学	2前		2			○									兼1
	社会学	2後		2			○									兼1
	暮らしのなかの憲法	3前		2			○									兼1
	地域学	1後		1					○							兼1
	実践技術者講座	2前		1			○									兼1
	インターンシップ	3後		1					○							兼1
	就職準備ガイダンス	3前		1			○									兼1
	インターネットと情報倫理	1前		2			○									兼1
	建築の技術と文化	1後		2			○									兼3
	科学技術者の倫理	3後		2			○									兼1
	地球科学	2前		2			○									兼1
	スポーツ2	2後		1					○							兼1
	健康の科学	3前		2			○									兼3
	スポーツ3	2後		1					○							兼1
	スポーツ4	3前		1					○							兼1
	英語コミュニケーション	3前		2					○							兼1
	中国語1	1前		2					○							兼1
	韓国語1	1前		2					○							兼1
	中国語2	1後		2					○							兼1
	韓国語2	1後		2					○							兼1
	国際PBL	3後		1					○							兼1
	海外語学研修	1後		1					○							兼1
	特別共同講義	2後		2			○									兼1
	特別集中講義	2後		2			○									兼1
	地域実践活動	2後		1					○							兼1
	理工系教養の英語	1前		2					○							兼1
	理工系教養の課題研究	1前		2					○							兼1
	日本語表現法	1前		2					○							兼1
小計 (46科目)		—	3	78	0			—	3	1	0	0	0		兼31	

オムニバス

教育課程等の概要

(理工学部土木工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
II類 (学部共通専門基礎科目)	基礎数学	1前			3		○								兼2	※講義
	微分積分/演習	1前		3			○								兼1	※講義
	微分積分/演習A	1後		3			○								兼1	※講義
	微分積分/演習B	1後		3			○								兼1	※講義
	線形代数/演習	1前		3			○								兼1	※講義
	応用数学	1後		2		○									兼1	
	微分方程式	2前		2		○									兼1	
	ベクトル解析	2前		2		○									兼1	
	理工系教養の数学	1後		2		○									兼1	
	物理学1	1後		2		○									兼1	
	化学	1後		2		○									兼1	
	生物学	1後		2		○									兼2	
	物理学2	2前		2		○									兼1	
	コンピュータ入門	1前	1				○								兼1	
	プログラミング入門	1後		1			○								兼1	※講義
	コンピュータ構成概論	1後		2		○									兼1	
	データサイエンス概論	2前		2		○									兼1	
	プログラミング応用	2前		1			○								兼1	
	科学実験1	1前		1				○							兼1	
	科学実験2	1前		1				○							兼1	
	環境化学	1後		2		○									兼1	
	工業材料とその性質	2後		2		○									兼1	
	環境と新エネルギー	3前		2		○									兼1	
	品質工学入門	3後		2		○									兼1	
	財務システム入門	3後		2		○									兼3	
小計 (25科目)		—	1	46	3	—			0	0	0	0	0	0	兼26	
III類 (学科専門科目)	土木工学概論	1前	2			○			3	1						オムニバス
	土木工学数理演習	1前	2				○			1						
	測量学	1後	2			○			1							
	測量実習	2前	1					○	5	3						
	土木工学実験1	2前	2					○	1	1						
	土木工学実験2	2後	2					○	2							
	卒業研究1	4前	2				○		5	3						
	卒業研究2	4後	2				○		5	3						
	地球災害プロジェクト	1後	2				○		2							
	減災社会デザインプロジェクト	2前	2				○		1	1						
	静岡防災まちづくりプロジェクト	3前	2				○			2						
	建設材料工学	2前	2			○			1							
	コンクリート構造	2後	2			○			1							
	土質力学	2前	2			○			1							
	土質力学演習	2後	2				○		1							
	水理学	2前	2			○			1							
	水理学演習	2後	2				○		1							
	構造力学	2前	2			○			1							
	構造力学演習	2後	2				○		1							
	土木計画学	2後	2			○				1						
土木計画学演習	3前	2				○			1							

教育課程等の概要

(理工学部土木工学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅲ類 (学科専門科目)	インフラネットワーク	3後		2				○		2					兼1 兼1 兼1 兼1
	維持管理工学	3前		2		○				1					
	耐震工学	3後		2		○									
	地盤工学	3前		2		○				2					
	土地地質学	3後		2		○				1					
	流体理論	3前		2		○				1					
	海岸工学	3後		2		○					1				
	災害メカニズム	3後		2				○		2					
	構造デザイン	3前		2		○				1					
	インフラマネジメント論	3後		2				○				1			
	モビリティデザイン	3前		2		○						1			
	運輸施設工学	3後		2		○									
	環境工学	3前		2		○									
環境保全工学	4前		2		○										
小計 (35科目)		—	41	28	0			—	5	3	0	0	0	兼4	
合計 (106科目)		—	45	152	3			—	5	3	0	0	0	兼61	
学位又は称号		学士 (工学)		学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
I類 (人間・文化科目) から、必修科目3単位、選択必修科目8単位 (※1参照) 選択科目12単位以上、II類 (学部共通専門基礎科目) から、必修科目1単位、選択必修科目3単位 (※2参照)、選択科目8単位以上、III類 (学科専門科目) から、必修科目41単位、選択科目18単位以上を修得し、その他に科目区分関係なく30単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限: 半期24単位) ※1: Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする ※2: 微分積分/演習か微分積分/演習Aもしくは微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要															
(理工学部機械工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
I類 (人間・文化科目)	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			3	1					兼3
	スポーツ1	1前	1					○							兼3
	Advanced English 1	1前		2			○								兼3
	General English 1	1前		2			○								兼4
	Advanced English 2	1後		2			○								兼3
	General English 2	1後		2			○								兼4
	Advanced English 3	2前		2			○								兼4
	General English 3	2前		2			○								兼3
	Advanced English 4	2後		2			○								兼3
	General English 4	2後		2			○								兼5
	文学	1前		2			○								兼1
	文化と文明	1後		2			○								兼1
	心理学	2前		2			○								兼1
	歴史学	2前		2			○								兼1
	現代生活論	3前		2			○								兼1
	芸術論	2後		2			○								兼1
	国際関係論	1前		2			○								兼1
	政治学	1後		2			○								兼1
	経済学	2前		2			○								兼1
	社会学	2後		2			○								兼1
	暮らしのなかの憲法	3前		2			○								兼1
	地域学	1後		1				○							兼1
	実践技術者講座	2前		1			○				1				
	インターンシップ	3後		1					○						兼1
	就職準備ガイダンス	3前		1			○			1					
	インターネットと情報倫理	1前		2			○								兼1
	建築の技術と文化	1後		2			○								兼3 オムニバス
	科学技術者の倫理	3後		2			○								兼1
	地球科学	2前		2			○								兼1
	スポーツ2	2後		1					○						兼3
	健康の科学	3前		2			○								兼3
	スポーツ3	2後		1					○						兼1
	スポーツ4	3前		1					○						兼1
	英語コミュニケーション	3前		2				○							兼1
	中国語1	1前		2				○							兼1
	韓国語1	1前		2				○							兼1
	中国語2	1後		2				○							兼1
	韓国語2	1後		2				○							兼1
	国際PBL	3後		1					○						兼1
	海外語学研修	1後		1					○						兼1
	特別共同講義	2後		2			○								兼1
	特別集中講義	2後		2			○								兼1
	地域実践活動	2後		1					○						兼1
	理工系教養の英語	1前		2				○							兼1
	理工系教養の課題研究	1前		2				○							兼1
	日本語表現法	1前		2				○							兼1
小計 (46科目)		—	3	78	0	—	—	—	4	2	0			兼35	

教育課程等の概要															
(理工学部機械工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅱ類 (学部共通専門基礎科目)	基礎数学	1前			3		○								兼2 ※講義
	微分積分/演習	1前		3			○		1						兼1 ※講義
	微分積分/演習A	1後		3			○			1					兼1 ※講義
	微分積分/演習B	1後		3			○								兼1 ※講義
	線形代数/演習	1前	3				○		1						兼1 ※講義
	応用数学	1後		2		○									兼1
	微分方程式	2前		2		○				1					兼1
	ベクトル解析	2前		2		○									兼1
	理工系教養の数学	1後		2		○									兼1
	物理学1	1後		2		○			1						
	化学	1後		2		○									兼1
	生物学	1後		2		○									兼3
	物理学2	2前		2		○									
	コンピュータ入門	1前	1				○		1						
	プログラミング入門	1後	1				○								兼1 ※講義
	コンピュータ構成概論	1後		2		○									兼1
	データサイエンス概論	2前		2		○									兼1
	プログラミング応用	2前		1			○								兼1
	工学基礎実験	1後	2					○	1	1					兼1
	メカトロニクス基礎実験	2前	2					○	1	1					兼1
	科学実験1	1前		1				○							兼1
	科学実験2	1前		1				○							兼1
	環境化学	1後		2		○			1						
環境と新エネルギー	3前		2		○			1							
品質工学入門	3後		2		○									兼2	
財務システム入門	3後		2		○									兼3	
小計 (26科目)		—	9	40	3		—		5	2	0			兼24	
Ⅲ類 (学科専門科目)	機械創作入門	1前	1				○		3	2	1				
	工業力学1	1前	2			○			1						
	工業力学2	1後	2			○			1					兼1	
	機械加工学	1後	2			○			1						
	機構学	1後	2			○			1						
	材料力学1	2前	2			○			1						
	メカトロニクス基礎	2前	2			○				1					
	機械製図	2前	2				○							兼2	
	機械材料学	2前	2			○			1						
	機械工学設計製図	2後	2				○							兼2	
	計測工学	2後	2			○				1					
	機械要素	2後	2			○				1					
	工業熱力学	2後	2			○			1						
	流体工学1	2後	2			○				1					
	機械工学基礎実験	3前	2					○	4						
	機械工学基礎演習1	3前	1				○		1	1					
	機械設計	3後	2			○					1			兼1	
	機械工学応用実験	3後	2					○	3	3	1				
	機械工学基礎演習2	3後	1				○		3						
セミナー	4前	1				○		8	5	1					
卒業研究	4通	4				○		8	5	1					
航空工学	3後		2		○			1							

教育課程等の概要

（理工学部機械工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅲ類 （学科専門科目）	航空工学創造演習	3通		2			○		2		1				
	自動車工学	3後		2		○		1							
	自動車工学創造演習	3通		2			○		1	1					
	ロボット工学	3後		2		○				1					
	ロボット工学創造演習	3通		2			○			2					
	創造・発見	1後		1		○			2	1	1				
	材料加工学	2後		2		○			1						
	材料力学2	2後		2		○			1						
	機械力学	3前		2		○			1						
	流体工学2	3前		2		○				1					
	制御工学基礎	3前		2		○			1						
	伝熱工学	3前		2		○			1						
	機械工学特別講義	3前		1		○									兼1
	アドバンスト機械工学	3後		2		○			1	1					兼1
	構造力学	3前		2		○									兼1
	3Dデザイン工学	3前		2		○									兼1
	数値シミュレーション	3前		2		○			1						
	原動機工学	3後		2		○			1	1					
	生産工学	3後		2		○			1						
	職業指導	3後			2	○									兼1
工業科教育法Ⅰ	3前			2	○									兼1	
工業科教育法Ⅱ	3後			2	○									兼1	
小計（44科目）		—	40	38	9	—			8	5	1			兼8	
合計（116科目）		—	52	156	12	—			8	5	1			兼63	
学位又は称号		学士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
I類（人間・文化科目）から、必修科目3単位、選択必修科目8単位（※1参照）、選択科目18単位以上、II類（学部共通専門基礎科目）から、必修科目9単位、選択必修科目3単位以上（※2参照）、選択科目12単位以上、III類（学科専門科目）から、必修科目40単位、選択必修科目4単位（※3参照）、選択科目17単位以上を修得し、その他に科目区分関係なく10単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：半期24単位） ※1：Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする ※2：微分積分/演習、微分積分/演習A、微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする ※3：自動車工学、自動車工学創造演習、ロボット工学、ロボット工学創造演習、航空工学、航空工学創造演習の中から4単位を選択必修とする							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要														
(理工学部電気電子工学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
I類 (人間・文化科目)	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			6	5				
	スポーツ1	1前	1					○						兼2
	Advanced English 1	1前		2			○							兼3
	General English 1	1前		2			○							兼4
	Advanced English 2	1後		2			○							兼3
	General English 2	1後		2			○							兼4
	Advanced English 3	2前		2			○							兼4
	General English 3	2前		2			○							兼3
	Advanced English 4	2後		2			○							兼3
	General English 4	2後		2			○							兼5
	文学	1前		2		○								兼1
	文化と文明	1後		2		○								兼1
	心理学	2前		2		○								兼1
	歴史学	2前		2		○								兼1
	現代生活論	3前		2		○								兼1
	芸術論	2後		2		○								兼1
	国際関係論	1前		2		○								兼1
	政治学	1後		2		○								兼1
	経済学	2前		2		○								兼1
	社会学	2後		2		○								兼1
	暮らしのなかの憲法	3前		2		○								兼1
	地域学	1後		1				○		1				
	実践技術者講座	2前		1		○				1				
	インターンシップ	3後		1				○						兼1
	就職準備ガイダンス	3前		1		○				1				
	インターネットと情報倫理	1前		2		○								兼1
	建築の技術と文化	1後		2		○								兼3
	科学技術者の倫理	3後		2		○								兼1
	地球科学	2前		2		○								兼1
	スポーツ2	2後		1				○						兼3
	健康の科学	3前		2		○								兼3
	スポーツ3	2後		1				○						兼1
	スポーツ4	3前		1				○						兼1
	英語コミュニケーション	3前		2			○							兼1
	中国語1	1前		2			○							兼1
	韓国語1	1前		2			○							兼1
	中国語2	1後		2			○							兼1
	韓国語2	1後		2			○							兼1
	国際PBL	3後		1				○						兼1
	海外語学研修	1後		1				○						兼1
	特別共同講義	2後		2		○				1				
	特別集中講義	2後		2		○								兼1
	地域実践活動	2後		1				○						兼1
	理工系教養の英語	1前		2			○							兼1
	理工系教養の課題研究	1前		2		○								兼1
	日本語表現法	1前		2			○							兼1
小計 (46科目)		—	3	78	0		—		6	5				兼34

教育課程等の概要															
(理工学部電気電子工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
II類 (学部共通専門基礎科目)	基礎数学	1前			3		○								兼2 ※講義
	微分積分/演習	1前		3			○		1						※講義
	微分積分/演習A	1後		3			○								兼1 ※講義
	微分積分/演習B	1後		3			○								兼1 ※講義
	線形代数/演習	1前		3			○		1	1					兼1 ※講義
	応用数学	1後		2											兼1
	微分方程式	2前		2			○								兼2
	ベクトル解析	2前		2			○								兼1
	理工系教養の数学	1後		2			○								兼1
	物理学1	1後	2				○		1						
	化学	1後		2			○								兼1
	生物学	1後		2			○								兼3
	物理学2	2前		2			○								兼1
	コンピュータ入門	1前	1					○			1				
	プログラミング入門	1後		1				○							兼1 ※講義
	コンピュータ構成概論	1後		2			○								兼1
	データサイエンス概論	2前		2			○								兼1
	プログラミング応用	2前		1				○							兼1
	工学基礎実験	1後	2						○	2	1				
	メカトロニクス基礎実験	2前	2						○	1	1				
	科学実験1	1前		1					○						兼1
	科学実験2	1前		1					○						兼1
	環境化学	1後		2			○								兼1
	工業材料とその性質	2後		2			○								兼1
	環境と新エネルギー	3前		2			○								兼1
	品質工学入門	3後		2			○								兼1
	財務システム入門	3後		2			○								兼3
小計 (27科目)		—	7	44	3		—		4	4					兼24
III類 (学科専門科目)	電気電子工学入門	1前	1				○		6	5					
	電気回路学1	1前	2				○		2						
	電気回路学演習	1前	1					○	2						
	基礎半導体工学	1後	2				○		1						
	電磁気学1	2前	2				○		2						
	電子回路学1	1後	2				○			2					
	電子回路学演習	1後	1					○		2					
	電子計測	2前	2				○			1					
	電気電子基礎実験	2後	2						○	2	2				
	電気電子工学実験	3前	3						○	2	1				
	セミナー	4前	1						○	6	5				
	卒業研究	4通	4						○	6	5				
	応用電気工学実験	3後		3					○	2	1				
	応用電子工学実験	3後		3					○		2				
	電気回路学2	1後		2				○		1					
	電気回路学3	2後		2				○			1				
	電磁気学2	2後		2				○		1					
	電子回路学2	2前		2				○			1				
	論理回路	2前		2				○							兼1
	基礎プログラミング	2前		2				○			1				
応用プログラミング	2後		2				○			1					
マイクロプロセッサ応用	3前		2				○			1					
センサ工学	2後		2				○		1						

教育課程等の概要														
(理工学部電気電子工学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅲ類 (学科専門科目)	電気・電子材料	3前		2		○			1					
	材料電気化学	3後		2		○			1					
	信号解析	2前		2		○				1				
	動的システム論	2前		2		○			1					
	セミナー基礎	3後		1			○		6	5				
	電気法規	2後		2		○				1				
	シーケンス制御	2後		2		○				1				
	電子制御工学	3前		2		○			1					
	電気機器	2後		2		○			1					
	高電圧工学	3前		2		○			1					
	電力システム	3後		2		○			1					
	パワーエレクトロニクス	2前		2		○			1					
	電気応用	3後		2		○				1				
	エネルギー伝送	3後		2		○				1				
	電気製図	3前		2			○			1				
	半導体デバイス	2前		2		○			1					
	光エレクトロニクス	2後		2		○			1					
	集積回路工学	2後		2		○			1					
	応用情報工学	3前		2		○				1				
	デジタル信号処理	2後		2		○				1				
	通信システム	3前		2		○				1				
メディア信号処理工学	3後		2		○				1					
職業指導	3後			2	○								兼1	
工業科教育法Ⅰ	3前			2	○								兼1	
工業科教育法Ⅱ	3後			2	○								兼1	
小計 (48科目)		—	23	67	9		—		6	5				兼3
合計 (121科目)		—	33	189	12		—		6	5				兼57
学位又は称号	学士 (工学)		学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
I類 (人間・文化科目) から、必修科目3単位、選択必修科目8単位 (※1参照)、選択科目12単位以上、II類 (学部共通専門基礎科目) から、必修科目7単位、選択必修科目3単位、選択科目8単位以上 (※2参照)、III類 (学科専門科目) から、必修科目23単位、選択必修科目3単位 (※3参照)、選択科目26単位以上を修得し、その他に科目区分関係なく31単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限: 半期24単位) ※1: Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする ※2: 微分積分/演習か微分積分/演習Aもしくは微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする ※3: 応用電気工学実験もしくは応用電子工学実験のいずれか3単位を選択必修とする								1学年の学期区分			2学期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

教育課程等の概要															
(理工学部物質生命科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
I類 (人間・文化科目)	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			7	5					
	スポーツ1	1前	1					○							兼2
	Advanced English 1	1前		2			○								兼3
	General English 1	1前		2			○								兼4
	Advanced English 2	1後		2			○								兼3
	General English 2	1後		2			○								兼4
	Advanced English 3	2前		2			○								兼4
	General English 3	2前		2			○								兼3
	Advanced English 4	2後		2			○								兼3
	General English 4	2後		2			○								兼5
	文学	1前		2			○								兼1
	文化と文明	1後		2			○								兼1
	心理学	2前		2			○								兼1
	歴史学	2前		2			○								兼1
	現代生活論	3前		2			○								兼1
	芸術論	2後		2			○								兼1
	国際関係論	1前		2			○								兼1
	政治学	1後		2			○								兼1
	経済学	2前		2			○								兼1
	社会学	2後		2			○								兼1
	暮らしのなかの憲法	3前		2			○								兼1
	地域学	1後		1					○						兼1
	実践技術者講座	2前		1			○			1					
	インターンシップ	3後		1					○	1					
	就職準備ガイダンス	3前		1			○				1				
	インターネットと情報倫理	1前		2			○								兼1
	建築の技術と文化	1後		2			○								兼3
	科学技術者の倫理	3後		2			○								兼1
	地球科学	2前		2			○								兼1
	スポーツ2	2後		1					○						兼3
	健康の科学	3前		2			○								兼3
	スポーツ3	2後		1					○						兼1
	スポーツ4	3前		1					○						兼1
	英語コミュニケーション	3前		2				○							兼1
	中国語1	1前		2				○							兼1
	韓国語1	1前		2				○							兼1
	中国語2	1後		2				○							兼1
	韓国語2	1後		2				○							兼1
	国際PBL	3後		1					○						兼1
	海外語学研修	1後		1					○						兼1
	特別共同講義	2後		2			○								
	特別集中講義	2後		2			○								兼1
	地域実践活動	2後		1					○						兼1
	理工系教養の英語	1前		2				○							兼1
	理工系教養の課題研究	1前		2			○								兼1
	日本語表現法	1前		2				○							兼1
小計 (46科目)		—	3	78	0		—		7	5				兼33	

教育課程等の概要															
(理工学部物質生命科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
II類 (学部共通専門基礎科目)	基礎数学	1前			3		○							兼2	※講義
	微分積分/演習	1前		3			○		1						※講義
	微分積分/演習A	1後		3			○							兼1	※講義
	微分積分/演習B	1後		3			○							兼1	※講義
	線形代数/演習	1前		3			○							兼2	※講義
	応用数学	1後		2		○			1						
	微分方程式	2前		2		○			1						兼1
	ベクトル解析	2前		2		○								兼1	
	理工系教養の数学	1後		2		○								兼1	
	物理学2	2前		2		○			1						
	コンピュータ入門	1前	1				○			1					
	プログラミング入門	1後		1			○							兼1	※講義
	コンピュータ構成概論	1後		2		○								兼1	
	データサイエンス概論	2前		2		○								兼1	
	プログラミング応用	2前		1			○							兼1	
	科学実験1	1前		1				○						兼1	
	科学実験2	1前		1				○						兼1	
	環境化学	1後		2		○								兼1	
	工業材料とその性質	2後		2		○								兼1	
	環境と新エネルギー	3前		2		○								兼1	
	品質工学入門	3後		2		○								兼1	
	財務システム入門	3後		2		○								兼3	
小計 (22科目)		—	1	40	3		—		4	1				兼21	
III類 (学科専門科目)	物質生命科学概論	1前	2			○			7	5					
	基礎生物学	1前	2			○			1						
	基礎化学	1前	2			○			1						
	基礎物理学	1前	2			○				1					
	基礎生化学	1後	2			○				1					
	基礎無機化学	1後	2			○			1						
	基礎有機化学	1後	2			○			1						
	力・運動・エネルギー	1後	2			○			1						
	理工学基礎実験	1後	2					○	1	2					
	生化学	2前	2			○			1						
	基礎分析化学	2前	2			○				1					
	基礎物理化学	2前	2			○			1						
	有機化学	2前	2			○			1						
	無機化学	2前	2			○				1					
	電気と磁気	2前	2			○			1						
	環境分析化学実験	2前	2					○	1	1					
	機器分析化学	2後	2			○				1					
	有機合成化学	2後	2			○			1						
	物理化学	2後	2			○			1						
	物質生命科学実験	2後	3					○	4						
	高分子化学	3後	2			○				1					
	セミナー	4前	1					○	7	5					
	卒業研究	4通	4					○	7	5					
微生物学	2後		2		○			1							
食品衛生学	3前		2		○			1							
生命化学実験1	3前		3				○	1	1						

教育課程等の概要														
(理工学部物質生命科学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅲ類 (学科専門科目)	環境微生物学	3前		2		○			1					
	遺伝子工学	3後		2		○				1				
	食品醸造加工学	3後		2		○			1					
	生命化学実験2	3後		3				○	1	1				
	量子力学	3前		2		○			1					
	物性論1	3前		2		○			1					
	材料科学	2後		2		○			1					
	環境新素材化学実験1	3前		3				○	1	1				
	バイオマテリアル	3後		2		○								兼1
	環境・エネルギー材料	3後		2		○			1					
	環境新素材化学実験2	3後		3				○	2					
	食品栄養機能学	2後		2		○				1				
	熱統計力学	3前		2		○			1					
	食品分析学	3前		2		○				1				
	細胞生物学	3前		2		○				1				
	応用熱力学	3前		2		○			1					
	コンピュータ科学	3後		2		○			1					
	量子化学	3後		2		○			1					
	物性論2	3後		2		○			1					
	生物有機化学	3前		2		○				1				
	化学工学	4前		2		○								兼1
資源環境工学	4前		2		○								兼1	
生物工学	4前		2		○								兼1	
有機反応演習	3通		2				○	1						
理科教育法Ⅰ	3前			2		○							兼1	
理科教育法Ⅱ	3前			2		○							兼1	
小計(52科目)		—	48	58	7			—	7	5				兼5
合計(120科目)		—	52	176	10			—	7	5				兼58
学位又は称号	学士(理学)		学位又は学科の分野				理学関係、工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
I類(人間・文化科目)から、必修科目3単位、選択必修科目8単位(※1参照)、選択科目12単位以上、II類(学部共通専門基礎科目)から、必修科目1単位、選択必修科目3単位(※2参照)、選択科目8単位以上、III類(学科専門科目)については以下の2パターンいずれかに沿って卒業要件等を選択する。 ①必修科目48単位、選択必修科目16単位(※3参照)、選択科目10単位以上を修得し、その他に科目区分関係なく15単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:半期24単位) ②学科において許可された者は、必修科目48単位、選択必修科目16単位(※3参照)、その他に科目区分関係なく25単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:半期24単位) ※1:Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする ※2:微分積分/演習か微分積分/演習Aもしくは微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする ※3:微生物学、食品衛生学、生命化学実験1、環境微生物学、遺伝子工学、食品醸造加工学、生命化学実験2、量子力学、物性論1、材料科学、環境新素材化学実験1、バイオマテリアル、環境・エネルギー材料、環境新素材化学実験2の中から16単位を選択必修とする。							1学年の学期区分			2学期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要															
(理工学部建築学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
I類 (人間・文化科目)	フレッシュマンセミナー	1前	2				○			4	4	1			兼3
	スポーツ1	1前	1					○							兼3
	Advanced English 1	1前		2				○							兼4
	General English 1	1前		2				○							兼3
	Advanced English 2	1後		2				○							兼4
	General English 2	1後		2				○							兼3
	Advanced English 3	2前		2				○							兼4
	General English 3	2前		2				○							兼3
	Advanced English 4	2後		2				○							兼3
	General English 4	2後		2				○							兼5
	文学	1前		2			○								兼1
	文化と文明	1後		2			○								兼1
	心理学	2前		2			○								兼1
	歴史学	2前		2			○								兼1
	現代生活論	3前		2			○								兼1
	芸術論	2後		2			○								兼1
	国際関係論	1前		2			○								兼1
	政治学	1後		2			○								兼1
	経済学	2前		2			○								兼1
	社会学	2後		2			○								兼1
	暮らしのなかの憲法	3前		2			○								兼1
	地域学	1後		1					○						兼1
	実践技術者講座	2前		1			○				1				
	インターンシップ	3後		1					○						兼1
	就職準備ガイダンス	3前		1			○			1					
	インターネットと情報倫理	1前		2			○								兼1
	科学技術者の倫理	3後		2			○								兼1
	地球科学	2前		2			○								兼1
	スポーツ2	2後		1					○						兼3
	健康の科学	3前		2			○								兼3
	スポーツ3	2後		1					○						兼1
	スポーツ4	3前		1					○						兼1
	英語コミュニケーション	3前		2					○						兼1
	中国語1	1前		2					○						兼1
	韓国語1	1前		2					○						兼1
	中国語2	1後		2					○						兼1
	韓国語2	1後		2					○						兼1
	国際PBL	3後		1					○		1				
	海外語学研修	1後		1					○		1				
	特別共同講義	2後		2			○								兼1
	特別集中講義	2後		2			○								兼1
	地域実践活動	2後		1					○						兼1
	理工系教養の英語	1前		2					○						兼1
	理工系教養の課題研究	1前		2			○								兼1
	日本語表現法	1前		2					○						兼1
小計 (45科目)	—		3	76	0			—		4	4	1			兼32
II類 (学部共通専門基礎科目)	基礎数学	1前			3			○							兼2 ※講義
	微分積分/演習	1前		3				○							兼1 ※講義
	微分積分/演習A	1後		3				○							兼1 ※講義
	微分積分/演習B	1後		3				○							兼1 ※講義
	線形代数/演習	1前		3				○							兼2 ※講義
	応用数学	1後		2			○								兼1
	微分方程式	2前		2			○								兼2
	ベクトル解析	2前		2			○								兼1
	理工系教養の数学	1後		2			○								兼1

教育課程等の概要																
(理工学部建築学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
Ⅱ類 (学部共通専門基礎科目)	物理学1	1後		2		○									兼1	
	化学	1後		2		○									兼1	
	生物学	1後		2		○									兼1	
	物理学2	2前		2		○									兼1	
	コンピュータ入門	1前	1				○								兼1	
	プログラミング入門	1後		1			○								兼1	
	コンピュータ構成概論	1後		2			○								兼1	
	データサイエンス概論	2前		2			○								兼1	
	プログラミング応用	2前		1			○								兼1	
	科学実験1	1前		1				○							兼1	
	科学実験2	1前		1				○							兼1	
	環境化学	1後		2			○								兼1	
	工業材料とその性質	2後		2			○								兼1	
環境と新エネルギー	3前		2			○								兼1		
品質工学入門	3後		2			○								兼2		
財務システム入門	3後		2			○								兼3		
小計(25科目)		—	1	46	3	—			0	0	0				兼27	
Ⅲ類 (学科専門科目)	図学	1前		2		○			1	1					兼1	
	建築概論	1前		2		○			4	4	1					
	建築設計・基礎	1後		3					2						兼1	
	構造力学・演習1	1後		3			○			1						
	建築セミナー	1後		1			○		4	4	1				兼1	
	建築設計・A1	2前		3			○			2					兼2	
	近代建築史	2前		2		○			1							
	建築環境概論	2前		2			○			1						
	構造力学2	2前		2			○			1						
	鉄筋コンクリート構造	2後		2			○		1							
	建築材料1	2前		2			○		1							
	建築設計・A2	2後		3				○		2					兼2	
	建築計画1	2後		2				○		1						
	住宅設備・環境	1後		2				○			1					
	建築施工	3前		2				○		1						
	セミナー1	3後		1					○	4	4	1				
	セミナー2	4前		1					○	4	4	1				
	卒業研究1	4前		2					○	4	4	1				
	セミナー3	4後		1					○	4	4	1				
	卒業研究2	4後			2				○	4	4	1				
	卒業設計	4後			2				○	4	4	1				
	材料実験	2後			2					1	1					
	構造実験	3前			2					1	1					
	建築環境実験	2後			2					1	1	1				
	デッサン	1後			2				○							兼1
	建築環境・エネルギー論	2前			2			○				1				
	地域環境論	2前			2			○			1					
	建築環境計画	2後			2			○			1	1				
	構造力学3	2後			2			○		1						
	建築材料2	2後			2			○		1						
	建築CAD1	2後			2			○		1	1					兼1
	日本建築史	3前			2			○								兼1
建築法規	3前			2			○								兼1	
土質・基礎構造	3前			2			○		1							
建築CAD2	3前			2			○		1	1					兼1	
建築計画2	3前			2			○		1							
建築設計・B1	3前			3				○	1	1					兼2	
建築設計・B2	3後			3				○	1	1					兼1	

教育課程等の概要															
(理工学部建築学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅲ類 (学科専門科目)	都市計画	3後		2		○			1						
	建築環境工学	2後		2		○				1					
	建築設備工学	3前		2		○					1				兼1
	建築構法	2前		2		○			1						
	鉄骨構造	3前		2		○			1						
	木質構造	3後		2		○									兼1
	建築生産	3後		2		○			1						
	西洋建築史	2後		2		○									兼1
	空間論	3後		2		○					1				
	応用建築設備工学	3前		2		○				1		1			
	応用建築環境工学	4前		2		○									
	耐震設計	3後		2			○		1						
	建築関連法規	3後		2		○									兼1
	インテリアデザイン	3後		2		○					1				
	静岡の地域特性と建築	3後		2		○					2		1		兼2
	ランドスケープデザイン論	4前		2		○									兼2
	建築生産実践研究	4前		2		○			1						
	材料力学	1前		2		○						1			
職業指導	3後			2	○									兼1	
工業科教育法Ⅰ	3前			2	○									兼1	
工業科教育法Ⅱ	3後			2	○									兼1	
小計(59科目)		—	38	76	6	—			4	4	1			兼24	
合計(129科目)		—	42	198	9	—			4	4	1			兼80	
学位又は称号		学士(工学)		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
I類(人間・文化科目)から、必修科目3単位、選択必修科目8単位(※1参照)、選択科目12単位以上、II類(学部共通専門基礎科目)から、必修科目1単位、選択必修科目3単位、選択科目8単位以上(※2参照)、III類(学科専門科目)から、必修科目38単位、選択必修科目4単位(※3参照)、選択科目27単位以上を修得し、その他に科目区分関係なく20単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:半期24単位) ※1: Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする ※2: 微分積分/演習か微分積分/演習Aもしくは微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする ※3: 卒業研究2か卒業設計のいずれか2単位、材料実験か構造実験もしくは建築環境実験の中からいずれか2単位の計4単位を選択必修とする							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要														
(情報学部コンピュータシステム学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
I類（人間・文化科目）	フレッシュマンセミナー	1前	2			○				1				兼6
	スポーツ1	1前	1					○						兼2
	Advanced English 1	1前		2			○							兼2
	General English 1	1前		2			○							兼3
	Advanced English 2	1後		2			○							兼2
	General English 2	1後		2			○							兼3
	Advanced English 3	2前		2			○							兼2
	General English 3	2前		2			○							兼2
	Advanced English 4	2後		2			○							兼2
	General English 4	2後		2			○							兼2
	文学	1前		2		○								兼1
	文化と文明	1後		2		○								兼1
	歴史学	2前		2		○								兼1
	現代生活論	3前		2		○								兼1
	芸術論	2後		2		○								兼1
	国際関係論	1前		2		○								兼1
	政治学	1後		2		○								兼1
	経済学	2前		2		○								兼1
	社会学	2後		2		○								兼1
	暮らしのなかの憲法	3前		2		○								兼1
	地域学	1後		1				○						兼1
	実践技術者講座	2前		1		○								兼1
	インターンシップ	3後		1				○						兼1
	就職準備ガイダンス	3前		1		○					1			兼1
	インターネットと情報倫理	1前		2		○				1				兼3
	建築の技術と文化	1後		2		○								オムニバス
	科学技術者の倫理	3後		2		○								兼1
	地球科学	2前		2		○								兼1
	スポーツ2	2後		1				○						兼3
	健康の科学	3前		2		○								兼3
	スポーツ3	2後		1				○						兼1
	スポーツ4	3前		1				○						兼1
	英語コミュニケーション	3前		2			○							兼1
	中国語1	1前		2			○							兼1
	韓国語1	1前		2			○							兼1
	中国語2	1後		2			○							兼1
	韓国語2	1後		2			○							兼1
	国際PBL	3後		1				○						兼1
	海外語学研修	1後		1				○						兼1
	特別共同講義	2後		2		○								兼1
	特別集中講義	2後		2		○								兼1
	地域実践活動	2後		1				○						兼1
	理工系教養の英語	1前		2			○							兼1
	理工系教養の課題研究	1前		2		○								兼1
	日本語表現法	1前		2			○							兼1
小計（45科目）		—	3	76	0		—		1	1	1		兼35	
II類（学部共通専門基礎科目）	基礎数学	1前		3			○						兼3	
	微分積分/演習	1前		3			○						兼2	
	微分積分/演習A	1後		3			○			1			兼1	
	微分積分/演習B	1後		3			○						兼1	
	線形代数/演習	1前		3			○				1		兼1	
	応用数学	1後		2		○							兼1	
	微分方程式	2前		2		○							兼2	
	ベクトル解析	2前		2		○							兼1	

教育課程等の概要															
(情報学部コンピュータシステム学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅱ類 (学部共通専門基礎科目)	理工系教養の数学	1後		2		○									兼1
	物理学1	1後		2		○									兼1
	化学	1後		2		○									兼1
	生物学	1後		2		○									兼1
	物理学2	2前		2		○									兼1
	コンピュータ入門	1前	1				○								兼4
	コンピュータ構成概論	1後	2			○			1						
	データサイエンス概論	2前		2		○									兼1
	科学実験1	1前		1											兼1
	科学実験2	1前		1											兼1
	品質工学入門	3後		2											兼2
財務システム入門	3後		2											兼3	
小計(20科目)	—	3	39	0	—	—	—	0	2	1				兼20	
Ⅲ類 (学科専門科目)	情報学概論	1前	2			○			5	4	1				兼13
	情報数学基礎	1後	2			○			2	1	1				
	プログラミング概論	1後	2			○			1						
	プログラミング演習	1後	1				○			2					兼2
	計算機ハードウェアC	2前	2			○				1					
	計算機アーキテクチャC	2後	2			○				1					
	コンピュータシステム実践演習2	3後	4				○		5	4	1				
	卒業研究	4通	4				○		5	4	1				
	特別プログラム1	2前		4			○			1					兼1
	データサイエンス演習1	2前		4			○		1						
	プログラミング実践演習1	2前		2			○			1					
	プログラミング実践演習2	2前		2			○		1						
	マークアップ言語	2前		2		○			1						
	特別プログラム2	2後		4			○			1					兼1
	データサイエンス演習2	2後		4			○		1						
	実用プログラミング1	2後		2		○			1						
	実用プログラミング2	2後		2		○			1						
	マクロ言語入門	2後		2		○			1						
	実践ベンチャービジネス1	3前		10			○		1						
	データサイエンス実践演習1	3前		10			○		1						
	コンピュータシステム実践演習1	3前		4			○		5	4	1				
	Webプログラミング	3前		2		○				1					
	データベース応用	3前		2		○			1						
	プログラミング基礎	3前		2		○									
	実践ベンチャービジネス2	3後		10			○								
	データサイエンス実践演習2	3後		10			○		5	4	1				
	コンテンツデザイン概説	1前		2		○									兼1
	認知・生命科学への誘い	1後		2		○									兼1
	ヴィジュアルデザイン入門	1後		2		○									兼1
	3次元デジタル技術	1後		2		○									兼1
	映像概説	2前		2		○									兼1
	インタラクションデザイン1	2前		2		○									兼1
	基礎経営学	2前		2		○									兼1
	基礎心理学	2前		2		○									兼1
	人工知能入門	2後		2		○			1						
	グラフィックデザイン	3前		2		○									兼1
インタラクションデザイン2	3後		2		○				1						
情報数学1	2前		2		○			1							
情報数学2	2前		2		○			1							
オペレーションズリサーチC	2前		2		○									兼1	
データベース基礎C	2後		2		○				1						

教育課程等の概要															
(情報学部コンピュータシステム学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅲ類 (学科専門科目)	情報セキュリティC	3前		2		○									
	符号暗号理論1	3前		2		○					1				
	符号暗号理論2	3後		2		○					1				
	コンピュータネットワークC	3前		2		○			1						
	応用線形代数	2前		2		○			1						
	幾何学	2前		2		○									兼1
	統計解析	2前		2		○						1			
	多変量解析	2後		2		○						1			
	代数学	2後		2		○						1			
	数値解析1	3前		2		○			1						
	数値解析2	3後		2		○			1						
	関数論	3後		2		○			1						
	データサイエンス入門	1前		2		○			1						
	OS(UNIX)	2前		2		○			1						
	アルゴリズムとデータ構造1	2前		2		○					1				
	アルゴリズムとデータ構造2	3前		2		○									兼1
	パターン情報処理	3前		2		○			1						
	コンパイラ	3前		2		○			1						
	情報科教育法Ⅰ	3前			2	○									兼1
	情報科教育法Ⅱ	3後			2	○									兼1
数学科教育法Ⅰ	3前			2	○									兼1	
数学科教育法Ⅱ	3後			2	○									兼1	
情報と職業	3後			2	○									兼2	
小計(64科目)		—	19	144	10				5	4	1				兼19
合計(129科目)		—	25	259	10				5	4	1				兼56
学位又は称号	学士(情報学)		学位又は学科の分野			理学関係、工学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
Ⅰ類(人間・文化科目)から、必修科目3単位、選択必修科目8単位(※1参照)、選択科目16単位以上、Ⅱ類(学部共通専門基礎科目)から、必修科目3単位、選択必修科目3単位(※2参照)、選択科目12単位以上、Ⅲ類(学科専門科目)については以下の3パターンのいずれかに沿って卒業要件等を選択する。 ① 通常履修者は必修科目19単位、選択必修科目10単位(※3参照)、選択科目36単位以上 ② 「特別プログラム1・2」「データサイエンス演習1・2」のいずれかと、「コンピュータシステム実践演習1」履修者は、必修科目19単位、選択必修科目14単位(※4参照)、選択科目32単位以上 ③ 「特別プログラム1・2」「データサイエンス演習1・2」のいずれかと、「実践ベンチャービジネス1」「データサイエンス実践演習1」のいずれかと履修者は、必修科目19単位、選択必修科目28単位(※5参照)、選択科目18単位以上 その上で、その他に科目区分関係なく14単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限:半期24単位) ※1: Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする ※2: 基礎数学か微分積分/演習か微分積分/演習Aもしくは微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする ※3: プログラミング実践演習1・プログラミング実践演習2・マークアップ言語の中から2単位、実用プログラミング1・実用プログラミング2・マクロ言語入門の中から2単位、実践ベンチャービジネス1・データサイエンス実践演習1・コンピュータシステム実践演習1の中から4単位、Webプログラミング・データベース応用・プログラミング基礎の中から2単位の計10単位を選択必修とする ※4: 特別プログラム1・データサイエンス演習1・プログラミング実践演習1・プログラミング実践演習2・マークアップ言語の中から4単位、特別プログラム2・データサイエンス演習2・実用プログラミング1・実用プログラミング2・マクロ言語入門の中から4単位、実践ベンチャービジネス1・データサイエンス実践演習1・コンピュータシステム実践演習1の中から4単位、Webプログラミング・データベース応用・プログラミング基礎の中から2単位の計14単位を選択必修とする ※5: 特別プログラム1・データサイエンス演習1・プログラミング実践演習1・プログラミング実践演習2・マークアップ言語の中から4単位、特別プログラム2・データサイエンス演習2・実用プログラミング1・実用プログラミング2・マクロ言語入門の中から4単位、実践ベンチャービジネス1・データサイエンス実践演習1・コンピュータシステム実践演習1の中から10単位、実践ベンチャービジネス2かデータサイエンス実践演習2のいずれか10単位の計28単位を選択必修とする。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要

（情報学部情報デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
I類 （人間・文化科目）	フレッシュマンセミナー	1前	2			○			1	3	2				
	スポーツ1	1前	1					○	1						兼1
	Advanced English 1	1前		2				○	1	1					兼1
	General English 1	1前		2				○	1	1					兼1
	Advanced English 2	1後		2				○		1					兼1
	General English 2	1後		2				○	1	1					兼1
	Advanced English 3	2前		2				○		1					兼1
	General English 3	2前		2				○							兼2
	Advanced English 4	2後		2				○							兼2
	General English 4	2後		2				○		1					兼1
	文学	1前			2			○							兼1
	文化と文明	1後			2			○							兼1
	歴史学	2前			2			○		1					
	現代生活論	3前			2			○		1					
	芸術論	2後			2			○			1				
	国際関係論	1前			2			○							兼1
	政治学	1後			2			○		1					
	経済学	2前			2			○							兼1
	社会学	2後			2			○		1					
	暮らしのなかの憲法	3前			2			○							兼1
	地域学	1後			1				○						兼1
	実践技術者講座	2前			1			○		1					
	インターンシップ	3後			1				○						兼1
	就職準備ガイダンス	3前			1			○		1					
	インターネットと情報倫理	1前			2			○							兼1
	建築の技術と文化	1後			2			○							兼3
	科学技術者の倫理	3後			2			○							兼1
	地球科学	2前			2			○							兼1
	スポーツ2	2後			1				○	1					兼2
	健康の科学	3前			2			○		1					兼2
	スポーツ3	2後			1				○	1					
	スポーツ4	3前			1				○	1					
	英語コミュニケーション	3前			2				○						兼1
	中国語1	1前			2				○						兼1
	韓国語1	1前			2				○						兼1
	中国語2	1後			2				○						兼1
	韓国語2	1後			2				○						兼1
	国際PBL	3後			1				○						兼1
	海外語学研修	1後			1				○						兼1
	特別共同講義	2後			2			○							兼1
	特別集中講義	2後			2			○							兼1
	地域実践活動	2後			1				○	1					
	理工系教養の英語	1前			2				○						兼1
	理工系教養の課題研究	1前			2			○							兼1
	日本語表現法	1前			2				○						兼1
小計（45科目）	—		3	76	0			—	7	4	2			兼25	

オムニバス

教育課程等の概要

（情報学部情報デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
II類 （学部共通専門基礎科目）	基礎数学	1前		3				○								兼3
	微分積分/演習	1前		3				○								兼2
	微分積分/演習A	1後		3				○								兼2
	微分積分/演習B	1後		3				○								兼1
	線形代数/演習	1前		3				○								兼1
	応用数学	1後		2			○									兼1
	微分方程式	2前		2			○									兼2
	ベクトル解析	2前		2			○									兼1
	理工系教養の数学	1後		2			○									兼1
	物理学1	1後		2			○									兼1
	化学	1後		2			○									兼1
	生物学	1後		2			○			2						兼1
	物理学2	2前		2			○									兼1
	コンピュータ入門	1前	1					○		2	1					兼1
	コンピュータ構成概論	1後	2					○								兼1
	データサイエンス概論	2前		2				○								兼1
	科学実験1	1前		1								1				
	科学実験2	1前		1								1				
	品質工学入門	3後		2												兼2
財務システム入門	3後		2												兼3	
小計（20科目）	—	—	3	39	0			—		4	1	0				
III類 （学科専門科目）	情報学概論	1前	2				○			7	4	2				兼11
	情報数学基礎	1後	2				○			2	1	1				
	プログラミング概論	1後	2				○			1						
	プログラミング演習	1後	1					○		1		1				
	コンピュータアーキテクチャ	2後	2				○									健1
	情報デザイン実践演習2	3後	4					○		7	4	2				
	卒業研究	4通	4					○		7	4	2				
	特別プログラム1	2前		4				○			1					兼1
	プログラミング実践演習1	2前		2				○								兼1
	マークアップ言語	2前		2				○								兼1
	特別プログラム2	2後		4				○			1					
	マクロ言語入門	2後		2				○								兼1
	データベース基礎D	2後		2				○								兼1
	実践ベンチャービジネス1	3前		10					○	2	1					兼4
	情報デザイン実践演習1	3前		4					○	7	4	2				
	Webプログラミング	3前		2				○								兼1
	データベース応用	3前		2				○								兼1
	実践ベンチャービジネス2	3後		10					○	2	1					兼4
	情報セキュリティD	3後		2				○								兼1
	コンピュータネットワークD	3後		2				○								兼1
	コンテンツデザイン概説	1前		2				○								兼1
	認知・生命科学への誘い	1後		2				○								兼1
	3次元デジタル技術	1後		2				○								兼1
	ヴィジュアルデザイン入門	1後		2				○			1					
	ヴィジュアルデザイン	2前		2				○								兼1
	映像概説	2前		2				○			1					
	インタラクションデザイン1	2前		2				○			1					
映像制作	3後		2				○			1						
グラフィックデザイン	3前		2				○								兼1	
インタラクションデザイン2	3後		2				○								兼1	
コンピュータミュージック	2後		2				○								兼1	
基礎心理学	2前		2				○			1						
遺伝子とバイオインフォマティクス	2前		2				○		1							

教育課程等の概要

（情報学部情報デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
Ⅲ類 （学科専門科目）	人間・生命情報の統計学基礎	2後		2		○			1							
	感覚生理	2後		2		○			1							
	感性認知心理学	2後		2		○					1					
	人工知能入門	2後		2		○										兼1
	心理評価法	3前		2		○				1						
	脳と情報	3前		2		○			1							
	運動の科学	3前		2		○			1							兼1
	人間・生命情報の統計学応用	3後		2		○			1							
	基礎経営学	2前		2		○			1							
	オペレーションズ・リサーチD	2前		2		○			1							
	言語情報論	2後		2		○			1							
	マスコミ論	2後		2		○			1							
	経営工学概論	2後		2		○			1							
	応用言語学	3前		2		○			1							
	社会調査法	3前		2		○			1							
	経営情報システム	3前		2		○										兼1
	マーケティング	3後		2		○										兼1
産業・社会心理学	3後		2		○										兼1	
オペレーションズマネジメント	3後		2		○				1							
小計（52科目）		—	17	112	0				7	4	2					兼18
合計（117科目）		—	23	227	0				7	4	2					兼49
学位又は称号	学士（情報学）		学位又は学科の分野			工学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p>I類（人間・文化科目）から、必修科目3単位、選択必修科目8単位、選択科目16単位以上、II類（学部共通専門基礎科目）から、必修科目3単位、選択必修科目3単位、選択科目10位以上、III類（学科専門科目）については以下の3パターンのいずれかに沿って卒業要件等を選択する。</p> <p>① 通常履修者は必修科目17単位、選択必修科目14単位（※3参照）、選択科目34単位以上</p> <p>② 「特別プログラム1・2」「情報デザイン実践演習1」履修者は、必修科目17単位、選択必修科目16単位（※4参照）、選択科目32単位以上</p> <p>③ 「特別プログラム1・2」「実践ベンチャービジネス1・2」履修者は、必修科目17単位、選択必修科目28位（※5参照）、選択科目20単位以上</p> <p>その上で、その他に科目区分関係なく16単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：半期24単位）</p>						1学年の学期区分						2学期				
<p>※1：Advanced English 1かGeneral English 1で2単位、Advanced English 2かGeneral English 2で2単位、Advanced English 3かGeneral English 3で2単位、Advanced English 4かGeneral English 4で2単位の計8単位を選択必修とする</p> <p>※2：基礎数学か微分積分/演習か微分積分/演習Aもしくは微分積分/演習Bの中から3単位を選択必修とする</p> <p>※3：プログラミング実践演習1・マークアップ言語の中から2単位、マクロ言語入門・データベース基礎Dの中から2単位、情報デザイン実践演習・Webプログラミング・データベース応用の中から6単位、情報セキュリティD・コンピュータネットワークDの中から2単位の計14単位を選択必修とする</p> <p>※4：特別プログラム1・プログラミング実践演習1・マークアップ言語の中から4単位特別プログラム2・マクロ言語入門・データベース基礎Dの中から4単位、実践ベンチャービジネス1・情報デザイン実践演習・Webプログラミング・データベース応用の中から6単位、実践ベンチャービジネス2・情報セキュリティD・コンピュータネットワークDの中から2単位の計16単位を選択必修とする</p> <p>※5：特別プログラム1・プログラミング実践演習1・マークアップ言語の中から4単位、特別プログラム2・マクロ言語入門・データベース基礎Dの中から4単位、実践ベンチャービジネス1・情報デザイン実践演習・Webプログラミング・データベース応用の中から10単位、実践ベンチャービジネス2・情報セキュリティD・コンピュータネットワークDの中から10単位の計28単位を選択必修とする。</p>						1学期の授業期間						15週				
						1時限の授業時間						90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 類 (人間・文化科目)	フレッシュマンセミナー	このセミナーは本学が掲げる“やらまいか教育”への導入の役割を果たす重要な科目であり、有意義な大学生活を送るために大切な知識や心構えを学ぶ。大学は自立した大人の組織である。ここでは、受け身ではなく自主的に行動し学んでいく姿勢が求められる。そのような大学での生活や勉学のスタイルに早くなじむために、まず大学で学ぶ意味や目的を再認識する。また、本学の図書館や学習支援ツールの活用方法などを学ぶ。その上で、自ら意欲を持って調べ、考え、一つの見解にまとめ、それを発表するミニ課題研究に取り組む。	
	スポーツ1	生涯教育、生涯スポーツがの重要性が指摘されて久しいが、一般社会人の中で運動習慣を実際に持っている人はわずかで、ほとんどの人は運動をしていないのが現実である。また、生活習慣病の検診の結果、要注意となった人の大半は日頃運動習慣のない人である。このように、学生の段階から、日常生活の中で、運動習慣を持つことは体力的ばかりでなく、ストレスへの対応などを含めた予防医学の観点からも重要であることは周知の事実である。本授業ではスポーツの楽しさを知り、運動することを身近なものにすることを目的とする。さらに、総合的な体力の向上も図る。	
	Advanced English 1	この科目は、英語を向上させようという強い意欲を持った学生のためのコースである。4つの英語の力（話す、聴く、読む、書く）の向上を目的にする。このコースでは、学生は、ありふれた話題について学び、多くの英語を使う機会がある。取り上げる話題は、6つのユニット（人々がそこに暮らすわけ、覚えること忘れること、地球の環境の変化、お金にまつわること、危機に生き残ること、芸術について）があり、2つのユニットごとに、復習、練習を行う。	
	General English 1	この科目は、日々の生活での、4つの英語の力（話す、聴く、読む、書く）の向上を目的とする。教科書にあるCD-ROMには、ナショナルジオグラフィックの内容、画像、ビデオ及びさまざまな練習が含まれている。学生は、これらの教材とeラーニングを使い、英語の練習を行う。取り上げる話題は6つのユニット（地球でとれる食べ物、文化が異なる人とのコミュニケーション、都市生活、人間の体、体と心の挑戦、移り変わり）があり、2つのユニットごとに復習、練習を行う。	
	Advanced English 2	このコースは、英語の力を向上させようという強い意欲を持った学生のためのコースである。4つの英語の力（話す、聴く、読む、書く）の向上を目的にする。このコースでは、学生は、ありふれた話題について学び、多くの英語を使う機会がある。取り上げる話題は、6つのユニット（輸送機関の発達、スポーツ競技会、危険、ミステリー、学ぶということ、宇宙）があり、2つのユニットごとに、復習、練習を行う。	
	General English 2	この科目は、日々の生活での、4つの英語の力（話す、聴く、読む、書く）の向上を目的とする。教科書にあるCD-ROMには、ナショナルジオグラフィックの内容、画像、ビデオ及びさまざまな練習が含まれている。学生は、これらの教材とeラーニングを使い、英語の練習を行う。取り上げる話題は、6つのユニット（いやし、自然、過ぎ去った日々、旅行、仕事の経歴、お祝い）があり、2つのユニットごとに、復習、練習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I類 (人間・文化科目)	Advanced English 3	このコースは、多くの語彙を使い、文法の練習と活動を通して、読み（読解の方略を利用し、能動的な読み方をすることで読解力、語彙力を高める）、書き（英文からのノート作成、与えられた言語教材から短いレポート作成ができる）、会話（身近な予想のつく話題であれば英語での講義を理解し、理解を深めるための質疑応答ができる）を行う。教材は、eラーニングを使って、配信する。	
	General English 3	このコースは、一般的な英語の読解力を向上させることを目的としている。テキストを理解するために必要な語彙、構文を身につける。さらに、読解の方略を使って、日常科学を含む一般の英文から、身近な話題であれば、事実を正しく把握できるようにする。会話では、繰り返しや言い換え、母語ではない聞き手としての配慮があれば質問を理解し応答できる。扱う話題は、ファンレター、テーブルマナー、睡眠と夢、アメリカの家族、映画、気象である。	
	Advanced English 4	この科目は、Advanced English 3の後に続く科目で、さらに英語読解力の向上をめざす。この教科の主な目的は、読解力の向上と、語彙力の向上であるが、それぞれの単元で、文法構成についても注目する。各単元で取り上げる教材は、若い実業家、顔に書かれた言葉、賛成と反対、南極大陸である。数回の講義の後に、復習と練習を行う。	
	General English 4	General English 3の後に続く科目で、さらに英語読解力の向上をめざす。この教科の主な目的は、読解力の向上と、語彙力の向上であるが、それぞれの単元で、文法構成についても注目する。各単元で取り上げる教材は、メリービルモンスター、プロメテウス、食べ物についての考察、健康的な習慣、パンフィック・ジュエル、ファッションの流行である。数回の講義の後に、復習と練習を行う。	
	文学	明治以後のことばの世界について考える。近代西欧物質文明が何をもたらし、何を失わせたのか。広くことばについて考えることから、ひとりひとりの生き方を見つめる機会とする。具体的には短編小説を読むことを通し、日本文化を生きるこの意味を問うことをする。日本語という豊穡なる世界の中に浸り、言葉の創りあげる豊かな世界を味読する。味読によって形成されるイメージの中に身を横たえる時、コトバの持つ不思議さを感じ、それぞれは人生の意味を識るところとなる。そして、コトバのさまざまな働き、創造性、その限界についても認識する。	
	文化と文明	「文明 (civilization)」という、とても大きな、難しいテーマを、「遊牧文明 (中央ユーラシア文明)」および「泥の文明 (南東アジア文明)」と対比しつつ、「西欧文明」の由来から考えていく。「西欧文明」をモデルとしてではなく、あくまでも私たちの「現在」にしっかりと視点を据えて、である。石の文明、沙の文明、未開、ユーラシア世界史、古典古代、中世の世界、近代 (化)、都市、などをテーマに学修する。	
	心理学	心理学の講義では、ヒトを能動的情報処理機械とみなす立場から、心と脳の関連を解き明かす。まず、ヒトの神経システムの基礎知識を与え、ヒトが外界情報を取り入れ処理する過程で、神経系がどのように機能するかについて述べる。次に、それらの処理の過程においてどのようにして心的体験が出現するかについて、感覚・知覚、高次認知を話題として取り上げ、解説する。また、感情と性格、心の異常と発達といった問題についても、講義で言及する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I類 (人間・文化科目)	歴史学	国際社会の仲間入りをした近代以降の日本と日本人について歴史的な背景や事柄を中心に講義をする。西洋の文字通りの外圧の前にあった当時の日本は、積極的に西洋文明に学び、国の近代化と独立の維持に成功した。現代に至るまでの日本の歴史の中には、確かに不幸な時代もあった。しかし、近代日本の歴史には、当時の世界がそう認めたように光輝く側面も確かに存在し、真に学ぶに値する材料が沢山あるのが現実である。本講では単なる年表の羅列式の話ではなく、日本人の「努力」に焦点を当てながら、人間中心の話をする。	
	現代生活論	人はどのように生活を思い描き、実現を図っていくのか。生活のうちでも、学生諸君が必ず向き合うことになる職業生活を取り上げ、職業の考察をとおして生活・人生と社会を客観的に見つめ、自分の今後のあり方と職業世界のあり方を考えることを目的とする。言い換えれば、この科目は、就職のための方便ではなく、現代社会における働き方と生き方を追究するための手がかりである。人間と労働、職業の成立過程、労働イデオロギー、職業概念と職業像、職業の機能と多様性、働き方と生き方などについて学修する。	
	芸術論	芸術とは何か、芸術の歴史、様式や思想について学び、人間の造形活動を自然や風土、社会と人間のかかわりから理解する。芸術における絵画・造形・建築等の表現について身近なテーマを取り上げていく。芸術全般の理解を深め、「見る」力を養い「美」の感性を磨く。美術遺産、芸術作品、建築装飾等を写真や紹介・解説し、それぞれの作品の見方、鑑賞の方法、表現技法を学ぶ。単に楽しむだけでなく、作品個々の本質を理解し熟考できるように学修する。	
	国際関係論	人の移動や情報交換が容易になった現代では、個人的にも2つ以上の社会・文化環境にまたがって活動したり、生活したりする状況が増加し、国際社会との接触が、身近なものとなってきている。一方で、さまざまな問題も起きている。授業では、まず国際関係論の領域について、概観する。国際関係史の歴史的展開から、国際関係論を捉える。国際連合や国際機構などの国際組織が成立した背景を把握し、現代の日本の対外関係に重要な日米関係を中心に、日本の国際関係や国際交流について取り上げる。国際社会における諸問題についても思考する。	
	政治学	日本は民主主義国家であり、主権者は私たち自身である。私たちは、この主権を正しく行使し、日本の進路を誤らないために、政治現象についての正しい知識と判断能力を備えていなければならない。科学技術もまた、健全な社会観を有する人間によって適切に用いられなければ、私たちの暮らしにマイナスの影響を及ぼすであろう。本講は以上のような観点から、政治と人間についての基本的な問題を講述し、現在及び将来の世界と日本の政治・社会の動向を把握できる眼を少しでも涵養することを目標としたい。抽象論主体ではなく具体的な事例を多数紹介する。	
	経済学	グローバル化する現代の経済のダイナミズムについて、企業・産業活動に焦点をあてて、アプローチする。経済の動きをとらえる基本的なポイントを理解した上で、技術発展・イノベーションやエネルギー革命の役割、企業行動と競争、産業構造の変化と国際分業の発展過程を学ぶ。さらに戦後の重化学工業化や、エネルギー危機を契機とする経済・産業構造の劇的な転換、情報通信技術革命と経済の情報化・サービス化の進展を考察する。グローバル化、地球温暖化など環境問題の深刻化する中での、これからの企業・産業のあり方について検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I類 (人間・文化科目)	社会学	この科目の目的は、他者に向けた人間の行為、人間どうしの関係、および人間の集団を手がかりとして、社会現象を冷静かつ客観的にみる眼を育むことである。人間は、社会現象について自分の体験だけで判断したり、恣意的な評価を下したりしがちである。しかし社会現象についても、個人の主観と国境を越えて適用できる普遍的な概念や理論がある。そのような概念や理論を用いながら、現代日本社会の構造と変動を考察していく。それによって、私たちが自明視している「社会の仕組み」を再考することにつながるはずである。	
	暮らしのなかの憲法	法律学は法律の解釈・適用にかかわる学問であることはもちろんであるが、それに止まらない。すなわち、法律学を学ぶ目的として「リーガルマインド」を養うことも挙げられる。「リーガルマインド」とは、大まかには問題の所在・議論の対立する点を整理・分析し、その論点について根拠に基づき結論を導く能力といえる。本講義では、まずは憲法を含む法学の入門的な内容を解説し、その後、憲法上の具体的なトピックについて賛否を検証していく。これにより、憲法の意義を明らかにするとともに、「リーガルマインド」の一端に触れる。	
	地域学	この授業では、地域の歴史・文化・産業・市民生活・行政を学び、地域がより発展するための課題を発見し、その課題解決の方法を地域行政の担当者と共に考える。私たち個人は、“社会へ貢献”し“社会の恩恵”を受けて市民生活を営んでいる。身近な地域（袋井市）の学習を通して、“社会への貢献”の在り方と“社会の恩恵”について深く理解していただきたい。 この授業は袋井市との連携のもと、袋井市担当者ほか多くの関係者の支援をいただいて実施される。より一層の真摯な姿勢で取り組むことが求められる。	
	実践技術者講座	本講座は、技術者として働く意義や、将来の技術者としての自覚を促すための講座である。技術者の業務の内容や、企業や社会の中でどのような役割を果たしているかを理解する。さらに、講義を通じて、自分自身が目指す将来の技術者像や、進路について考えます。本講座により、明確な技術者志向性を持ち、将来の進路選択を考える。企業における技術者の役割、技術者の実務、国際的活動における技術者の役割、求められる技術者像などについて学ぶ。	
	インターンシップ	インターンシップは、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」である。本学の周辺地域は先端技術を核とする各種の企業が立地する一方で、茶やメロンの栽培、製茶業といった地場産業も盛んで、産業のパラエティに富んでおり、極めて恵まれた実習環境であると言えることができる。本学のインターンシップでは、「企業における実習・研修」を広い意味にとらえ、単なる技術教育の一部ではなく、人格形成・教養教育の一つの手段として幅広い社会活動への参加により社会体験を獲得することを目的としている。	
	就職準備ガイダンス	この授業は、キャリア形成教育として、就職についての基本的・概論的なスキルを摂取し、就職活動に向けた具体的な準備を整える。とりわけ求職者としての意識と行動を自分自身の中に確立し、自覚を持って主体的に就職活動ができるよう身に付ける。具体的には、次の内容を学修する。①「働くって？」について考える。②現在の自分を自己分析する。③職種や企業の現況を研究する。④実践的な就職試験の傾向と対策を学ぶ。⑤履歴書とエントリーシートのポイントと書き方を学ぶ。⑥面接や説明会等で必要なマナーのポイント・注意点について学び身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I類 (人間・文化科目)	インターネットと情報倫理	インターネットの世界では、情報倫理の面において、従来のメディアとは異なる様々な問題が発生している。誰でも容易にHPを開設出来、誰でも容易にアクセス出来ることがその原因である。本講義では、HPのコンテンツに関する倫理問題を中心に、インターネットを巡る倫理全般を包括的に取り扱う。各項目を事例に即し、具体的に解説する。毎回内容に関してクイズ形式の問いに答える事で、理解を促進する。インターネットに対する自律的な倫理観を形成することを目標とする。	
	建築の技術と文化	この科目では、建築を専門としない学生に対して、複数名の専門教員が分かりやすく概説する。建築における技術と文化、材料の変遷、建築意匠の考え方、地震のメカニズムと静岡県での地震、免振や制振構造、超高層建とその構造、構造デザイン、道具の発展史、将来の建築技術への期待などについて学び、これらを通じて、建築(意匠)計画、構造計画分野、建築施工番屋などの幅広いの内容について理解を深め、建築に関する基礎を学習して教養を深めていく。 (オムニバス方式/全15回) (25 丸田 誠/5回) 建築技術と文化の概要と材料の変遷として、裏山から取れた材料で建築は始まったことや、わらすさや土からできる建築から現代の鉄、コンクリートの利用まで材料の変遷をたどる。地震のメカニズムと静岡県で発生する地震や世界の超高層建物とその構造について学ぶ (21 佐藤 健司/5回) 屋根をどのように掛けるかという課題設定こそが、建築を建築たらしめている。屋根のない建築は存在しない。古今東西の多数の歴史的建造物を参照しながら、自身の関わった設計事例を屋根を掛けるという観点から再考してみる。 (13 太田 達見/5回) 建築物を造ると言う行為である「建設」を取り上げ、建設する技術(造る技術)を分析的にアプローチする。そのことによって、「造る」技術を浮き彫りにし、建設というものづくりの行為について概要を把握する。	オムニバス方式
	科学技術者の倫理	科学技術者を目指す学生に、その倫理について講義する。身近で日常生活に関わりある自動車、原発、飛行機、加工食品などを例とする。前半は技術者倫理の概念を習得、後半は具体的な事例で、より深く社会との関わりを考察する。科学技術の発展は社会全体を豊かにして幸せをもたらしている。その一方で、福島原子力発電所事故や食の安全問題なども引き起こしている。豊かさや利便性と事故の危険のバランスについて考えていく。社会と科学技術の接点について、「公平さ」と「合意」を大切にしながら講義していく。	
	地球科学	プレートテクトニクスは様々な手段と理論的な考察を経て実証されてきた、地球のダイナミクスを扱う総合的な理論である。本講義では、このプレートテクトニクスの概要について、成立過程から最先端の考え方までを解説する。さらにプレートテクトニクスにもとづいて日本列島の形成過程や、現在の地殻変動の意味づけを行う。このような日本列島の地殻変動の変遷のなかで、静岡周辺の最近の地震活動・火山活動や南アルプスの隆起などの関連性について学ぶ。	
	スポーツ2	サッカー、バスケットボール、テニスの中から、興味のあるスポーツを1つ選択し、社会人となってからも生涯楽しめるスポーツに出会い、さらに体力的にも技術的にも能力を高めることを目的として授業を展開する。1時間目のガイダンス時に、学生はそれぞれの教員が担当するサッカークラス、バスケットボールクラス、テニスクラスかのいずれかを選択する。各種目において、基礎練習、ミニゲーム、リーグ戦を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 類 (人 間 ・ 文 化 科 目)	健康の科学	健康については人それぞれに高い関心を持っている。しかし、多くの情報が氾濫する中で、間違った健康に関する情報も少なくない。本授業では健康について医学、運動生理学および栄養学の観点から正しい情報を提供し、社会人として自身の健康を管理するための教養を身に付けることを目的とする。医学的アプローチではさまざまな病気と健康を、栄養学的アプローチでは栄養学と生活習慣、運動生理学的アプローチでは運動と生活習慣を取り上げる。	
	スポーツ 3	スキーおよびスノーボードの基礎的な理論および技術を身につけ、ウィンタースポーツの特質について理解を深めることを目的とする。あわせて、集団生活の体験や相互の親睦を図る。 授業は滑走技能判定を行った後、実技レベル別にクラス編成をし、3泊4日程度の日程で、指導を行う。指導者の判断によってクラス変更が行われることもある。評価は最終日の実技の滑走判定により行う。	
	スポーツ 4	近年、ゴルフは生涯スポーツとしても人気のあるスポーツと言える。ゴルフは、正しい知識と技能を身につけることによって、生涯にわたって楽しめるスポーツである。そのためには、基本となる技術、ルールを理解、マナーの遵守の習得が求められる。本授業では、基礎技術の習得、ルール、エチケット・マナーなどを理解しゴルフを楽しみながら身につける。その中で、ゴルフの構造や技術、練習方法、安全管理などについても実践の中で理解する。	
	英語コミュニケーション	このコースは、英語だけを使ってのコミュニケーションを行う。中心となることは、会話や英語で書かれた文についての、いくつかの典型的な場面を話し、聞くことにある。日常の会話の能力が向上し、英語だけで考えることができるようになる。英語で行う自己紹介、英語で考えること、英語で行うプレゼンテーション、文化の違い、さまざまな世界の英語、などを取り上げる。	
	中国語 1	中国語の発音記号をマスターし、発音・聞き取りを練習し、基礎的な口語表現を学習する。母音、子音、声調と4声の表記、人名、料理、数字など簡単な挨拶、人称代名詞、指示代名詞、疑問詞疑問文、動詞の文、省略疑問の文、数量詞、形容詞の文、数字、日付・時刻を表す語、「動作の時点」を言う表現、「完了」、「所在」、反復疑問文、「時間量」を表す語、「過去の経験」、「動作の様態」をいう表現(様態補語)、動詞の重ね型、「動作の進行」について学ぶ。	
	韓国語 1	発音は多少むずかしいが文章構造や語順など日本との共通点も多い。充実出来るような授業内容と共に実践的に強くなるように基礎を精選された文法で進める。ハングル文の規則、やさしい単語、合成母音が使われている単語、終声音が使われている単語、二重音が使われている単語、連音化による発音、激音が使われている文字作り、何時でも使える言葉、文章構造、発音の法則(濃音化・鼻音化・激音化・口蓋音化)について学ぶ。	
	中国語 2	中国語の発音記号の定着をはかり、やや複雑な口語表現を学習する。基本動詞・形容詞、自己紹介文、主述述語文、目的語が主述語、「可以、会、能」の使い分け、名詞の修飾語、文末助詞、疑問詞の使い分け、原因・理由を表す、様態補語、「仮定」を表す、可能性の予測を表す、結果補語、存現文、主語がフレーズの時、状態の持続を表す、疑問詞の不定用法、方向補語、使役を表す、可能補語、強調表現、中国文化事情などを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I類（人間・文化科目）	韓国語2	修得した基本構文と文法を無理なく繰り返しながら、入門会話と書くのを慣れるようにしていく。基本構文の中で、いろんな状況のシチュエーションを考え、話せるようにする。文章構造、否定文、連用形の構造（しくみ）、存在詞と位置、固有数詞、漢数詞（時計の時、カレンダー、値段）、親しみがある敬語（指示、アドバイス、勧めの表現）、連体形（おもしろい長文の文法の流れ）、パソコンのハングルポート、長文に出て来るフレーズ、誘う、提案するときの表現について学ぶ。	
	国際PBL	海外の学生と英語を使ってコミュニケーションを図り、課題や問題を解決するためのグループワークやディスカッションを行うことにより、英語力、外国人とのコミュニケーション能力、外国人と協働できる能力を養うと共に、国際的視野、行動力を身につける。グローバルに存在する様々な「問題・課題」にたいし、英語で、自身の考えを積極的、論理的に他者に説明し、一方で、外国人も含む他者の思考を柔軟に取り入れ、合理的でインクルーシブな解決をめざすことができる。それらの問題自体を理解するとともに、問題解決に寄与するための基礎的知識を身につける。	
	海外語学研修	外国の大学や言語教育機関で行われる外国語研修に参加し、現地での生活等とおして、外国語はもとより、外国の社会生活、風俗習慣、ものの見方、考え方などを学ぶ。英語研修では、英会話を中心とした英語のレッスンをを行う。あわせて現地の海や山を訪ね大自然にも触れる。韓国語研修では、韓国語の会話を中心にハングルによる発音の基礎から学ぶ。韓国の歴史や文化に触れる。また、大学の寮に寄宿し、韓国人学生との交流を深める。中国語研修では、中国または台湾を選択し、提携大学でのプログラムに参加する。	
	特別共同講義	静岡県西部地区高等教育ネットワーク会議の事業である「共同授業」として実施されるものである。西部地区（浜松市、袋井市、磐田市）に位置する8大学および行政機関の協力の下で実施されている。毎年設定される「共通テーマ」のもとに、8大学に所属する専門分野の先生によって、8大学の受講生を一堂に会した講義が行われる。個々の大学間の交流も活発であり他大学の情報にも接することができる。現代の人間をとりまく自然、科学、社会などの環境を多様な視点からとりあげ、第一線の研究者がわかりやすく解説する。	
	特別集中講義	ふじのくに地域・大学コンソーシアムにおける協定事業に基づき実施されるものである。静岡県の地域資源等に関するテーマで短期集中講義を実施し、本県地域の特性等について学び、地域に根ざした人材育成を目的とした講義を行なう。おもに本県中部地区に位置する大学および行政機関の協力の下で実施される。毎年設定される「共通テーマ」のもとに、複数科目の中から選択して受講する。具体科目は8大学の教職員で構成される「共同授業運営委員会」で決定される。	
	地域実践活動	この科目は、学生が地域に深く根ざした活動をするもの、すなわち地域貢献を実践するものである。さまざまな活動を体験するだけでなく、たとえば、教育現場において指導する体験をしたり、さまざまな地域の施設の活動において新しい企画をおこなったり等、学生がより積極的、自発的な活動を通じて、地域に深く貢献することを目的としている。これらの活動を通じて、世の中のさまざまな問題を深く知ることにより視野を広め、また、さまざまな価値観を知り、自主性、社会性、積極性等、重要な資質を身につけることに繋がる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I類 (人間・文化科目)	理工系教養の英語	この授業では、受講生が英会話の基礎力をつけることを目指す。主に、英会話の経験が全く無い、あるいは基礎を学びたい、などの学生が対象である。グローバル化が進展するなかで、国内企業の技術者といえども海外企業との事業などにより、英語でのコミュニケーション能力は必要不可欠となっている。授業は、スピーキングを中心に、リーディング、ライティング、そして語彙、文法などの学習も適宜行なう。場面に応じた会話表現を多く取り入れ、自分の伝えたいことを英語で適切に伝える技術を学ぶ。授業後半には、自信を持って自己表現をしたり、相手と楽しく会話を行うことができるように学修する。	
	理工系教養の課題研究	科学分野の研究活動は広く自然界を対象に、まだ未発見・未解明の事象について、どうしても知りたい、理解したいという欲求が原動力となる。そして、未発見・未解明の事象を問題点(課題)として捉え、その具体的な解決手段が研究であり、なぜ・どうしてというプロセスを通して活動される。その結果、新たな発見、発明という成果が生まれる。各分野の専門課程において高度な知識や技術を習得するが、それらは、課題解決の具体的な手段を構成する必須のスキルである。未知のものを知ることの楽しさを身近な話題や日常ありふれた素材から発掘し、更に小実験などを通して、研究活動の基礎を身につける。	
	日本語表現法	理工系・情報系の分野で必要な事実や意見などの情報を正確に読みとり、伝える文章を作成するための表現法の基礎やコミュニケーション能力を修得する。主として、レポートや論文に必要な論述的な文章を取り扱う。段落内の構造、書き言葉の特徴、助詞相当語、作文のきまり、文章内の情報の組立てと複文、論説文の文章構成と指示表現、一般的な論の進め方と文の構造、反論、意見や主張を述べる場合の論の進め方、引用を表す表現と接続表現、要約、論文(全体構成・序論、本論、結論)について学修する。	
II類 (学部共通専門基礎科目)	基礎数学	大学の理工系科目の内容をよりの確に、かつ深く理解するためには数学の基礎知識が不可欠である。本科目では式の計算、関数の定義や性質を中心に学習し、微分積分学や代数などの理解を容易にすることを目指している。整式、関数とグラフ、弧度法、三角関数の性質、逆関数とそのグラフ、対数とその性質、関数の極限、微分係数、導関数、微分法の応用、不定積分、定積分、積分法の応用、複素数の計算、複素平面、極形式について講義と演習で習得する。	講義30時間 演習30時間
	微分積分/演習	微分積分は、あらゆる自然科学、工学関連科目の基礎となる。本科目では、関数の考え方、様々な初等関数の定義から説き起こし、微分積分の考え方と演算法を講義と演習で習得する。微分積分の定理や公式の証明や成り立ちを理解し、様々な場面で応用できる知識を身につけ、応用問題にも挑戦する。取り扱う項目は、微分積分の関数の極限、微分係数と接線、導関数の定義、合成関数の微分、逆関数の微分、指数関数と対数関数の微分、逆三角関数の定義とその導関数、テイラー展開とマクローリン展開、定積分の計算、初等関数の不定積分例、置換積分、部分積分、定積分である。	講義30時間 演習30時間
	微分積分/演習A	微分積分は、あらゆる自然科学、工学関連科目の基礎となる。本科目では、基本的な微分積分の考え方と演算法を講義と演習で習得する。基本的な定理や公式の証明や成り立ちを理解し、演習を通じて基本的な場面で利用できる知識を身につける。取り扱う項目は、関数の極限、微分係数と接線、導関数の定義、合成関数の微分、逆関数の微分、指数関数と対数関数の微分、逆三角関数の定義とその導関数、テイラー展開とマクローリン展開、定積分の計算、初等関数の不定積分例、置換積分、部分積分、定積分について学ぶ。本科目を履修する前に、不足している数学の知識を、基礎数学を履修することにより習得しておくことを求める。	講義30時間 演習30時間

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅱ類 (学部共通専門基礎科目)	微分積分/演習B	微分積分は、あらゆる自然科学、工学関連科目の基礎となるものである。 本科目では、最も基本となる微分積分の考え方と演算法を講義と演習で習得する。定理や公式については具体例で理解し、演習において基本的な例題を丁寧に解説し問題を解く手法を身につける。取り扱う項目は、関数の極限、微分係数と接線、導関数の定義、合成関数の微分、逆関数の微分、指数関数と対数関数の微分、逆三角関数の定義とその導関数、テイラー展開とマクローリン展開、定積分の計算、初等関数の不定積分例、置換積分、部分積分、定積分である。 本科目を履修する前に、不足している数学の知識を、基礎数学を履修することにより習得しておくことを求める。	講義30時間 演習30時間
	線形代数/演習	線形代数はベクトルや行列の性質や使い方に関する学問で、理工学の幅広い分野において利用され、微分・積分学と並んで理工系学生の基礎的教養の一つである。本科目では、ベクトルや行列の基本的事項や演算の方法を修得し、専門分野に応用できるための基礎をつくる。ベクトルの成分、内積、行列の和とスカラー倍、行列の積、逆行列、2次行列式・3次行列式の計算、余因子による行列式の計算、連立方程式の行列による表現と行列式を用いた解法、掃き出し法による解法などを講義と演習で習得する。	講義30時間 演習30時間
	応用数学	本講義では多変数関数の微分積分法について理解を深め、実用に役に立つようにする。また、微分方程式について、その初歩を講義する。多変数関数の微分法としての偏微分法、多変数関数の極限、偏微分係数、偏導関数の定義、全微分、陰関数の微分、高階偏導関数、多変数関数のテイラーの定理、高階偏導関数と多変数関数のテイラーの定理、多変数関数の極大極小、多重積分の定義、逐次積分への還元、積分順序の変換、極座標・球座標などへの変換、1階微分方程式。変数分離形について学ぶ。	
	微分方程式	現象の記述や機械・装置の性能把握に微分方程式はきわめて重要な役割を果たす。この科目では基本的な微分方程式の解法を習得するとともに簡単な微分方程式を作る方法について学ぶ。自然現象と微分方程式、微分方程式と解、変数分離形、同次型、非同次型、2階同次方程式、2階非同次方程式、高階線形、ヘヴィサイド演算子Dの用法、逆演算子の用法、微分演算子による線形微分方程式の解法、微分演算子法を用いた連立微分方程式の解法、微分方程式の近似解法を学ぶ。	
	ベクトル解析	理工学や情報学では、対象となる現象をベクトルによって記述し、それを解析することによって各種の問題を解決することが多い。本科目では、理工学・情報学の技術者として知っておかなければならないベクトル解析の基礎から応用までを講義する。内積、外積、面積ベクトル、スカラー三重積、ベクトル三重積、ベクトル値関数、スカラー場の勾配、ベクトル場の発散、ベクトル場の回転、ガウスの発散定理、線積分と面積分について学修する。	
	理工系教養の数学	ベクトルは、理工系を学ぶ者にとって、物理的事象を考察し、理解・整理していく上で必要不可欠な道具といえる。ベクトルの基本的な取り扱いから複素数表示について学び、専門科目への接続を容易にすることを目的とする。平面のベクトル、空間のベクトル、ベクトルの内積、内積の性質、位置ベクトルと直線のベクトル方程式、平面・球の方程式、外積、共役複素数、複素平面、極形式とド・モアブルの定理、3乗根とオイラーの公式を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅱ類 (学部共通専門基礎科目)	物理学 1	身の回りの現象を始めとして自然界の構造と現象を理解するには、物理学を深く学ぶことが欠かせない。この講義では、物理学の各分野についての基本的な素養を身につけることを目的とする。運動の法則、慣性の法則、等速円運動、万有引力の法則、単振動、仕事、運動エネルギー、位置エネルギー、運動量、波長、干渉、反射、屈折、定在波、音波、光波、熱、温度、比熱、熱容量、気体の分子運動論、電荷、電場、クーロンの法則、電位、キャパシタ、オームの法則、キルヒホッフの法則、直流回路、磁場、磁束、ローレンツ力について学ぶ。	
	化学	本講義では、酸塩基、結合の種類、酸化・還元、電気化学、有機化学の基礎について、イオン結合、共有結合、配位結合、金属結合、分子の形、双極子、巨大分子、イオン反応式、水中でのイオンの生成、酸と塩基、酸の反応、水酸化物イオンの反応、気体の溶解、酸化還元反応、酸化数、酸化剤と還元剤、酸化還元対、金属の反応、鉄の腐食、炭化水素、いろいろな有機化合物などについて学ぶ。	
	生物学	生命科学に関するより専門的な事項をバランス良く習得することが本科目の目標である。講義では、分子生物学の知識を多く取り入れるとともに、データに基づいた定量的な理解を目指す。卒業研究などに取り組む前の段階で、現代生物学の最先端に挑むための基礎を再確認するとともに、iPS細胞などを用いる最先端技術の活用とその影響等について、正しい見解をもつための生物学的な礎を各自の中に確立して欲しい。	
	物理学 2	大きさを考える物体の回転運動と、時間変動する電磁場に関連する事項を学習する。力、運動量、エネルギー、運動量・エネルギー保存則の応用、質点の回転運動、万有引力、衛星運動、剛体のつり合い、重心、剛体の回転運動、ベクトル表示した回転運動、電磁気の原理の応用、電磁誘導、磁場中のコイルで起こること、相互および自己誘導、交流、マックスウェル方程式、光と電磁場(電場と磁場)を学ぶ。	
	コンピュータ入門	コンピュータを活用してさまざまな情報を収集、分析することと、新たな情報を作成し、発信する技術は、いずれも大学生として様々な学習を進めたり、レポートや卒業研究をまとめたりする上で必須の基礎スキルである。また、この技術は、その後の研究や社会においても大いに役立つ。そこで本科目では、全員にワープロ、表計算ソフトなどのアプリケーションを操作する基本的な課題を課し、実際の操作を通して、パソコンの基本的な活用法をしっかりと習得する。	
	プログラミング入門	計算機の動作の初歩を理解し、簡単なプログラミング技術を習得することを目的とする。まず、計算機の構成要素、動作原理、言語処理系などの基本事項を説明する。C言語の入門部分(定数と変数、算術演算子、代入演算子、入出力、基本的構造、条件文、関係演算子、等値演算子、論理演算子、if文の構造、for文、及びwhile)について講義と演習で習得する。なお、この講義では、毎回ノートパソコンを用いた演習を行い、受講生の達成度を確認する。	講義10時間 演習20時間
	コンピュータ構成概論	コンピュータを構成する基本的な技術と概念を概説し、相互の関係を理解させる。最初にコンピュータ技術の歴史、動作原理、基本的構成、数の表現、論理回路を説明する。次に、コンピュータを構成する基本要素である制御、演算、記憶、入力、出力、および通信のそれぞれについて、どのような機能を持つかを概説する。さらに、機械語、プログラム、アルゴリズム、OSなどのソフトウェアの基本技術を説明し、役割分担を理解させる。最後に、組込みシステムやセキュリティなどについて述べ、社会におけるコンピュータの重要性や課題を認識させる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅱ類 (学部共通専門基礎科目)	データサイエンス概論	我々にとって有益となる情報や、意思決定を適切に行う際の客観的データを、多くのデータから統計処理や情報処理を用いて抽出し活用する学問をデータサイエンスという。この科目では、そんなデータサイエンスの基礎を学ぶ。社会におけるデータサイエンスのニーズや実際の活用事例などを学びながら、それら論理の礎えとなっている統計学を中心として講義を行う。 そして、それらがどのようにしてデータサイエンスに応用されているかを理解する。	
	プログラミング応用	プログラミングへの興味関心が高く、更なる知識を深めたい学生を対象に、教科書に沿って、やや高度なC言語の講義・演習を行う。この講義では、毎回ノートパソコンを用いた演習を行い、受講生の達成度を確認する。データ型、変数、式、条件分岐、繰返し、配列、ポインタ、関数の基礎事項を習得し、それらを利用した数十行程度のCプログラムを読んで理解し、かつ、書けるようになることについて学ぶ。	
	科学実験 1	理工学分野の基礎的事項修得を目的として設定された様々なテーマについて実験を行い、理工学への興味を高める。約10名の小グループに分れて実験を行う。前半の実験では、機械工学科、電気電子工学科、物質生命科学科および総合情報学部に関連した6～8テーマの中から4テーマを選択する。また後半の実験では、各学科・学部に関連した内容豊かな4テーマから1テーマを選択し、5講にわたって実験を行う。	
	科学実験 2	理工学分野の基礎的事項修得を目的として設定された様々なテーマについて実験を行い、理工学への興味を高める。約10名の小グループに分れて実験を行う。前半の実験では、機械工学科、電気電子工学科、物質生命科学科および総合情報学部に関連した6～8テーマの中から4テーマを選択する。また後半の実験では、各学科・学部に関連した内容豊かな4テーマから1テーマを選択し、5講にわたって実験を行う。科学実験1と同じ形態で行うが科学実験1とは取り組むテーマを変える。	
	環境化学	急激な人口増加に伴う食糧および工場生産の活発化は、森林破壊の拡大や河川および湖沼汚染の深刻化を招き、多種多様な生物相に変化をもたらしている。また、新技術を礎として造り出された多くの化学物質は、我々の生活を豊かにする一方でそれらに起因する汚染が地域・地球レベルで顕在化し、健康被害者を出している。本講義では、生命や生態系に及ぼす環境影響を水・大気・土壌を中心に概説し、環境影響評価方法、保全対策、さらに修復手法等に関する現状とそれらの進展について説明する。	
	工業材料とその性質	機械全体、あるいはその主要部分を構成する工業材料は金属材料、無機材料、そして有機材料の3つに大きく分けられる。「ものづくり」にあたっては、これらの材料を目的に適してどう選択するかが重要な課題となる。この材料選択に関わるであろう材料利用者の立場に立って、材料の持つ種々の性質が実際にどのような工業材料に利用されているのか、さらにこの工業材料がどのように活用されているのかを主体に講義を進める。各学科における具体的な専門分野の材料について学ぶ指針となるように勤める。	
	環境と新エネルギー	地球温暖化や異常気象など地球規模の環境問題は、人類の化石燃料の燃焼による二酸化炭素ガス放出量の増大に大きく関係していると云われている。本科目では、地球全体をひとつの系ととらえ、地球規模の環境に及ぼす従来のエネルギー消費の問題や今後人類が生き残るための新しいエネルギー源をどうすべきかを学生と一緒に議論しながら、人類のエネルギーをどのように供給していくかとの観点から、エネルギー資源、発電、エネルギーの質、自然エネルギー、エネルギー変換などを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅱ類 (学部共通専門基礎科目)	品質工学入門	日本の製造業にとって、高品質、高信頼なものづくりの重要性がますます高まってきている。この講義では、良好な製品品質を維持しながら、品質のばらつきを抑えて不良品を出さないための管理活動である「品質管理」や市場での品質トラブルを未然防止するための「品質工学」や製品企画のための「品質機能展開」などの具体的な手法について学ぶ。理論のみでなく、企業における実際の活動や効果を知ることにより、その理解を深める。	
	財務システム入門	企業は事業活動を営む際、必ず会計が関わっている。技術者が製品開発や製造の職務を遂行する上でも財務会計や原価計算の知識は重要である。財務システムはこのような会計情報を財務諸表などを通じて提供する役割を担っている。また、簿記は会計データを一定の方式によって、記録・計算・測定し、整理・集計する技術であり、財務システムは簿記に基づいている。本講義では、簿記上の取引から財務諸表の作成に至る一連の流れに沿って財務システムの基本を説明する。さらに、企業活動において財務システムがどのような役割を果たしているかを説明する。	
Ⅲ類 (学科専門科目)	土木工学概論	<p>「土木工学への導入」として、土木工学科の複数の教員がそれぞれの専門分野のオムニバス講義を行う。各教員の専門分野における取組や、当該分野の現状や将来に向けての課題などの説明を通して、土木工学に対する理解を深めることを目的とした講義をおこなう。さらに、これからの土木工学を学ぶにあたり、科学技術の進歩によりできることは拡大していくが、土木技術者としてやって良いことややってはいけないことなどの認識を高めるため、技術者倫理についての講義もおこなう。講義に関してレポートを作成し、論理的な表現力を磨く。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 松本 健作/3回) 我々の安全・安心な生活を支える土木工学が、身の回りにどのように存在しているかを、流域環境という視点から紹介する。また、土木工学の担う重要な役割である防災について、実際の事例に基づいた最先端の取り組みを紹介すると共に、その実務上で生じる様々な倫理的課題についても説明する。</p> <p>(4 中澤 博志/4回) 建設事業や地盤防災における初歩は、地盤を知ることからである。地盤の成り立ちや性質を知り、どのように土木構造物の設計に活かされているか、また、地盤の自然災害を知り、地盤工学が社会の安全をどのように守っているかを学ぶ。</p> <p>(5 西田 孝弘/4回) 国民生活を支える社会基盤構造物では、さまざまな建設材料が使われているが、その中でももっとも多く使われているのがコンクリートである。コンクリートは、水、セメント、砂、砂利などからなる複合材料である。これらの構成材料からなるコンクリートの種類や特性について学ぶ。</p> <p>(6 松本 美紀/4回) 我が国の国土づくりの基本として、社会資本整備の仕組みや、建設行政がこれまで果たしてきた役割と最近の動向、地域課題と社会基盤の関係を土木技術者の観点から学ぶ</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅲ類 (学科専門科目)	土木工学数理演習	土木工学を専門とした技術者に必要とされる数学的要素、特に力学の基礎となる微分積分学や線形代数学、その応用として土木工学分野において必須となる表計算ソフトの効率的な活用に関する基礎を修得する。具体的には、微分積分学では多変数の微分・積分、微分方程式を扱い、線形代数学については、ベクトルの積と微分、行列の計算、線形空間、固有値と固有ベクトル等を扱う。また、表計算ソフトを活用して、質点系の運動等に関する基本的な計算手法を学習するとともに、コンピュータによる様々なデータの適切な処理方法等を演習を通じて学習する。授業は、講義による説明を最小限に抑え、教員との双方向的演習授業により計算能力の習得を目指す。	
	測量学	点の位置の概念、その表示体系について講義したのち、測量技術者として必須の習得知識である誤差の処理方法について誤差論を踏まえながら講義する。また、点の位置の決定に不可欠な距離・角度・高度を測量するための距離測量・角測量・水準測量および局地的な測量において多用途の高いトラバース測量についての方法およびその実務的技術について講義したうえで、実務上使用頻度の高い光波測距儀について解説する。併せて、航空機レーザ測量、地上型3Dレーザスキャナ等、近年の様々な最新測量技術についてその原理および実用化事例を解説する。	
	測量実習	本科目は、距離測量、水準測量、角測量に関する計測原理を学修する。また、誤差論の基礎や、測定や計測、測量計算、トラバース計算、測量・地図製図の基礎原理を学修する。地上測量において利用する器材や手法の原理と計算方法を理解できる。受講者は、測量士補（実務経験を伴うことで測量士となる国家資格）を取得するレベルで、多様な測量器材や多様な測量において得た測量データを取り扱え、正確な図面等を作製できる。	
	土木工学実験 1	【土質実験】地盤を知るための基本として、本実験では土質力学で学ぶ内容を基に、土の各種地盤材料試験を実施する。単なる試験技術の習得のみならず、得られたデータの工学的な解釈を併せて行う。1班5名程度により、物理試験（土粒子の密度・含水比・コンシステンシー・粒度）と締め固め試験、透水試験、圧密および一軸圧縮試験を主に行い、個別にレポートを提出する。【水理実験】一般的な「水理学」の内容のみならず一部により応用的な内容を含み、重要かつ興味深い水理現象の実験を実施する。主に流れの実験と波浪の実験を実施する。流れの実験では、流体が起こす様々な現象に関して定量的に捉え、波浪の実験では基礎的な波の捉え方のみならず、波が持つ可能性と危険性に関して実験的かつ定量的に捉えることを目的としている。履修者は、机上の理論だけでは得られない現象を目の当たりにし定量的に捉えることで、より深い理解につなげることが可能である。	
	土木工学実験 2	コンクリート材料および鋼材料について、実際に手作業を進めることにより、それぞれの関連した科目で習得した知識を深めるために実施する。実施に当たっては、10名程度の班に分け、コンクリート材料および鋼材料を中心とした実験を行う。コンクリート材料については、骨材試験を実施するとともに、配合設計に基づき、コンクリート供試体を製作し、コンクリート硬化後アムスラーにて強度・変形を確認させる。また、鋼材料については、引張試験、圧縮試験などを実施し、応力計測などを体験させるとともに、圧縮試験では座屈状況を観察し、不安定現象についての理解を深める。最終講義で、各グループでテーマを選んで、プレゼン形式で実験の発表をしてもらい、成果の発表の仕方を就学するとともに、各自が実施した試験を改めて聴講し、理解を深める。	
卒業研究 1	3年次までに習得した知識やスキルに基づき、特定のテーマについて適切な実験や解析を行い、技術的課題に対する解決策に関する新たな知見を獲得することを通じて、技術者としての姿勢、構想力・問題設定力、問題解決力の向上を図るとともに、その過程を通じて文章作成力、対話力、自己学習力、現場力・計画実行力を育む。		

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅲ類 (学科専門科目)	卒業研究2	学生の選択した主題について、卒業研究1に続いて開講されるもので、学修した基礎力を能動的・発展的に用いる手法を身につけ、設定した課題の解決に向け考察し、課題解決案を策定して、それらの結果を卒業論文としての提出する。卒業論文発表会における発表や質疑応答を通じて、未知の問題を調査・解決する手法について学び、論文作成を主とした土木工学の専門分野に関する研究を行う。卒業研究について、発表会にて最終報告を行い教員、学生および参加された方々と討議を行う。	
	地球災害プロジェクト	我々の生活空間は、主に、気圏、水圏、地圏から成る複雑な資源循環システムの中にあるが、特に地圏における自然災害は、生活活動に直接的に影響を与えるため、土木工学において極めて重要な領域である。本科目では、これらの資源循環システムを踏まえた地球規模の災害や環境に関する諸問題に始まり、極端気象に起因する風水害・土砂災害、地震・津波災害または火山災害等の過去の様々な自然災害履歴とその復旧や対応等についての事例を学び、身近に起こる得る自然災害についての考察力を身につける。また、発災時に自発的に活動・対応できる基礎力を身につけ、今後、履修する水工学、河川工学、地盤工学、海岸工学および計画学等への入り口とする。	
	減災社会デザインプロジェクト	本科目は幅広い減災対策について学び、自ら減災社会を描くことができる人物の創出を目的としている。過去の地震・土砂災害等の教訓をもとにすでに実施されている減災対策を学ぶ中で、静岡県内で実施された身近な減災対策も学ぶことができることから、減災対策の効果や地域社会への貢献をより身近に感じることが可能となる。富士山をはじめとして背後に高い山々が連なり海岸線が近く東西に長い静岡県の地理的特徴を生かした減災対策を学ぶことができるため、学生の地域社会貢献への意識も複合的に育まれる。	
	静岡防災まちづくりプロジェクト	減災社会デザインプロジェクトで学んだ知識や理論を活用し、静岡の防災に関する社会・地域課題を取り上げ、防災まちづくりとしての課題解決に対する統合的な方策を、土木工学の視点で考える力を養う。具体的にはグループを編成し、協働しながら、静岡県内の具体的な地域を選定し、想定される災害及び自治体等の災害対策や復興計画等についてグループで情報収集し、土木工学的視点からの改善や補足事項について討議・発表を行うとともに、相互評価によるフィードバックとブラッシュアップを行う。土木技術者として地域で防災の実務に携わるための能力を身に付ける。	
	建設材料工学	建設材料は過酷な外環境にさらされることから、基材となる材料、施工条件、供用環境など、多角的な視点から、設計、維持管理を行う必要がある。本科目においては、土木分野で使用される建設材料について、主要な構成材料(コンクリート、鋼、FRPなど)と材料設計、施工を中心に把握する。コンクリートについて、セメント、骨材、混和材等の説明に加え調査設計について学ぶとともに、施工や品質管理方法について就学する。鉄についても、炭素鋼から合金鋼、アルミニウムなどの非鉄金属について講義を行う。また、近年注目されているFRP等の新規材料についてその特徴と課題について習得する。本科目で得た知識に基づき土木工学実験2において実際の材料に触れ、実際の材料設計、施工について学ぶ。維持管理については維持管理工学へと連携する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅲ類 (学科専門科目)	コンクリート構造	鉄筋コンクリート構造は、多くの主要な社会基盤構造物で採用されている。それだけに、人との関わりも大きく、これの設計には常に人命とコストを念頭に置いた技術者としての鋭いセンスと能力が要求される。この科目では、鉄筋コンクリート(RC)構造およびプレストレストコンクリート(PC)構造について、構造設計できるように講義を行う。材料の応力-ひずみの関係から、許容応力度の概念を示す。無筋、単筋、複筋各梁の曲げについて、ひび割れ前後の性状を解説し、許容曲げ応力度を理解させる。せん断や軸力を有する柱に関しても許容応力度を理解させていく。梁の設計については、早期にその理解を深め、土木工学実験2において、実際の計算を行い、計算値と実験値の相違から、RC構造についての理解を深める。	
	土質力学	土質力学の入り口である「土とは何か?」、「土の柔らかさの表現」といった土の基本的性質から、「土中の水とその流れ」、「土の応力・土の変形・土の挙動」、「圧密・圧縮」および「土のせん断強さ」までの土質力学に必須な一連の知識を身につける。また、実務において多い具体的な問題解決策の基礎として、「土圧」、「浅い基礎の支持力」および「斜面安定」の理論について習得し、実務を始めとした応用問題解決をささえる基礎的な力を身につける。	
	土質力学演習	土質力学の理解を基礎とし、土質力学の学習内容全般の定着と、設計実務における問題解決を自力でできるよう、土質力学を学習する。演習内容と目標は、土の物理的性質とその構造の理解に基づき、土の状態量を定量化できること、地盤内に発生する応力や土圧を計算できること、有効応力の概念の理解、1次元圧密方程式に基づき種々の条件での圧密沈下を算定できること、一軸(三軸)圧縮試験結果に基づいて強度定数を求めること、および斜面破壊形態の理解と安全率の求め方等である。演習では、これらの考え方と計算方法を理解し、現場における判断力の基礎となり得る知識を身につけるようにする。	
	水理学	水の物理的性質、水圧の原理とその振る舞い、静水力学、浮力、浮体の安定性、流れの性質、ベルヌイの定理、運動量保存則、層流と乱流の概念、管路、開水路の水理について解説する。水理学の根幹を為す多くの理論や数式の基となる様々な現象を対象として、実際に講義内で実験することで現象を実感させ、その体験を通じて履修生の理解を深める。履修生は、実験によって体感することのできた水の様々な特性を、理論およびその応用技術等との関連性をイメージしたうえで体系的に理解することができ、水理学の基礎知識に関する深い理解により広範な応用力を身に付けることができる。	
	水理学演習	水理学において理解・習得した水の特性とその取扱い方に基づいた、実用的・典型的な水理学的課題の具体的解法を解説する。解説に際しては、実際に課題となる現象の実験およびその解説を実施することで、イメージが難しい複雑な水の挙動を直感的に理解させ、解法に必要な種々の条件が、なぜそのように与えられる必要があるのかといった課題の本質的理解を深める。これにより履修生は、個別の課題毎に解法を暗記するのではなく、根本的な理解を深化させることで、より広範な応用力を身に付けることができるようになる。	
	構造力学	土木構造物には、機械など他分野と比較すると、はるかに長期間に使用され、また、人知が及ばず予測困難かつ大きな外力が作用する。そのような外力に対し、確実に耐えることのできる構造物を作るための基本的な能力を習得することを目的とする。土木構造物にとり基本となる、骨組により構成された連続体について、支点反力、断面力、変形などの力学量と連続体の挙動の関係を、力の釣合、フックの法則の概念に基づいて理解させ、最終的にはラーメン構造物の計算まで習得させる。また、断面の形状と断面係数、剛性との関係についても理解し、連続体に発生する応力を算出できるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅲ類 (学科専門科目)	構造力学演習	土木構造物には、機械など他分野と比較すると、はるかに長期間に使用され、また、人知が及ばず予測困難かつ大きな外力が作用する。そのような外力に対し、確実に耐えることのできる構造物を作るための基本的な能力を習得することを目的とする。構造力学演習では、構造力学で学んだ、力の性質、安定についての基本的な概念、構造物の反力・部材断面力および発生応力の算定方法を、多くの演習問題を解く事によって、さらに理解度・応用力を深める。また、グループワークを活用することで、習熟度も高める。	
	土木計画学	社会資本として各種公共事業を実施する上で必要となる計画論について、その基礎的な理論や立案方法、また計画論の実践に必要とされる行政計画(国土計画、都市計画、地区計画)について学ぶ。本講義では、計画学の基礎理論について講義し、問題解決能力に不可欠な計画案を作成するプロセスとそれにかかわる契約や法制度などを含めた基本的な概念を理解した上で、グループディスカッション等を通して計画案を模擬的に作成し、知識と実践力の向上を目的としている。	
	土木計画学演習	土木計画学で養った理論的な知識をもとに、地域資源や地域特性を生かしたまちづくりを行う上で必要となる、土木計画における数理的手法や社会調査法の基礎的な演習を行う。数理的手法では、土木計画分野で用いられる予測・最適化やシミュレーション分析等に関する手法について、実データに基づくコンピュータ上での演習を通じて実践的に体得する。社会調査法では、アンケート調査法、母集団の標本抽出、データの集計、多変量解析等の分析等を、既存の統計調査データもしくは簡易的なアンケートを実施し、調査の実施方法の組み立てから分析、結果の解釈に至る演習を行う。	
	インフラネットワーク	土木構造物は、単体での活用よりも、複数や別の構造物との併用での活用により飛躍的に大きな便益を得ることが出来る。また、同様に構造物の情報化により、新たな種類の便益を産むことが出来、さらに、近年は社会的にも自動運転車両への対応・支援など、新しい機能を備えることが求められるようになってきている。本講義では、構造分野の知見をベースとしながら、情報通信技術、人工知能などの活用も試行範囲に含めた上で、インフラ連携による、社会的な課題の解決にプロジェクト的に取り組む授業とする。	
	維持管理工学	近年、社会的に課題となっている土木構造物の経年劣化、およびその維持管理方法について理解することを目的とする。対象としては、土木構造で、風雨などの外環境、荷重、あるいは突発的な災害などにより大きな負荷が作用するコンクリートおよび鋼を用いた構造物を対象とする。中でも、維持管理についての考え方、調査・評価方法、対策方法について学習する。また、生じる損傷の理論的理解のため、腐食や疲労などについての金属工学分野の関連知識も学習範囲に含める。さらに、上記の内容を机上で学習するとともに、実際の構造物を視察し、劣化の原因や適切な対策方法について、本科目で得た知識、方法論に基づき取りまとめる。	
	耐震工学	地震国である日本は、各種構造物において耐震性を確保することが必要不可欠である。本科目では、順を追って、過去の震災記録から各種地震被害とその被害メカニズムについて学ぶことから始め、耐震設計全般の基本的な考え方を理解する。そのために必要な知識として地震工学や振動学について講義を行るとともに、具体的な耐震設計事例を提示し理解を深める。最終的な到達目標として、耐震設計の基本を踏まえた地震防災の知識を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅲ類 (学科専門科目)	地盤工学	地盤の種類は沿岸部軟弱地盤から中山間地・山岳地帯まで幅が広い。本講義では、土質力学で学んだ内容を元に、軟弱地盤と斜面安定問題に関する理論について、より専門的な知識を習得する。「材料としての土」にとらわれず、設計法、施工技術、地盤環境等や各種構造物との関係を横断的な視点で見られるように配慮し、地盤調査方法、軟弱地盤については、掘削、基礎の支持力(直接基礎、杭基礎の極限支持力)、液状化、盛土等の土構造物の現状や設計手法、また、安定問題については、一般的な斜面安定計算法や地滑りならびに土石流等の工学的課題の理解を深化させ、実務への想像力を身に付ける。	
	土质地質学	我が国は、沿岸部を中心に都市の発展をしてきた歴史があるが、近年、高台移転等の都市開発も増加の一途をたどっている。一方、気候変動に伴い、地震のリスク以外に豪雨による斜面災害も多発化・多様化しているのが現状である。しかし、これらの災害の発生は、誘因だけでなく素因である地形・地質的要因に負うところが大きい。土地利用や建設行為は土地条件に沿って行なう必要がある。本講義では、地形・地質の特徴・特性について学び、そこで起こり得る災害や土木建設事業における対策について土木技術者として必要な能力を養うことを目標とする。	
	流体理論	水を連続体という概念を導入して流体として捉えて理論的に取り扱うための基礎的な考え方を、高校までに学ぶ質点系力学に立脚し、そこから導入過程を介して体系的に解説する。流体の質量保存則の考え方を示し、水の運動については完全流体として取り扱う方法を解説する。更に、より現実的な流体概念である粘性流体を取り扱うことのできるナビエーストークス方程式および乱流場への適用であるレイノルズ方程式について、その理論および最終的な式形の有する特性を解説する。	
	海岸工学	本講義は、基礎的な知識を学びながら、その知識を活かして地域社会への将来的な貢献を想像できる学生を育てることを目的としている。主な内容は、海岸工学の中でも基礎的な事項に重点をおいて実施する。海の波の特性、長周期波、および波浪によって起きる海岸付近の流れ、複合的に発生する漂砂などの海浜変形、沿岸域の保全・防災、津波などの解説を実施する。これらは具体的な事例を交えながら解説するため、履修者は基礎知識を学ぶだけでなく、生きた学問に触れることが可能となる。	
	災害メカニズム	自然災害が発生するメカニズムを、気象、地象、水象を一体とした統一的・体系的な捉え方から解説する。集中豪雨から流出過程によって地下水浸透や河川増水が発生し、河川の氾濫、農業用ため池土堤の決壊、斜面崩壊や土石流といった水・土の複合的災害が発生するメカニズムや、大規模地震によって生じた地盤の液状化が各種インフラにもたらす影響、また、降雨との複合化による被害拡大のメカニズム等を、気象学、水文学、土質力学、地盤工学、水理学、河川工学、海岸工学の各分野における専門知識・技術を有機的に統合することで統一的に解説する。解説に際しては実験により個々の現象を確認させる。これにより履修者は、降雨流出の時間遅れや、複雑な地盤構造による地下水の複雑な挙動、多岐にわたる土堤決壊の要因、地震によって生じる各種被害等を直感的に理解できる。	
	構造デザイン	数値計算手法の発達とともに、構造設計は弾塑性を考慮したより合理的・経済的な方向に発展している。その方向性に対応できるよう、構造設計およびそれに関連する解析技術について、より実践的な能力を習得させることを目的とする。まずは、塑性化・塑性変形についての概念を理解させた上で、土木構造物の中でも最も発生応力が高くなる構造物である橋梁を主に対象とし、鋼およびコンクリートにより構成される構造物の設計、また、当該構造物の精度よい計算を可能とするシェル・ソリッド要素を用いた解析手法についても学習する。さらに、解析計算の目的による、モデル化時に重視する要件などについても実践的に説明を行う。モデル化時に重視する要件については、維持管理工学とも連携しながら、理解を深めさせる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学部土木工学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅲ類 (学科専門科目)	インフラマネジメント論	社会資本整備事業を実施する上では、調査・設計から施工、そして維持管理までの事業プロセスに応じた統合的なマネジメントが必要である。本講義では、国内外におけるプロジェクトの事例をもとに、ステークホルダーのマネジメント、スケジュール/マイルストーンの決定、コストと調達、品質の確保、リスクマネジメント等の、プロジェクトマネジメントにおいて必要な知識と理論について学ぶ。さらにグループワークによる模擬プロジェクトのマネジメント演習を実施し、その実践力を身に付ける。	
	モビリティデザイン	人々が生活していく上で移動は必要不可欠であり、その多くは道路をはじめとする交通インフラが担っている。本講義では、都市間を連絡する高速道路から住区内の生活道路に至るまで身近な交通インフラである道路について、その計画・設計手法や交通運用手法を具体的な事例を交えながら学ぶとともに、国内外の道路交通システムに関する最新動向について理解を深める。また、情報通信技術・自動車技術などのテクノロジーの進化や人々のライフスタイルの変化に対応したモビリティとそれを支える道路交通インフラのあり方についても概観する。	
	運輸施設工学	交通体系等インフラ設備の基幹構造物として、道路、トンネル、あるいは鉄道など、日本国内には、物資輸送のみならず発災時に救急活動等を支える運輸施設が多数整備されている。本科目では、これらの基幹的な運輸施設を対象に、道路においては計画・設計・施工・維持管理等、トンネルでは主要な3つの山岳工法、シールド工法および開削工法等についての基礎知識、および鉄道については基本的な土木施設とそのメンテナンス等について理解するための講義をおこなう。これらの各種運輸施設に拘わる土木技術全般の基礎知識を習得することで、適切に応用できる能力を身につける。	
	環境工学	生命維持および社会活動における重要なライフラインである上・下水道施設について、その役割および効果について解説する。また、上・下水道の機能ならびに計画・設計・操作に関わる工学的な基本的事項を解説する。履修者は、人類の生活を支える重要な施設である上・下水道について、その目的と仕組みを理解し、都市水システムと公衆衛生や衛生工学との関連を理解し、健康な生活に重要で安全な水を安定的に供給するための処理技術について学習する。	
	環境保全工学	グローバルな視点からみた地球環境から身近な地域における環境まで、様々なスケールの幅広い環境問題を対象として、環境保全の現状と課題について解説する。社会活動の影響や災害等のインパクトによる環境変化に対して、工学がその保全にどのように活用できるかについて、事例に基づいて解説する。また、自然環境との調和や工学と生態系保全の関係についても論じる。履修者は、工学と自然環境との調和のとれた共生社会を保全するための知識および技術を身に付けることができる。	

校地校舎等の図面

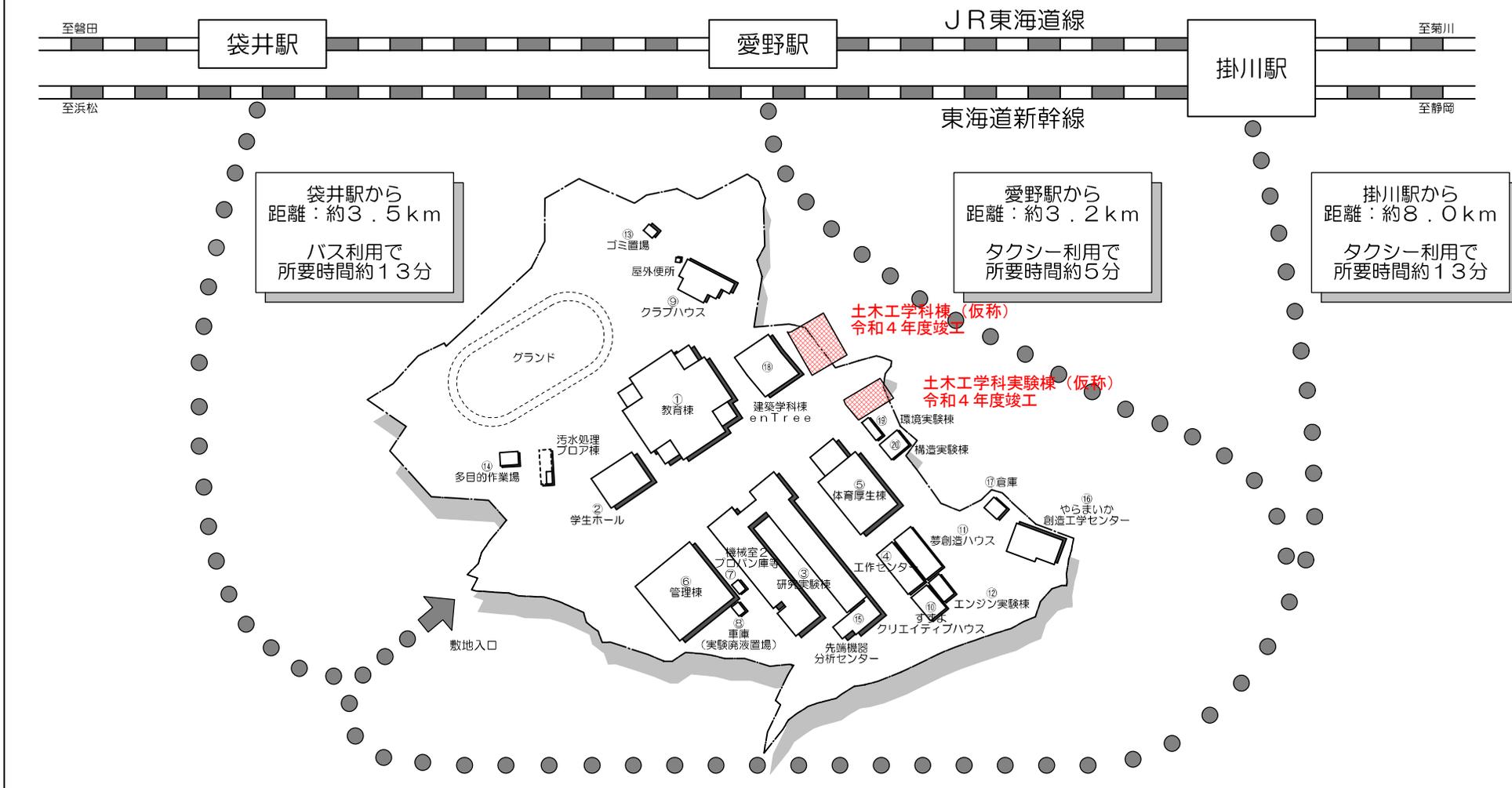
(1) 静岡県内における位置関係の図面



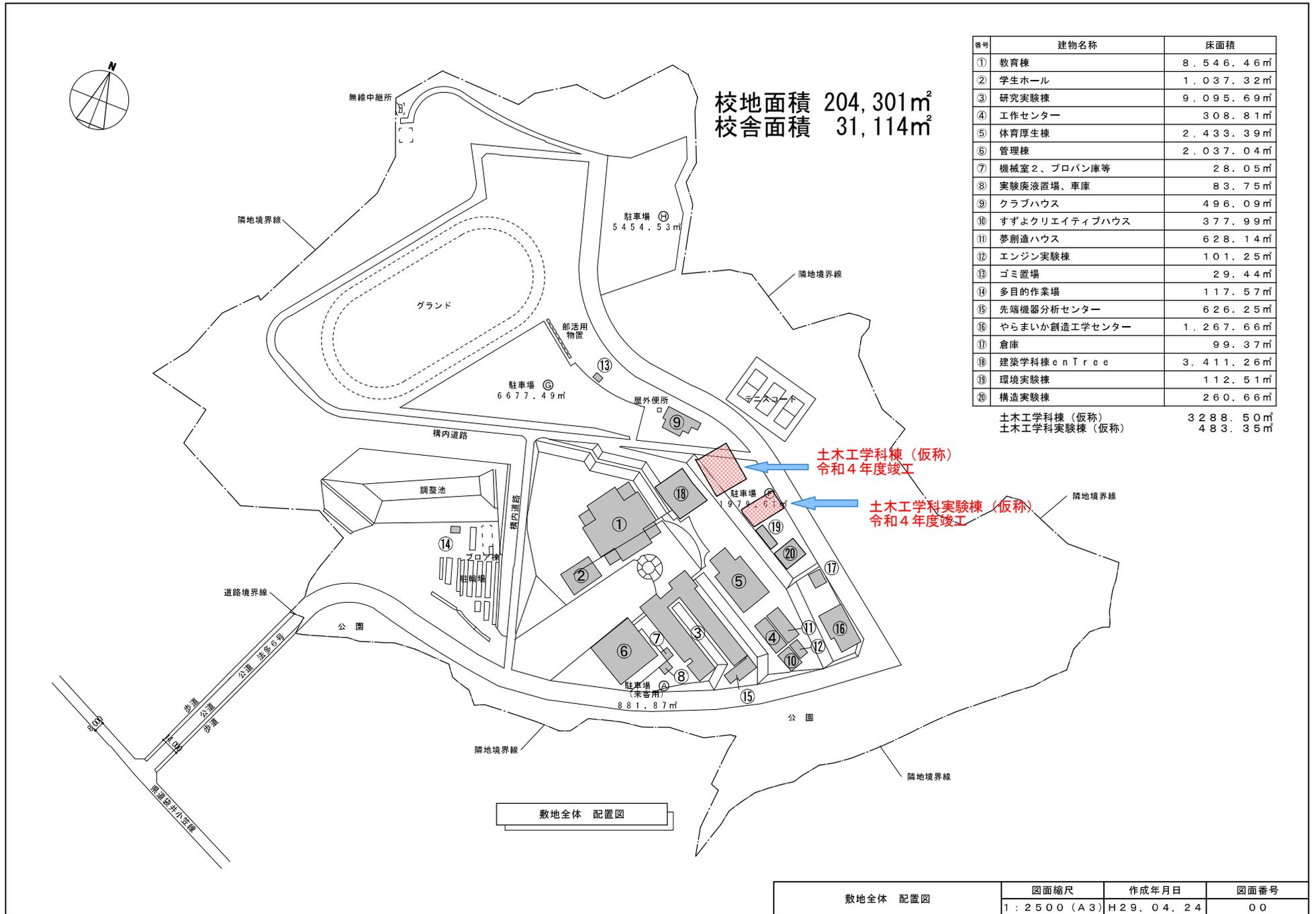
図面-1

— 静岡理工科大学の位置及び校地、校舎の配置図の概要 —

所在地：静岡県袋井市豊沢2200番地の2



(3) 校舎、運動場等の配置図



図面-3

静岡理工科大学学則

平成 2年	12月21日	制定	平成12年	5月31日	改正	平成24年	2月24日	改正
平成 3年	9月19日	改正	平成13年	2月26日	改正	平成25年	2月25日	改正
平成 4年	2月28日	改正	平成13年	10月 2日	改正	平成25年	5月28日	改正
平成 4年	9月25日	改正	平成14年	9月24日	改正	平成26年	2月24日	改正
平成 5年	9月18日	改正	平成15年	9月29日	改正	平成26年	5月27日	改正
平成 6年	5月23日	改正	平成16年	2月24日	改正	平成27年	2月20日	改正
平成 6年	9月30日	改正	平成16年	9月27日	改正	平成28年	2月26日	改正
平成 7年	3月27日	改正	平成17年	2月25日	改正	平成28年	5月26日	改正
平成 7年	6月20日	改正	平成18年	2月23日	改正	平成28年	9月27日	改正
平成 7年	9月26日	改正	平成18年	12月13日	改正	平成29年	2月28日	改正
平成 8年	2月27日	改正	平成19年	2月23日	改正	平成30年	2月27日	改正
平成 8年	9月25日	改正	平成19年	5月31日	改正	平成31年	2月28日	改正
平成 9年	2月26日	改正	平成19年	9月27日	改正	令和 元年	5月31日	改正
平成 9年	10月 9日	改正	平成20年	2月21日	改正	令和 元年	9月27日	改正
平成10年	4月13日	改正	平成21年	2月20日	改正	令和 2年	2月26日	改正
平成10年	6月30日	改正	平成21年	5月26日	改正	令和 2年	5月29日	改正
平成10年	10月13日	改正	平成22年	2月22日	改正	令和 3年	2月25日	改正
平成11年	9月22日	改正	平成22年	5月25日	改正	令和 3年	5月25日	改正
平成11年	11月 8日	改正	平成23年	2月22日	改正			
平成12年	2月23日	改正	平成23年	5月24日	改正			

第1章 総 則

(目 的)

第1条 本学は、学校教育法及び教育基本法に基づき、科学・技術に関する学術を研究教授し、国際的視野と技術者としての使命感を持った向上心溢れる人材の育成、及び実践的創造的研究により社会に貢献することを目的とする。

2 学部及び学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は別に定める。

(名 称)

第2条 本学は、静岡理工科大学と称する。

(所 在 地)

第3条 本学は、静岡県袋井市豊沢2200番地の2に置く。

第2章 学部、学科組織及び収容定員

(学部、学科及び収容定員)

第4条 本学に次の学部を置く。

理工学部

情報学部

2 各学部に置く学科、入学定員及び収容定員は次のとおりとする。

学部	学 科	入学定員	収容定員
理工学部	機械工学科	75名	300名
	電気電子工学科	60名	240名
	物質生命科学科	55名	220名
	建築学科	50名	200名
	土木工学科	50名	200名
	計	290名	1,160名
情報学部	コンピュータシステム学科	60名	240名
	情報デザイン学科	70名	280名
	計	130名	520名
合 計		420名	1,680名

第3章 大学院

(大学院)

第5条 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する学則は、別に定める。

第4章 修業年限、在学期間、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第6条 本学の修業年限は4年とする。

(在学期間)

第7条 在学期間は、8年を超えることができない。ただし、休学期間はこれに算入しない。

2 編入学者・転入学者の在学期間は別に定める。

(学 年)

第8条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期及び1年間の授業時間)

第9条 学年を次の2学期に分ける。

前期 4月1日から 9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

ただし、学長は、前期・後期の授業日数を調整するため、前期の終期及び後期の始期を変更することができる。

2 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(休業日)

第10条 休業日は次のとおりとする。

1) 日曜日

2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

3) 春期休業日 3月21日から 4月7日まで

4) 夏期休業日 7月21日から 9月7日まで

5) 冬期休業日 12月21日から翌年1月7日まで

2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがある。

3 学長は必要により、第1項に定める休業日の変更及び臨時の休業日の設定ができる。

第5章 入学・退学・転学・留学・休学・転科及び除籍

(入学の時期)

第11条 入学の時期は学年の始めとする。

ただし、特別の事由があると認められる場合は、後期の始めに入学させることができる。

(入学の資格)

第12条 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

1) 高等学校、もしくは中等教育学校を卒業した者

2) 通常の課程により12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校を修了したと文部科学大臣が認めた者を含む）

- 3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずるもので文部科学大臣の指定した者
- 4) 文部科学大臣が、高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 5) 文部科学大臣の指定した者
- 6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む）
- 7) その他、相当の年齢に達し、学長が高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（入学の出願）

第13条 前条の資格がある者で本学に入学を志願する者は、入学願書に別表3に定める検定料及び別に定める書類を添えて、所定の期日までに願出しなければならない。

（入学者の選考）

第14条 前条の入学志願者について選考を行う。

（編入学）

第15条 次の各号のいずれかに該当する者で、本学に編学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

- 1) 大学を卒業した者
- 2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
- 3) 大学に一定期間在学し、所定の単位を修得して退学した者
- 4) 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第132条に規定する者

（再入学）

第16条 本学に一定期間在学した者で本学に再入学を志願する者があるときは、選考のうち相当年次に入学を許可することができる。

（転部・転科及び本学への転入学）

第17条 本学の学生であって、他の学部転部又は所属学部の他の学科に転科を志願するものに対しては、選考の上、許可することができる。

- 2 他の大学の学生であって本学に転入学を志願する者に対しては、選考の上、許可することができる。
- 3 前2項の規定により、転部・転科及び転入学を許可された者の既修得単位と在学期間の通算については教授会の議を経て学長が決定する。

(入学手続及び入学許可)

第18条 選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに定められた授業料その他の費用を納め、所定の書類を提出して入学手続を完了しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(退学、他の大学への転入学)

第19条 学生が退学又は他の大学に転入学しようとするときは、その理由を明らかにし、保証人連署の退学願又は転入学願を提出し、許可を受けなければならない。

(留 学)

第20条 本学の学生であって外国の大学で学修することを志願する者は、許可を受けて留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、修業年限に算入することができる。

(休 学)

第21条 疾病その他の事由により、引き続き2ヶ月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病による事由の場合には、診断書を提出しなければならない。

3 疾病その他の事由により修学が適当でない認められる場合には、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第22条 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は休学期間の延長を認めることができる。

2 満了の場合又は休学期間中であっても、その理由が消滅した場合には、学長の許可を得て復学することができる。

3 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

4 休学期間は、これを在学期間に算入しない。

(除 籍)

第23条 次の各号のいずれかに該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

1) 第7条に定める在学期間を超えた者

2) 第22条第3項に規定する期間を超えた者

3) 死亡又は行方不明の者

4) 授業料等学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

第6章 教育課程及び履修方法

(授業科目の区分)

第24条 授業科目を、Ⅰ類(人間・文化科目)、Ⅱ類(共通専門基礎科目)、Ⅲ類(学科専門科目)、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目、大学が独自に設定する科目に分ける。

2 前項に規定する科目のほか、必要に応じて特別科目を置くことができる。

(授業科目の種類、単位数)

第25条 Ⅰ類(人間・文化科目)、Ⅱ類(共通専門基礎科目)、Ⅲ類(学科専門科目)の授業科目及び単位数は、別表1-1に定めるところによる。

(授業の方法)

第25条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学省が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる(以下「遠隔授業」という)。

3 遠隔授業の方法により取得することができる単位は、60単位を超えないものとする。

(履修方法)

第26条 学生は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類の授業科目を履修し、各類の合計124単位以上を修得しなければならない。ただし、各類の最低履修単位数は次のとおりとする。

学部	学科	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類
理工学部	機械工学科	29単位	24単位	61単位
	電気電子工学科	23単位	18単位	52単位
	物質生命科学科	23単位	12単位	64単位
	建築学科	23単位	12単位	69単位
	土木工学科	23単位	12単位	59単位
情報学部	コンピュータシステム学科	27単位	18単位	65単位
	情報デザイン学科	27単位	16単位	65単位

2 前項に規定する各授業科目の履修方法は、別に定める。

(教職課程)

第26条の2 教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、前条に規定する単位のほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本学において所要資格を得ることができる教育職員免許状の種類及び教科は、次のとおりとする。

学 部	学 科	教育職員免許状の種類	教科
理工学部	機械工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
	電気電子工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
	物質生命科学科	高等学校教諭一種免許状	理科
	建築学科	高等学校教諭一種免許状	工業
情報学部	コンピュータシステム学科	高等学校教諭一種免許状	情報 数学

3 教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目、大学が独自に設定する科目及び単位数は、別表1-2に定めるところによる。

4 教育職員免許状授与の所要資格を取得するための各授業科目の履修方法は、別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第27条 教育上有益と認めるときは、学生が別に定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第28条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により単位を与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第29条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修とみなすことができる。

- 2 学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修については、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。
- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

第7章 成績評価及び単位認定

(単位認定・成績評価)

第30条 授業科目を履修し、その試験、論文等に合格した者には単位を与える。

- 2 試験・論文等の成績の評価は、次のとおりとする。
 - 1) 評価は、秀・優・良・可・不可又は合格・不合格の評語をもって表す。
 - 2) 前号の評語のうち、秀・優・良・可は合格とする。

(単位の計算方法)

第31条 各授業科目の単位数は、1単位の授業時間を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業時間に必要な学修等を考慮して、次の各号により単位数を計算する。

- 1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

第8章 卒業及び学位の授与

(卒業)

第32条 本学に4年以上在学し、第26条に規定する単位を修得した者には、教授会の議を経て、学長が卒業の認定を行う。

- 2 卒業の認定は学年の終りに行う。ただし、やむを得ない事由により、この認定を受けることができなかった者については、次年度の前期終りにこれを行うことができる。
- 3 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(学位の授与)

第33条 卒業生には、次の区別に従い、学士の学位を授与する。

理工学部	機械工学科	学士(工学)
	電気電子工学科	学士(工学)
	物質生命科学科	学士(理学)
	建築学科	学士(工学)
	土木工学科	学士(工学)
情報学部	コンピュータシステム学科	学士(情報学)
	情報デザイン学科	学士(情報学)

第9章 学生納付金

(学生の納付金)

第34条 本学の学生納付金は、別表2-1及び別表2-2に定める額とする。

- 2 学生納付金は、授業出席の有無にかかわらず、指定の期日までに納入しなければならない。
- 3 本学において特別の理由があると認められた者は、前項の規定にかかわらず分納又は延納を認めることがある。
- 4 第1項の規定にかかわらず、本学において特に必要と認めた場合、学生納付金の減免を行うことができる。なお、学生納付金の減免に関する規則は、別に定める。

(退学等の場合の納付金)

第35条 退学者・転学者又は停学中の者は、当該期の学生納付金を指定の期日までに全額納入しなければならない。

(休学した場合の納付金)

第36条 前期又は後期の中で休学若しくは復学した者は、休学又は復学した当該期の学生納付金を指定の期日までに全額納入しなければならない。

- 2 休学が前期又は後期の全期間にわたる場合、当該期は100,000円、年間の場合は200,000円を施設維持費として納入しなければならない。

(学生納付金の返還)

第37条 既納の学生納付金は、返還しない。

- 2 前項の規定にかかわらず、入学手続きを完了した者が、入学を辞退して講義等を受講しない場合、授業料について返還することがある。
- 3 前項の返還に関する手続きは、別に定める。

(実験実習費)

第38条 実験及び実習に要する費用は別に徴収することがある。

第10章 賞 罰

(表 彰)

第39条 本学学生で品行、学業のとくに優秀な者は、これを表彰することがある。

(懲 戒)

第40条 本学学生で本学の諸規則に反し秩序を乱し、その他学生の本分に反する行為があったときは、教授会の審議を経て、学長が懲戒する。

懲戒の種類は、退学、停学及び戒告とする。

2 前項の退学は、次のいずれかに該当する者に対して行う。

- 1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
- 2) 正当な理由なく出席しない者
- 3) 学業成績劣等で成業の見込みがないと認められた者
- 4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反したと認められた者

第11章 科目等履修生・聴講生・研究生・委託研究生及び外国人留学生

(科目等履修生及び聴講生)

第41条 本学の学生以外の者で、本学において一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育に支障のない限り、選考の上科目等履修生又は聴講生として履修を許可することがある。

2 科目等履修生及び聴講生に関する規則は、別に定める。

(研究生)

第42条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、本学の教育及び研究に支障のない限り、選考の上研究生として入学を許可することがある。

2 研究生に関する規則は別に定める。

(委託研究生)

第43条 公共機関その他から委託研究生として受け入れの申し出があるときは、別に定めるところにより、選考の上これを許可することがある。

2 委託研究生に関する規則は、別に定める。

(外国人留学生)

第44条 外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生に関する規則は別に定める。

第12章 教職員及び運営組織

(教職員の種類)

第45条 本学に学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員を置き、必要に応じて特命教員、客員教員、その他の教職員を置くことができる。

2 本学に学部長、学科長、学生部長、図書館長、その他の職を置く。

3 教職員に関する規則は別に定める。

(教授会)

第46条 本学に理工学部及び情報学部による全学教授会（以下「教授会」という。）を置き、学長、専任の教授、准教授、講師、助教をもって組織する。

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めるときは、その他の教職員も出席することができる。

3 教授会は、次の事項を審議し、学長が決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

2) 学位の授与

3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

4 教授会は、前項に掲げるもののほか、学長の求めに応じて教育研究に関する事項について審議し、学長に意見を述べることができる。

5 教授会の運営に関する必要な事項、並びに、本条第3項第3号における学長が定める事項は別に定める。

(大学評議会)

第47条 本学に大学評議会を置き、次の各号に掲げる大学評議会評議員をもって組織する。

- 1) 学長
- 2) 学部長
- 3) 学科長
- 4) 統括
- 5) 大学担当理事
- 6) 事務局長

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めたときは、大学評議員以外の者を出席させることができる。

3 大学評議会は、学長の諮問に応じて、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 1) 教育、研究に関する基本方針の策定
- 2) 教員人事に関する事項
- 3) 学内規程の制定改廃に関する事項
- 4) 学内組織の設置、改廃に関する事項
- 5) 施設、設備の整備に関する事項
- 6) 教育、研究経費の支出に関する事項
- 7) その他大学の管理運営に関する重要事項

4 大学評議会の運営に関し必要な事項は別に定める。

第13章 研究所、センター、附属図書館

(研究施設)

第48条 本学に研究所を置き、他団体との共同研究及び特定課題の研究を推進する。

2 研究所に関する規則は別に定める。

(センター)

第49条 本学に次のセンターを置く。

- (1) 工作センター
- (2) やらまいか創造工学センター
- (3) 先端機器分析センター
- (4) 情報教育研究センター
- (5) 教育開発センター
- (6) 国際交流センター

2 センターに関する規則は、別に定める。

(付属図書館)

第50条 本学に付属図書館を置く。

2 付属図書館に関する規則は、別に定める。

第14章 社会人講座

(社会人講座)

第51条 本学は、社会人の教養を高め、地域文化の向上に資するため、必要に応じ社会人講座を開設する。

2 社会人講座に関する規則は別に定める。

附 則

この学則は、平成 3年 4月 1日から施行する。

附 則

この学則は、平成 3年10月 1日から施行する。

附 則

この学則は、平成 4年 4月 1日から施行する。

附 則

この学則は、平成 5年 4月 1日から施行する。

附 則

この学則は、平成 6年 4月 1日から施行する。

附 則

この学則は、平成 6年 6月 1日から施行する。

附 則

この学則は、平成 6 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の学則第 23 条、第 24 条及び別表 1、第 25 条、第 26 条、第 27 条、第 28 条、第 30 条の規定は、平成 8 年度の入学生から適用し、平成 7 年度以前の入学生については、なお従前の規定によるものとする。

附 則

この学則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成11年 4月 1日から施行する。
ただし、第13条については、平成10年11月 1日から適用する。
- 2 平成11年 4月 1日から知能情報学科の学生募集を停止する。
なお、当該学科は在学する者がいなくなるまで存続するものとし、教育課程に関する規定は従前によるものとする。
- 3 第4条の規定にかかわらず、平成11年 4月 1日から平成14年 3月 31日までの間においては、学科名、入学定員、収容定員は次のとおりとする。

	平成11年度		平成12年度		平成13年度	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
機械工学科	80名	320名	80名	320名	80名	320名
電子工学科	80名	320名	80名	320名	80名	320名
情報システム学科	140名	140名	140名	280名	140名	420名
物質科学科	60名	240名	60名	240名	60名	240名
知能情報学科	0名	240名	0名	160名	0名	80名
合計	360名	1,260名	360名	1,320名	360名	1,380名

附 則

- 1 この学則は、平成12年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の学則第24条の別表1、第25条の規定は、平成12年度の入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については、なお従前の規定によるものとする。

附 則

この学則は、平成13年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成13年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の学則第25条の別表1の規定は、平成13年度の入学生から適用し、平成12年度以前の入学生については、なお、従前の規定によるものとする。
- 3 前項の規定にかかわらず、インターンシップについては、平成12年度以前の入学生も履修できるものとする。

附 則

この学則は、平成14年 4月 1日から施行する。
ただし、第13条については、平成14年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成15年 4月 1日から施行する。
ただし、第4条の規定にかかわらず、電子工学科については平成15年 3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする
- 2 第25条の別表1の規定は、平成15年度入学生から適用し、平成14年度以前の入学生については、なお、従前の規定によるものとする。
- 3 第13条の別表3、第37条については、平成14年10月 1日から適用する。

附 則

この学則は、平成16年 4月 1日から施行する。
ただし、第4条、第25条の別表1及び第33条の規定は、平成15年度入学生から適用し、平成14年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。また、第4条の規定にかかわらず、物質科学科については当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成16年10月 1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年 4月 1日から施行する。
ただし、第25条の別表1の規定は、平成15年度入学生から適用し、平成14年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。

附 則

この学則は、平成18年 4月 1日から施行する。
 ただし、第25条の別表1の規定は、平成18年度入学生から適用し、平成17年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。

附 則

この学則は、平成19年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 改正後の学則第4条、第13条の別表3、第17条、第24条第1項、第25条及び別表1、第26条、第33条の規定は、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。
- 3 平成20年4月1日から理工学部情報システム学科の学生募集を停止する。
 なお、当該学科は在学する者がいなくなるまで存続するものとする。
- 4 理工学部電気電子情報工学科は、改正後の学則第4条の規定にかかわらず平成20年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 5 改正後の学則第4条の規定にかかわらず、平成20年4月1日から平成23年3月31日までの間においては、各学部置く学科、入学定員、編入学定員及び収容定員を次のとおりとする。

学部	学 科	平成20年度			平成21年度			平成22年度		
		入学 定員	3年次編 入学定員	収容 定員	入学 定員	3年次編 入学定員	収容 定員	入学 定員	3年次編 入学定員	収容 定員
理工 学部	機械工学科	80名	3名	326名	80名	3名	326名	80名	2名	325名
	電気電子工学科	80名	3名	326名	80名	3名	326名	80名	2名	325名
	情報システム学科	0名	0名	420名	0名	0名	280名	0名	0名	140名
	物質生命科学科	60名	3名	246名	60名	3名	246名	60名	1名	244名
	計	220名	9名	1,318名	220名	9名	1,178名	220名	5名	1,034名
総合 情報 学部	コンピュータシステム学科	65名	0名	65名	65名	0名	130名	65名	2名	197名
	人間情報デザイン学科	75名	0名	75名	75名	0名	150名	75名	2名	227名
	計	140名	0名	140名	140名	0名	280名	140名	4名	424名
合 計		360名	9名	1,458名	360名	9名	1,458名	360名	9名	1,458名

附 則

この学則は、平成19年 6月 1日から施行する。
ただし、改正後の第34条の別表2-1の規定は、平成20年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成20年 4月 1日から施行する。
ただし、改正後の第24条第1項、第25条の別表1-1、第26条の2の規定は、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。

附 則

この学則は、平成19年10月 1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年 4月 1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年 4月 1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年 4月 1日から施行する。
ただし、第26条の2の別表1-2の規定は、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。

附 則

- 1 この学則は、平成22年 4月 1日から施行する。
- 2 第25条の別表1-1の規定は、平成22年度入学生から適用する。
- 3 第26条の2の第2項の規定は、平成20年度入学生から適用する。また第26条の2の別表1-2に定める数学科教育法Ⅰ・数学科教育法Ⅱは、平成20年度入学生から適用する。

附 則

この学則は、平成22年 4月 1日から施行する。
ただし、第13条の別表3の規定は、平成22年度入学志願者から適用する。

附 則

この学則は、平成23年 4月 1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第25条の別表1-1及び第26条第1項の規定は、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。
- 3 改正後の第13条の別表3の規定は、平成25年度入学志願者から適用する。
- 4 改正後の第34条の別表2-1の規定は、平成25年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成24年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第30条の規定は、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。

附 則

- 1 この学則は、平成25年 4月 1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、実践ベンチャービジネス1及び実践ベンチャービジネス2については、平成20年度入学生より履修できるものとする。

附 則

- 1 この学則は、平成25年 6月 1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成26年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第13条の別表3の規定は、平成26年度入学志願者から適用する。
- 3 改正後の第25条の別表1-1の規定は、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。

附 則

- 1 この学則は、平成27年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第34条の別表2-1の規定は、平成27年度入学生から適用する。
- 3 前項の規定にかかわらず、平成27年度における2年次以上の編入生、平成28年度における3年次以上の編入生、並びに、平成29年度における4年次編入生については、別表2-2の規定を準用するものとし、再入学生についても同様とする。

附 則

- 1 この学則は、平成27年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第25条の別表1-1の規定は、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。

附 則

- 1 この学則は、平成29年 4月 1日から施行する。
- 2 総合情報学部及び総合情報学部人間情報デザイン学科の学部名称及び学科名称を、情報学部及び情報学部情報デザイン学科に変更する改正に関しては、平成29年4月1日現在において当該学部及び学科に在籍するすべての学生に適用するものとする。
- 3 改正後の第25条の別表1-1、第26条第1項、第26条の2第2項及び第33条の規定は、平成29年度入学生から適用し、平成28年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。ただし、前項に関わる総合情報学部及び総合情報学部人間情報デザイン学科の学部名称及び学科名称は、情報学部及び情報学部情報デザイン学科に読み替えて適用するものとする。
- 4 改正後の第4条第2項の規定にかかわらず、平成29年4月1日から平成32年3月31日までの間においては、入学定員、3年次編入学定員及び収容定員を次のとおりとする。

学部	学 科	平成29年度			平成30年度		平成31年度		
		入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
理 工 学 部	機械工学科	75名	2名	319名	75名	2名	314名	75名	307名
	電気電子工学科	65名	2名	309名	65名	2名	294名	65名	277名
	物質生命科学科	60名	1名	242名	60名	1名	242名	60名	241名
	建築学科	50名	-	50名	50名	-	100名	50名	150名
	計	250名	5名	920名	250名	5名	950名	250名	975名
情 報 学 部	コンピュータシステム学科	50名	2名	249名	50名	2名	234名	50名	217名
	情報デザイン学科	70名	2名	299名	70名	2名	294名	70名	287名
	計	120名	4名	548名	120名	4名	528名	120名	504名
合 計		370名	9名	1,468名	370名	9名	1,478名	370名	1,479名

附 則

- 1 この学則は、平成28年6月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成28年10月1日から施行する。
- 2 改正後の第13条の別表3の規定は、平成29年度入学志願者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第25条の別表1-1及び第26条第1項の規定は、平成29年度入学生から適用し、平成28年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 平成30年度入学生から適用し平成29年度以前の入学生は、従前の規定によるものとする。

附 則

- 1 この学則は、平成31（2019）年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第24条第1項、第25条の別表1-1、第26条の2の第3項及び別表1-2の規定は、平成31（2019）年度入学生から適用し、平成30（2018）年度以前の入学生は、従前の規定によるものとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、電気電子工学科「セミナー基礎」及び建築学科「構造実験」については、平成29（2017）年度入学生から適用するものとする。
- 4 前3項の規定にかかわらず、コンピュータシステム学科「データサイエンス演習1」、「データサイエンス演習2」、「データサイエンス実践演習1」、「データサイエンス実践演習2」、「データサイエンス入門」及び「海外研修プログラム」については、2020年度入学生から適用するものとする。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、令和2（2020）年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第4条第2項の規定にかかわらず、令和2年4月1日から令和5年3月31日までの間においては、入学定員及び収容定員を次のとおりとする。

学部	学 科	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
理工学部	機械工学科	75名	300名	75名	300名	75名	300名
	電気電子工学科	60名	255名	60名	250名	60名	245名
	物質生命科学科	55名	235名	55名	230名	55名	225名
	建築学科	50名	200名	50名	200名	50名	200名
	計	240名	990名	240名	980名	240名	970名
情報学部	コンピュータシステム学科	60名	210名	60名	220名	60名	230名
	情報デザイン学科	70名	280名	70名	280名	70名	280名
	計	130名	490名	130名	500名	130名	510名
合 計		370名	1,480名	370名	1,480名	370名	1,480名

附 則

- 1 この学則は、令和2年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第25条別表1-1および第26条の2の規定は、令和2年度入学生から適用し、平成31年度以前の入学生は、従前の規定によるものとする

附 則

- 1 この学則は、令和 3年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第25条の別表1-1、第26条第1項及び第26条の2第3項の別表1-2の規定は、令和3年度入学生から適用し、令和2年度以前の入学生は、従前の規定によるものとする。

附 則

この学則は、令和2年 4月 1日から施行する。

附 則

この学則は、令和3年 4月 1日から施行する。

附 則

この学則は、令和3年 6月 1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、令和4年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第25条の別表1-1、第26条第1項及び第33条の規定は、令和4年度入学生から適用し、令和3年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。
- 3 改正後の第4条第2項の規定にかかわらず、令和4年4月1日から令和7年3月31日までの間においては、入学定員及び収容定員を次のとおりとする。

学部	学 科	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
理工学部	機械工学科	75名	300名	75名	300名	75名	300名
	電気電子工学科	60名	245名	60名	240名	60名	240名
	物質生命科学科	55名	225名	55名	220名	55名	220名
	建築学科	50名	200名	50名	200名	50名	200名
	土木工学科	50名	50名	50名	100名	50名	150名
	計	290名	1,020名	290名	1,060名	290名	1,110名
情報学部	コンピュータシステム学科	60名	230名	60名	240名	60名	240名
	情報デザイン学科	70名	280名	70名	280名	70名	280名
	計	130名	510名	130名	520名	130名	520名
合 計		420名	1,530名	420名	1,580名	420名	1,630名

教育課程表

(全学部全学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
I類 (人間・文化科目)	フレッシュマンセミナー	2		
	スポーツ1	1		
	日本語表現法		2	◎
	Advanced English 1		2	
	General English 1		2	
	Advanced English 2		2	
	General English 2		2	
	Advanced English 3		2	
	General English 3		2	
	Advanced English 4		2	
	General English 4		2	
	文学		2	
	文化と文明		2	
	心理学		2	情報学部は履修不可
	歴史学		2	
	現代生活論		2	
	芸術論		2	
	国際関係論		2	
	経済学		2	
	政治学		2	
	社会学		2	
	暮らしのなかの憲法		2	
	地域学		1	
	実践技術者講座		1	
	インターンシップ		1	
	就職準備ガイダンス		1	
	インターネットと情報倫理		2	
	建築の技術と文化		2	建築学科は履修不可
	科学技術者の倫理		2	
	地球科学		2	
	スポーツ2		1	
	健康の科学		2	
	スポーツ3		1	
	スポーツ4		1	
	英語コミュニケーション		2	
	中国語1		2	
	中国語2		2	
	韓国語1		2	
	韓国語2		2	
	国際PBL		1	
	海外語学研修		1	
	特別共同講義		2	
特別集中講義		2		
地域実践活動		1		
理工系教養の英語		2		
理工系教養の課題研究		2		

◎は指定する学生のみ履修可

教育課程表

(理工学部 機械工学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
Ⅱ類 (共通専門基礎科目)	基礎数学		3	☆
	微分積分/演習		3	
	微分積分/演習A		3	
	微分積分/演習B		3	
	応用数学		2	
	微分方程式		2	
	線形代数/演習	3		
	ベクトル解析		2	
	理工系教養の数学		2	
	物理学1		2	
	物理学2		2	
	化学		2	
	生物学		2	
	コンピュータ入門	1		
	プログラミング入門	1		
	コンピュータ構成概論		2	
	データサイエンス概論		2	
	プログラミング応用		1	
	工学基礎実験	2		
	メカトロニクス基礎実験	2		
	科学実験1		1	
	科学実験2		1	
	環境化学		2	
	環境と新エネルギー		2	
	品質工学入門		2	
	財務システム入門		2	

☆は自由科目扱いとする(卒業要件単位数に算入しない)

教育課程表

(理工学部 機械工学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考	
		必修	選択		
Ⅲ類 (学科専門科目)	機械創作入門	1			
	工業力学1	2			
	工業力学2	2			
	材料力学1	2			
	メカトロニクス基礎	2			
	機械材料学	2			
	機械加工学	2			
	機械製図	2			
	機構学	2			
	機械工学設計製図	2			
	計測工学	2			
	機械工学基礎実験	2			
	機械工学基礎演習2	1			
	機械要素	2			
	機械工学基礎演習1	1			
	工業熱力学	2			
	流体工学1	2			
	機械設計	2			
	機械工学応用実験	2			
	セミナー	1			
	卒業研究	4			
	創造・発見			1	
	材料力学2			2	
	機械力学			2	
	構造力学			2	
	航空工学			2	
	流体工学2			2	
	制御工学基礎			2	
	自動車工学			2	
	ロボット工学			2	
	原動機工学			2	
	3Dデザイン工学			2	
	自動車工学創造演習			2	
	ロボット工学創造演習			2	
	航空工学創造演習			2	
	伝熱工学			2	
	数値シミュレーション			2	
	材料加工学			2	
	機械工学特別講義			1	
	生産工学			2	
	アドバンスト機械工学			2	
	職業指導			2	卒業に必要な単位に参入しない
	工業科教育法Ⅰ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「工業」の免許状取得希望者のみ履修可
工業科教育法Ⅱ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「工業」の免許状取得希望者のみ履修可	

教育課程表

(理工学部 電気電子工学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
Ⅱ類 (共通専門基礎科目)	基礎数学		3	☆
	微分積分/演習		3	
	微分積分/演習A		3	
	微分積分/演習B		3	
	応用数学		2	
	微分方程式		2	
	線形代数/演習		3	
	ベクトル解析		2	
	理工系教養の数学		2	
	物理学1	2		
	物理学2		2	
	化学		2	
	生物学		2	
	コンピュータ入門	1		
	プログラミング入門		1	
	コンピュータ構成概論		2	
	データサイエンス概論		2	
	プログラミング応用		1	
	工学基礎実験	2		
	メカトロニクス基礎実験	2		
	科学実験1		1	
	科学実験2		1	
	環境化学		2	
	工業材料とその性質		2	
	環境と新エネルギー		2	
	品質工学入門		2	
	財務システム入門		2	

☆は自由科目扱いとする(卒業要件単位数に算入しない)

教育課程表

(理工学部 電気電子工学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考	
		必修	選択		
Ⅲ類 (学科専門科目)	電気電子工学入門	1			
	電気回路学1	2			
	電気回路学演習	1			
	基礎半導体工学	2			
	電磁気学1	2			
	電子回路学1	2			
	電子回路学演習	1			
	電子計測	2			
	電気電子基礎実験	2			
	電気電子工学実験	3			
	セミナー	1			
	卒業研究	4			
	応用電気工学実験			3	
	応用電子工学実験			3	
	電気回路学2			2	
	電気回路学3			2	
	電磁気学2			2	
	電子回路学2			2	
	論理回路			2	
	基礎プログラミング			2	
	応用プログラミング			2	
	マイクロプロセッサ応用			2	
	半導体デバイス			2	
	光エレクトロニクス			2	
	集積回路工学			2	
	センサ工学			2	
	電気・電子材料			2	
	材料電気化学			2	
	信号解析			2	
	動的システム論			2	
	通信システム			2	
	メディア信号処理工学			2	
	シーケンス制御			2	
	電気製図			2	
	デジタル信号処理			2	
	電子制御工学			2	
	電気機器			2	
	電力システム			2	
	パワーエレクトロニクス			2	
	電気応用			2	
	エネルギー伝送			2	
	電気法規			2	
	高電圧工学			2	
	応用情報工学			2	
	セミナー基礎			1	
	職業指導			2	卒業に必要な単位に参入しない
工業科教育法Ⅰ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「工業」の免許状取得希望者のみ履修可	
工業科教育法Ⅱ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「工業」の免許状取得希望者のみ履修可	

教育課程表

(理工学部 物質生命科学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
Ⅱ類 (共通専門基礎科目)	基礎数学		3	☆
	微分積分/演習		3	
	微分積分/演習A		3	
	微分積分/演習B		3	
	応用数学		2	
	微分方程式		2	
	線形代数/演習		3	
	ベクトル解析		2	
	理工系教養の数学		2	
	物理学2		2	
	コンピュータ入門	1		
	プログラミング入門		1	
	コンピュータ構成概論		2	
	データサイエンス概論		2	
	プログラミング応用		1	
	科学実験1		1	
	科学実験2		1	
	環境化学		2	
	工業材料とその性質		2	
	環境と新エネルギー		2	
品質工学入門		2		
財務システム入門		2		

☆は自由科目扱いとする(卒業要件単位数に算入しない)

教育課程表

(理工学部 物質生命科学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考	
		必修	選択		
Ⅲ類 (学科専門科目)	物質生命科学概論	2			
	基礎生物学	2			
	基礎化学	2			
	基礎物理学	2			
	基礎生化学	2			
	基礎分析化学	2			
	基礎無機化学	2			
	基礎有機化学	2			
	基礎物理化学	2			
	機器分析化学	2			
	有機化学	2			
	無機化学	2			
	物理化学	2			
	物質生命科学実験	3			
	生化学	2			
	有機合成化学	2			
	高分子化学	2			
	力・運動・エネルギー	2			
	電気と磁気	2			
	理工学基礎実験	2			
	環境分析化学実験	2			
	セミナー	1			
	卒業研究	4			
	細胞生物学			2	
	遺伝子工学			2	
	微生物学			2	
	環境微生物学			2	
	食品栄養機能学			2	
	食品分析学			2	
	食品醸造加工学			2	
	食品衛生学			2	
	生物工学			2	
	生命化学実験1			3	
	生命化学実験2			3	
	材料科学			2	
	量子力学			2	
	物性論1			2	
	応用熱力学			2	
	物性論2			2	
	環境・エネルギー材料			2	
	熱統計力学			2	
	環境新素材化学実験1			3	
	環境新素材化学実験2			3	
	バイオマテリアル			2	
	化学工学			2	
	資源環境工学			2	
	量子化学			2	
コンピュータ科学			2		
生物有機化学			2		
有機反応演習			2		
理科教育法Ⅰ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「理科」の免許状取得希望者のみ履修可	
理科教育法Ⅱ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「理科」の免許状取得希望者のみ履修可	

教育課程表

(理工学部 建築学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
Ⅱ類 (共通専門基礎科目)	基礎数学		3	☆
	微分積分/演習		3	
	微分積分/演習A		3	
	微分積分/演習B		3	
	応用数学		2	
	微分方程式		2	
	線形代数/演習		3	
	ベクトル解析		2	
	理工系教養の数学		2	
	物理学1		2	
	物理学2		2	
	化学		2	
	生物学		2	
	コンピュータ入門	1		
	プログラミング入門		1	
	コンピュータ構成概論		2	
	データサイエンス概論		2	
	プログラミング応用		1	
	科学実験1		1	
	科学実験2		1	
	環境化学		2	
	工業材料とその性質		2	
	環境と新エネルギー		2	
	品質工学入門		2	
	財務システム入門		2	

☆は自由科目扱いとする(卒業要件単位数に算入しない)

教育課程表

(理工学部 建築学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考	
		必修	選択		
Ⅲ類 (学科専門科目)	図学	2			
	建築概論	2			
	建築設計・基礎	3			
	構造力学・演習1	3			
	建築セミナー	1			
	建築設計・A1	3			
	近代建築史	2			
	建築環境概論	2			
	構造力学2	2			
	鉄筋コンクリート構造	2			
	建築材料1	2			
	建築設計・A2	3			
	建築計画1	2			
	住宅設備・環境	2			
	建築施工	2			
	セミナー1	1			
	セミナー2	1			
	卒業研究1	2			
	セミナー3	1			
	卒業研究2			2	
	卒業設計			2	
	材料実験			2	
	構造実験			2	
	建築環境実験			2	
	デッサン			2	
	建築環境・エネルギー論			2	
	地球環境論			2	
	建築環境計画			2	
	構造力学3			2	
	建築材料2			2	
	建築CAD1			2	
	日本建築史			2	
	建築法規			2	
	土質・基礎構造			2	
	建築CAD2			2	
	建築計画2	2			
	建築設計・B1			3	
	建築設計・B2			3	
	都市計画			2	
	建築環境工学			2	
	建築設備工学			2	
	建築構法			2	
	鉄骨構造			2	
	木質構造			2	
	建築生産			2	
	西洋建築史			2	
	空間論			2	
	応用建築設備工学			2	
	応用建築環境工学			2	
	耐震設計			2	
	建築関連法規			2	
	インテリアデザイン			2	
	静岡の地域特性と建築			2	
	ランドスケープデザイン論			2	
	建築生産実践研究			2	
	材料力学			2	
	職業指導			2	卒業に必要な単位に参入しない
工業科教育法Ⅰ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「工業」の免許状取得希望者のみ履修可	
工業科教育法Ⅱ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「工業」の免許状取得希望者のみ履修可	

教育課程表

(理工学部 土木工学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
Ⅱ類 (共通専門基礎科目)	基礎数学		3	☆
	微分積分/演習		3	
	微分積分/演習A		3	
	微分積分/演習B		3	
	応用数学		2	
	微分方程式		2	
	線形代数/演習		3	
	ベクトル解析		2	
	理工系教養の数学		2	
	物理学1		2	
	物理学2		2	
	化学		2	
	生物学		2	
	コンピュータ入門	1		
	プログラミング入門		1	
	コンピュータ構成概論		2	
	データサイエンス概論		2	
	プログラミング応用		1	
	科学実験1		1	
	科学実験2		1	
	環境化学		2	
	工業材料とその性質		2	
	環境と新エネルギー		2	
	品質工学入門		2	
	財務システム入門		2	

☆は自由科目扱いとする(卒業要件単位数に算入しない)

教育課程表

(理工学部 土木工学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
Ⅲ類 (学科専門科目)	土木工学概論	2		
	土木工学数理演習	2		
	測量学	2		
	測量実習	1		
	土木工学実験1	2		
	土木工学実験2	2		
	卒業研究1	2		
	卒業研究2	2		
	地球災害プロジェクト	2		
	減災社会デザインプロジェクト	2		
	静岡防災まちづくりプロジェクト	2		
	建設材料工学	2		
	コンクリート構造	2		
	土質力学	2		
	土質力学演習	2		
	水理学	2		
	水理学演習	2		
	構造力学	2		
	構造力学演習	2		
	土木計画学	2		
	土木計画学演習	2		
	インフラネットワーク		2	
	維持管理工学		2	
	耐震工学		2	
	地盤工学		2	
	土地質学		2	
	流体理論		2	
	海岸工学		2	
	災害メカニズム		2	
	構造デザイン		2	
	インフラマネジメント論		2	
モビリティデザイン		2		
運輸施設工学		2		
環境工学		2		
環境保全工学		2		

教育課程表

(情報学部 コンピュータシステム学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
Ⅱ類 (共通専門基礎科目)	基礎数学		3	
	微分積分/演習		3	
	微分積分/演習A		3	
	微分積分/演習B		3	
	応用数学		2	
	微分方程式		2	
	線形代数/演習		3	
	ベクトル解析		2	
	理工系教養の数学		2	
	物理学1		2	
	物理学2		2	
	化学		2	
	生物学		2	
	コンピュータ入門	1		
	コンピュータ構成概論	2		
	データサイエンス概論		2	
	科学実験1		1	
	科学実験2		1	
	品質工学入門		2	
	財務システム入門		2	

教育課程表

(情報学部 コンピュータシステム学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考	
		必修	選択		
Ⅲ類 (学科専門科目)	情報学概論	2			
	情報数学基礎	2			
	プログラミング概論	2			
	プログラミング演習	1			
	計算機ハードウェアC	2			
	計算機アーキテクチャC	2			
	卒業研究	4			
	特別プログラム1			4	
	特別プログラム2			4	
	データサイエンス演習1			4	
	データサイエンス演習2			4	
	プログラミング実践演習1			2	
	プログラミング実践演習2			2	
	コンピュータシステム実践演習1			4	
	コンピュータシステム実践演習2			4	
	実践ベンチャービジネス1			10	
	実践ベンチャービジネス2			10	
	データサイエンス実践演習1			10	
	データサイエンス実践演習2			10	
	マークアップ言語			2	
	実用プログラミング1			2	
	実用プログラミング2			2	
	マクロ言語入門			2	
	Webプログラミング			2	
	データベース応用			2	
	コンテンツデザイン概説			2	
	認知・生命科学への誘い			2	
	ヴィジュアルデザイン入門			2	
	3次元デジタル技術			2	
	映像概説			2	
	インタラクションデザイン1			2	
	基礎経営学			2	
	基礎心理学			2	
	人工知能入門			2	
	インタラクションデザイン2			2	
	グラフィックデザイン			2	
	プログラミング基礎			2	
	オペレーションズ・リサーチC			2	
	データベース基礎C			2	
	情報セキュリティC			2	
	コンピュータネットワークC			2	
	応用線形代数			2	
	幾何学			2	
	多変量解析			2	
	情報数学1			2	
	情報数学2			2	
	関数論			2	
	代数学			2	
	統計解析			2	
	符号・暗号理論1			2	
	符号・暗号理論2			2	
	数値解析1			2	
	数値解析2			2	
OS(UNIX)			2		
アルゴリズムとデータ構造1			2		
アルゴリズムとデータ構造2			2		
パターン情報処理			2		
コンパイラ			2		
データサイエンス入門			2		
情報と職業			2	卒業に必要な単位に参入しない	
情報科教育法Ⅰ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「情報」の免許状取得希望者のみ履修可	
情報科教育法Ⅱ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「情報」の免許状取得希望者のみ履修可	
数学科教育法Ⅰ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「数学」の免許状取得希望者のみ履修可	
数学科教育法Ⅱ			2	卒業に必要な単位に参入しない 「数学」の免許状取得希望者のみ履修可	

教育課程表

(情報学部 情報デザイン学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
Ⅱ類 (共通専門基礎科目)	基礎数学		3	
	微分積分/演習		3	
	微分積分/演習A		3	
	微分積分/演習B		3	
	応用数学		2	
	微分方程式		2	
	線形代数/演習		3	
	ベクトル解析		2	
	理工系教養の数学		2	
	物理学1		2	
	物理学2		2	
	化学		2	
	生物学		2	
	コンピュータ入門	1		
	コンピュータ構成概論	2		
	データサイエンス概論		2	
	科学実験1		1	
	科学実験2		1	
	品質工学入門		2	
	財務システム入門		2	

教育課程表

(情報学部 情報デザイン学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考	
		必修	選択		
Ⅲ類 (学科専門科目)	情報学概論	2			
	情報数学基礎	2			
	プログラミング概論	2			
	プログラミング演習	1			
	コンピュータアーキテクチャ	2			
	卒業研究	4			
	特別プログラム1			4	
	特別プログラム2			4	
	プログラミング実践演習1			2	
	情報デザイン実践演習1			4	
	情報デザイン実践演習2	4			
	実践ベンチャービジネス1			10	
	実践ベンチャービジネス2			10	
	マークアップ言語			2	
	マクロ言語入門			2	
	Webプログラミング			2	
	データベース応用			2	
	グラフィックデザイン			2	
	オペレーションズ・リサーチD			2	
	データベース基礎D			2	
	情報セキュリティD			2	
	コンピュータネットワークD			2	
	社会調査法			2	
	経営工学概論			2	
	経営情報システム			2	
	産業・社会心理学			2	
	マーケティング			2	
	コンテンツデザイン概説			2	
	認知・生命科学への誘い			2	
	3次元デジタル技術			2	
	ヴィジュアルデザイン入門			2	
	ヴィジュアルデザイン			2	
	映像概説			2	
	映像制作			2	
	インタラクションデザイン1			2	
	インタラクションデザイン2			2	
	基礎心理学			2	
	人間・生命情報の統計学基礎			2	
	人工知能入門			2	
	運動の科学			2	
	人間・生命情報の統計学応用			2	
	マスコミ論			2	
	応用言語学			2	
	基礎経営学			2	
	言語情報論			2	
	心理評価法			2	
	3次元デジタル技術			2	
コンピュータミュージック			2		
遺伝子とバイオインフォマティクス			2		
感覚生理			2		
感性認知心理学			2		
脳と情報			2		
オペレーションズマネジメント			2		

教育課程表

【教育の基礎的理解に関する科目】

【道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目】

【教育実践に関する科目】

【大学が独自に設定する科目】

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論－教職入門－		2	
	教育原理		2	
	教育心理学		2	
	教育と社会		2	
	教育課程論		2	
	特別支援教育概論		1	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	特別活動・総合的な学習の時間の指導法		2	
	教育方法・技術論		2	
	生徒・進路指導論		2	
	教育相談		2	
教育実践に関する科目	教職実践演習(高等学校)		2	
	事前及び事後の指導		1	
	教育実習		2	
大学が独自に設定する科目	教職総合演習Ⅰ		1	
	教職総合演習Ⅱ		1	

(注) 上記の表に記載される科目は、卒業に必要な単位に算入しない。

別表 2-1

納付金の種類	金額 (円)
入学金	300,000
(^{*1} 高・大一貫)	(^{*1} 0)
(^{*2} 法人内高校生)	(^{*2} 150,000)
(^{*3} 法人内専門学校編入生)	(^{*3} 0)
(^{*4} 浙江省推薦学生)	(^{*4} 100,000)
(^{*5} 法人内日本語学院推薦学生)	(^{*5} 0)
(^{*6} 再入学生)	(^{*6} 0)
授業料	
1年次	1,240,000
2年次	1,250,000
3年次	1,260,000
4年次	1,270,000

- この表は平成27年度以降の入学生において、各年次において定めた授業料を適用する。
- 編入学、再入学する学生の授業料は、当該学生が入学する年次の授業料を適用する。
- (^{*1} 高・大一貫)は、本法人が設置する高等学校の高・大一貫コースを卒業した者に適用する。
- (^{*2} 法人内高校生)は、本法人が設置する高等学校を卒業した者(高・大一貫コースを卒業した者を除く)に適用する。
- (^{*3} 法人内専門学校編入生)は、法人内専門学校及び専門学校静岡工科自動車大学校を卒業した者に適用する。
- (^{*4} 浙江省推薦学生)は、浙江省教育国際交流協会から推薦された者に適用する。
- (^{*5} 法人内日本語学院推薦学生)は、本法人が設置する日本語学院から推薦された者に適用する。
- (^{*6} 再入学生)は、再入学する学生に適用する。

別表 2-2

納付金の種類	金額 (円)
授業料	1,225,000

この表は平成12年度から26年度に入学し、現に在学している者に適用する。

別表 3

受験区分	金額 (円)	
	1回目	2回目以降
学部入学生	30,000	5,000
(^{*8} 法人内高校生)	(^{*1} 0)	(^{*1} 0)
大学入試センターの試験を利用する入学試験を志願する者	20,000	0
(^{*8} 法人内高校生)	(^{*1} 0)	(^{*1} 0)
編入学生・転入学生	30,000	—
(^{*2} 法人内専門学校編入生)	(^{*2} 0)	
再入学生	0	—
科目等履修生	15,000	—
(^{*1} 高・大一貫)	(^{*1} 0)	
(^{*3} 提携留学)	(^{*3} 0)	
(^{*4} 連携高校)	(^{*4} 0)	
(^{*7} 袋井市在住在勤者)	(^{*7} 0)	
聴講生	15,000	—
(^{*3} 提携留学)	(^{*3} 0)	
(^{*4} 連携高校)	(^{*4} 0)	
(^{*7} 袋井市在住在勤者)	(^{*7} 0)	
研究生	15,000	—
(本学卒業生及び在学学生)	(0)	
委託研究生	30,000	—
外国人留学生	30,000	—
(^{*5} 浙江省推薦学生)	(^{*5} 15,000)	
(^{*6} 法人内日本語学院推薦学生)	(^{*6} 0)	

- (^{*1} 高・大一貫)は、本法人が設置する高等学校の高・大一貫コースに在籍する者又は卒業した者で入学試験を志願する者に適用する。
- (^{*2} 法人内専門学校編入生)は、「法人内専門学校編入学試験」を志願する者及び専門学校静岡工科自動車大学校に対する「指定校編入学試験」を志願する者に適用する。
- (^{*3} 提携留学)は、本学と交換留学に関する覚書を締結した海外の大学から派遣された者に適用する。
- (^{*4} 連携高校)は、本学と高大連携に関して協定等を締結している高等学校に在籍し、かつ、推薦された高校生に適用する。
- (^{*5} 浙江省推薦学生)は、浙江省教育国際交流協会から推薦された者に適用する。
- (^{*6} 法人内日本語学院推薦学生)は、本法人が設置する日本語学院から推薦された者に適用する。
- (^{*7} 袋井市在住在勤者)は、袋井市に在住又は在勤の者に適用する。
- (^{*8} 法人内高校生)は、本法人が設置する高等学校に在籍する者又は卒業した者で入学試験を志願する者に適用する。学則-41

静岡理工科大学学則の変更事項を記載した書類

1 改正理由

令和4年4月での理工学部土木工学科の設置（届出による設置）及び入学定員と収容定員の増員変更（認可申請）に伴い、学則の一部改正を行う。

2 改正内容

（1）理工学部土木工学科の設置

- ①理工学部に入学生員50名の土木工学科を置く。
- ②土木工学科の学士の学位を「学士（工学）」とする。
- ③土木工学科のⅠ類、Ⅱ類及びⅢ類科目の最低履修単位数と卒業単位数（124単位）を定める。

（2）収容定員の改正

- ①土木工学科の入学生員を50名、収容定員200名とする。
※完成年次での大学（学部）の収容定員は、1,680名となる。

（3）カリキュラムの改正等

- ①別表1-1において土木工学科に関するカリキュラム（Ⅱ類、Ⅲ類）を追加する。

3 改正時期

令和4（2022）年4月1日より施行する。

静岡理工科大学学則 変更条項新旧対照表

《新条項》	《旧条項》																																																																							
<p style="text-align: center;"><u>令和 年 月 日 改正</u></p> <p>(学部、学科及び収容定員) 第4条 本学に次の学部を置く。 理工学部 情報学部</p> <p>2 各学部に置く学科、入学定員及び収容定員は次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学 科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6" style="text-align: center;">理工学部</td> <td>機械工学科</td> <td style="text-align: center;">75名</td> <td style="text-align: center;">300名</td> </tr> <tr> <td>電気電子工学科</td> <td style="text-align: center;">60名</td> <td style="text-align: center;">240名</td> </tr> <tr> <td>物質生命科学科</td> <td style="text-align: center;">55名</td> <td style="text-align: center;">220名</td> </tr> <tr> <td>建築学科</td> <td style="text-align: center;">50名</td> <td style="text-align: center;">200名</td> </tr> <tr> <td><u>土木工学科</u></td> <td style="text-align: center;"><u>50名</u></td> <td style="text-align: center;"><u>200名</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;"><u>290名</u></td> <td style="text-align: center;"><u>1,160名</u></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">情報学部</td> <td>コンピュータシステム 学科</td> <td style="text-align: center;">60名</td> <td style="text-align: center;">240名</td> </tr> <tr> <td>情報デザイン学科</td> <td style="text-align: center;">70名</td> <td style="text-align: center;">280名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">130名</td> <td style="text-align: center;">520名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: center;"><u>420名</u></td> <td style="text-align: center;"><u>1,680名</u></td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 20px;">(授業科目の種類、単位数) 第25条 I類(人間・文化科目)、II類(共通専門基礎科目)、III類(学科専門科目)の授業科目及び単位数は、<u>別表1-1</u>に定めるところによる。</p>	学部	学 科	入学定員	収容定員	理工学部	機械工学科	75名	300名	電気電子工学科	60名	240名	物質生命科学科	55名	220名	建築学科	50名	200名	<u>土木工学科</u>	<u>50名</u>	<u>200名</u>	計	<u>290名</u>	<u>1,160名</u>	情報学部	コンピュータシステム 学科	60名	240名	情報デザイン学科	70名	280名	計	130名	520名	合 計		<u>420名</u>	<u>1,680名</u>	<p>(学部、学科及び収容定員) 第4条 本学に次の学部を置く。 理工学部 情報学部</p> <p>2 各学部に置く学科、入学定員及び収容定員は次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学 科</th> <th>入学定員</th> <th>収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6" style="text-align: center;">理工学部</td> <td>機械工学科</td> <td style="text-align: center;">75名</td> <td style="text-align: center;">300名</td> </tr> <tr> <td>電気電子工学科</td> <td style="text-align: center;">60名</td> <td style="text-align: center;">240名</td> </tr> <tr> <td>物質生命科学科</td> <td style="text-align: center;">55名</td> <td style="text-align: center;">220名</td> </tr> <tr> <td>建築学科</td> <td style="text-align: center;">50名</td> <td style="text-align: center;">200名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;"><u>240名</u></td> <td style="text-align: center;"><u>960名</u></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">情報学部</td> <td>コンピュータシステム 学科</td> <td style="text-align: center;">60名</td> <td style="text-align: center;">240名</td> </tr> <tr> <td>情報デザイン学科</td> <td style="text-align: center;">70名</td> <td style="text-align: center;">280名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">130名</td> <td style="text-align: center;">520名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: center;"><u>370名</u></td> <td style="text-align: center;"><u>1,480名</u></td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 20px;">(授業科目の種類、単位数) 第25条 I類(人間・文化科目)、II類(共通専門基礎科目)、III類(学科専門科目)の授業科目及び単位数は、<u>別表1-1</u>に定めるところによる。</p>	学部	学 科	入学定員	収容定員	理工学部	機械工学科	75名	300名	電気電子工学科	60名	240名	物質生命科学科	55名	220名	建築学科	50名	200名	計	<u>240名</u>	<u>960名</u>	情報学部	コンピュータシステム 学科	60名	240名	情報デザイン学科	70名	280名	計	130名	520名	合 計		<u>370名</u>	<u>1,480名</u>
学部	学 科	入学定員	収容定員																																																																					
理工学部	機械工学科	75名	300名																																																																					
	電気電子工学科	60名	240名																																																																					
	物質生命科学科	55名	220名																																																																					
	建築学科	50名	200名																																																																					
	<u>土木工学科</u>	<u>50名</u>	<u>200名</u>																																																																					
	計	<u>290名</u>	<u>1,160名</u>																																																																					
情報学部	コンピュータシステム 学科	60名	240名																																																																					
	情報デザイン学科	70名	280名																																																																					
	計	130名	520名																																																																					
合 計		<u>420名</u>	<u>1,680名</u>																																																																					
学部	学 科	入学定員	収容定員																																																																					
理工学部	機械工学科	75名	300名																																																																					
	電気電子工学科	60名	240名																																																																					
	物質生命科学科	55名	220名																																																																					
	建築学科	50名	200名																																																																					
	計	<u>240名</u>	<u>960名</u>																																																																					
	情報学部	コンピュータシステム 学科	60名	240名																																																																				
情報デザイン学科		70名	280名																																																																					
計		130名	520名																																																																					
合 計		<u>370名</u>	<u>1,480名</u>																																																																					

(履修方法)

第26条 学生は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類の授業科目を履修し、各類の合計124単位以上を修得しなければならない。ただし、各類の最低履修単位数は次のとおりとする。

学 部	学 科	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類
理工学部	機械工学科	29 単位	24 単位	61 単位
	電気電子工学科	23 単位	18 単位	52 単位
	物質生命科学科	23 単位	12 単位	64 単位
	建築学科	23 単位	12 単位	69 単位
	<u>土木工学科</u>	<u>23 単位</u>	<u>12 単位</u>	<u>59 単位</u>
情報学部	コンピュータシステム学 科	27 単位	18 単位	65 単位
	情報デザイン学科	27 単位	16 単位	65 単位

2 前項に規定する各授業科目の履修方法は、別に定める。

(学位の授与)

第33条 卒業生には、次の区別に従い、学士の学位を授与する。

理工学部	機械工学科	学士（工学）
	電気電子工学科	学士（工学）
	物質生命科学科	学士（理学）
	建築学科	学士（工学）
	<u>土木工学科</u>	<u>学士（工学）</u>
情報学部	コンピュータシステム学 科	学士（情報学）
	情報デザイン学科	学士（情報学）

(履修方法)

第26条 学生は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類の授業科目を履修し、各類の合計124単位以上を修得しなければならない。ただし、各類の最低履修単位数は次のとおりとする。

学 部	学 科	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類
理工学部	機械工学科	29 単位	24 単位	61 単位
	電気電子工学科	23 単位	18 単位	52 単位
	物質生命科学科	23 単位	12 単位	64 単位
	建築学科	23 単位	12 単位	69 単位
情報学部	コンピュータシステム学 科	27 単位	18 単位	65 単位
	情報デザイン学科	27 単位	16 単位	65 単位

2 前項に規定する各授業科目の履修方法は、別に定める。

(学位の授与)

第33条 卒業生には、次の区別に従い、学士の学位を授与する。

理工学部	機械工学科	学士（工学）
	電気電子工学科	学士（工学）
	物質生命科学科	学士（理学）
	建築学科	学士（工学）
情報学部	コンピュータシステム学 科	学士（情報学）
	情報デザイン学科	学士（情報学）

附 則

- 1 この学則は、令和4年 4月 1日から施行する。
- 2 改正後の第25条の別表1-1、第26条第1項及び第33条の規定は、令和4年度入学生から適用し、令和3年度以前の入学生は、なお、従前の規定によるものとする。
- 3 改正後の第4条第2項の規定にかかわらず、令和4年4月1日から令和7年3月31日までの間においては、入学定員及び収容定員を次のとおりとする。

学部	学 科	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
理工学部	機械工学科	75名	300名	75名	300名	75名	300名
	電気電子工学科	60名	245名	60名	240名	60名	240名
	物質生命科学科	55名	225名	55名	220名	55名	220名
	建築学科	50名	200名	50名	200名	50名	200名
	土木工学科	50名	50名	50名	100名	50名	150名
	計	290名	1,020名	290名	1,060名	290名	1,110名
情報学部	コンピュータシステム学	60名	230名	60名	240名	60名	240名
	情報デザイン学	70名	280名	70名	280名	70名	280名
	計	130名	510名	130名	520名	130名	520名
合 計		420名	1,530名	420名	1,580名	420名	1,630名

《新》

《旧》

別表1-1

教育課程表

(理工学部 土木工学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
Ⅱ類 (共通専門基礎科目)	基礎数学		3	☆
	微分積分/演習		3	
	微分積分/演習A		3	
	微分積分/演習B		3	
	応用数学		2	
	微分方程式		2	
	線形代数/演習		3	
	ベクトル解析		2	
	理工系教養の数学		2	
	物理学1		2	
	物理学2		2	
	化学		2	
	生物学		2	
	コンピュータ入門	1		
	プログラミング入門		1	
	コンピュータ構成概論		2	
	データサイエンス概論		2	
	プログラミング応用		1	
	科学実験1		1	
	科学実験2		1	
	環境化学		2	
	工業材料とその性質		2	
	環境と新エネルギー		2	
	品質工学入門		2	
	財務システム入門		2	

☆は自由科目扱いとする(卒業要件単位数に算入しない)

《新》

《旧》

別表1-1

教育課程表

(理工学部 土木工学科)

科目の分類	授業科目の名称	単位数		備考
		必修	選択	
Ⅲ類 (学科専門科目)	土木工学概論	2		
	土木工学数理演習	2		
	測量学	2		
	測量実習	1		
	土木工学実験1	2		
	土木工学実験2	2		
	卒業研究1	2		
	卒業研究2	2		
	地球災害プロジェクト	2		
	減災社会デザインプロジェクト	2		
	静岡防災まちづくりプロジェクト	2		
	建設材料工学	2		
	コンクリート構造	2		
	土質力学	2		
	土質力学演習	2		
	水理学	2		
	水理学演習	2		
	構造力学	2		
	構造力学演習	2		
	土木計画学	2		
	土木計画学演習	2		
	インフラネットワーク		2	
	維持管理工学		2	
	耐震工学		2	
	地盤工学		2	
	土木地質学		2	
	流体理論		2	
	海岸工学		2	
	災害メカニズム		2	
	構造デザイン		2	
	インフラマネジメント論		2	
	モビリティデザイン		2	
	運輸施設工学		2	
環境工学		2		
環境保全工学		2		

静岡理工科大学教授会規程

平成 3年	4月	1日	制定
平成 8年	2月	6日	改正
平成12年	2月	14日	改正
平成19年	9月	27日	改正
平成20年	2月	21日	改正
平成27年	3月	5日	改正
平成29年	3月	9日	改正

(目 的)

第1条 静岡理工科大学学則（以下「学則」という。）第46条第5項に基づき教授会の運営に必要な事項を定める。

(学部教授会)

第1条の2 理工学部及び情報学部による全学教授会（以下「教授会」という。）の他に各学部には学部教授会を置く。学部教授会の運営に関し必要な事項は別に定める。

(組 織)

第2条 教授会は、学則第46条第1項に規定する教員をもって構成する。

- 2 引続き3ヵ月以上教授会に出席できない者は、教授会の議を経て、その期間教授会の構成員の員数から除外することができる。
- 3 学長が必要と認めるときは、前各項の規定にかかわらず、その他の者を出席させることができる。

(審議事項)

第3条 教授会は、学則第46条の規定に基づき、次の各号に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
- 2 学長は、前項第3号の規定に基づく学長が定める事項を決定するにあたっては、あらかじめ教授会の意見を聴くものとする。
 - 3 学長は、前項に基づき教授会の意見を聴くことが必要であると定めた場合は、教授会に報告するとともに文書をもって提示する。

4 教授会は、本条第1項に掲げるもののほか、学長の求めに応じて教育研究に関する事項について審議し、学長に意見を述べることができる。

(会 議)

第4条 教授会は、学長がこれを招集し、学長がその議長となる。

ただし、予め学長の指名した者が議長となり、その職務を代行することができる。

2 教授会は、月1回開催することを原則とする。

3 学長は、構成員の3分の1以上の者から教授会開催の要求があった場合は、会議を招集しなければならない。

4 教授会は、構成員の過半数の出席がなければ開くことができない。

5 教授会の議決は、出席者の過半数の同意によらなければならない。但し、可否同数の場合は、議長が決するところによる。

(専任教授による審議)

第5条 第3条に基づく教授会の審議事項のうち、特に学長が指定した事項については専任教授で審議し、学長が決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

(事 務)

第6条 教授会の事務は、事務局総務部総務課が処理する。

附 則

この規程は、平成 3年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 8年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年10月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年 4月 1日から施行する。

静岡理工科大学学部教授会規程

平成20年 2月21日 制定

平成27年 3月 5日 改正

平成29年 3月 9日 改正

(目 的)

第1条 静岡理工科大学学則（以下「学則」という。）第46条第5項並びに静岡理工科大学教授会規程第1条の2に基づき学部教授会の運営に必要な事項を定める。

(組 織)

第2条 学部教授会は、理工学部又は情報学部に属し学則第46条第1項に規定する者をもって構成する。

2 引続き3ヵ月以上学部教授会に出席できない者は、学部教授会の議を経て、その期間学部教授会の構成員の員数から除外することができる。

3 学部長が必要と認めるときは、前各項の規定にかかわらず、その他の者を出席させることができる。

(審議事項)

第3条 学部教授会は、静岡理工科大学教授会規程第3条の審議事項を除く学部固有の事項を審議し、学長の求めに応じて、学長に対して意見を述べることができる。

(会 議)

第4条 学部教授会は、学部長がこれを招集し、学部長がその議長となる。

2 止むを得ない事由のため、学部長が欠席する場合は、予め学部長の指名した者が議長となり、その職務を代行する。

3 学部教授会は、必要に応じ開催する。

4 学部長は、構成員の3分の1以上の者から学部教授会開催の要求があった場合は、会議を招集しなければならない。

5 学部教授会は、構成員の過半数の出席がなければ開くことができない。

6 学部教授会の議決は、出席者の過半数の同意によらなければならない。但し、可否同数の場合は、議長が決するところによる。

(事 務)

第5条 学部教授会の事務は、事務局総務部総務課が処理する。

附 則

この規程は、平成20年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年 4月 1日から施行する。

設置の趣旨等

目次

1	設置の趣旨及び必要性	・・・p.2
2	学部・学科等の特色	・・・p.5
3	学部・学科等の名称及び学位の名称	・・・p.6
4	教育課程の編成の考え方及び特色	・・・p.6
5	教員組織の編成の考え方及び特色	・・・p.10
6	教育方法，履修指導方法及び卒業要件	・・・p.10
7	施設，設備等の整備計画	・・・p.12
8	取得可能な資格	・・・p.14
9	入学者選抜の概要	・・・p.14
10	企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	・・・p.16
11	管理運営	・・・p.17
12	自己点検・評価	・・・p.17
13	情報の公表	・・・p.17
14	教育内容等の改善を図るための組織的な取組	・・・p.19
15	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	・・・p.20

1 設置の趣旨及び必要性

(1) 学科（土木工学科）設置の理由及び必要性

① 本学の理念・使命

学校法人静岡理工科大学は、昭和15年5月に創設された本法人の母体である静岡県自動車学校の創設以来、「技術者の育成をもって地域社会に貢献する。」を建学の精神とし、地域産業の発展に貢献できる技術者を育成してきたが、この学園の建学の精神をより一層具現化すべく、平成3年4月、静岡県袋井市に静岡理工科大学を開学した。

本学が位置する静岡県西部地域は、明治時代から工業地域として発展し、世界をリードする複数の有力企業を生み、現在においても、それらの有力企業を中心として技術集積と産業集積のある我が国固有数の工業地域であることから、本学園の建学の精神を具現化し、次代を担う技術者の育成に適した環境にある。

本学は、学園の建学の精神に基づき、「静岡理工科大学の理念」を次のように定め、地域の特性をさらに発展させることができる人材を育成している。

“豊かな人間性を基に、「やらまいか精神と創造性」で地域社会に貢献する技術者を育成する。”

(注)「やらまいか」とは遠州地域の方言で「一緒にやってみよう」という意味で、進取の気性に富み、チャレンジ精神が旺盛な遠州人の気質を表現している言葉である。

本学は、現在、2学部6学科で構成され、養成する人材像は、次の通りである。

学部学科構成

学部	学 科	入学定員	開設年月
理工学部	機械工学科	75名	平成3年4月
	電気電子工学科	60名	平成3年4月
	物質生命科学科	55名	平成3年4月
	建築学科	50名	平成29年4月
	理工学部計	240名	
情報学部	コンピュータシステム学科	60名	平成20年4月
	情報デザイン学科	70名	平成20年4月
	情報学部計	130名	
合 計		370名	

(a) 理工学部

豊かな人間性とものづくり・ことづくりに挑戦する力及び国際的視野を持ち、理工学分野（機械工学、電気電子工学、物質生命科学、建築学）における基礎・専門知識を身につけると共に、先進技術・技能を創造的に融合できる人材を養成する。

(ア) 機械工学科

機械工学を構成する各分野の基礎原理を確実に理解し、それを実際の技術に応用でき、社会からの要請の大きい実践的技術力を身につけ、「自ら考え、作り、楽しむ」積極的な技術者を養成する。

(イ) 電気電子工学科

電気、電子及び電磁気の基礎を確実に身につけ、これらの知識及び技術を活用して各種資格の取得及び主体的なものづくりを行い、社会的要請に応えられる能力を備えた技術者を養成する。

(ウ) 物質生命科学科

機能性材料、生体材料、遺伝子、食品などの基礎及び専門的な知識と分析技術を講義・実験・演習

を通して実践的に修得し、新物質・新素材、環境とエネルギー、バイオテクノロジー、食品化学について理解し、環境・生活・生命・安全に関わる諸問題の解決に貢献できる人材を養成する。

(エ) 建築学科

建築計画・意匠、建築構造、建築環境の分野における基礎及び専門的な知識を身につけ、これらを統合した知識を活用して、気候、風土や文化などを活かした都市・建築空間の創造に寄与することができる人材を養成する

(b) 情報学部

豊かな人間性ともものづくり・ことづくりに挑戦する力及び国際的視野を持ち、情報科学の専門知識と人間に対する理解をICT（情報コミュニケーション技術）に生かし、他者との協働を主体的に実践しつつ、システムやコンテンツを創造できる人材を養成する。

(ア) コンピュータシステム学科

情報数理とコンピュータに対する深い理解を基盤として、まわりの社会と協調しつつ主体的に問題解決を図り、情報技術の提供やシステム開発を通して情報化社会の発展に貢献できる人材を養成する。

(イ) 情報デザイン学科

人と社会に対する深い理解を基盤として、実際に人と社会に役立つICTの利活用を、実践の場で提案・対処・推進できる人材を養成する。

このように、本学は開学以来、主に工業分野の人材を中心として、地域社会に貢献する技術者養成を行ってきた大学である。近年では、平成29（2017）年度に、静岡県内の大学で唯一の建築学科を開設した。建設業は、静岡県も含めて慢性的な人材不足が続いており、人材の育成が急務となっている。特に土木工学分野の人材の育成は、担い手の不足という喫緊の課題を抱えており、今後の建設業への社会的ニーズを踏まえると、非常に重要となる。そのため、本学が、建築学科に続いて、県内唯一の総合的に土木工学を学修できる学科を設置することの意義は非常に大きいと考える。

今回、設置する理工学部「土木工学科」では、土木工学の専門知識および関連技術を修得するとともに、種々のプロジェクト推進を体験することにより、主体的に環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する観点から、地域社会の課題を発見し、他者と連携して課題解決に取り組む実践力を養う。ここから得られた広範な視野と能動的な行動力を礎として、社会基盤整備や防災・減災の発展に貢献できる人材を養成することを目的として設置する。

②学科（土木工学科）設置の背景

(a) 建設業のニーズ

建設業は、静岡県内の産業別規模では、「製造業」、「卸売業・小売業」及び「医療・福祉」につづいて、四番目の就業者数の規模がある重要な産業である。建設業の全国就業者数は、平成30（2018）年で約503万人（資料1）で、静岡県は約13万4千人（平成29（2017）年総務省統計局による就業構造基本調査（静岡県産業別就業者数）（資料2））となっている。今後、建設業は従来の社会基盤整備や維持管理が加速度的に増え（資料3）、さらに防災や環境対策、景観・地域計画、海外受注の増加（資料4）など、需要の増大が予想され、土木工学技術者の活躍する範囲は広がっていくとされている。

一方で、建設業は、高齢化の進行、若年入職者の確保育成が課題（資料5）と言われ、静岡県も「静岡県建設産業ビジョン2019」において、県内の建設産業は、高齢化が進む一方で、若年者等の入職者が少なく、慢性的な人材不足となっていると報告されている。（資料6）このことから、建設業の若年層の人材育成に対する具体的な取り組みは喫緊の課題であり、安定的な人材の育成を行うことへの期待は非常に大きいといえる。

(b) 社会的なニーズ

本学の位置する静岡県は、鉄道、港湾、空港を有し、東西を結ぶ交通の要所と言われる。また山間地域や東西に長い海岸線、大きな河川があり、さらに、南海トラフにつながる東海地震への備えの意識が非常に高い。静岡県では 2019 年度に「静岡県建設産業ビジョン」(資料 7)を改訂し、県内建設業を取り巻く環境変化や課題を整理すると共に、担い手の確保や、社会インフラの整備・維持管理、さらに地震や津波などの大規模災害に対し、地元企業と連携し、県内の防災・減災などを担う土木工学分野の人材の確保を重点課題とし、柱となる具体的な施策を打ち出した。

その一方で、静岡県内の大学には、土木工学を総合的に学修する学部・学科が設置されておらず、行政から安定的な人材育成に対する期待の高まりもあり、以上のことから設置に対する社会的意義は非常に大きいと言える。(資料 8)

(c) 高校生の進学ニーズ

大学の「土木建築工学」分野で学ぶ学生数は、工学分野では、「電気通信工学」、「機械工学」に次ぐ学生数の規模があり(資料 9)、静岡県内でも多くの進学者がいる。ところが、県内に在住する高校生は、「土木建築工学」分野で、とりわけ「土木」で大学進学を希望する場合、静岡県には総合的に土木工学を学修できる学科がないので、必ず他県の大学に進学する必要があり、下宿等に対する大きな経済的な負担もかかることから、静岡県内の高校からは、近隣に工学系の土木工学科の設置が望まれている。

このような背景のもと、土木工学分野における技術者を育成する土木工学科を設置する。新学科で養成する人材は、静岡県を中心として、企業や地域社会から大きなニーズがあることから、学科設置の意義及び必要性がある。

(2) 養成する人材像

①教育上の目的

本学の目的は、学則第 1 条に、次のように定めている。

「本学は、学校教育法及び教育基本法に基づき、科学・技術に関する学術を研究教授し、国際的視野と技術者としての使命感を持った向上心溢れる人材の育成、及び実践的創造的研究により社会に貢献することを目的とする。」

また、新設する土木工学科を置く理工学部の教育研究上の目的を次のように定めている。

「豊かな人間性と「やらまいか精神」及び国際的視野を持ち、理工学分野における基礎・専門知識を身につけ、ものづくりやシステムづくりにその技術及び技能を活用できる人材を養成することを目的とする。」

そして、新設する土木工学科の教育研究上の目的を次のように定めている。

「土木工学の専門知識および関連技術を修得するとともに、種々のプロジェクト推進を体験することにより、主体的に環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する観点から、地域社会の課題を発見し、他者と連携して課題解決に取り組む実践力を養う。ここから得られた広範な視野と能動的な行動力を礎として、社会基盤整備や防災・減災の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。」

このように大学の目的や、教育研究上の目的に基づいて養成される本学土木工学科の卒業生は、建設業界での土木施工管理技士や、技術系公務員、さらに鉄道業界や電力会社等のエンジニアなど、幅広い業界での活躍が見込まれる。

そのため、大学の目的や、教育研究上の目的を、より教育現場に即した形で具体化したディプロマ・ポリシーにおいて「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」の 5 つに大別して明文化し、各種の業界で活躍するための能力の育成を、卒業時に身に付ける能力や姿として定め育成する。ディプロマ・ポリシーに定める人材像に至るまでの在学中の教育方針をカリキュ

ラム・ポリシーとして定め、それに基づき構成された教育課程によって、体系的に学ぶこととなる。

②研究対象とする学問分野

土木工学の対象とする学問・研究分野は、社会を支える施設や自然環境の安全性や快適さを追究し、社会を支える施設の建設・維持管理と、自然環境の維持を工学的に追究する学問である。土木工学科で研究の対象とする主な学問分野は、次のものがある。

・土木材料学分野

コンクリート、鉄鋼、高分子材料などの土木材料を対象に、材料特性を理解したうえで、材料選定、設計、製造、施工、維持管理などを研究する。

・地盤工学分野

地域の地盤の成り立ちや性質を理解し、特徴を知ること、土木構造物の設計や維持・管理への活用や自然災害に対する対策などを研究する。

・水工学分野

生活の必須ライフラインとして水を管理する「利水」と、津波や河川の氾濫として毎年のように襲来する水害から暮らしを守る「治水」、さらに日常生活に豊かさを与える「環境」の3要素について研究する。

・土木構造学分野

橋梁やトンネルをはじめ、コンクリートや鋼を使用した構造物に生じる力や変形の評価・設計、カーボンなどの新材料を使用した新構造の開発、既存構造物の長寿命化のための補修や補強など研究する。

・都市環境学分野

人や物の安全かつ円滑な移動を実現する交通計画、環境に配慮しながら人々の生活の質を高める都市・地域計画（スマートシティ）、社会基礎基盤整備計画から維持管理の効率化を図るインフラマネジメントなどを研究する。。

2 学部・学科等の特色

(1) 理工学部の特徴

設置の趣旨及び必要性の項で述べたように、本学が位置する静岡県西部地域は、全国でも有数な工業地帯として、世界をリードする技術力を持った企業が多い。新設する土木工学科を置く理工学部は、主として「もの作り」を支える機械分野、電気分野及び化学分野の技術者を育成し、地域の企業で中核となって活躍できる技術者を輩出してきた。このような地域性から、企業からは、実践的な教育内容や、創造性が求められており、学部の特色として、工学的な理論に加えて、実験や実習など能動的な内容を少人数のグループで取り組む教育を実践している。なお、現行の理工学部のディプロマポリシーは、次の通りである。

知識・理解：理工学（機械工学、電気電子工学、物質生命科学、建築工学）の一分野についての基礎・専門知識を持ち、技術および技能をものづくりやことづくりに活用できる。

思考・判断：社会の多様化、国際化、複雑化する課題に対して探求心を持ちつつ、論理的、創造的な思考ができる。

関心・意欲：「ものづくり」、「ことづくり」に挑戦する力のもとで自主的、主体的、実践的に行動することができる。

態度：教養・専門知識を修得するため計画的、継続的、自律的に学習をする向上心を持つことができる。

技能・表現：発信力（コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力）と傾聴力を習得し、自らの思考・判断のプロセスを説明することができる。

(2) 土木工学科の特色

今回、新設する土木工学科は、土木工学分野を専門に学ぶことができる学科として、県内の他大学には設置されていない。南海トラフ巨大地震、台風などによる河川の洪水、崖崩れなどに対する災害に強いインフラ整備による防災・減災、橋梁や道路などの社会基盤の維持管理など、静岡県は、地震や津波に対する防災意識が非常に高い地域であり、社会基盤整備や、防災や減災に対応する十分な知識と技術が求められていることから、これらについて学修する。加えて、土木工学の専門知識と関連技術をいかして地域社会の課題を発見し、他者と連携して課題解決に取り組む実践力を養う。広範な視野と能動的な行動力を礎として、社会基盤整備や防災・減災の発展に貢献できる人材を養成する土木工学科では、このような広範におよぶ土木工学の様々な要素を、基礎から順序立て、統合して学修する。

土木工学科のディプロマ・ポリシーは、具体的内容は次の通りである。

- 知識・理解 : 人文・社会分野を含む多様な知識とそれらの有機的なつながりを理解し、また、数学・自然科学および情報技術に関する知識、土木工学および防災工学分野における専門知識を持ち、実践の場でそれらを活かすことができる。
- 思考・判断 : 教養・専門知識をもとに多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、さらにそれらを応用して自らの思考で判断することができる。また、与えられた制約の下で論理的な思考・判断のもと計画的に仕事を進めることができる。
- 関心・意欲 : 主体的且つ継続的に地域社会に関心を持ち、課題を発見し、土木工学および防災工学分野の科学、技術および情報を活用して、地域社会の課題を解決するための計画的な調査・分析及び解決策の立案ができる。
- 態度 : 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関して理解している。また、自らが社会の一員であることを自覚するとともに、他者との協働の重要性を認識し、そのための基礎的素養としての倫理観・協調性を身に付け、課題解決遂行に向けて取り組むことができる。
- 技能・表現 : 論理的な記述力、プレゼンテーション能力および討議等のコミュニケーション能力を身に付け、土木工学の方法論に基づき、自らの考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

土木工学科は、理工学部 (Faculty of Science and Technology) に設置する。学科の名称については、土木材料学分野・地盤工学分野・水工学分野・土木構造学分野・都市環境学分野などの「土木工学」を総合的に学修することで、土木工学において、地域社会に貢献する技術者を育成することを学科の目的とすることから、学科名称として「土木工学」をそのまま用いて「土木工学科」(Department of Civil Engineering) とした。

土木工学が対象とする学問分野は、工学的な知識・技術のほか、都市計画や環境など、幅広いものであるが、主たる分野が工学であることから、学位の名称は、学士(工学) (Bachelor of Engineering) とした。

4 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程

本学の教育課程は、「静岡理工科大学の教育研究上の目的に関する規程」及び、ディプロマ・ポリシーを踏まえて、大学全体と学科ごとにカリキュラム・ポリシーが設定され、教育課程を編成してい

る。大学全体、新設学科のカリキュラム・ポリシーは次の通りである。

①大学全体のカリキュラムポリシー

- ・研究者もしくは技術者としての確かな社会人基礎力を育成するために、全学共通カリキュラムとしてⅠ類科目群（人間・文化科目）とⅡ類科目群（専門基礎科目）を設置する。
- ・各学科に特有な専門的な知識を体系的に学び、技能・技術の向上のために学科別のⅢ類科目群（学科専門科目）を設置する。
- ・科目間の「つながり」を明確化し、系統だったカリキュラムを編成する。
- ・主体的な学びの姿勢を身につけ、「知識・理解」、「思考・判断」、「関心・意欲」、「態度」、「技能・表現」を養い、知識やスキルを統合して問題解決につなげていく能力や姿勢を育成する。そのために、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類を通して実験や討論などを実践的に行う PBL 型の授業を展開すると共に、学生生活においても、主体性や問題解決能力を培うことが可能な生活環境を設定する。
- ・入学から卒業に至る全期間を通して、プログラム化されたキャリア形成教育を実施する。
- ・国際的視野を培うため、外国語及び外国文化の教育を系統的に実施する。

②土木工学科のカリキュラムポリシー

土木工学科のカリキュラムポリシーは以下の通りとした。

- (1)土木工学の諸分野（構造・材料・地盤・水理・計画・環境）を体系的に学ぶカリキュラムを編成する。
- (2)主体的に地域・社会の課題を発見し、他者と連携して課題解決に取り組む実践力を養うためのプロジェクト科目を配置する。

本学の教育課程は、豊かな人間性を養うことを目的とした“教養教育”からなるⅠ類（人間・文化科目）、各学科の専門を学ぶ基盤となる“専門基礎”を学修することを目的としたⅡ類（学部共通専門基礎科目）及び、各学科の“専門科目”からなるⅢ類（学科専門科目）から構成され、他学科の科目履修も履修単位数の制限の中で認め、ディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラム・ポリシーに沿った教育課程のさらなる充実を図っている。（資料 10）（資料 11）

卒業に必要な単位数は、全学共通で、合計 124 単位以上であり、土木工学科では、Ⅰ類、Ⅱ類、及びⅢ類のそれぞれの最低履修単位は、次の表の通りとした。

最低履修単位数

科目区分	最低履修単位数
Ⅰ類（人間・文化科目）	23 単位（内必修科目 3 単位、選択必修科目 8 単位）
Ⅱ類（学部共通専門基礎科目）	12 単位（内必修科目 1 単位、選択必修科目 3 単位）
Ⅲ類（学科専門科目）	59 単位（内必修科目 41 単位）
卒業に必要な単位数	124 単位（内必修科目 45 単位、選択必修科目 11 単位）

（2）教養科目等の全学共通科目や学部共通科目等

豊かな人間性を養うことを目的とした教養科目からなる全学共通のⅠ類（人間・文化科目）では、次の表のように科目をクラスタと呼ぶ 8 個のグループに区分し、教養教育を幅広く学修できるように科目を配置している。

Ⅰ類（人間・文化科目）では、主にディプロマポリシーにおける「知識・理解」の人文・社会分野を含む多様な知識とそれらの有機的なつながりを理解する。また、「思考・判断」の多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、「関心・意欲」の主体的且つ継続的に地域社会に関心を持つことを学ぶ。「態度」の基礎的素養としての倫理観・協調性を身に付け、「技能・表現」での、自らの考えを口頭表現や文章表現によって伝えることを身に付ける。

本学の講義要項には、各授業内でおこなわれるアクティブラーニングの類型や回数が記され、積極的に導入している。例えば、「フレッシュマンセミナー」「地域学」「国際PBL」などの課題解決型のアクティブラーニング授業では、学生が小人数のグループに分かれ、それぞれのグループで決めた“もの作り”や課題解決のテーマに取り組むことを通して、挑戦する態度、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーションなどの重要性を学ぶなど、専門性のみならず人間性の教育にも力を入れている。

I類（人間・文化科目）のクラスタと科目

クラスタ	科目（二重下線は必修科目、下線は選択必修科目、共に全学共通）
やらまいかプログラム	<u>フレッシュマンセミナー</u> 、地域実践活動
日本語	日本語表現法
保健体育	<u>スポーツ1～4</u> 、健康の科学
キャリア形成プログラム	就職準備ガイダンス、実践技術者講座、インターンシップ、
外国語	<u>Advanced English 1～4</u> 、 <u>General English 1～4</u> 、英語コミュニケーション、中国語1～2、韓国語1～2、国際PBL、海外語学研修
人文	文学、文化と文明、心理学、歴史学、現代生活論、芸術論
社会	国際関係論、政治学、経済学、社会学、暮らしのなかの憲法、地域学、
自然・科学技術	インターネットと情報倫理、建築の技術と文化、科学技術者の倫理、地球科学

各学科の専門を学ぶ基盤となる専門基礎を学修することを目的としたII類（学部共通専門基礎科目）では、次の表のように科目を区分している。理工学部置く土木工学科では、理工系の基礎科目を幅広く履修することができる。

II類（学部共通専門基礎科目）では、ディプロマポリシーにおける「知識・理解」の数学・自然科学に関する知識を理解する。さらに、「思考・判断」の多面的に物事を考える素養を育て、それらを応用して自らの思考で判断することを身に付け、「関心・意欲」の情報を活用して計画的な調査・分析及び解決策の立案方法を学ぶ。「態度」では、技術が社会や自然に及び影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任について学ぶ。

II類（学部共通専門基礎科目）のクラスタと科目

クラスタ	科目（二重下線は全学共通での必修科目、下線は理工学部共通での選択必修）
数学分野	基礎数学、 <u>微分積分／演習</u> 、 <u>微分積分／演習 A・B</u> 、線形代数／演習、応用数学、微分方程式、ベクトル解析、理工系教養の数学
理学分野	物理学1～2、化学、生物学
情報系基礎	<u>コンピュータ入門</u> 、プログラミング入門、コンピュータ構成概論、データサイエンス概論、プログラミング応用
科学技術系基礎	工学基礎実験、メカトロニクス基礎実験、科学実験1、科学実験2
理工学系基礎	環境化学、工業材料とその性質、環境と新エネルギー、品質工学入門、財務システム入門、

(3) III類（学科専門科目）

土木工学科の専門科目群であるIII類（学科専門科目）では、土木工学の分野の分類にしたがって、次表のように科目を区分し、土木工学を統合的に学修する教育課程を実現している。また、土木工学の全体的な基礎、中心となる科目を必修科目とした。各系列の科目では、基本的な科目から応用的な科目となるように配当年次（履修順序）を考慮し、段階別カリキュラムを設定している。つまり、講

義科目で専門的知識を学び、演習や実験科目で知識の定着と技術の修得を図るために、体系的なカリキュラムとなるように配当学期に配慮し、教育効果を高める工夫をしている。

Ⅲ類（学科専門科目）のクラスと科目

区分	科目（二重下線は、必修科目）
全般	<u>土木工学概論</u> 、 <u>土木工学数理演習</u> 、 <u>測量学</u> 、 <u>測量実習</u> 、 <u>土木工学実験1</u> 、 <u>土木工学実験2</u> 、 <u>卒業研究1</u> 、 <u>卒業研究2</u>
プロジェクト	<u>地球災害プロジェクト</u> 、 <u>減災社会デザインプロジェクト</u> 、 <u>静岡防災まちづくりプロジェクト</u> 、 <u>インフラネットワーク</u>
材料	<u>建設材料工学</u> 、 <u>コンクリート構造</u> 、維持管理工学、耐震工学
土質	<u>土質力学</u> 、 <u>土質力学演習</u> 、地盤工学、土木地質学
水理	<u>水理学</u> 、 <u>水理学演習</u> 、流体理論、海岸工学、災害メカニズム
構造	<u>構造力学</u> 、 <u>構造力学演習</u> 、構造デザイン
計画・マネジメント	<u>土木計画学</u> 、 <u>土木計画学演習</u> 、インフラマネジメント論
運輸	モビリティデザイン、運輸施設工学
環境衛生	環境工学、環境保全工学

Ⅲ類（学科専門科目）では、ディプロマポリシーにおける「知識・理解」の情報技術に関する知識、土木工学および防災工学分野における専門知識を持ち、実践の場でそれらを活かす術を身に付け、「思考・判断」のそれまで学んだ教養・専門知識をもとに、自らの思考で判断し、与えられた制約の下で論理的な思考・判断のもと計画的に仕事を進めることを学ぶ。さらに、「関心・意欲」の土木工学および防災工学分野の科学、技術、および情報を活用して、地域社会の課題を解決するための計画的な調査・分析及び解決策の立案を身に付けて、「態度」の自らが社会の一員であることを自覚するとともに、他者との協働の重要性を認識し、倫理観・協調性をもって、課題解決遂行に向けて取り組むことを修得する。そして、「技能・表現」の論理的な記述力、プレゼンテーション能力および討議等のコミュニケーション能力を身に付け、土木工学の方法論に基づき、自らの考えを口頭表現や文章表現によって伝えることを修得する。

さらに特色的な科目として、プロジェクト科目を1年から各年次にそれぞれ配し、種々のプロジェクト推進を体験することにより、主体的に環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する観点から、地域社会の課題を発見し、他者と連携して課題解決に取り組む実践力を段階的に養いながら、集大成となる4年「卒業研究」、そして社会人へと繋げていく。

1年後期「地球災害プロジェクト」では、地球規模での災害や環境に関する諸問題を学びながら、身近に起こる得る自然災害についての考察力を身につけ、災害時の自発的な対応力と解決策の立案の重要性を学ぶ。次に、2年前期「減災社会デザインプロジェクト」では、過去の地震・土砂災害等の教訓を学び、さらに静岡県内で実施された身近な減災対策も学びながら、地域社会の課題に対し関心をもち、課題を把握したうえで、主体的に減災社会を描くことを身に付ける。さらに、3年前期「静岡防災まちづくりプロジェクト」では、これまで学んだ知識や理論を活用し、グループワークによる協調性と、土木技術者として地域の防災の実務に携わることへの責任や倫理観を養いつつ、静岡の防災に関する社会・地域課題を取り上げ、防災まちづくりとしての課題解決に対する統合的な方策を、土木工学の視点で考える力を養う。そして、3年後期「インフラネットワーク」では、構造物の情報化などの近年の情報通信技術の革新による新たな社会環境を踏まえながら、インフラ連携しての社会的な課題の解決にプロジェクト的に取り組むことで、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、そして技術者の社会に対する貢献と責任感を養っていく。最後に、集大成となる4年「卒業研究1」「卒業研究2」では、3年次までに習得した知識やスキルに基づき、自ら選択した特定のテーマにおける課

題等の解決に向け考察し、課題解決案を策定して、それらの結果を卒業論文として論理的にまとめ、さらに卒業論文発表会における発表や質疑応答を通じて、未知の問題を調査・解決する手法について自ら考えを口頭表現等により他者に伝えることを身に付ける。

このような特色的な科目を設定することで、土木工学を統合的に学修する教育課程となり、本学科の人材養成を実現するものとなる。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

新設する土木学科では全員の教員を新規採用する。採用する教員の人数は、土木工学での教育・研究分野を、大きくの3つの領域にわけ、土木材料学分野（1名）、地盤工学分野（2名）、水工学分野（2名）、土木構造学分野（1名）、都市環境学分野（2名）の計8名の教員を任用する。

学位は全員、博士（工学）を有している。教育・研究分野ごとで、任用する教員の職位と年齢に偏りが起こらない人員構成としており、教育および研究の継続的な体制維持が可能である。なお、本学の教員の定年は、教授及び准教授で65歳であり、完成年度までに定年を迎えるものはない。また、定年時に新たな教員を任用することで、教育・研究体制の維持が可能である。

教育研究分野と教員の職位

中心となる教育・研究分野	職位（学位）（着任時点での年齢）
土木材料学分野（1名）	教授（博士（工学））（46）
地盤工学分野（2名）	教授（博士（工学））（55）
	教授（博士（工学））（50）
水工学分野（2名）	教授（博士（工学））（52）
	准教授（博士（工学））（41）
土木構造学分野（1名）	教授（博士（工学））（55）
都市環境学分野（2名）	准教授（博士（工学））（45）
	准教授（博士（工学））（42）

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（1）教育方法

1年次は、Ⅰ類（人間・文化科目）とⅡ類（学部共通専門基礎科目）科目により、幅広い教養を学修すること、及び、学科での専門的な学びの基礎となる学修を目標とする。

2年次は、専門科目が本格的に開始され土木材料学、地盤工学分野、水工学分野、土木構造学の各分野の基礎的な講義と演習、実験により、土木工学の基礎力を修得する。なお、演習科目や実験科目は、1学年50人の学生を2～3グループ程度にわけ、演習及び実験を行う。後期からは都市環境学分野の一領域でもある土木計画学も始まる。

3年次は、土木工学のそれぞれの専門分野を深く学修する。さらに都市環境学分野の運輸、マネジメント、環境の各領域の履修もはじまり、土木工学の総合的な学修を充実させる。

4年次は、各研究室において、4年間の集大成として、担当教員の指導の元で取り組む課題を決め、課題研究を行う「卒業研究」を行う。

1年次から各年次にプロジェクト科目を体系的に配置し、学生の専門性の修得に合わせて主体性や他者との協働の中での課題解決能力の育成を行う。

科目の年次配当をベースにした履修モデル（資料12）を示す。

(2) 履修指導方法

本学は「個々の学生の特長に応じた教育を実践し、個性豊かな人材を育成する。」ことを教育の特色に掲げている。本学に入学する学生は、能力・適性の面から見て多様である。そのすべての学生に対し、できる限りきめ細かな教育を行い、相当な実力を付けて卒業させるために、履修ガイダンス等でⅠ類科目、Ⅱ類科目、Ⅲ類科目のどの科目を履修したらよいか学生に丁寧に説明し、学生が自分の特長を生かした科目選択ができるように指導している。

卒業研究などでは、専任教員とその研究室に配属された個々の学生が取り組む課題とその目標を、議論を重ねることで決定し、目標に向けて専任教員の指導の下で取り組む。一人の学生に対し、原則として一名の専任教員が指導するが、専門分野ごとのグループにて、複数の教員からの指導もあわせて実施する。

成績評価については、各科目のシラバスに到達目標を記載し、目標達成を図る成績評価方法を行っている。さらに「キャップ制」(履修登録上限は半期 24 単位)を導入し、前期、後期の各期で、それぞれ 10 科目程度の 20～22 単位程度を履修することにより、各年次にわたり、計画的な授業科目の履修と実質的な学修を促している。併せて、GPA 制度により、学生の学修状況及び成果を明示し、学生指導や退学勧告に利用している。

また、入学時から学生個々に助言教員を定め、日常的及び個人的相談などを受けている。学内 Web 上に設けた「学修ポートフォリオ」により、個々の学生の履修状況、出席状況及び生活状況を教員及び職員が常に閲覧できる環境を整えている。これらのシステムにより、欠席指導や各学期初めの履修指導を行い、中途退学、停学及び留年の可能性のある学生を早期に発見し、指導及び支援を行っている。その他、教員は各学期に「オフィスアワー」を設定し、各教員の居室前及び掲示により公開し、学生の相談を受け付け、個別指導を行うことで学生の自主的な学習を支援している。

(3) 卒業要件

卒業要件は、土木工学分野を総合的に学修し、また、教養科目や理工系の基礎科目についても広く学修できるように、Ⅰ類(人間・文化科目)は、必修科目 3 単位・選択必修科目 8 単位・選択科目 12 単位、Ⅱ類(学部共通専門基礎科目)は必修科目 1 単位・選択必修科目 3 単位・選択科目 8 単位、を最低修得単位数としている。さらに、Ⅲ類(学科専門科目)は必修科目 41 単位・選択科目 18 単位とし、その他に全ての類からでも 30 単位を修得することとしている。これにより、卒業要件をⅠ類、Ⅱ類及び、Ⅲ類を合計して、124 単位以上とした。

卒業要件

科目区分	【必修科目】	【選択必修科目】	【選択科目】	最低履修単位数
	単位数 (科目数)	単位数 (科目数)	単位数	
Ⅰ類(人間・文化科目)	3 単位 (2 科目)	8 単位 (4 科目)	12 単位	23 単位
Ⅱ類(学部共通専門基礎科目)	1 単位 (2 科目)	3 単位 (1 科目)	8 単位	12 単位
Ⅲ類(学科専門科目)	41 単位(21 科目)	—	18 単位	59 単位
Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類のいずれか	—	—	30 単位	30 単位
合計単位数	45 単位(25 科目)	11 単位 (5 科目)	68 単位	124 単位

7 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学では、理工系大学の教育にふさわしい校舎、実習・実験室などの教育環境を整えている。本学の校地等面積は、204,301 m²で、土木工学科設置後の大学設置基準上必要な校地等面積を十分に確保している。

校舎は、モール型に配置され、中央の空間や校舎の周辺、学生ホール、図書館など学生が休息や交流等で利用できる空地が、十分確保されている。

運動場は、同一敷地内で、校舎に隣接しており、スポーツ等の授業の他、課外活動で使用される。また、校舎に隣接してテニスコート3面、体育館やトレーニング室を備え、授業等で活用している。

校地等

区分	面積	
校地等	校舎敷地	68,035 m ²
	運動場用地	24,611 m ²
	小計	92,646 m ²
	その他	111,655 m ²
	合計	204,301 m ²

(2) 校舎等施設の整備計画

土木工学科設置に伴い、校舎等を建設する計画であるが、新校舎建設後の校舎面積は、31,114 m²で、設置後の大学設置基準上必要な校舎面積を十分に確保している。

校舎等（学科設置後の新校舎含む）

区分	面積／部屋数	
校舎	31,114 m ²	
教室等	講義室	26 室
	演習室	7 室
	実験・実習室	116 室
	情報処理学習施設	4 室
	語学学習施設	1 室
	アクティブ・ラーニング室	7 室
	セミナー室	11 室
教員居室	95 室	

学生の休息その他利用のためのスペースとしては、講義室の他、図書館、学生ホール、工作センター、食堂等の全学で共通する施設については、土木工学科設置後も対応できるものを整備してきており、適切な教育研究環境を保っている。

土木工学科設置にともなう施設・設備の拡充については、次の表のとおりの新校舎、実験棟を建設する。講義は既存校舎と新校舎で行い、実験は、新設の実験棟を中心に行う。実験棟には、水路装置、コンクリート打設室構造反力床、クレーンなどを整備する計画である。なお、国内の東京五輪開催等に伴う建設業界における資材調達事情や、昨年度からの新型コロナウイルスによる不安定な社会情勢を鑑み、学生、教職員、施工業者などの安全面を最優先とした工期の調整をおこない、竣工時期を令和4年10月とした。新学科の教育への影響は慎重に検討しており、土木工学科の1年生の科目は、

既存の校舎で全学共通科目として開講される教養科目及び学科の基礎（講義）3科目のため、これらは、当初より既存校舎での対応予定となっていたことから、新校舎の有無にかかわらず同等以上で教育の質が確保できる。なお、令和4年4月就任の4名の教員の研究室については、10月までは既存校舎の研究室4部屋を割当て、新校舎が竣工した後、移動することとする。

【新設学科（土木工学科）の設置にともない新たに建設する施設・設備】

建物	部屋等	面積(m ²)	設備等
土木工学科新校舎 (鉄骨コンクリート造、地上4階建、床面積3,288m ²) 令和4年10月竣工予定	教室1	136 m ²	移動机、 視聴覚設備
	教室2	141 m ²	移動机、 "
	大教室3	249 m ²	移動机、 "
	多目的作業室	249 m ²	
	プレゼン用スペース	125 m ²	移動机、 視聴覚設備
	アクティブラーニング室	152 m ²	移動机、 "
	教員研究室	19 m ² ×6 部屋	
	教員研究室	20 m ² ×1 部屋	
	教員研究室	22 m ² ×1 部屋	
	ゼミ室	19 m ² ×5 部屋	
	会議室	49 m ²	視聴覚設備
土木工学科実験棟 (令和4年10月竣工予定)	倉庫 (12 部屋合計)	115 m ²	
土木工学科実験棟 (令和4年10月竣工予定)		483 m ²	恒温恒湿養生室・水理実験スペース・機械室・クレーン等

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学図書館は、講義で使用する建物（5階建）の4階全フロアである。広さは1,739 m²、閲覧座席数243席で自習室、セミナー室、視聴覚室も完備している。あわせて、「ラーニング・commons」スペースを設置し、グループワークやプレゼンテーション等、学生自らが自主的に学修できる環境を整備している。

資料13のとおり、令和4年度での図書冊数は、130,691冊（洋書29,477冊含む）である。学術雑誌は、198種（電子ジャーナル53種含む）である。令和3年度までに新設学科用図書2,060冊を含め、図書冊数を137,537冊とする計画である。学術雑誌、電子ジャーナルについても資料の計画的に整備する計画である。

なお、図書の検索は、Webブラウザを利用した図書館情報システムにより、蔵書の検索が可能となっている。他大学図書館等との協力については、文献複写と図書相互貸借で、NACSIS-ILLを積極的に活用している。

8 取得可能な資格

土木工学科にて、卒業要件に含まれている科目等の、指定された科目を必要単位数以上取得し、卒業することで資格を得られたり、実務経験を経て、受験資格が得られる資格がある。いずれも国家資格である。

取得可能な資格

区分	資格名称
卒業後、実務経験を経て、受験資格が得られる	2級土木施工管理技士（実務経験1年）（国家資格）
卒業とともに資格が得られる	測量士補（国家資格）

9 入学者選抜の概要

(1) アドミッションポリシー

土木工学を総合的に学修し、土木分野での技術者として社会に貢献できる人材を求めることから令和4年度入学生については、土木工学科のアドミッション・ポリシーを以下の通り定めている。

知識・理解：土木工学を学ぶために必要な基礎的な学力を有している。

思考・判断：物事を多面的に考察し、自分の考えを論理的にまとめることができる。

関心・意欲：諸領域に関心を持ち、新しい知識や技術を持続的に学ぶ意欲を有している。

態度：主体的、実践的に知識および技術を学ぶ姿勢を有する。

技能・表現：自らの考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる。

(2) 募集定員

土木工学科の募集定員は50名とし、選抜種別では、学校推薦型選抜による募集定員を25名、一般選抜による募集定員を17名、共通テスト利用選抜による募集定員を8名とする。

(3) 選抜種別と選考方法

土木工学科の選抜方法は以下の3つに大別される。アドミッション・ポリシーに即した受験生を確保できるよう、学校推薦型選抜、一般選抜型、共通テスト利用選抜型の複数の入学者選抜を用意し、選考方法の工夫を行っている。

①学校推薦型選抜

試験項目	選考方法
学力試験	数学の得点
面接	志望理由書に基づいて志望動機の確認や、土木工学を学ぶことに対する関心・意欲や態度、自らの考えを伝える表現力等を評価する。
調査書	全体の学習成績の状況に基づき評価を行う。
推薦書	学力の3要素に関する記載内容について3段階で評価する。
活動報告書	次の項目について評価を行う。 Ⅰ：高度な技術や能力を持つ者（資格・検定） Ⅱ：社会的活動を通じて高い評価を得ている者 Ⅲ：課外活動等さまざまな分野で高い評価を得ている者（発表会・コンテスト・競技会） Ⅳ：その他具体的な事例で示すことのできる特長を持った者

	V：プラス評価 上記4項目の内、同一項目内に複数の違う分野での活動実績が認められる者に加点する。
志望理由書	将来の目標に対し、本学に進学する目的、興味のある研究や行きたい研究室を含めて記載する。(400字以内)

②一般選抜

試験項目	選考方法
学力試験	数学、理科（物理、化学、生物より選択）、英語の得点
調査書※	全体の学習成績の状況に基づき評価を行う。
活動報告書※ (任意)	次の項目について評価を行う。 I：高度な技術や能力を持つ者（資格・検定） II：社会的活動を通じて高い評価を得ている者 III：課外活動等さまざまな分野で高い評価を得ている者（発表会・コンテスト・競技会） IV：その他具体的な事例で示すことのできる特長を持った者 V：プラス評価 上記4項目の内、同一項目内に複数の違う分野での活動実績が認められる者に加点する。

※合否ボーダーライン付近の受験者について、調査書、活動報告書を加点して評価を行う。

③共通テスト利用選抜

試験項目	評価
利用科目	数学、理科（物理、化学、生物より選択）、外国語、国語の得点
調査書※	全体の学習成績の状況に基づき評価を行う
活動報告書※ (任意)	次の項目について評価を行う。 I：高度な技術や能力を持つ者（資格・検定） II：社会的活動を通じて高い評価を得ている者 III：課外活動等さまざまな分野で高い評価を得ている者（発表会・コンテスト・競技会） IV：その他具体的な事例で示すことのできる特長を持った者 V：プラス評価 上記4項目の内、同一項目内に複数の違う分野での活動実績が認められる者に加点する。

※合否ボーダーライン付近の受験者について、調査書、活動報告書を加点して評価を行う。

(4) 選抜種別とアドミッションポリシーとの関係性について

選抜種別とアドミッションポリシーとの関連は以下のとおりである。

◎特に評価する ○評価する

アドミッションポリシー	学校推薦型選抜	一般選抜型	共通テスト利用選抜
知識・理解	◎	◎	◎
思考・判断	○		
関心・意欲	◎	○	○
態度	◎	○	○
技能・表現	◎	○	○

(5) 選抜体制

本学では、学長を委員長とする「入学試験・AO 委員会」の下に置かれた「学力検査委員会」及び「判定委員会」により、試験問題の作成、合否判定等を公正かつ妥当な方法で運営し、入学者の選抜は、教授会での審議の上、学長が決定する。

10 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

(1) インターンシップ

大学全体で実施している企業実習は、科目「インターンシップ」で行う。企業や社会について知ること及びキャリア教育の面からも、また、大学における講義内容に対する意味を理解することを目的に、地域社会との連携によるインターンシップ（1単位）を実施している。

各学科から2名の教員が選出され、インターンシップ・ワーキンググループを組織して対応している。受入企業側に「実習テーマの明確化」と「教育上の効果を高める配慮」を求める一方で、学生の専門や希望とのマッチングを向上させ、実習の教育効果を高めることを目指している。派遣学生の決定の際は、希望者の意欲や専門分野と実習内容の関連を考慮してインターンシップ・ワーキンググループで選考を行っている。

インターンシップ希望者は、4回の事前研修を受け、8月初旬から9月下旬までの本学夏期休業期間中に各企業において2週間程度の実習を行っている。また、実習期間中には、学生の実習状況の視察を目的として、全ての受入企業に教員が出向いて企業の実習担当者と面談を行っている。また、12月上旬には受入企業を招いてインターンシップ報告会を開催し、実習学生と受入企業の双方から実施報告を行っている。

インターンシップの実施先として、318の企業及び団体等と、インターンシップ実施に関する覚書を交わしている（資料14）。

(2) 地域実践活動

科目「地域実践活動」（1単位）では、学生が教育現場において指導体験をしたり、活動について新しい企画を計画するなどを行う。学生は複数の活動テーマの中から、希望するものを1つ選択し、その活動を体験することを通じて、社会のさまざまな問題を深く知ることにより視野を広め、多様な価値観を知り、自主性、社会性、積極性等、重要な資質を身につけることを目的と開講している。

「学校教育アシスタント」テーマでは、近隣の小中学校で授業のアシスタントを行っている。あらゆる教科で、教員の活動を補助し、子どもたちとのコミュニケーションのスキルを身につけ、理解を深め、子どもたちへの教育活動を通じ、自身の学びについて振り返ることなどを目標とした活動とする。また、「袋井市放課後子ども教室アシスタント」テーマでは、近隣の小学校において、放課後の余裕教室等を活用し、自ら計画して、子どもたちに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流等の機会を与えようとする活動である。子どもたちと一緒に学び、遊ぶことを通じ、地域で子どもを育てること、教育することの難しさや重要性について学ぶ。これら活動テーマは、12月に活動内容報告会を行っている。

(3) 海外セミナー

科目「海外語学研修」（1単位）を開講し、韓国及び中国での海外語学研修プログラムを実施している。韓国については、本学と協定校の締結をしている大韓民国（韓国）大邱大学校が企画、実施している3週間の韓国語研修に参加する。中国についても本学と協定校の締結をしている中華人民共和国（中国）浙江工商大学が企画・実施している3週間の中国語研修に参加する。成績については研修先大学で行う試験などの成績評価を参考に本学で認定している。

さらに科目「国際PBL」（1単位）を開講し、海外提携校（資料15）との共同企画により、毎年1

週間程度のPBL型授業プログラムを開催する。海外大学の学生とのグループワークを通して、異文化の理解、英語によるコミュニケーションの向上を図りながら、プログラム最後に課題に対する英語での成果の発表を行い、評価をしている。成績については研修先大学で行う成績評価に基づいて本学で認定している。

1.1 管理運営

教学面についての、学生の入学、卒業及び課程の修了及び学位の授与についての、管理運営は、教授会が担う。教授会は、学長、専任の教授、准教授、講師、助教をもって組織する。教授会は8月を除き原則月1回開催される。

また、教学全般に関する管理を担う組織として、教学担当の学部長を委員長とし、各教育関連の委員長と学生事務部学務課長から構成される教育部会を置き、教育方針の策定に関する事項、学部及び大学院の教育課程の編成方針の策定に関する事項、授業評価、FD及びカリキュラム等教育開発に関する事項等を協議し、必要に応じて教授会に報告している。

1.2 自己点検・評価

本学の自己点検・評価は、学長、学部長、各学科長、法人理事、事務局長から構成される自己評価委員会を組織して実施している。この委員会が、自己点検・評価を総轄し、この委員会の方針に沿い、大学評議会の下部組織である各学科や各委員会等が、自組織で管轄する分掌に対する自己点検・評価を行う仕組みとなっている。

自己点検・評価は、(財)大学基準協会や(財)日本高等教育評価機構から示された項目を参考にして実施しており、過去には、平成8年度、平成14年度、平成16年度、平成24年度、平成26年度に自己点検・自己評価を行い、学内の教職員へ配布した。平成26年度の自己点検評価では、(財)日本高等教育評価機構による第三者評価を受審した。大学機関別認証評価「評価報告書」と自己点検評価書は大学ホームページにて公開している。

また、客観的な評価を得るために、企業アンケート、OB/OGなどの卒業生アンケート、及び在学生に対する学生満足度調査も、定期的の実施し、教育内容、教育施設・設備、学生生活環境の改善に役立てている。

その他、恒常的な取り組みとして、学科、委員会は、当年度の学長方針に沿い、年度初めに自組織の実行計画を定め、その実行結果を年度末にまとめ、報告している。

1.3 情報の公表

本学の教育内容等は、主として、「学生便覧」と「講義要項」(シラバス)に記載されている。学生便覧は印刷物を全学生に配布している。講義要項は、学生専用WEBサイトにて閲覧可能であり、また、これらの内容は、一般人もホームページで閲覧することも可能となっている。

本学の教育研究の成果は、教員の研究テーマに関する「研究総覧」、研究成果を発表する目的の「紀要」によって行っている。また、年2回発行する広報誌(一般向け:「キャンパスニュース」、企業向け:「FACTBOOK」)によって、折々の教育研究の内容を外発発信している。また、次の項目等についての情報公開のページを設け、法人と大学の基本情報や自己点検評価書、第三者評価機関による評価結果等を公開している。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

- ・教育研究上の目的 <https://www.sist.ac.jp/about/spirit.html>

イ 教育研究上の基本組織に関すること

- ・理工学部 <https://www.sist.ac.jp/academics/technology/>
- ・情報学部 <https://www.sist.ac.jp/academics/informatics/>
- ・大学院 <https://www.sist.ac.jp/academics/graduate/>

ウ 教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・大学組織図 https://www.sist.ac.jp/pdf/daigaku_sosiki.pdf
- ・大学運営組織図 https://www.sist.ac.jp/pdf/daigaku_iinkai.pdf
- ・大学教員数 https://www.sist.ac.jp/pdf/sum_kyouin.pdf
- ・教員情報
 - 機械工学科 <https://www.sist.ac.jp/pdf/faculty-m.pdf>
 - 電気電子工学科 <https://www.sist.ac.jp/pdf/faculty-e.pdf>
 - 物質生命科学科 <https://www.sist.ac.jp/pdf/faculty-s.pdf>
 - 建築学科 <https://www.sist.ac.jp/pdf/faculty-a.pdf>
 - コンピュータシステム学科 <https://www.sist.ac.jp/pdf/faculty-c.pdf>
 - 情報デザイン学科 <https://www.sist.ac.jp/pdf/faculty-d.pdf>

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・3つのポリシー <https://www.sist.ac.jp/about/policy.html>
- ・入試状況・在籍者・卒業者・進学者数・収容定員・収容定員充足率
https://www.sist.ac.jp/pdf/sum_gakusei.pdf
- ・学部入学者数の推移 https://www.sist.ac.jp/pdf/suii_gakusei.pdf
- ・就職先の情報 https://www.sist.ac.jp/pdf/career_data.pdf

オ 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・講義要項、学生便覧 <https://www.sist.ac.jp/about/syllabus/index.html>
- ・年間計画 https://www.sist.ac.jp/pdf/cal_gyouji.pdf

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・成績評価と単位付与 https://www.sist.ac.jp/pdf/hyouka_gakubu.pdf
- ・科目の年次配当表 https://www.sist.ac.jp/pdf/rishu_gakubu.pdf

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・交通アクセス <https://www.sist.ac.jp/about/map.html>
- ・キャンパスマップ・付属施設 <https://www.sist.ac.jp/about/campusmap.html>

ク 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・入学金・授業料 <https://www.sist.ac.jp/about/ex/ex01/tuition.html>
- ・入学検定料 <https://www.sist.ac.jp/about/ex/ex01/examination-fee.html>

ケ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・学生相談室 <https://www.sist.ac.jp/campus-life/counseling-room.html>

- ・奨学金制度 <https://www.sist.ac.jp/campus-life/campus-life02/campus-life02-02.html>

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認証評価の結果等）

- ・学則 https://www.sist.ac.jp/pdf/gakusoku_gakubu.pdf
- ・大学機関別認証評価 <https://www.sist.ac.jp/about/authentication/index.html>
- ・大学機関別認証評価「評価報告書」 <https://www.sist.ac.jp/pdf/houkoku.pdf>
- ・自己点検評価書 <https://www.sist.ac.jp/pdf/self.pdf>
- ・建築学科設置届出書 https://www.sist.ac.jp/pdf/setti_kenchiku.pdf
- ・建築学科設置収容定員変更認可申請書 https://www.sist.ac.jp/pdf/teninhenkou_kenchiku.pdf
- ・設置に係る設置計画履行状況報告書 https://www.sist.ac.jp/pdf/rikoh_kenchiku.pdf

1 4 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

(1) 学生による授業評価と教員の自己評価レポート

各学期末には原則的に全科目で学生による「授業改善学生アンケート」を実施し、学生の意見等をくみ上げる仕組みを整えている。

集計したアンケート結果は、各担当教員にフィードバックされ教育方法の改善に利用されると共に、教員自身が授業について振り返る自己評価レポート定量化し、学生の評価との乖離を確認するなどしたものを学長に提出する。また、年1回の教員評価の際には、その結果についての議論が各教員と評価担当の学長、学部長との間で行なわれる。

アンケート内容が適切であるかどうかは、本学の教育部会で検討している。結果は各学科会議、評議会などに報告され議論することで、さらに有効性の高いものに改善する努力を行っている。また、学生からよせられた意見は、分類した後、公開している。

(2) F D

本学のF D活動は、全学的に実施しており、土木工学科の教員についても、同様に実施される。

a) 新任教員研修

新たに着任する全ての教員は、学長、学部長、学科長、事務局総務課、事務局学務課から、1週間ほどのなかで、大学全体の組織管理、授業運営、ハラスメント防止など、教員としての基本的な事柄について体系化された研修を受ける。

b) 教育シンポジウム等

教育のあり方等を検討する教育部会とその下の組織であるF D推進小委員会にて、全学的なF D活動について研修等の計画をたて、教育シンポジウムなどを行っている。令和2年度では、新型コロナウイルス禍におけるオンデマンド配信を活用した授業の取り組みや、学生アンケートから見えた今後の改善点等についての研修を行った。

c) 授業改善学生アンケート

「授業改善学生アンケート」は、原則全科目で半期ごとに実施し、学生専用WEBサイトを使ってWEBアンケート形式を全学的に導入している。集計結果を検証し、授業の実態や、課題を洗い出し、所掌する委員会を通じて学科にフィードバックされ、教育の質の向上に活用している。併せて、個々の科目担当者には、WEBサイト内で、各科目の集計結果と、学生の意見・要望コメントが閲覧することができ、教育改善に生かす取り組みを行っている。

d) 公開授業期

前・後期で各2週間で全学的に「公開授業」を開催している。公開範囲は、全教職員及び全学

生の保護者を含めた一般人も対象で、原則全科目を公開としている。教員は自身の学科の授業や、他学科の授業を参観することも可能であり、全ての参観者にはアンケートをお願いし、各担当教員にコメント等を全てフィードバックし授業の改善に繋げる取り組みを行っている。

(3) SD

本学のSD動は、全学的に実施しており、全ての教職員を対象に実施され、土木工学科の教員についても、同様に実施される。

a) SD研修

SDの義務化に伴い、教育研究活動の適切かつ効果的な運営と職員の資質向上を目的として全教職員を対象として取り組みを行っている。

本法人は、大学の他に、中学・高校部門、専門学校部門を備えており、年に1回、法人全体の全教職員が一堂に会し、教育等に関するさまざまなテーマについて所属や職位に関係なくグループワークを開催している。日々の業務に関する情報交換や、各部署での取り組み、失敗事例を共有し、組織の壁を越え、法人全体としての情報共有し教職員の資質向上に努めている。他の所属の者と対話を行うことで考えと人脈も広がり、大学運営に関わる職員の資質・能力向上に寄与している。

さらに、学内研修では、理事長の「経営方針」を踏まえて、学長が「経営方針」説明会を開催し、大学の教職員がSD研修の一環として参加している。学長から教育、研究等に関する実績や評価、さらに今後の目標等について説明し、情報共有することで、一体感の醸成を促し、各部門、部署の目標達成に向けて、すべきことを認識している。

その他にも教育に関する「教育シンポジウム」や、学生生活に関する「学生相談研修会」などがあり、教員のみならず職員も参加している。

15 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取組について

①キャリア形成教育については、1年生では、初年次教育に位置づけられているフレッシュマンセミナー（1年前期2単位）の中で扱われる。2年次以降は、キャリア形成科目として、2年次に行う実践技術者講座（2年前期1単位）、及び3年次におこなう就職準備ガイダンス（3年前期1単位）にて、社会にて自立を図るために必要となる職業観、労働についての意義、学生個々の適正と職業などについて学修が行われる。なお、土木技術者としての倫理や土木分野に携わる職業人としての職業観などは、科学技術者の倫理や土木工学概論の中で取り上げていく。また、企業実習の項で述べたインターンシップ（3年後期1単位）も、キャリア形成プログラムの一つとして実施される。

②土木工学科の専門科目（Ⅲ類）のプロジェクト科目「地球災害プロジェクト」（1年後期）、「減災社会デザインプロジェクト」（2年前期）、「静岡防災まちづくりプロジェクト」（3年前期2単位）「インフラネットワーク」（3年前期）の種々のプロジェクト推進を体験することにより、土木技術者として、主体的に環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する観点から、地域社会の課題を発見し、他者と連携して課題解決に取り組む実践力を養う。

(2) 教育課程外の取組について

授業以外の取組としては、キャリア支援課が、資格取得講座や業界研究セミナー、企業見学会などを実施している。また、教育開発センターでは、企業に出て役立つ英語を支援するために、TOEIC講座を開催している。

(3) 適切な体制の整備について

キャリア教育について、委員長、副委員長、各学科の3年・4年生のキャリア教育担当教員各1

人、インターンシップ主担当教員、キャリア支援課で構成する「キャリア形成委員会」と、「キャリア形成教育 PDCA 小委員会」を設置し、支援体制を整備している。

キャリア支援課職員による就職活動の相談・助言に加えて、非常勤キャリアカウンセラーを配置し、学生のキャリア形成や就職活動の相談・助言等を行っている。

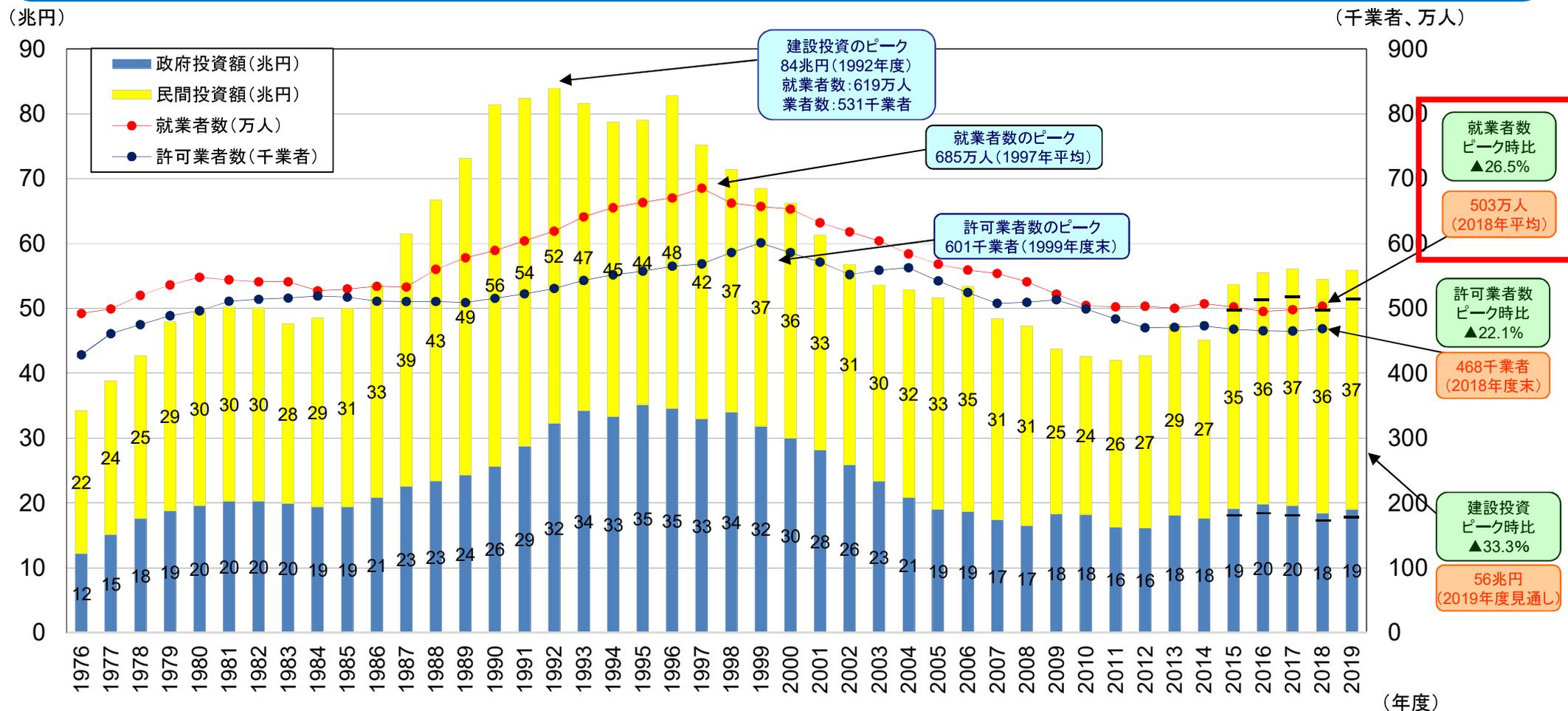
その他、1～3年生の助言教員制度と4年生の卒業研究指導を通し、キャリア支援課職員と協力し学生の就職・進学に対する支援を実施すると共に、学生の就職・進学の状況を教授会で報告している。

設置の趣旨等 資料目次

資料 1	令和元(2019)年度 国土交通省資料（全国の就業者数）	・・・ p. 2
資料 2	平成 29(2017)年総務省統計局による就業構造基本調査（静岡県産業別就業者数）	・・・ p. 3
資料 3	国土交通省インフラメンテナンス情報	・・・ p. 4
資料 4	一般社団法人 海外建設協会ホームページ資料（海外受注の増加）	・・・ p. 5
資料 5	平成 30(2018)年度 国土交通省資料（高齢化の進行、若年層の確保）	・・・ p. 6
資料 6	静岡県建設産業ビジョン 2019（少子高齢化の進展）	・・・ p. 8
資料 7	静岡県建設産業ビジョン 2019（表紙、はじめに、概念図）	・・・ p. 9
資料 8	地方自治体からの書類	・・・ p. 13
資料 9	令和 2(2020)年度 学校基本調査 関係学科別学生数	・・・ p. 16
資料 10	カリキュラムとディプロマ・ポリシーとの関連性	・・・ p. 18
資料 11	カリキュラムマップ	・・・ p. 22
資料 12	履修モデル	・・・ p. 23
資料 13	図書館整備計画	・・・ p. 24
資料 14	インターンシップ覚書締結企業リスト	・・・ p. 25
資料 15	海外提携大学一覧	・・・ p. 28

建設投資、許可業者数及び就業者数の推移

- 建設投資額はピーク時の1992年度:約84兆円から2011年度:約42兆円まで落ち込んだが、その後、増加に転じ、2019年度は約56兆円となる見通し(ピーク時から約33%減)。
- 建設業者数(2017年度末)は約46万業者で、ピーク時(1999年度末)から約23%減。
- 建設業就業者数(2017年平均)は498万人で、ピーク時(1997年平均)から約27%減。



出典: 国土交通省「建設投資見通し」・「建設業許可業者数調査」、総務省「労働力調査」

注1 投資額については2016年度まで実績、2017年度・2018年度は見込み、2019年度は見通し

注2 許可業者数は各年度末(翌年3月末)の値

注3 就業者数は年平均。2011年は、被災3県(岩手県・宮城県・福島県)を補完推計した値について2010年国勢調査結果を基準とする推計人口で遡及推計した値

注4 平成27年(2015年)産業連関表の公表に伴い、2015年以降建築物リフォーム・リニューアルが追加されたとともに、2011年以降の投資額を遡及改定している

出典 国土交通省交通政策審議会海事分科会
第11回基本政策部 資料より抜粋

平成29(2017)年静岡県産業別就業者数

産業	総数（人）
総数	1,945,400
農業，林業	60,600
漁業	2,800
鉱業，採石業，砂利採取業	600
建設業	134,500
製造業	501,000
電気・ガス・熱供給・水道業	9,600
情報通信業	27,600
運輸業，郵便業	98,600
卸売業，小売業	280,100
金融業，保険業	38,100
不動産業，物品賃貸業	34,200
学術研究，専門・技術サービス業	57,700
宿泊業，飲食サービス業	116,800
生活関連サービス業，娯楽業	73,300
教育，学習支援業	83,700
医療，福祉	209,800
複合サービス事業	16,200
サービス業（他に分類されないもの）	109,000
公務（他に分類されるものを除く）	51,700
分類不能の産業	39,400

出典：平成29年度 就業構造基本調査（総務省統計局、静岡県）



[HOME](#) > [社会資本の現状と将来](#) > 社会資本の老朽化の現状と将来

社会資本の老朽化の現状と将来

我が国の社会資本ストックは高度経済成長期に集中的に整備され、今後急速に老朽化することが懸念されています。今後20年間で、建設後50年以上経過する施設の割合は加速度的に高くなる見込みであり、このように一斉に老朽化するインフラを戦略的に維持管理・更新することが求められています。

社会資本の老朽化の現状と将来予測

高度成長期以降に整備された道路橋、トンネル、河川、下水道、港湾等について、今後20年で建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に高くなります。

施設の老朽化の状況は、建設年度で一律に決まるのではなく、立地環境や維持管理の状況等によって異なるが、ここでは便宜的に建設後50年で整理します。

建設後50年以上経過する社会資本の割合

	2018年3月	2023年3月	2033年3月
道路橋 [約7.3万橋注1) (橋長2m以上の橋)]	約2.5%	約3.9%	約6.3%
トンネル [約1万1千本注2)]	約2.0%	約2.7%	約4.2%
河川管理施設(水門等) [約1万施設注3)]	約3.2%	約4.2%	約6.2%
下水道管きよ [総延長:約4.7万km注4)]	約4%	約8%	約2.1%
港湾岸壁 [約5千施設注5) (水深-4.5m以深)]	約1.7%	約3.2%	約5.8%

注1) 建設年度不明橋梁の約23万橋については、割合の算出にあたり除いている。

注2) 建設年度不明トンネルの約400本については、割合の算出にあたり除いている。

注3) 国管理の施設のみ。建設年度が不明な約1,00施設を含む。(50年以内に整備された施設については概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約50年以上経過した施設として整理している。)

注4) 建設年度が不明な約2万kmを含む。(30年以内に布設された管きよについては概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約30年以上経過した施設として整理し、記録が確認できる経過年数毎の整備延長割合により不明な施設の整備延長を按分し、計上している。)

注5) 建設年度不明岸壁の約100施設については、割合の算出にあたり除いている。

資料) 国土交通省

出典: 国土交通省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/02research/02_01.html

省略

1. 書類名

資料 4 (p.5)

一般社団法人 海外建設協会ホームページ資料 (海外受注の増加)

2. 出典

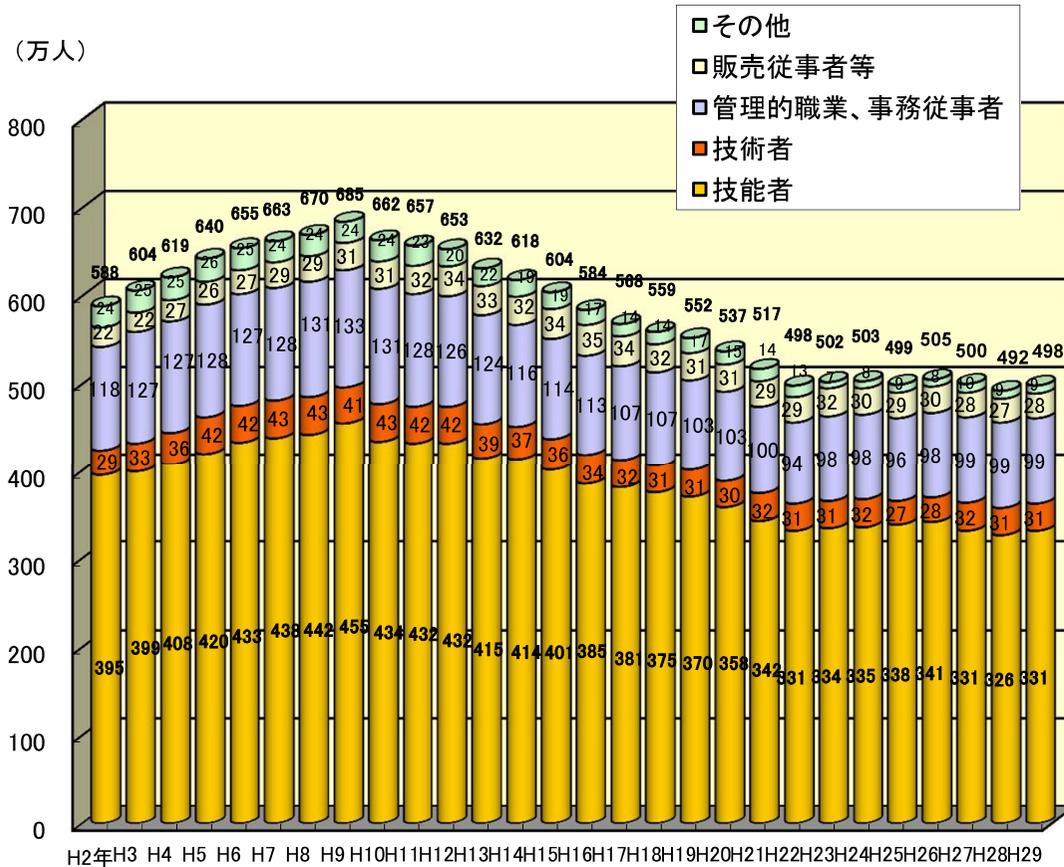
一般社団法人 海外建設協会

3. 引用範囲

https://www.ocaji.or.jp/overseas_contract/

技能者等の推移

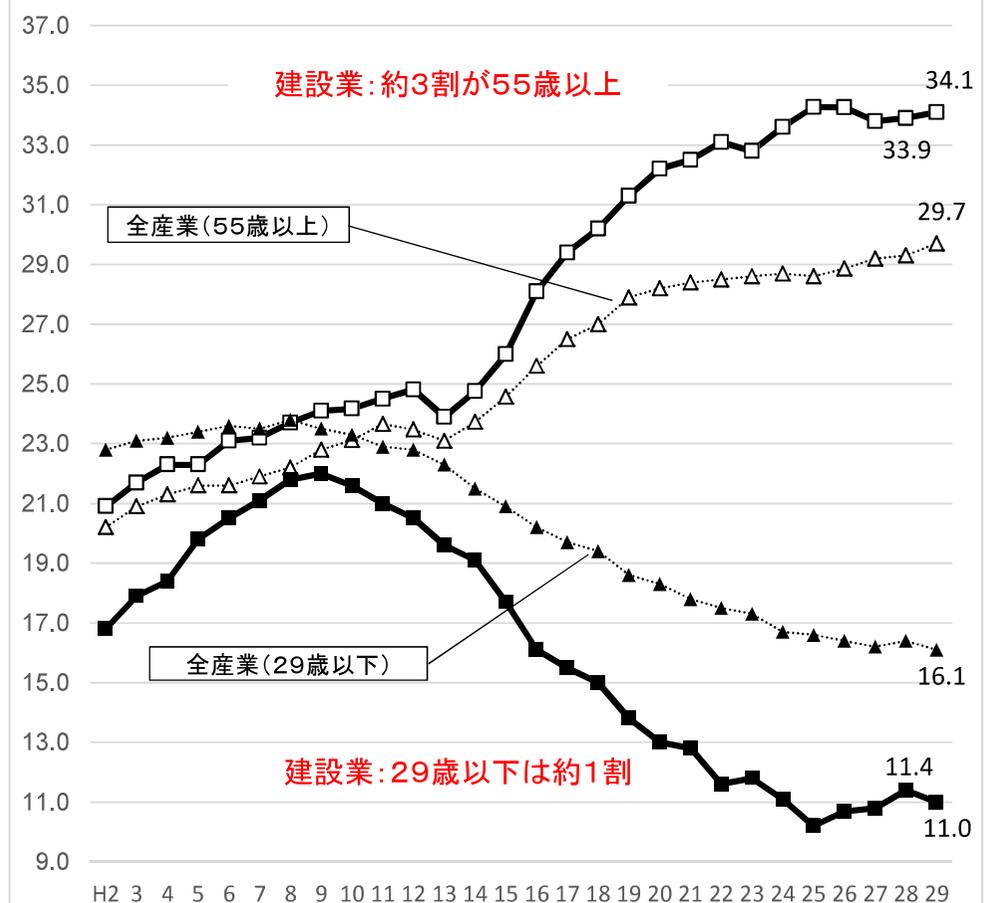
- 建設業就業者： 685万人(H9) → 498万人(H22) → 498万人(H29)
- 技術者： 41万人(H9) → 31万人(H22) → 31万人(H29)
- 技能者： 455万人(H9) → 331万人(H22) → 331万人(H29)



出典：総務省「労働力調査」（暦年平均）を基に国土交通省で算出
 （※平成23年データは、東日本大震災の影響により推計値。）

建設業就業者の高齢化の進行

- 建設業就業者は、55歳以上が約34%、29歳以下が約11%と高齢化が進行し、次世代への技術承継が大きな課題。
 ※実数ベースでは、建設業就業者数のうち平成28年と比較して55歳以上が約3万人増加、29歳以下は約1万人減少。

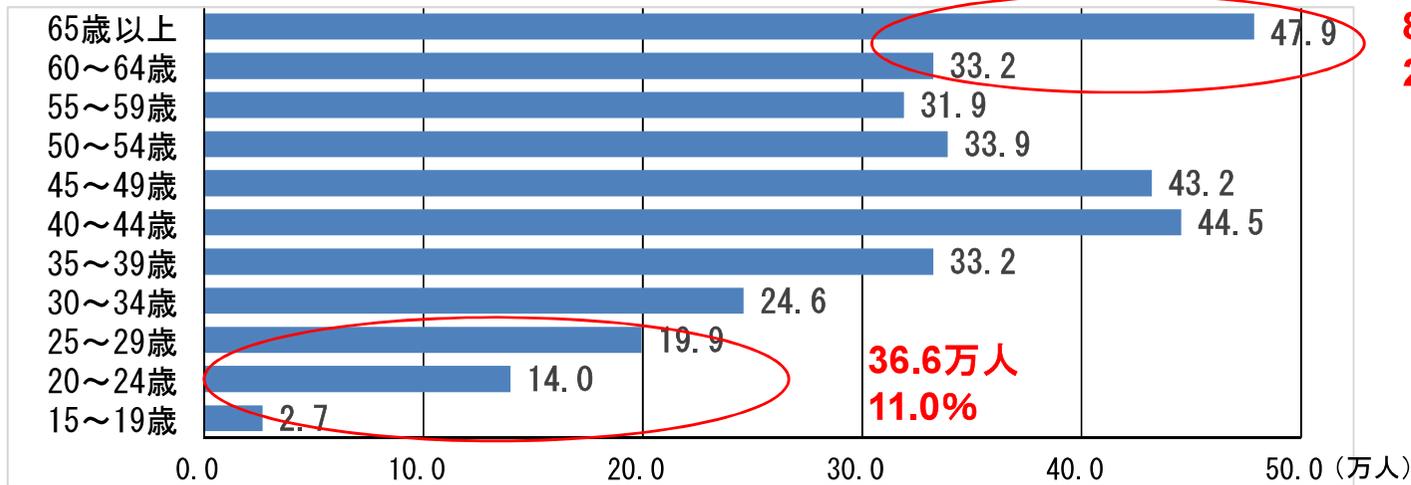


出典：総務省「労働力調査」を基に国土交通省で算出

年齢階層別の建設技能者数・建設業への入職状況

- 60歳以上の技能者は全体の約4分の1を占めており、10年後にはその大半が引退することが見込まれる。
- これからの建設業を支える29歳以下の割合は全体の約10%程度。若年入職者の確保・育成が喫緊の課題。

(年齢階層)

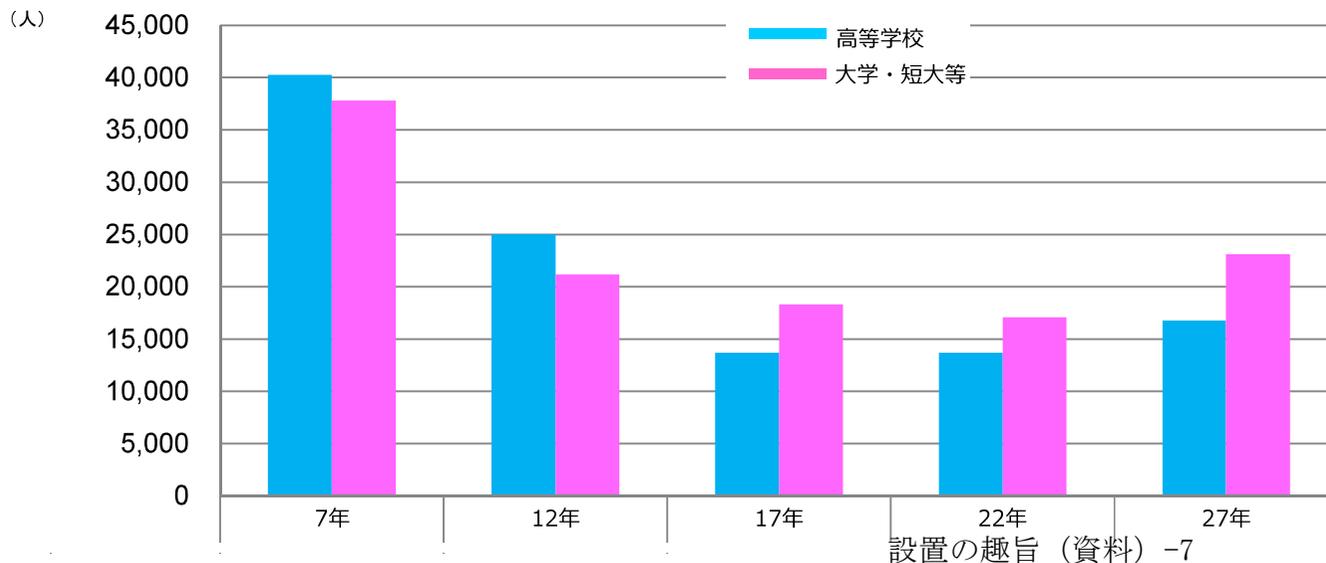


81.1万人
24.5%

36.6万人
11.0%

年齢階層別の建設技能者数
出所:総務省「労働力調査」(H29年平均)をもとに国土交通省で推計

- 建設業への入職者数は近年増加傾向にあるものの、H7年のピーク時から遠い水準



建設業への入職状況
出所:学校基本調査(文部科学省)をもとに国土交通省で作成

資料6 静岡県建設産業ビジョン2019（少子高齢化の進展）

II 建設産業を取り巻く環境変化

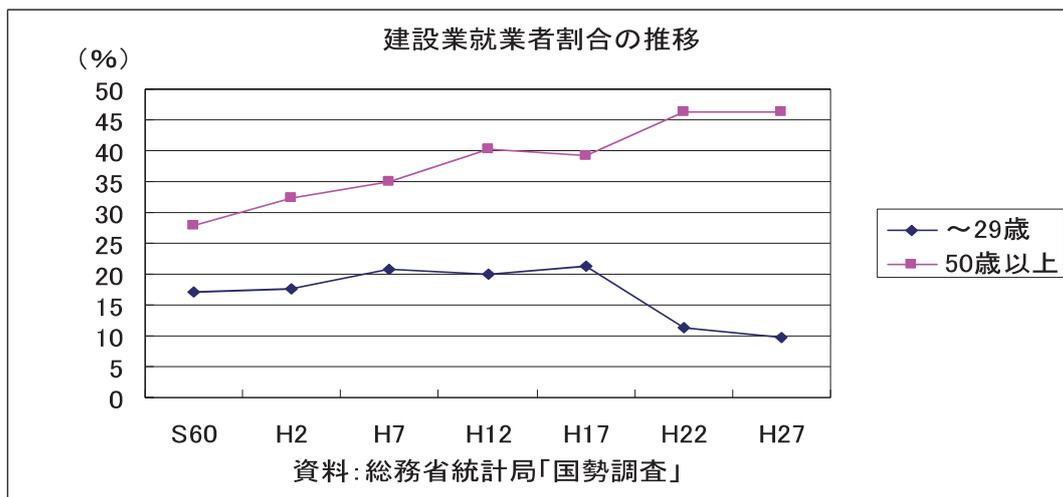
1 少子高齢化の進展

近年の出生率の低下による少子高齢化の進展に伴い、全産業的に生産年齢人口の減少が進む中で、国勢調査によると、県内の建設業についても、就業者数の年齢別の推移は、若年齢層の就業者の割合が減少し、高年齢層が増加する傾向にある。（図表2-1）

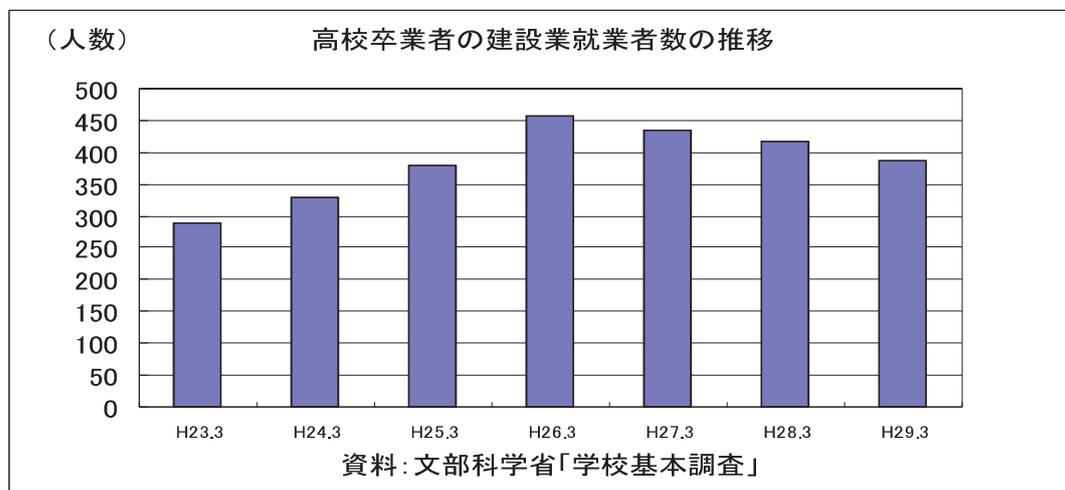
また、高校生の就職状況についても、建設業への就業者数は平成25年度までは増加傾向にあったものの、その後、減少傾向にある。（図表2-2）

若年技術者の減少は、優秀な技術者の育成、熟練者からの技術の継承に支障を生じさせるなど、建設産業の発展を阻む大きな要因になると考えられる。

図表2-1 建設業就業者割合の推移（静岡県）



図表2-2 高校卒業者の建設業就業者数の推移（静岡県）



静岡県建設産業ビジョン2019

～夢や誇りのもてる魅力ある産業への転換に向けて～



平成31年3月

静岡県建設業審議会

静岡県建設産業ビジョンの改訂に寄せて



建設産業は、生活に密着したインフラや住宅等を整備し、災害から地域を守る重要な役割を担うとともに、多くの就業機会を提供する本県の基幹産業であります。

県では、平成23年に、力強く安全安心な“ふじのくに”づくりに向けた静岡県建設産業ビジョンを策定し、業界の皆様とも連携を図りながら、入札・契約制度の改善や県民への広報による建設産業の理解促進等に取り組んでまいりました。

近年、建設投資額はやや上昇傾向にあるものの、建設産業の経営環境は依然として厳しい状況が続き、担い手不足が深刻化する中で、働き方改革も急務となっております。また、多発する自然災害への迅速な対応や、地域の特性を踏まえた美しい景観・環境づくりなど、期待される役割も増大し、建設産業を取り巻く環境が大きく変化してきているため、昨年9月、静岡県建設業審議会にビジョンの改訂をお諮りいたしました。

学識経験者、建設業界、建設工事の需要者などから成る審議会の委員の皆様にご議論いただくとともに、パブリックコメントにより頂いた多くの御意見を踏まえ、この度、本ビジョンを取りまとめました。御協力を頂きました皆様に、厚くお礼を申し上げます。

県といたしましては、建設産業に関係する皆様と一体となって、本ビジョンの5つの柱「働き方改革の推進」、「担い手の確保・育成」、「建設現場における生産性の向上」、「経営の安定化と地域力の強化」及び「美しい景観の創造力向上」の各施策に取り組むことにより、「建設産業における新4K（給料・休暇・希望・きれい）の実現」と「夢や誇りのもてる魅力ある産業への転換」を目指してまいります。

地域の守り手である建設産業に携わる人材を持続的に確保することにより、暮らし・環境・景観が素晴らしいと感じることができる、安全・安心で魅力ある「富国有徳の美しい“ふじのくに”」づくりを進めてまいります。

平成31年3月

静岡県知事 川勝平太

出典 平成30年3月「静岡県建設産業ビジョン2019」より抜粋

はじめに

本審議会では、川勝平太静岡県知事から諮問を受け、平成23年11月に、長引く景気停滞による公共投資の減少などを踏まえ、「過剰供給構造の是正」や「建設産業の再生」などを柱とした「静岡県建設産業ビジョン」を取りまとめました。



それから7年以上が経過し、長時間労働が社会的な問題として注目されるなど、建設産業を取り巻く環境も大きく変化していることから、昨年9月5日、知事から「建設産業が魅力ある産業へ転換するための方策について（静岡県建設産業ビジョンの改訂）」の諮問を受け、約6ヶ月間にわたって審議・検討を行い、「静岡県建設産業ビジョン2019～夢や誇りのもてる魅力ある産業への転換に向けて～」を取りまとめました。

本ビジョンでは、あらためて本県建設産業を取り巻く環境変化や課題を整理いたしました。

少子高齢化の進展により、若年層を中心に担い手不足が深刻化する一方、自然災害の多発や高度経済成長期を中心に整備された社会インフラの維持管理・更新需要の増加への対応など、建設産業の担うべき役割がますます増大する中、働き方改革関連法の成立を受け、長時間労働の是正など働き方改革も待ったなしとされております。また、景観・環境に対する関心の高まりを受けて、美しい景観形成や環境の保全にも取り組む必要があります。

これらの課題を踏まえ、「働き方改革の推進」、「担い手の確保・育成」、「建設現場における生産性の向上」、「経営の安定化と地域力の強化」、「美しい景観の創造力向上」の具体的取組をまとめ、取組の緊急性に応じて短期・中期に区分するとともに、取組の担い手を行政・企業別に明確化し、更に、PDCAサイクルによる施策推進を徹底するため、数値目標を設定いたしました。

今後、行政、建設企業、関係団体など建設産業に携わる関係者が一体となり緊密に連携しながら、本ビジョンに示した具体的な方策に真摯に取り組む、新4K（給料、休暇、希望、きれい）を実現し、夢や誇りのもてる魅力ある産業へ転換することを目指してまい進されることを期待します。

平成31年3月

静岡県建設業審議会 会長 磯辺 剛彦

出典 平成30年3月「静岡県建設産業ビジョン2019」より抜粋

「静岡県建設産業ビジョン改訂」の概念図

＜現行ビジョン＞

課題・方策

成果

○過剰供給構造の是正
(1) 過剰供給構造の是正
(2) 不良不適格業者の排除

・ 県発注工事の下請契約から社会保険未加入業者を排除
・ 法定福利費を明示した請負代金内訳書の徴収を開始
・ 建設業許可、入札参加資格、指名、下請契約から暴力団関係企業を排除
・ 下請企業から元請企業へ法定福利費の内訳を明示した標準見積書等を使用することにより法定福利費を確保

○建設産業の再生
(1) 建設産業の健全な発展、地域社会との連携
(2) 建設企業の経営基盤強化
(3) ビジネス経営体への発展
(4) 若年技術者等の確保、育成
(5) 建設関連分野への広がり、新分野への展開

・ 産学官が連携した「建設産業担い手確保・育成対策支援コンソーシアム」において、若年者・女性に対する建設産業への理解促進の取組を検討して実施
・ 建設業者団体が実施する担い手確保・育成の新たな取組を支援
・ 建設産業再生支援事業による合併・新分野進出の取組支援
・ 道路や河川等の維持補修、更新工事等を計画的に実施し、地元雇用に貢献
・ 県内中学校・高校への建設産業ガイドブックの配布、しずおか「けんせつ小町」女子会の実施など
・ 「静岡どぼくらぶ」を活用した官民一体のPRを実施
・ 快適トイレ設置など若手や女性が働きやすい環境整備

○入札・契約制度の改善
(1) 価格と品質を総合的に評価する制度等の拡充
(2) 受発注者間の対等性の確保、協力関係の構築
(3) コンプライアンスの徹底と公正な競争環境の確保
(4) 地域で活躍する建設企業の評価

・ 担い手確保・育成入札や休日確保型入札を試行
・ 低入札調査基準価格、契約しない基準額の引き上げ等によるダンピング受注防止対策の強化
・ 過疎地域における地域を守る事業者維持・育成入札（旧ビジネス経営体を対象とした入札）を試行
・ 債務負担行為の活用、工事着手日選択型工事の試行、早期発注などによる発注・施工時期の平準化の取組
・ 総合評価方式における評価項目の事前審査登録制度採用による受発注者の事務軽減

○災害時対応力の向上
(1) 大規模災害を想定した実効性の高い災害対応システムの構築

・ 東日本大震災における復興支援活動で得られた教訓や知見を生かした「交通基盤部事前復興行動計画」を策定
・ 大規模地震災害が発生した際の迅速かつ適正な施工を確保するため、復旧・復興建設工事共同企業体取扱要領を制定
・ 総合評価方式において、企業の災害対応力の評価拡充

背景

・ 少子高齢化の進展
・ 自然災害の多発
・ 維持管理・更新需要の増大
・ 働き方改革関連法の成立

課題（ポイント・視点）

地域として

・ 景観への配慮
・ 地域インフラの老朽化
・ 地域の守り手の存続
・ 社会インフラの有効活用

業界として

・ 新設市場の縮小
・ 市場構造の変化（ストック市場へ）
・ 建設産業への理解不足

企業として

・ 収益性の低下
・ マネジメント（経営力の向上）
・ 担い手の確保・育成
・ 事業・技能の継承
・ 労働時間の縮減

＜改訂版ビジョン＞

施策の柱と項目

● 働き方改革の推進

・ 就労環境や処遇の改善
・ 働き方改革を促す入札・契約制度
・ 工事現場における就業者の安全及び健康対策
・ 社会保険等未加入対策の更なる推進

● 担い手の確保・育成

・ 担い手の育成
・ 産学官が連携した理解促進
・ 「静岡どぼくらぶ」を活用した戦略的PR
・ 担い手確保・育成のための入札・契約制度
・ 就労環境や処遇の改善（再掲）

● 建設現場における生産性の向上

・ 建設生産プロセスにおけるICTや新技術の活用
・ 発注・施工時期の平準化の推進
・ 適正な工期設定
・ 市町への支援
・ その他の取組

● 経営の安定化と地域力の強化

・ 建設市場に対応した地域建設企業の経営プロセスの改善
・ 地域の守り手に配慮した入札・契約制度
・ 増大する社会インフラの維持管理・更新需要への対応
・ 災害対応力の向上・国土強靱化
・ 地域の多様な主体との連携強化

● 美しい景観の創造力向上

・ きれいな現場の実現
・ 新設・維持管理・更新における美しい景観形成への意識醸成
・ 美しい景観を創造する技術力向上
・ 美しい景観の創造に向けた入札・契約制度

建設産業が目指す姿
新4K（給料、休暇、希望、きれい）の実現により魅力ある産業へ転換

出典 平成30年3月「静岡県建設産業ビジョン2019」より抜粋

省略

1. 書類名

資料 8 (p.13)
地方自治体からの書類

2. 出典

静岡県知事
静岡県教育長
袋井市長

3. 引用範囲

静岡県知事「静岡理工科大学工学部土木工学科の設置について」
静岡県教育長「静岡理工科大学工学部土木工学科の設置について」
袋井市長「静岡理工科大学工学部土木工学科設置に関する要望書」

4. その他の説明

静岡県知事、静岡県教育長、袋井市長からの静岡理工科大学工学部土木工学科の設置への期待や要望についての書面を、それぞれ添付した。

資料9 令和2（2020）年度 学校基本調査 関係学科別学生数

令和2年度 2,623,572

人文科学 364,474

文 学	135,730
史 学	25,543
哲 学	46,996
そ の 他	156,205

社会科学 835,595

法 学 ・ 政 治 学	156,161
商 学 ・ 経 済 学	460,977
社 会 学	136,327
そ の 他	82,130

理学 78,353

数 学	15,461
物 理 学	10,979
化 学	10,695
生 物 学	10,027
地 学	2,722
そ の 他	28,469

工学 382,341

機 械 工 学	61,974
電 気 通 信 工 学	106,412
土 木 建 築 工 学	55,211
応 用 化 学	30,599
応 用 理 学	9,059
原 子 力 工 学	438
鉱 山 学	—
金 属 工 学	4
織 維 工 学	283
船 舶 工 学	265
航 空 工 学	2,288
経 営 工 学	6,510
工 芸 学	2,337
そ の 他	106,961

農 学 77,622

農 学	10,452
農 芸 化 学	6,034
農 業 工 学	2,589
農 業 経 済 学	2,495
林 学	1,566
林 産 学	—
獣 医 学 畜 産 学	10,995
水 産 学	6,863
そ の 他	36,628

保健 339,048

医 学	57,238
歯 学	15,007
薬 学	71,705
看 護 学	91,594
そ の 他	103,504

商 船 411

商 船 学	411
-------	-----

家政 72,117

家 政 学	19,190
食 物 学	39,795
被 服 学	6,205
住 居 学	1,227
児 童 学	5,135
そ の 他	565

教 育 189,986

教 育 学	41,243
小 学 校 課 程	12,582
中 学 校 課 程	517
高 等 学 校 課 程	—
特 別 教 科 課 程	—
盲 学 校 課 程	—
聾 学 校 課 程	—
中 等 教 育 学 校 課 程	4,044
養 護 学 校 課 程	43

幼稚園課程	41
体育学	38,626
障害児教育課程	—
特別支援教育課程	1,101
その他	91,789
芸 術	74,755
美術	13,798
デザイン	18,958
音楽	15,592
その他	26,407
そ の 他	208,870
教養学	7,039
総合科学	571
教養課程（文科）	5,424
教養課程（理科）	5,833
教養課程（その他）	2,869
人文・社会科学	33,735
国際関係学(国際関係学部)	18,315
人間関係科学	15,541
その他	119,543

※出典：文部省「令和2年度学校基本調査」における大学・大学院の「表番号10関係学科別学生数」から抽出した。

養成する人材の全体像

土木工学の専門知識および関連技術を修得するとともに、種々のプロジェクト推進を体験することにより、主体的に環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する観点から、地域社会の課題を発見し、他者と連携して課題解決に取り組む実践力を養う。ここから得られた広範な視野と能動的な行動力を礎として、社会基盤整備や防災・減災の発展に貢献できる人材を養成する。

I 類（人間・文化科目）

DP1: 知識・理解

人文・社会分野を含む多様な知識とそれらの有機的なつながりを理解し、また、数学・自然科学および情報技術に関する知識、土木工学および防災工学分野における専門知識を持ち、実践の場でそれらを活かすことができる。

DP2: 思考・判断

教養・専門知識をもとに多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、さらにそれらを応用して自らの思考で判断することができる。また、与えられた制約の下で論理的な思考・判断のもと計画的に仕事を進めることができる。

DP3: 関心・意欲

主体的且つ継続的に地域社会に関心を持ち、課題を発見し、土木工学および防災工学分野の科学、技術および情報を活用して、地域社会の課題を解決するための計画的な調査・分析及び解決策の立案ができる。

DP4: 態度

技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関して理解している。また、自らが社会の一員であることを自覚するとともに、他者との協働の重要性を認識し、そのための基礎的素養としての倫理観・協調性を身に付け、課題解決遂行に向けて取り組むことができる。

DP5: 技能・表現

論理的な記述力、プレゼンテーション能力および討議等のコミュニケーション能力を身に付け、土木工学の方法論に基づき、自らの考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる。

【I 類（人間・文化科目）】 全学部・全学科

系列	クラス スタ	①	②	③	④	⑤	科目名	単位数		毎週授業時間数											
								必修	選択	1年		2年		3年		4年					
										前	後	前	後	前	後	前	後				
必修	やらいりか プログラム					○	フレッシュマンセミナー	2		1											
	保健体育					○	スポーツ1	1		1											
選択必修	外国語					○	Advanced English 1	2		1	※	I 類英語1群									
						○	General English 1	2		1											
						○	Advanced English 2	2		1	※	I 類英語2群									
						○	General English 2	2		1											
						○	Advanced English 3	2		1	※	I 類英語3群									
						○	General English 3	2		1											
						○	Advanced English 4	2		1	※	I 類英語4群									
						○	General English 4	2		1											
選択	人文	○					文学	2	1												
		○					文化と文明	2		1											
		○					心理学	2			1										
			○				歴史学	2			1										
		○					現代生活論	2					1								
		○					芸術論	2					1								
	社会			○				国際関係論	2	1											
				○				政治学	2		1										
		○						経済学	2			1									
				○				社会学	2				1								
		○						暮らしのなかの憲法	2					1							
					○			地域学	1		1										
	キャリア形成 プログラム					○		実践技術者講座	1			集中									
						○		インターンシップ	1			集中									
						○		就職準備ガイダンス	1					集中							
	科学技術 自然・ 技術					○		インターネットと情報倫理	2	1											
						○		建築の技術と文化	2		1										
						○		科学技術者の倫理	2						1						
		○						地球科学	2			1									
	保健 体育					○		スポーツ2	1				1								
						○		健康の科学	2					1							
						○		スポーツ3	1			集中									
						○		スポーツ4	1			集中									
							○		英語コミュニケーション	2						1					
外国語	○						中国語1	2	1												
	○						韓国語1	2	1												
	○						中国語2	2		1											
	○						韓国語2	2		1											

					○	国際PBL	1	集中				
					○	海外語学研修	1	集中				
総合	○					特別共同講義	2	集中				
	○					特別集中講義	2	集中				
やらまいるの プログラム		○				地域実践活動	1		1			
理工系教養	○					理工系教養の英語	2	1				
	○					理工系教養の課題研究	2	集中				
日本語	○					日本語表現法 ※5	2	集中				

DP1:知識・理解

人文・社会分野を含む多様な知識とそれらの有機的なつながりを理解し、また、数学・自然科学および情報技術に関する知識、土木工学および防災工学分野における専門知識を持ち、実践の場でそれらを活かすことができる。

DP2:思考・判断

教養・専門知識をもとに多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、さらにそれらを用いて自らの思考で判断することができる。また、与えられた制約の下で論理的な思考・判断のもと計画的に仕事を進めることができる。

DP3:関心・意欲

主体的且つ継続的に地域社会に関心を持ち、課題を発見し、土木工学および防災工学分野の科学、技術および情報を活用して、地域社会の課題を解決するための計画的な調査・分析及び解決策の立案ができる。

DP4:態度

技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関して理解している。また、自らが社会の一員であることを自覚するとともに、他者との協働の重要性を認識し、そのための基礎的素養としての倫理観・協調性を身に付け、課題解決遂行に向けて取り組むことができる。

DP5:技能・表現

論理的な記述力、プレゼンテーション能力および討議等のコミュニケーション能力を身に付け、土木工学の方法論に基づき、自らの考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる。

【Ⅱ類（学部共通専門基礎科目）】 全学部・全学科

クラス	①	②	③	④	⑤	科目名	単位数	毎週授業時間数											
								1年		2年		3年		4年					
								前	後	前	後	前	後	前	後				
数学分野	<input type="radio"/>					基礎数学	3	2											
	<input type="radio"/>					微積分/演習	3	2											
	<input type="radio"/>					微積分/演習A	3	2											
	<input type="radio"/>					微積分/演習B	3	2											
	<input type="radio"/>					線形代数/演習	3	2											
	<input type="radio"/>					応用数学	2	1											
	<input type="radio"/>					微分方程式	2		1										
	<input type="radio"/>					ベクトル解析	2		1										
	<input type="radio"/>					理工系教養の数学	2	1											
理学分野	<input type="radio"/>					物理学1	2	1											
	<input type="radio"/>					化学	2	1											
	<input type="radio"/>					生物学	2	1											
	<input type="radio"/>					物理学2	2		1										
情報系基礎			<input type="radio"/>			コンピュータ入門	1	1											
			<input type="radio"/>			プログラミング入門	1	1											
			<input type="radio"/>			コンピュータ構成概論	2	1											
			<input type="radio"/>			データサイエンス概論	2		1										
			<input type="radio"/>			プログラミング応用	1		1										
科学技術系基礎	<input type="radio"/>					科学実験1	1	集中											
	<input type="radio"/>					科学実験2	1	集中											
理工学系基礎				<input type="radio"/>		環境化学	2	1											
		<input type="radio"/>				工業材料とその性質	2		1										
				<input type="radio"/>		環境と新エネルギー	2			1									
				<input type="radio"/>		品質工学入門	2				1								
				<input type="radio"/>		財務システム入門	2					1							

※「基礎数学」は理工学部においては自由科目(卒業単位に算入しない)とする。

DP1:知識・理解

人文・社会分野を含む多様な知識とそれらの有機的なつながりを理解し、また、数学・自然科学および情報技術に関する知識、土木工学および防災工学分野における専門知識を持ち、実践の場でそれらを活かすことができる。

DP2:思考・判断

教養・専門知識をもとに多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、さらにそれらを応用して自らの思考で判断することができる。また、与えられた制約の下で論理的な思考・判断のもと計画的に仕事を進めることができる。

DP3:関心・意欲

主体的且つ継続的に地域社会に関心を持ち、課題を発見し、土木工学および防災工学分野の科学、技術および情報を活用して、地域社会の課題を解決するための計画的な調査・分析及び解決策の立案ができる。

DP4:態度

技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関して理解している。また、自らが社会の一員であることを自覚するとともに、他者との協働の重要性を認識し、そのための基礎的素養としての倫理観・協調性を身に付け、課題解決遂行に向けて取り組むことができる。

DP5:技能・表現

論理的な記述力、プレゼンテーション能力および討議等のコミュニケーション能力を身に付け、土木工学の方法論に基づき、自らの考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる。

【Ⅲ類（学科専門科目）】 理工学部土木工学科

系列	①	②	③	④	⑤	科目名	単位数		毎週授業時限数									
									1年		2年		3年		4年			
							必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
必修	全般	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		土木工学概論	2		1								
		<input type="radio"/>					土木工学数理演習	2		1								
		<input type="radio"/>					測量学	2			1							
		<input type="radio"/>					測量実習	1				1						
		<input type="radio"/>					土木工学実験1	2				2						
							<input type="radio"/>	土木工学実験2	2					2				
							<input type="radio"/>	卒業研究1	2								2	
							<input type="radio"/>	卒業研究2	2									2
	防災プロジェクト				<input type="radio"/>		地球災害プロジェクト	2			1							
						<input type="radio"/>	減災社会デザインプロジェクト	2				1						
						<input type="radio"/>	静岡防災まちづくりプロジェクト	2					1					
	材料	<input type="radio"/>					建設材料工学	2				1						
			<input type="radio"/>				コンクリート構造	2					1					
	土質	<input type="radio"/>					土質力学	2				1						
			<input type="radio"/>				土質力学演習	2					1					
	水理	<input type="radio"/>					水理学	2				1						
			<input type="radio"/>				水理学演習	2					1					
	構造	<input type="radio"/>					構造力学	2				1						
		<input type="radio"/>				構造力学演習	2					1						
計画・マネジメント	<input type="radio"/>					土木計画学	2					1						
		<input type="radio"/>				土木計画学演習	2						1					
選択	未来志向型プロジェクト				<input type="radio"/>	インフラネットワーク		2							1			
	材料	<input type="radio"/>				維持管理工学	2						1					
			<input type="radio"/>				耐震工学	2							1			
	土質	<input type="radio"/>				地盤工学	2						1					
			<input type="radio"/>				土木地質学	2							1			
	水理	<input type="radio"/>				流体理論	2						1					
				<input type="radio"/>			海岸工学	2							1			
	土・水			<input type="radio"/>			災害メカニズム	2								1		
				<input type="radio"/>			構造デザイン	2						1				
	計画・マネジメント	<input type="radio"/>					インフラマネジメント論	2								1		
	運輸	<input type="radio"/>					モビリティデザイン	2						1				
			<input type="radio"/>				運輸施設工学	2								1		
環境衛生	<input type="radio"/>					環境工学	2						1					
		<input type="radio"/>				環境保全工学	2									1		

カリキュラム・マップ

養成する人材の全体像

土木工学の専門知識および関連技術を修得するとともに、種々のプロジェクト推進を体験することにより、主体的に環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する観点から、地域社会の課題を発見し、他者と連携して課題解決に取り組む実践力を養う。ここから得られた広範な視野と能動的な行動力を礎として、社会基盤整備や防災・減災の発展に貢献できる人材を養成する。

学年 学期	DP1 知識・理解				DP2 思考・判断				DP3 関心・意欲				DP4 態度				DP5 技能・表現			
	科目名	類	必選	単位	科目名	類	必選	単位	科目名	類	必選	単位	科目名	類	必選	単位	科目名	類	必選	単位
4年 後期																	卒業研究2	Ⅲ類	必	2
4年 前期	環境安全工学	Ⅲ類	選	2													卒業研究1	Ⅲ類	必	2
3年 後期	インフラマネジメント論 運輸施設工学	Ⅲ類 Ⅲ類	選 選	2 2	耐震工学 土木地質学	Ⅲ類 Ⅲ類	選 選	2 2	災害メカニズム 海岸工学	Ⅲ類 Ⅲ類	選 選	2 2	科学技術者の倫理 品質工学入門 財務システム入門 インフラネットワーク	Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅲ類	選 選 選 選	2 2 2 2				
3年 前期	現代生活論 暮らしのなかの憲法 維持管理工学 地盤工学 流体力学 構造デザイン モビリティデザイン 環境工学	Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅲ類 Ⅲ類 Ⅲ類 Ⅲ類 Ⅲ類 Ⅲ類	選 選 選 選 選 選 選 選	2 2 2 2 2 2 2 2	土木計画学演習	Ⅲ類	必	2	就職準備ガイダンス	Ⅰ類	選	1	就職準備ガイダンス 健康の科学 環境と新エネルギー 静岡防災まちづくりプロジェクト	Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅲ類	選 選 選 必	1 2 2 2	英語コミュニケーション	Ⅰ類	選	2
2年 後期	芸術論 土木工学実験2 土木計画学	Ⅰ類 Ⅲ類 Ⅲ類	選 必 必	2 2 2	社会学 地域実践活動 工業材料とその性質 コンクリート構造 土質力学演習 水理学演習 構造力学演習	Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅲ類 Ⅲ類 Ⅲ類 Ⅲ類	選 選 選 必 必 必 必	2 1 2 2 2 2 2					スポーツ2	Ⅰ類	選	1	Advanced English 4 General English 4 土木工学実験2	Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅲ類	選 選 必	2 2 2
2年 前期	心理学 経済学 地球科学 微分方程式 ベクトル解析 物理学2 測量実習 土木工学実験1 建設材料工学 土質力学 水理学 構造力学	Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅲ類 Ⅲ類 Ⅲ類 Ⅲ類 Ⅲ類 Ⅲ類	選 選 選 選 選 選 必 必 必 必 必 必	2 2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2	歴史学	Ⅰ類	選	2	データサイエンス概論 プログラミング応用 減災社会デザインプロジェクト	Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅲ類	選 選 必	2 1 2	実践技術者講座 インターンシップ	Ⅰ類 Ⅰ類	選 選	1 1	Advanced English 3 General English 3	Ⅰ類 Ⅰ類	選 選	2 2
1年 後期	文化と文明 中国語2 韓国語2 微分積分/演習A 微分積分/演習B 応用数学 理工系教養の数学 物理学1 化学 生物学 測量学	Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅲ類	選 選 選 選 選 選 選 選 選 選 選 必	2 2 2 3 3 2 2 2 2 2 2 2	建築の技術と文化 政治学	Ⅰ類 Ⅰ類	選 選	2 2	地域学 プログラミング入門 コンピュータ構成概論 地球災害プロジェクト	Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅲ類	選 選 選 必	1 1 2 2	環境化学	Ⅱ類	選	2	Advanced English 2 General English 2	Ⅰ類 Ⅰ類	選 選	2 2
1年 前期	文学 国際関係論 中国語1 韓国語1 特別共同講義 特別集中講義 理工系教養の課題研究 日本語表現法 基礎数学 微分積分/演習 線形代数/演習 土木工学数理演習	Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅱ類 Ⅲ類	選 選 選 選 選 選 選 選 選 選 選 必	2 2 2 2 2 2 2 3 3 3 2	国際関係論	Ⅰ類	選	2	コンピュータ入門	Ⅱ類	必	1	フレッシュマンセミナー スポーツ1 インターネットと情報倫理 スポーツ3 スポーツ4 土木工学概論	Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅲ類	必 選 選 選 選 必	2 1 2 1 1 2	Advanced English 1 General English 1 国際PBL 海外語学研修 理工系教養の英語	Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類 Ⅰ類	選 選 選 選 選	2 2 1 1 2

カリキュラム・ポリシー
 (1) 土木工学の諸分野（構造・材料・地盤・水理・計画・環境）を体系的に学ぶカリキュラムを編成する。
 (2) 主体的に地域・社会の課題を発見し、他者と連携して課題解決に取り組む実践力を養うためのプロジェクト科目を配置する。

アドミッション・ポリシー
 知識・理解 土木工学を学ぶために必要な基礎的な学力を有している。
 思考・判断 物事を多面的に考察し、自分の考えを論理的にまとめることができる。
 関心・意欲 諸領域に関心を持ち、新しい知識や技術を積極的に学ぶ意欲を有している。
 態度 主体的、実践的に知識および技術を学ぶ姿勢を有する。
 技能・表現 自らの考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる。

土木工学科カリキュラム(履修モデル)

必修・選択必修科目 卒業要件において「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類どこからでも取得可能」な30単位を満たすための科目
学則で定める卒業要件における各級の最低履修単位数を満たすための科目

類	分野系統	1年				2年				3年				4年			
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
		科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
Ⅰ類	やらまいか	フレッシュマンセミナー	1														
	保健体育	スポーツ1	1							健康の科学	2						
	外国語	General English 1	2	General English 2	2	General English 3	2	General English 4	2								
		中国語1	2	中国語2	2												
	人文	文学	2	文化と文明	2					現代生活論	2						
	社会	国際関係論	2	地域学	1	経済学	2										
	キャリア形成					実践技術者講座	1			就職準備ガイダンス	1						
自然・科学技術				建築の技術と文化	2						科学技術者の倫理	2					
Ⅰ類単位数 計		10		9		5		2		5		2					
Ⅱ類	数学	微分積分/演習	3	応用数学	2	微分方程式	2										
		線形代数/演習	3			ベクトル解析	2										
	理学			物理学1	2												
	情報系基礎	コンピュータ入門	1	プログラミング入門	1												
理工学系基礎			環境学	2	工業材料とその性質	2	環境と新エネルギー	2									
Ⅱ類単位数 計		7		7		4		2		2							
Ⅲ類 (専門科目)	土木工学全般	土木工学概論	2											卒業研究1	2	卒業研究2	2
		土木工学数理演習	2	測量学	2	測量実習	1										
	プロジェクト			地球災害プロジェクト	2	減災社会デザインプロジェクト	2			静岡防災まちづくりプロジェクト	2	インフラネットワーク	2				
	材料					建設材料工学	2	コンクリート構造	2	維持管理工学	2	耐震工学	2				
	土質					土質力学	2	土質力学演習	2	地盤工学	2	土地質学	2				
	水理					水理学	2	水理学演習	2	流体理論	2	災害メカニズム	2				
												海岸工学	2				
	構造					構造力学	2	構造力学演習	2	構造デザイン	2						
	計画・マネジメント							土木計画学	2	土木計画学演習	2	インフラマネジメント論	2				
	運輸									モビリティデザイン	2	運輸施設工学	2				
	実験					土木工学実験1 ※水理・土質	2	土木工学実験2 ※材料・構造	2								
	環境衛生									環境工学	2			環境保全工学	2		
	Ⅲ類単位数 計		4		4		13		12		16		14		4		2
取得単位数合計		21		20		22		16		23		16		4		2	

		卒業要件	履修モデルにおける取得状況
Ⅰ類 (人間・文化系)	必修	3	3
	選択必修	8	8
	選択	12	12
Ⅱ類 (専門基礎科目)	必修	1	1
	選択必修	3	3
	選択	8	8
Ⅲ類 (専門科目)	必修	41	41
	選択必修	0	0
	選択	18	18
Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類どこからでも		30	30
合計		124	124

省略

1. 書類名

資料 13 (p. 24)
図書館整備計画

インターンシップ覚書締結企業等リスト

No	企業名等	協定書等締結日
1	㈱エイビーアイコーポレーション	2002/7/1
2	シンドラーエレベータ㈱	2002/7/3
3	駿河精機㈱	2002/7/3
4	創輝㈱	2002/7/4
5	オーム電機㈱	2002/7/5
6	㈱クリアテック	2002/7/8
7	静岡製機㈱	2002/7/8
8	袋井衛生センター(クリーンピアあいの)	2002/7/10
9	㈱樺葉鉄工所	2002/7/11
10	㈱トダックス	2002/7/12
11	㈱メルコ	2002/7/12
12	㈱丸真電子	2002/7/15
13	リンナイテクノカ㈱	2002/7/17
14	ヤマハメタニクス㈱	2002/7/18
15	NPO法人 たすけあい遠州	2002/7/24
16	㈱スズキブラ	2002/7/29
17	アイエス精機㈱	2002/8/1
18	NSKワーナー㈱	2002/8/1
19	コニカミノルタケミカル㈱	2002/8/1
20	第一工業㈱	2002/8/1
21	㈱ディー・ジェイエス	2002/8/1
22	ニチアス㈱袋井工場	2002/8/1
23	㈱フローチ研削工業所	2002/8/1
24	鈴与㈱	2010/8/11
25	矢崎総業㈱	2019/8/5
26	(社)福明和会 袋井学園	2002/8/26
27	㈱静岡技研	2003/7/16
28	新日本特機㈱	2003/7/16
29	㈱アクティ森	2003/7/18
30	㈱遠鉄百貨店	2003/7/22
31	㈱エイエイビー	2003/7/23
32	㈱クリタス 袋井事業所	2003/7/23
33	大学産業㈱	2003/7/24
34	㈱バイオニア・ディスプレイ・プロダクツ	2003/7/24
35	㈱フジユニバンス	2003/7/24
36	㈱エフ・シー・シー 竜洋工場	2003/7/30
37	ボークラ化成工業㈱袋井工場	2003/7/31
38	理仁薬品㈱	2003/7/31
39	㈱磐田グランドホテル	2003/8/1
40	ヤマハモーターエレクトロニクス㈱	2004/7/20
41	やまと興業(株)	2004/7/21
42	高砂香料工業㈱磐田工場	2004/7/24
43	袋井市月見の里 学遊館	2004/7/27
44	大塚ペパレジ㈱袋井工場	2004/7/28
45	日本ジュークリング㈱	2004/8/1
46	㈱小楠金属工業所	2004/8/2
47	千歳産業㈱	2004/8/2
48	袋井市	2004/8/6
49	菊川市消防本部	2004/8/24
50	㈱大井川電機製作所	2005/7/6
51	(株)小出製作所	2005/7/6
52	ショーダテクトロン㈱	2005/7/6
53	松本印刷㈱	2005/7/6
54	㈱静岡新聞社	2005/7/7
55	㈱白木機械設計	2005/7/7

No	企業名等	協定書等締結日
56	(有)トライアルプロモーション	2005/7/7
57	ユニクラフトナグラ㈱	2005/7/7
58	㈱静岡制御	2005/7/8
59	テイボ㈱	2005/7/9
60	㈱ミント	2004/7/10
61	㈱スギノマシン工具事業部	2005/7/11
62	浜ニベイト㈱	2005/7/12
63	㈱増田鉄工所	2005/7/12
64	エスカ工業㈱	2005/7/16
65	西島(株)	2005/7/18
66	法多山尊永寺	2005/8/1
67	生活協同組合コープしずおか	2005/8/8
68	㈱エヌエスティー	2006/7/11
69	浜松光電㈱	2006/7/11
70	㈱マルタカテクノ	2006/7/11
71	榎本工業㈱	2006/7/13
72	㈱畠山製作所	2006/7/13
73	㈱ヒューモラボラトリー浜松工場	2006/7/13
74	ナンヨー(株)	2006/7/14
75	矢崎化工㈱	2006/7/18
76	㈱浅沼技研	2006/7/21
77	三明機工㈱	2006/7/24
78	静岡県サッカー協会グループ エコパハウス	2006/7/24
79	浜松ケーブルテレビ㈱	2006/7/26
80	磐田信用金庫	2006/7/28
81	中遠電子工業㈱	2006/8/4
82	ミネベア㈱	2006/8/10
83	㈱遠州日石	2007/7/17
84	㈱ロジック	2007/7/17
85	㈱相良プラスチック工業所	2007/7/18
86	㈱システム・フジ	2007/7/19
87	日星電気㈱	2007/7/19
88	メガロ化工㈱	2007/7/19
89	㈱クレステック	2007/7/20
90	静岡ビルサービス㈱	2007/7/20
91	浜松鉄工㈱	2007/7/20
92	㈱ビコ・ナレッジ	2007/7/20
93	富士ゼロックス静岡㈱	2007/7/20
94	㈱ユニバンス	2007/8/7
95	大和鍛工㈱	2007/8/20
96	エルソルプロダクツ㈱	2007/8/30
97	㈱エキスパートパワーシズオカ	2008/7/10
98	サクラ工業㈱	2008/7/11
99	アイティ・インターナショナル㈱	2008/7/14
100	天方産業㈱	2008/7/14
101	神谷理研㈱	2008/7/14
102	中部大王製紙パッケージ㈱	2008/7/14
103	東海精工㈱	2008/7/14
104	日本ビニロン㈱	2008/7/14
105	㈱ワイケーデザインリンク	2008/7/14
106	㈱赤堀技研	2008/7/16
107	三明電子産業㈱	2008/7/18
108	㈱藤田鐵工所	2008/7/18
109	㈱山下金型	2008/7/18
110	㈱ROKI	2008/7/18

No	企業名等	協定書等締結日
111	(株)キャタラー	2008/7/23
112	ASTI(株)	2008/7/24
113	(株)上島電興社	2008/8/31
114	大和染工(株)	2009/7/10
115	化工機プラント環境エンジニア(株)	2009/7/10
116	(株)汐見製作所	2009/7/15
117	(株)コーリツ	2009/7/15
118	(株)アイゼン	2009/7/17
119	(社福)明和会 あきは寮	2009/7/17
120	(株)アーレスティプリティック	2009/7/21
121	牧之原市役所	2009/8/5
122	(株)アーティス	2010/8/2
123	NTN(株) 磐田製作所	2010/8/2
124	(株)コバテック	2010/8/2
125	(株)大進堂	2010/8/2
126	日本軽金属(株) 0812035高田尚征分	2010/7/30
127	(株)赤松電気	2010/8/3
128	NNP電子(株)	2010/8/2
129	(株)オーミ	2010/8/2
130	川崎工業(株)	2010/8/2
131	(株)コーヨー化成	2010/8/3
132	静岡シブヤ精機(株)	2010/8/2
133	(株)ジャパン・ミヤギ	2010/8/3
134	羽立工業(株)	2010/8/2
135	(株)メカワールド	2010/8/3
136	山崎工業(株)	2010/8/3
137	遠州鉄道(株)グループ	2010/8/17
138	鈴与システムテクノロジ(株)	2010/8/11
139	リゾートトラスト(株)グランドエクシブ浜名湖	2010/8/1
140	(株)ロック・フィールド静岡ファクトリー	2010/8/12
141	川合肥料(株)	2010/8/30
142	静岡市 日本平動物園	2010/10/4
143	アイバルス(株)	2011/7/28
144	遠藤化学(株)	2011/7/27
145	(株)かきこや	2011/8/4
146	ダイハツ沼津販売(株)	2011/7/29
147	(株)ふじかわコーポレーション	2011/7/26
148	(有)村松研磨工業	2011/8/18
149	静岡市	2011/8/1
150	豊橋市	2012/7/9
151	静岡県中小企業家同友会	2012/7/27
152	(株)ダスキン富士宮	2012/7/27
153	(農)茶夢茶夢ランド菅山園	2012/7/27
154	不二工機製造(株)	2012/8/3
155	(株)カンセツ	2012/8/6
156	(株)早川製作所	2012/8/6
157	CDS(株)	2012/7/13
158	(株)ウインウイン	2012/8/6
159	(株)静鉄ストア	2012/8/6
160	竹原産業(株)	2012/8/1
161	(株)田子重	2012/8/6
162	(株)ホンダカーズ静岡西	2012/8/5
163	佐藤農園	2012/8/3
164	(有)ヒップアップ	2012/8/1
165	(有)巴川加工所	2012/8/1

No	企業名等	協定書等締結日
166	(株)吉和田浜松	2012/8/2
167	社会福祉法人 遠州厚生園 特別養護老人ホーム遠州の園	2013/8/1
168	掛川市役所 総務部総務課	2015/7/24
169	(医)光久会	2013/8/1
170	コニカミノルタケミカル株式会社	2013/8/1
171	島田市役所	2013/7/31
172	社会福祉法人春風会 あしたかホーム	2013/8/2
173	高松電機株式会社	2013/8/1
174	茶夢茶夢ランド菅山園(茶)	2013/8/1
175	東名電機株式会社	2013/8/2
176	豊川信用金庫	2013/7/31
177	浜松ファイナンシャルプランナーズ事務所株式会社	2013/7/30
178	株式会社富士セラミックス	2013/8/1
179	ベルファーム株式会社	2013/8/5
180	株式会社マイビリーブ	2013/9/6
181	株式会社マジオネット マジオリビングスクール藤枝	2013/8/4
182	藤枝市役所	2013/7/17
183	株式会社アイクリエイティブ	2013/7/21
184	株式会社平成工業	2013/7/21
185	焼津市役所	2013/7/26
186	石原水産株式会社	2014/7/29
187	株式会社木村鋳造所	2014/7/25
188	株式会社サンテック	2014/7/24
189	株式会社システック	2015/8/6
190	株式会社鈴英	2014/7/24
191	株式会社セイユー 富士芝川工場	2014/8/11
192	大学産業株式会社	2014/7/29
193	タイコエレクトロニクスジャパン合同会社	2014/8/26
194	東海サーモエンジニアリング株式会社	2014/7/28
195	株式会社日本平ホテル	2014/7/24
196	富士川まちづくり株式会社	2014/7/26
197	ホットファーム株式会社	2014/7/28
198	株式会社ホテル銀水荘	2014/7/24
199	株式会社ホンダクリオ富士	2014/7/25
200	ユニ・チャームプロダクツ株式会社	2014/8/1
201	六興電気株式会社	2014/7/29
202	フェイスラボ株式会社	2014/12/5
203	杉山メディアサポート株式会社	2015/3/3
204	(株)レオパレス21	2015/6/29
205	富士市役所	2015/7/17
206	菊川市役所	2015/7/30
207	株式会社ブレテック	2015/7/23
208	株式会社マイスターエンジニアリング	2015/7/24
209	ユニインフォーメーション株式会社	2015/7/27
210	株式会社田島鐵工所	2015/7/23
211	株式会社特電	2015/7/31
212	豊橋鉄道株式会社	2015/7/31
213	サイダ・UMS	2015/7/28
214	社会福祉法人 聖隷福祉事業団	2015/8/4
215	株式会社RST	2015/8/8
216	株式会社出雲殿	2015/7/27
217	小泉アフリカ・ライオン・サファリ株式会社	2015/8/13
218	アート電子株式会社	2016/8/2
219	株式会社アットエフ	2016/8/2

No	企業名等	協定書等締結日
220	株式会社恭和	2016/8/10
221	クオリテックファーマ株式会社	2016/8/3
222	サイバーエリアリサーチ株式会社	2016/8/2
223	三栄ハイテックス株式会社	2016/8/11
224	株式会社食鮮館タイヨー	2016/8/5
225	株式会社スペースクリエーション	2016/8/2
226	中部フーズ株式会社	2016/8/5
227	株式会社テクノサイト	2016/8/3
228	株式会社東横イン	2016/8/5
229	株式会社ニッパ	2016/8/3
230	株式会社ハウジーホームズ	2016/8/4
231	株式会社浜松ハイテック工業	2016/8/8
232	袋井設備株式会社	2016/8/2
233	株式会社富士ホンダ	2016/8/2
234	株式会社メガネ流通センター	2016/8/8
235	山梨金属工業株式会社	2016/8/3
236	株式会社ユーシ・イレブン	2016/8/3
237	株式会社Link・ambition	2016/8/8
238	株式会社ワールドエンジニアリング	2016/8/3
239	株式会社親和製作所	2016/8/2
240	トッパン・フォームズ東海株式会社	2016/8/26
241	株式会社ヒノデ スーパーオートボックス静岡中原	2016/8/1
242	大石建設株式会社	2017/7/14
243	株式会社オートベル	2017/7/14
244	株式会社コーワメックス	2017/7/21
245	株式会社サカエ金型工業	2017/7/14
246	株式会社ノダ	2017/7/20
247	株式会社ワイエムジー	2017/7/17
248	株式会社ハマキョウレックス	2017/8/1
249	井上建設株式会社	2018/7/2
250	株式会社イハラ製作所	2018/6/29
251	鹿島木材株式会社	2018/6/27
252	岸本工業株式会社	2018/7/11
253	株式会社KYOWAエンジニアリング・ラボラトリー	2018/6/26
254	株式会社三協	2018/7/12
255	鈴与建設株式会社	2018/7/4
256	静和工業株式会社	2018/7/17
257	戸塚建設株式会社	2018/6/28
258	橋本エンジニアリング株式会社	2018/7/4
259	平井工業株式会社	2018/7/9
260	株式会社藤本組	2018/7/5
261	株式会社マルハナ	2018/6/29
262	株式会社若杉組	2018/7/5
263	磐田市役所	2018/6/25
264	袋井市役所	2018/7/11
265	株式会社ユニテック	2018/7/27
266	第一精工株式会社 静岡事業所	2018/7/31
267	ヤマハモーターエレクトロニクス株式会社	2018/9/7
268	株式会社アイジーコンサルティング	2018/9/7
269	株式会社赤阪鐵工所	2019/7/10
270	株式会社アステクノス	2019/7/22
271	石川建設株式会社	2019/7/17
272	ウィングホーム株式会社	2019/7/11
273	株式会社エー・アンド・エー総合設計	2019/7/11
274	株式会社エスエスシー	2019/7/18
275	木内建設株式会社	2019/7/18

No	企業名等	協定書等締結日
276	株式会社建設コンサルタントセンター	2019/7/10
277	五光建設株式会社	2019/7/31
278	サカイ産業株式会社	2019/7/13
279	三甲株式会社東海工場	2019/8/22
280	須山建設株式会社	2019/7/12
281	静甲株式会社	2019/7/10
282	ソフトブレン工業株式会社	2019/7/10
283	株式会社タジマモーターコーポレーション タジマ袋井国際次世代自動車センター	2019/7/31
284	株式会社中遠熱処理技研	2019/7/11
285	ディエスピーテクノロジー株式会社	2019/7/11
286	株式会社東和テック	2019/7/18
287	常盤工業株式会社	2019/7/10
288	株式会社豊橋園芸ガーデン	2019/7/11
289	中村建設株式会社	2019/7/11
290	有限会社西井構造設計事務所	2019/7/10
291	株式会社橋本組	2019/7/18
292	株式会社浜建	2019/7/11
293	株式会社フジイチ	2019/7/11
294	富士山静岡空港株式会社	2019/8/7
295	ヘルツ電子株式会社	2019/7/16
296	マックスパリュ東海株式会社	2019/7/18
297	株式会社ミヤキ	2019/7/10
298	株式会社山田工務店	2019/7/12
299	株式会社ランドデザイン	2019/7/11
300	伊東市役所	2019/8/9
301	静岡県庁	2019/7/29
302	秋山興業株式会社	2020/7/27
303	アプレスト株式会社	2020/7/28
304	インハラ株式会社	2020/8/5
305	株式会社大瀧建築事務所	2020/8/5
306	株式会社北野製作所	2020/7/31
307	共栄建設株式会社	2020/7/29
308	ケイ・アイ化成株式会社	2020/8/3
309	株式会社小林製作所	2020/7/27
310	サンベース株式会社	2020/8/4
311	JX金属プレジジョンテクノロジー株式会社 掛川工場	2020/7/28
312	株式会社中村組	2020/7/28
313	株式会社ニッケー工業	2020/8/5
314	株式会社ファーストストーリー	2020/8/5
315	フジオーゼックス株式会社	2020/8/3
316	松浦梱包輸送株式会社	2020/7/28
317	丸明建設株式会社	2020/7/28
318	山本建設株式会社	2020/7/27

資料15 海外提携大学一覧

海外提携大学一覧

NO	国・地域	大学名
1	ブラジル	Instituto Tecnológico de Aeronáutica (ITA)
2	韓国	全南大学校 (アラン・G・マクダミアット エネルギー研究所)
3	韓国	大邱大学校
4	韓国	国民大学
5	台湾	国立高雄科技大学
6	台湾	南台科技大学
7	台湾	聖約翰科技大学 (St. John's University)
8	中国	浙江工商大学
9	中国	浙江理工大学
10	中国	浙江科技学院
11	中国	中国計量学院
12	中国	浙江越秀外国語学院
13	中国	江蘇大学
14	中国	南通大学
15	中国	南通理工学院
16	中国	佛山科学技術学院

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	・・・ p.2
① 学生の確保の見通し	・・・ p.2
ア 定員充足の見込み	・・・ p.2
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	・・・ p.4
ウ 学生納付金の設定の考え方	・・・ p.6
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	・・・ p.6
(2) 人材需要の動向等社会の要請	・・・ p.7
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	・・・ p.7
② 上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえた ものであることの客観的な根拠	・・・ p.8

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア) 定員充足の見込み

今般、令和4(2022)年4月1日に新設学科として理工学部に「土木工学科」(令和3年6月、学部の学科の設置届出書を提出)を入学定員50名、収容定員200名で開設する予定である。本学の土木工学科の入学定員の設定の考え方は、東海地域(静岡県、愛知県、岐阜県、三重県)の高校生の人数の推移、東海地域(静岡県、愛知県、岐阜県、三重県)の高校生の大学進学率、工学分野の全国学生数及び静岡県内の学部・学科の設置状況、既設の学部学科の学生確保の状況、本学入学者の東海地域(静岡、愛知県・岐阜県・三重県)出身者の割合、第3者機関による高校生への入学意向調査、類似する学部学科を有する近隣の大学の志願者状況、本学の施設設備の整備、教員配置等から考える教育の質などを総合的に勘案して、入学定員を50名としていることから、十分な学生確保を見込むことができると判断している。

・東海地域(静岡県、愛知県、岐阜県、三重県)の高校生の人数の推移

令和2年度学校基本調査(資料1)から、東海地域(静岡県、愛知県、岐阜県、三重県)における(18歳人口)の推移予測を算出すると、今後数年間は、多少の増減を繰り返しながらも、今後もほぼ同程度で推移すると思われる。全国の18歳人口がゆるやかな減少となると同じく、減少傾向とはなるが、特に静岡県は減少も少なく、5年後でも一定数の18歳人口があると想定される。

・東海地域(静岡県、愛知県、岐阜県、三重県)の高校生の大学進学率

令和2年度の学校基本調査(資料2)によると、東海地域の高校生の大学進学率は、静岡県53.4%、愛知県59.0%、岐阜県56.1%、三重県51.1%となっており、全国平均55.8%と比較して、ほぼ同程度の水準となっている。全国の大学進学率は、増加傾向を示しており、東海地域でも全国と同調して推移すると想定される。

・工学分野の全国学生数及び静岡県内の学部・学科の設置状況

令和2年度学校基本調査(資料3)によると、全国の大学学生数は約262万3千人であり、このうち、工学の「土木建築工学」の学生数は約5万5千人であることから、大学全体での「土木建築工学」の占める学生数の割合は約2.0%となる。

静岡県内には工学分野の大学・学部は少なく(国立大学法人1校と本学のみ)、工学系の土木工学科は設置されていない状況である。静岡県でも土木建築工学分野に進学する人数は、全国と同程度の割合でいるとすれば、現在はそのほとんどが県外流出していると考えられる。例えば、資料1における令和4年度の静岡県の高校3年生の約3万1千人の内、大学への進学者はそのうちの53.4%とすると約1万6千人、そのうちの2.0%の約331人が「土木建築工学」の分野に進学していると推測される。さらに、令和2年度の学校基本調査によれば、静岡県内の高校生の地元の大学への進学率(資料4)は58.9%であることから、331人中の約194人が「県内の土木建築工学」関係の学部学科へと進学する可能性があるといえ、これは本学の設定する入学定員50人の3.88倍となる。近年、大学進学に際し、県内への残留率は増加傾向であり、今後も、県内高校への募集活動に特に注力することで、この分野を志望する県内の高校生にとって受け皿となることができ、県外への流出防止に繋がると考える。

なお、「土木建築工学」分野は、生徒からの人気の高い「建築」も含まれている。本学は平成29(2017)年度に「建築学科」(入学定員50名)を開設しており、その募集状況は好調で、令和3

(2021) 年度入学者の志願倍率は 7.7 倍であった。その点を踏まえて、今回「土木工学科」を設置することにより、双方への相乗効果が見込まれ、募集活動への好影響は大きいと考える。

・既設の学部学科の学生確保の状況

本学は、理工学部（機械工学科、電気電子工学科、物質生命科学科、建築学科）、情報学部（コンピュータシステム学科、情報デザイン学科）の 2 学部 6 学科で構成されている。過去 5 年間の志願者・入学者状況（資料 5）を示す。志願者数は、理工学部は平成 29（2017）年に 4.2 倍であったのが、令和 3（2021）年度には 7.8 倍に、情報学部は平成 29（2017）年に 3.4 倍であったのが、令和 3（2021）年度は 9.4 倍となっている。平成 29（2017）年度以降、本学の志願者数は順調に増加し、入学者も安定して確保している。令和 3（2021）年度入学生の入学定員超過率が減少したが、これは、全学的に収容定員管理の視点で合格者を絞った結果であったため、各学科が安定した学生確保ができるよう、毎年の傾向の分析と来年度学生確保に向けた対策・取組の検討を継続しながら、過去 5 年の全学的な志願者・入学者の推移などから総合的に判断して学生確保の見通しが十分立つと考える。（資料 6）

・本学入学者の東海地域（静岡県・愛知県・岐阜県・三重県）出身者の割合

次の表に示すとおり、本学の入学者は、静岡県出身者が約 83.8%を占めていることから、静岡県内からの進学者が中心であり、今後もこの傾向は継続すると考えられる。さらに愛知、岐阜、三重県の東海地域の高校からの進学者の割合は、近年増加傾向にあり、静岡県のみならず、近隣の地域からの学生の確保についても注力している。特に愛知県と岐阜県からの学生の割合は増えてきており、募集戦略による本学の認知度の向上が一因と考えられる。今後も他の地域の高校生への積極的な募集活動を展開していくことで、東海地域における本学の認知度向上が促進されると考えられる。

【入学者に占める静岡県内高校出身者の割合】

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	平均
入学者数（人）	309	393	475	442	418	285	387
静岡県内高校出身者数（人）	280	346	387	357	338	252	327
静岡県内高校出身者割合（%）	90.6	88.0	81.5	80.8	80.9	88.4	84.4

【入学者に占める東海地域（愛知県、岐阜県、三重県）内高校出身者の割合】

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	平均
入学者数（人）	309	393	475	442	418	285	387
愛知県内高校出身者数（人）	10	20	35	27	20	8	20
岐阜県内高校出身者数（人）	1	10	6	9	21	4	9
三重県内高校出身者数（人）	2	5	4	10	5	1	5
東海地域の高校出身者割合（%）	4.2	8.9	9.5	10.4	11.0	4.6	8.5

・第 3 者機関による高校生への入学意向調査

令和元年に「静岡理工科大学理工学部土木工学科（仮称）への高校生の入学意向に関するアンケート調査」（資料 7）を、令和 4 年度大学進学対象となる静岡県内の公立・私立の高校 2 年生 18,585 人（有効回答 12,376 人）に実施した。なお、アンケートでは、設置計画の概要を記載したリーフレットも併せて配布して実施した。

アンケート結果より、「理工学部土木工学科への入学意向について」は、静岡理工科大学理工学部土木工学科へ「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 170 人であった。土木工学科の入学定員 50 人に対して 3.4 倍の入学意向を確保しているといえる。また、「入学を希望する」、「入学を検討する」

と回答した高校2年生が、合算で902人いることから、静岡理科大学理工学部土木工学科の入学定員50名に対して約18.0倍の入学意向を示したといえる。さらに、「理工学部土木工学科への受験意向について」と「理工学部土木工学科への入学意向について」の調査結果のクロス集計を実施したところ、「受験してみたい」と回答した上で、「入学を希望する」と回答した高校2年生が71人となり、土木工学科の入学定員50名に対して約1.4倍の入学意向を確保している。このことから、土木工学科の入学定員を満たす学生は確保できるものと考えられる。

・類似する学部学科を有する近隣の大学の志願者状況

本学が設置を考える理工学部土木工学科と類似し、地理的に競合が予想される近隣4県（静岡、東京、神奈川、愛知）に設置され、さらに偏差値、学費等を踏まえて、総合的に鑑みて、本学と競合すると判断した大学（資料8）について、各大学の該当学科の過去3年間の志願倍率（資料9）は、2018年度4.0～10.1倍、2019年度4.7～14.5倍、2020年度5.0～12.2倍となっており、高い倍率を保っている。

・施設設備の整備

本学では、理工系大学の教育にふさわしい校舎、実習・実験室などの教育環境を整えている。本学の校地等面積は、204,301㎡で、土木工学科設置後の大学設置基準上必要な校地等面積を十分に確保している。土木工学科設置に伴い、校舎等を建設する計画であるが、新校舎建設後の校舎面積は、31,114㎡で、設置後の大学設置基準上必要な校舎面積を十分に確保している。学生の休息その他利用のためのスペースとしては、講義室の他、図書館、学生ホール、工作センター、食堂等の全学で共通する施設については、土木工学科設置後も対応できるものを整備してきており、適切な教育研究環境を保っている。

・教員配置等

土木工学科の設置に伴って、該当学科の教員（8名うち教授5名）は、大学設置基準に定められる専任教員数（8名うち教授4名）を備えている。これにより、少人数教育等のきめ細かい指導を充実させながら、質の高い教育研究環境が担保される。

以上のことから、総合的に判断し、本学の設定した入学定員50名を確保する見通しは充分にあるといえる。

イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

客観的根拠となるデータの概要は以下の通りである。

（資料1）東海地域（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）における（18歳人口）の推移予測

文武科学省「令和2年度学校基本調査」における高等学校（通信教育を含む）「表番号135 学年別生徒数」の本科の高校2年生、1年生の男女合計データ及び、中学校「表番号75 学年別生徒数」の中学校3年生、2年生、1年生の男女合計データから、東海地域（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）について、人数を算出した。令和2年度高校2年生が、大学入学対象年度となるのは、令和4年度であるから、順に5年間分の予測として記載した。

（資料2）東海地域（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）の高校生の大学進学率

文部科学省「令和2年度学校基本調査」における高等学校（全日制・定時制）の「表番号281 状況別卒業生数」から、各都道府県の大学等進学率を抽出した。大学進学率は、東海地域は、全国水準とほぼ同じである。

(資料3) 工学分野の全国学生数

文部省「令和2年度学校基本調査」における大学・大学院の「表番号10 関係学科別学生数」から抽出した。「工学分野」は、「社会科学」に次ぐ2番目に大きい分野であり、その「工学分野」の中で「土木建築工学」は3番目に大きい分野となっている。

(資料4) 高校生の県内大学進学率

文部省「令和2年度学校基本調査」における大学・大学院の「表番号10 関係学科別学生数」から一部抽出し、算出した。

(資料5) 既設学部・学科の学生確保の状況

既設の理工学部（機械工学科、電気電子工学科、物質生命科学科、建築学科）、情報学部（コンピュータシステム学科、情報デザイン学科）の2学部6学科の過去5年間分の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員超過率を算出し、定員超過率で、さらに5年間での平均は1.15未満となっている。なお、令和3年度入学生については、収容定員管理の視点で合格者を絞った結果、入学定員超過率が下がったものの、5年前と比べて志願者数は増加傾向を示しており、学生確保の見通しが十分立つと判断している。

(資料6) 既設学部・学科の学生確保の状況

前述（資料5）のデータをグラフ化したもので、平成29年以降、志願者数等は増加傾向となっている。

(資料7) 第三者機関による高校生への入学意向調査

《調査概要》

1) 調査目的

令和4年4月に予定している静岡理工科大学理工学部土木工学科(仮称)の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する静岡理工科大学理工学部土木工学科(仮称)への入学意向を把握することを目的とした。

2) 調査対象高等学校及び対象者

大学の近隣に所在する高等学校、または、静岡理工科大学に進学実績のある高等学校を中心に、静岡県に所在する高等学校の在学者で令和4年度大学進学対象となる高校2年生。

3) 調査方法

近隣に所在する高等学校、または、静岡理工科大学に進学実績のあるものを中心とした高等学校61校に18,585人分のアンケート用紙及び静岡理工科大学理工学部土木工学科(仮称)の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施した。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高等学校から直接郵送した。

この結果、高校2年生12,376人から有効回答（有効回収率約66.6%）があった。

4) 調査実施期間

令和2年10月～令和2年12月

5) 有効回収率等

調査対象者数：高等学校61校18,585人

有効回答者数：高等学校57校12,434人の回答のうち、高校2年生12,376人

有効回収率：約66.6%（有効回答者12,376人÷調査対象者18,585人）

6) 調査項目

資料6 p12-13 調査票を参照

7) 調査結果（概要）

設問「理工学部土木工学科への入学意向について」は、静岡理工科大学理工学部土木工学科へ

「入学を希望する」と回答した高校2年生は170人であった。土木工学科の入学定員50人に対して3.4倍の入学意向を確保しているといえる。また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生が、合算で902人いることから、静岡理工科大学理工学部土木工学科の入学定員50名に対して約18.0倍の入学意向を示したといえる。

さらに、設問「理工学部土木工学科への受験意向について」と設問「理工学部土木工学科への入学意向について」の調査結果のクロス集計を実施したところ、「受験してみたい」と回答した上で、「入学を希望する」と回答した高校2年生が71人となり、土木工学科の入学定員50名に対して約1.4倍の入学意向を確保している。調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、静岡理工科大学理工学部土木工学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものとの報告であった。

8) 調査機関

一般財団法人 日本開発構想研究所

(資料8) 類似する近隣の大学・学部・学科の一覧

本学が設置を考える理工学部土木工学科と類似し、地理的に競合が予想される近隣4県（静岡、東京、神奈川、愛知）に設置され、さらに偏差値、学費等を踏まえて、総合的に鑑みて、本学と競合すると判断した大学についてまとめた。各種データは、当該大学の公式ウェブサイト（2020年8月6日時点）および2020年度全国大学一覧より転載した。

(資料9) 類似する近隣の大学・学部・学科の志願者状況

河合塾 全国進学情報センターが発行する「ガイドライン」（2020年6月号）から、類似する近隣の大学・学部・学科の各試験の志願者数の累計を入学定員で割って志願倍率を算出した。

ウ) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、類似する近隣の大学・学部等の学生納付金の状況（資料8：既出）も参考に、私立大学として完成年度までの収支の均衡を基本として、完成年度における教育研究経費比率や経営経費依存率を見極めつつ、大学の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測等を加味し納付金額を検討した結果、既設の他学科と同額で設定した。近隣の類似する大学・学部等を見ても、本学は比較的により低い納付金額となっており、本学の設置する理工学部土木工学科の学生確保において支障をきたすものではないと判断している。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

ア) 組織的な取り組み体制

本学では、アドミッション・ポリシーに即した受験生を確保できるよう、推薦入試、一般入試、共通テスト利用入試、総合型選抜入試と複数の入学試験種別を用意し、選考方法の工夫を行っている。各入学試験は、「入学試験・AO委員会」の下に置かれた「学力検査委員会」及び「判定委員会」により、試験問題の作成、合否判定等を公正かつ妥当な方法で運営し、入学者の選抜を行っている。

高校生に対しては、「入試広報委員会」により、設置学科の教育内容や特徴等を、大学ホームページ、大学案内等で告知し、説明会やオープンキャンパス等で、説明を行っている。

イ) 具体的な取組み内容・実績は次の通りである。

今年度も引き続き、下記a～eに取り組んでいく。なお、新型コロナウイルス感染症の影響で縮小や中止の可能性もあるが、代替となるオンラインでの取り組みなどを進めていく。

a) 大学案内の作成、配布

各学科の要請する人材像、教育内容と特徴、進路状況、各教員の研究内容とその特徴を紹介した大学案内を、各種説明会やオープンキャンパスなどで配布するほか、ホームページでも紹介し、希

望者への郵送も行っている。

b) 広範囲にわたる高校訪問

静岡県内及び東海地域（愛知県、岐阜県、三重県）さらには山梨県、長野県にかけての広範囲にわたる高校訪問を約 80 校、さらに模擬講義は、約 20 校程度を行っている。また、外部会場で行われる説明会は、対面形式と WEB 形式を合わせて 70 回ほど実施している。そして、大学の近況の報告や情報提供を目的としての高校訪問を、延べ数で 300 回ほど行っている。

c) 高校生向けの説明会や授業見学会

オープンキャンパス以外に、月 1 回程度の割合で、高校生向け大学説明会を実施している。授業の見学会と研究室見学会も年間で 3 回程度実施している。（令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染防止の観点から中止）延べ数で 200 人ほどの参加がある。

d) 高校教員への入試説明会

高校教員を対象とし、学部学科の内容や入試方法等の説明会を、本学及び外部会場にて、年 1 回ずつ実施している。近隣の志願実績の高い高校の教員を中心に 40 校ほどの参加がある。

e) オープンキャンパスの実施実績、内容

通常は夏期に 3 回オープンキャンパスを実施し、延べ人数で 1,300 人程度の参加がある。内容は、模擬授業、施設見学、研究室見学、実験・実習体験、在学生徒の交流会などである。令和 2 年度においては、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、人数制限を行ったため、内容の変更はせずに分散開催で計 6 回おこない、延べ人数で 300 人程度の参加であった。同時に、6 回の WEB オープンキャンパスを開催し、遠方の高校生を中心に視聴者は延べ 400 人程度であった。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学の目的は、学則第 1 条に、次のように定めている。「本学は、学校教育法及び教育基本法に基づき、科学・技術に関する学術を研究教授し、国際的視野と技術者としての使命感を持った向上心溢れる人材の育成、及び実践的創造的研究により社会に貢献することを目的とする。」また、新設する土木工学科を置く理工学部での教育研究上の目的を次のように定めている。「豊かな人間性と「やらまいか精神」及び国際的視野を持ち、理工学分野における基礎・専門知識を身につけ、ものづくりやシステムづくりにその技術及び技能を活用できる人材を養成することを目的とする。」

それらを踏まえ、新設する土木工学科の設置の趣旨は、土木工学を総合的に学ぶことで、土木工学分野において、地域社会に貢献する技術者を育成することであり、教育研究上の目的として以下のよう定めている。

「土木工学の専門知識および関連技術を修得するとともに、種々のプロジェクト推進を体験することにより、主体的に環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する観点から、地域社会の課題を発見し、他者と連携して課題解決に取り組む実践力を養う。ここから得られた広範な視野と能動的な行動力を礎として、社会基盤整備や防災・減災の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。」

さらに、大学の目的や、教育研究上の目的を、より教育現場に即した形で具体化したディプロマ・ポリシーは、学生に修得させる能力を 5 つの項目に分けて定め、具体的内容は次の通りである。

土木工学科ディプロマ・ポリシー

知識・理解：人文・社会分野を含む多様な知識とそれらの有機的なつながりを理解し、また、数学・自然科学および情報技術に関する知識、土木工学および防災工学分野における専門知

識を持ち、実践の場でそれらを活かすことができる。

思考・判断 : 教養・専門知識をもとに多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、さらにそれらを応用して自らの思考で判断することができる。また、与えられた制約の下で論理的な思考・判断のもと計画的に仕事を進めることができる。

関心・意欲 : 主体的且つ継続的に地域社会に関心を持ち、課題を発見し、土木工学および防災工学分野の科学、技術および情報を活用して、地域社会の課題を解決するための計画的な調査・分析及び解決策の立案ができる。

態度 : 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関して理解している。また、自らが社会の一員であることを自覚するとともに、他者との協働の重要性を認識し、そのための基礎的素養としての倫理観・協調性を身に付け、課題解決遂行に向けて取り組むことができる。

技能・表現 : 論理的な記述力、プレゼンテーション能力および討議等のコミュニケーション能力を身に付け、土木工学の方法論に基づき、自らの考えを口頭表現や文章表現によって伝えることができる。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な証拠

ア) 第3者機関による企業等への採用意向調査

本学の理工学部土木工学科の設置構想を進めていく過程で、新設する学科の卒業生の採用意向など人材需要の見通しについて、第3者機関による企業等への調査「静岡理工科大学理工学部土木工学科(仮称)の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査」を実施した。(資料10)

《調査概要》

1) 調査目的

令和4年4月に予定している静岡理工科大学理工学部土木工学科(仮称)の開設に向けて、静岡理工科大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる、1都1府9県(静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、山梨県、長野県、大阪府)に所在する企業等の採用担当者にアンケートを実施し、静岡理工科大学理工学部土木工学科(仮称)の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

2) 調査対象

静岡理工科大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる企業等1,659社の採用担当者にアンケートへの協力を依頼し、839件の有効回答があった。

3) 調査方法

静岡理工科大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる企業等1,659社の採用担当者にアンケート用紙及び静岡理工科大学理工学部土木工学科(仮称)の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答は一般財団法人日本開発構想研究所へ企業等から直接郵送され、集計された。

4) 調査実施期間

令和2年9月～令和2年11月

5) 有効回収率等

配布数 : 1,659社

有効回答者数 : 839社

有効回収率 : 約50.6%

6) 調査項目及び計画概要(リーフレット)

資料10 p14-15 調査票、p17-18 計画概要を参照

7) 調査結果(概要)

静岡理工科大学理工学部土木工学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、設問(9)「理工学部土木工学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、設問

(10)「理工学部土木工学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、設問(9)「理工学部土木工学科の卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

その結果、静岡理工科大学理工学部土木工学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、716人分となる。入学定員は50名であるため、約14.3倍の採用意向を確保できている。また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は1,011人となり、これは、入学定員50名に対して、約20.2倍となる。

8) 調査機関

一般財団法人 日本開発構想研究所

イ) 建設業界の人材不足

建設業は、静岡県内の産業別規模では、「製造業」、「卸売業・小売業」及び「医療・福祉」につづいて、四番目の就業者数の規模がある重要な産業である。建設業の全国就業者数は、平成30(2018)年で約503万人(資料11)、うち静岡県は約13万4千人(平成29(2017)年総務省統計局による就業構造基本調査(静岡県産業別就業者数)(資料12)となっている。今後、建設業は従来の社会基盤整備や維持管理が加速度的に増え(資料13)、防災や環境対策、景観・地域計画、海外受注の増加(資料14)など、需要の増大が予想され、土木工学技術者の活躍する範囲は広がっていくと言われている。

一方で、建設業は、高齢化の進行、若年入職者の確保育成が課題(資料15)と言われている。静岡県でも、「静岡県建設産業ビジョン2019」(資料16)において、県内の建設産業は、高齢化が進む一方で、若年者等の入職者が少なく、慢性的な人材不足となっていると報告されている。さらに、厚生労働省が四半期ごとに労働力の過不足状況を調査している「労働経済動向調査」(資料17)によると、2020年11月調査の産業別正社員などの過不足判断DI*をみると、建設業が48ポイントの不足超過となり、最も人材の不足感が高くなっている。前年同月の54ポイントより、6ポイント低下しているが、依然として建設業は最も人材不足感が高い業種だといえる。

このことから、建設業の若年層の人材育成に対する具体的な取り組みは喫緊の課題であり、安定的な人材の育成を行うことへの期待は非常に大きいといえる。

※「労働者過不足判断DI(Diffusion Index)」:不足と回答した事業所の割合から、過剰と回答した事業所の割合を差し引いた値で、値が大きいほど人材不足感が高いことを表している。

ウ) 社会のニーズ

静岡県では2019年度に「静岡県建設産業ビジョン」(資料18)を改訂し、県内建設産業を取り巻く環境変化や課題を整理すると共に、担い手の確保や、社会インフラの整備・維持管理、さらに地震や津波などの大規模災害に対し、地元企業と連携し、県内の防災・減災などを担う土木工学分野の人材の確保を重点課題とし、具体的な施策を打ち出している。

その一方で、静岡県内の大学には、土木工学を総合的に学修する学部・学科が設置されておらず、行政などからの安定的な人材育成に対する期待の高まりもあり、設置における社会的意義は非常に大きいと言える。(資料19)

エ) 本学の就職状況

過去3年間の本学の就職状況を下表に示す。大学全体の就職率は、過去3年間98%を超え、土木工

学科が設置される理工学部も98%以上を維持している。これは、理工系大学の全国平均（大学通信オンライン「2020年学部系統別実就職率ランキング」調べ）の92.4%より高い就職率となり、それを維持し、さらに、求人社数についても、安定している。これは、本学で養成する人材に対し、地域の産業界や社会から、信頼を得ている結果とも言える。今回の土木工学科についても、土木工学分野の業界や社会からは、これまで述べた通り、非常に高い期待とニーズがあり、本学の卒業生の就職については、他学科と同様の就職率となることが見込まれる。

【過去3年間の就職状況】

学部	学科	平成30年度					令和元年度					令和2年度				
		卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数	卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数	卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数
理工学部	機械工学科	59	56	55	98.2	13,294	56	51	50	98.0	12,662	66	56	56	100.0	11,956
	電気電子工学科	63	57	57	100.0	13,260	41	39	39	100.0	12,628	47	45	44	97.8	11,948
	物質生命科学科	55	50	49	98.0	12,422	52	40	39	97.5	11,875	29	25	25	100.0	11,270
	建築学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	61	48	48	100.0	11,751
理工学部計		177	163	161	98.8	38,976	149	130	128	98.5	37,165	203	174	173	99.4	46,925
情報学部	コンピュータシステム学科	53	50	50	100.0	13,123	58	56	54	96.4	12,098	59	57	56	98.2	11,462
	情報デザイン学科	52	51	51	100.0	12,969	34	31	31	100.0	11,963	58	54	51	94.4	11,348
	情報学部計	105	101	101	100.0	26,092	92	87	85	97.7	24,061	117	111	107	96.4	22,810
合 計		282	264	262	99.2	65,068	241	217	213	98.2	61,226	320	285	280	98.2	69,735

以上のことから、本学の土木工学科の人材育成の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであるといえる。

学生確保の見通し等を記載した資料の目次

資料 1	東海地域（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）の（18歳人口）の推移予測	…p.2
資料 2	東海地域（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）の高校生の大学進学率	…p.3
資料 3	工学分野の全国学生数	…p.4
資料 4	県内高校生の県内大学進学率	…p.6
資料 5	既設学部・学科の学生確保の状況（過去5年間）	…p.7
資料 6	既設学部・学科の学生確保の状況グラフ	…p.8
資料 7	第三者機関による高校生への入学意向調査	…p.9
資料 8	類似する近隣の大学・学部・学科の一覧	…p.35
資料 9	類似する近隣の大学・学部・学科の志願者状況	…p.36
資料 10	第三者機関による企業等への採用意向調査	…p.37
資料 11	令和元年度 国土交通省資料（全国の就業者数）	…p.64
資料 12	平成 29(2017)年総務省統計局による就業構造基本調査（静岡県産業別就業者数）	…p.65
資料 13	国土交通省インフラメンテナンス情報	…p.66
資料 14	一般社団法人 海外建設協会ホームページ資料（海外受注の増加）	…p.67
資料 15	平成 30(2018)年度 国土交通省資料（高齢化の進行、若年層の確保）	…p.68
資料 16	静岡県建設産業ビジョン 2019（少子高齢化の進展）	…p.70
資料 17	令和 2(2020)年厚生労働省「労働経済動向調査」	…p.71
資料 18	静岡県建設産業ビジョン 2019（表紙、はじめに、概念図）	…p.72
資料 19	地方自治体からの書類	…p.76

資料1 東海地域（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）の（18歳人口）の推移予測

東海地域の高校生数の推移予測

（単位：人）

大学入学対象年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
岐 阜	17,488	17,120	18,087	18,346	18,000
静 岡	31,220	31,388	33,146	32,736	32,068
愛 知	62,868	63,677	70,013	69,538	67,369
三 重	15,055	14,853	15,840	16,021	15,611

出典 令和2年度学校基本調査における下記帳票を基に作成

- ・ 高校生（表番号135）学年別生徒数（全日制＋定時制）
- ・ 中学生（表番号75）学年別生徒数 計

資料2 東海地域（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）の高校生の大学進学率

年度	大学等進学率(%)
平成31年3月	54.7
令和2年3月	55.8

都 道 府 県	大学等進学率(%)
北海道	47.7
青森	46.6
岩手	45.2
宮城	50.0
秋田	45.0
山形	46.1
福島	45.8
茨城	51.4
栃木	51.9
群馬	53.0
埼玉	58.5
千葉	56.0
東京都	66.6
神奈川県	60.9
新潟	48.4
富山	55.3
石川	56.4
福井	56.9
山梨	57.0
長野	49.1
岐阜	56.1
静岡	53.4
愛知	59.0
三重	51.1
滋賀	56.5
京都	67.8
大阪	61.8
兵庫	62.5
奈良	59.9
和歌山	51.5
鳥取	45.4
島根	45.1
岡山	51.8
広島	61.3
山口	44.3
徳島	53.8
香川	55.1
愛媛	53.2
高知	52.5
福岡	53.9
佐賀	43.6
長崎	46.1
熊本	46.4
大分	48.8
宮崎	44.9
鹿児島	43.5
沖縄	40.8

出典 令和2年度学校基本調査
状況別卒業生数より

資料3 工学分野の全国学生数

令和2年度 2,623,572 (単位:人)

人文科学	364,474
文 学	135,730
史 学	25,543
哲 学	46,996
その他の	156,205
社会科学	835,595
法学・政治学	156,161
商学・経済学	460,977
社会学	136,327
その他の	82,130
理学	78,353
数 学	15,461
物 理 学	10,979
化 学	10,695
生 物 学	10,027
地 学	2,722
その他の	28,469
工学	382,341
機械工学	61,974
電気通信工学	106,412
土木建築工学	55,211
応用化学	30,599
応用理学	9,059
原子力工学	438
鉱 山 学	—
金属工学	4
繊維工学	283
船舶工学	265
航空工学	2,288
経営工学	6,510
工 芸 学	2,337
その他の	106,961

農 学	77,622
農 学	10,452
農芸化学	6,034
農業工学	2,589
農業経済学	2,495
林 学	1,566
林 産 学	—
獣医学畜産学	10,995
水 産 学	6,863
その他の	36,628
保 健	339,048
医 学	57,238
歯 学	15,007
薬 学	71,705
看護学	91,594
その他の	103,504
商 船	411
商 船 学	411
家 政	72,117
家 政 学	19,190
食 物 学	39,795
被 服 学	6,205
住 居 学	1,227
児 童 学	5,135
その他の	565
教 育	189,986
教 育 学	41,243
小学校課程	12,582
中学校課程	517
高等学校課程	—
特別教科課程	—
盲学校課程	—
聾学校課程	—
中等教育学校課程	4,044
養護学校課程	43

幼稚園課程	41
体育学	38,626
障害児教育課程	—
特別支援教育課程	1,101
その他の	91,789
芸 術	74,755
美術	13,798
デザイン	18,958
音楽	15,592
その他の	26,407
そ の 他	208,870
教養学	7,039
総合科学	571
教養課程（文科）	5,424
教養課程（理科）	5,833
教養課程（その他）	2,869
人文・社会科学	33,735
国際関係学(国際関係学部)	18,315
人間関係科学	15,541
その他の	119,543

※出典：文部省「令和2年度学校基本調査」における大学・大学院の「表番号10関係学科別学生数」から抽出した。

資料4 県内高校生の県内大学進学率

出身高校の所在地 県別 入学者数

1 計

単位:人

出身高校の所在地		大学の所在地																				出身高校の所在地																													
大学の所在地		計	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	大学の所在地																									
令和2年度		635,003	21,415	5,018	4,681	10,052	3,379	4,275	7,283	14,784	9,155	9,332	35,148	29,698	77,773	43,804	9,400	4,932	5,939	4,076	5,079	9,382	9,695	17,271	39,200	令和2年度																									
北海道	北青岩宮秋	19,488	14,320	364	272	173	184	87	91	161	99	55	241	209	519	269	115	64	64	22	52	81	59	165	261	北海道	北青岩宮秋	19,488	14,320	364	272	173	184	87	91	161	99	55	241	209	519	269	115	64	64	22	52	81	59	165	261
山形	山福茨栃	3,455	470	1,881	280	95	207	59	46	27	18	9	28	19	46	21	30	4	3	2	5	16	1	32	15	山形	山福茨栃	3,455	470	1,881	280	95	207	59	46	27	18	9	28	19	46	21	30	4	3	2	5	16	1	32	15
山形	山福茨栃	2,623	105	222	1,283	257	175	86	64	28	42	12	23	15	47	29	25	3	3	—	6	18	6	18	33	山形	山福茨栃	2,623	105	222	1,283	257	175	86	64	28	42	12	23	15	47	29	25	3	3	—	6	18	6	18	33
山形	山福茨栃	12,009	185	660	869	5,679	525	862	1,034	204	183	125	235	120	270	156	156	46	49	12	37	63	11	101	50	山形	山福茨栃	12,009	185	660	869	5,679	525	862	1,034	204	183	125	235	120	270	156	156	46	49	12	37	63	11	101	50
山形	山福茨栃	2,048	45	107	133	73	816	61	45	60	67	50	34	34	74	27	69	17	9	1	7	19	11	56	69	山形	山福茨栃	2,048	45	107	133	73	816	61	45	60	67	50	34	34	74	27	69	17	9	1	7	19	11	56	69
山形	山福茨栃	2,808	80	70	144	567	85	905	183	73	119	31	38	23	55	31	115	4	6	—	9	44	10	55	54	山形	山福茨栃	2,808	80	70	144	567	85	905	183	73	119	31	38	23	55	31	115	4	6	—	9	44	10	55	54
山形	山福茨栃	3,334	34	57	96	200	58	155	1,482	276	225	84	63	48	60	36	105	7	2	1	15	48	4	50	30	山形	山福茨栃	3,334	34	57	96	200	58	155	1,482	276	225	84	63	48	60	36	105	7	2	1	15	48	4	50	30
山形	山福茨栃	7,302	102	57	43	83	42	65	238	3,050	214	117	432	695	575	147	104	41	35	22	47	97	33	148	98	山形	山福茨栃	7,302	102	57	43	83	42	65	238	3,050	214	117	432	695	575	147	104	41	35	22	47	97	33	148	98
山形	山福茨栃	4,947	45	71	77	94	59	84	408	523	2,143	307	284	66	98	35	72	13	18	9	43	72	12	57	21	山形	山福茨栃	4,947	45	71	77	94	59	84	408	523	2,143	307	284	66	98	35	72	13	18	9	43	72	12	57	21
山形	山福茨栃	7,083	107	67	81	73	42	53	112	243	457	2,856	631	142	293	154	203	70	30	14	45	327	21	125	50	山形	山福茨栃	7,083	107	67	81	73	42	53	112	243	457	2,856	631	142	293	154	203	70	30	14	45	327	21	125	50
山形	山福茨栃	30,023	361	162	166	292	128	185	492	1,240	1,218	1,392	10,811	1,840	6,164	909	668	127	67	30	240	681	58	451	203	山形	山福茨栃	30,023	361	162	166	292	128	185	492	1,240	1,218	1,392	10,811	1,840	6,164	909	668	127	67	30	240	681	58	451	203
山形	山福茨栃	27,609	341	191	150	299	141	236	470	2,018	590	350	2,047	10,039	4,828	912	502	101	64	44	243	476	82	682	216	山形	山福茨栃	27,609	341	191	150	299	141	236	470	2,018	590	350	2,047	10,039	4,828	912	502	101	64	44	243	476	82	682	216
山形	山福茨栃	151,714	2,258	617	517	1,183	409	627	1,469	4,837	2,405	2,325	17,332	13,295	51,659	22,437	1,846	569	501	273	1,594	2,197	547	3,348	1,991	山形	山福茨栃	151,714	2,258	617	517	1,183	409	627	1,469	4,837	2,405	2,325	17,332	13,295	51,659	22,437	1,846	569	501	273	1,594	2,197	547	3,348	1,991
山形	山福茨栃	46,894	659	209	248	388	158	275	522	1,018	714	680	1,939	2,101	10,133	17,035	799	246	159	94	614	939	169	2,104	654	山形	山福茨栃	46,894	659	209	248	388	158	275	522	1,018	714	680	1,939	2,101	10,133	17,035	799	246	159	94	614	939	169	2,104	654
山形	山福茨栃	6,605	83	60	66	131	177	301	329	109	140	200	71	41	113	50	3,484	214	125	31	40	288	30	85	50	山形	山福茨栃	6,605	83	60	66	131	177	301	329	109	140	200	71	41	113	50	3,484	214	125	31	40	288	30	85	50
山形	山福茨栃	2,568	33	4	14	8	8	12	7	8	17	30	22	16	42	24	88	946	371	114	12	124	127	43	228	山形	山福茨栃	2,568	33	4	14	8	8	12	7	8	17	30	22	16	42	24	88	946	371	114	12	124	127	43	228
山形	山福茨栃	6,793	86	17	12	26	22	38	20	40	43	102	45	36	70	47	301	990	2,730	419	22	310	198	187	247	山形	山福茨栃	6,793	86	17	12	26	22	38	20	40	43	102	45	36	70	47	301	990	2,730	419	22	310	198	187	247
山形	山福茨栃	2,454	11	1	1	—	—	2	5	4	4	6	8	4	13	9	24	118	179	1,235	6	43	83	37	256	山形	山福茨栃	2,454	11	1	1	—	—	2	5	4	4	6	8	4	13	9	24	118	179	1,235	6	43	83	37	256
山形	山福茨栃	4,323	81	27	55	28	22	31	48	96	60	64	120	69	475	266	75	61	27	18	1,282	318	46	346	96	山形	山福茨栃	4,323	81	27	55	28	22	31	48	96	60	64	120	69	475	266	75	61	27	18	1,282	318	46	346	96
山形	山福茨栃	4,008	50	7	15	13	13	10	21	77	44	111	96	77	169	95	120	112	49	38	152	1,621	115	181	300	山形	山福茨栃	4,008	50	7	15	13	13	10	21	77	44	111	96	77	169	95	120	112	49	38	152	1,621	115	181	300
山形	山福茨栃	5,051	40	5	8	5	5	9	2	16	4	6	14	18	27	17	21	101	40	91	9	133	2,158	141	1,377	山形	山福茨栃	5,051	40	5	8	5	5	9	2	16	4	6	14	18	27	17	21	101	40	91	9	133	2,158	141	1,377
山形	山福茨栃	8,281	109	19	23	30	5	27	38	105	58	58	79	117	214	224	53	39	28	58	139	115	167	4,876	716	山形	山福茨栃	8,281	109	19	23	30	5	27	38	105	58	58	79	117	214	224	53	39	28	58	139	115	167	4,876	716
山形	山福茨栃	43,014	220	28	20	60	19	11	17	79	37	47	50	104	139	83	64	339	248	293	85	657	4,557	2,060	27,862	山形	山福茨栃	43,014	220	28	20	60	19	11	17	79	37	47	50	104	139	83	64	339	248	293	85	657	4,557	2,060	27,862
山形	山福茨栃	3,374	17	—	1	4	1	6	4	2	5	5	4	3	17	11	5	10	8	19	7	25	107	87	713	山形	山福茨栃	3,374	17	—	1	4	1	6	4	2	5	5	4	3	17	11	5	10	8	19	7	25	107	87	713
山形	山福茨栃	7,630	66	5	7	23	3	6	8	18	11	16	27	27	95	38	22	57	81	105	14	47	175	132	459	山形	山福茨栃	7,630	66	5	7	23	3	6	8	18	11	16	27	27	95	38	22	57	81	105	14	47	175	132	459
山形	山福茨栃	34,470	362	29	37	104	24	24	61	108	73	136	134	158	497	224	134	262	373	443	94																														

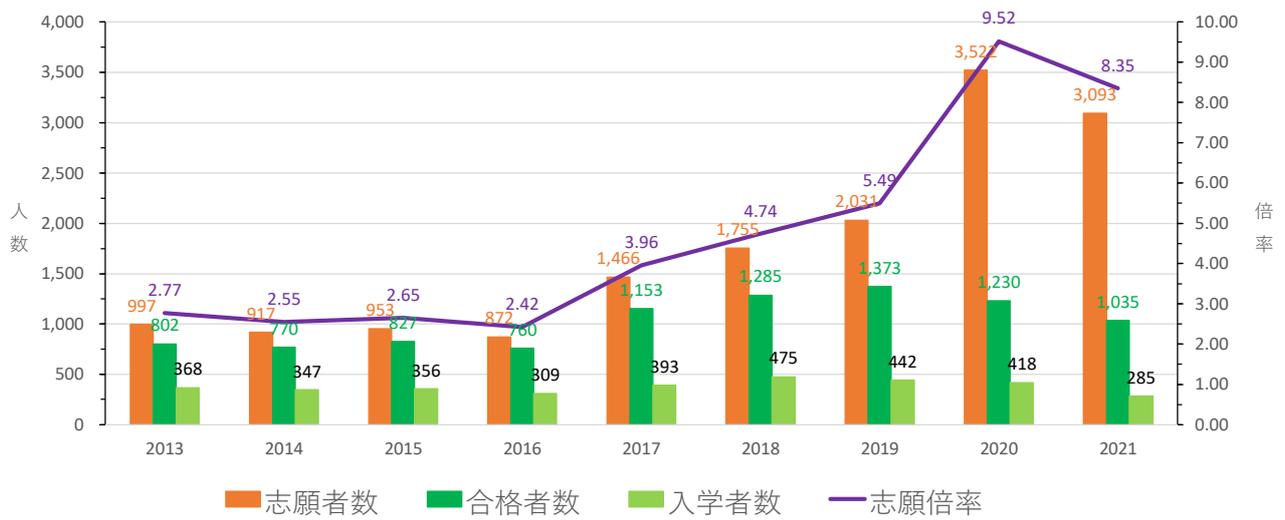
資料5 既設学部・学科の学生確保の状況（過去5年間）

【志願者・入学者の状況】

学部等名	項目	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	4年間平均入学定員超過率	5年間平均入学定員超過率	備考
理工学部 合計	志願者数	1061	1228	1326	2142	1874			
	志願倍率	4.2	4.9	5.3	8.9	7.8			
	受験者数	1047	1209	1295	2086	1805			
	合格者数	807	863	1002	929	765	1.08	1.07	
	入学者数	257	310	298	294	170			
	入学定員	250	250	250	240	240			
	入学定員超過率	1.02	1.24	1.19	1.22	0.70			
機械工学科	志願者数	342	379	418	705	593			
	志願倍率	4.6	5.1	5.6	9.4	7.9			
	受験者数	334	376	408	692	573			
	合格者数	278	290	337	257	212	1.10	1.11	
	入学者数	89	103	99	80	49			
	入学定員	75	75	75	75	75			
	入学定員超過率	1.18	1.37	1.32	1.06	0.65			
電気電子工 学科	志願者数	248	310	320	602	488			
	志願倍率	3.8	4.8	4.9	10.0	8.1			
	受験者数	245	306	315	587	468			
	合格者数	222	259	285	261	225	1.15	1.11	
	入学者数	62	80	81	87	41			
	入学定員	65	65	65	60	60			
	入学定員超過率	0.95	1.23	1.24	1.45	0.68			
物質生命科 学科	志願者数	212	241	287	438	410			
	志願倍率	3.5	4.0	4.8	8.0	7.5			
	受験者数	211	237	275	424	388			
	合格者数	161	183	237	252	177	1.01	0.93	
	入学者数	38	61	58	72	43			
	入学定員	60	60	60	55	55			
	入学定員超過率	0.63	1.01	0.96	1.30	0.78			
建築学科	志願者数	259	298	301	397	383			
	志願倍率	5.2	6.0	6.0	7.9	7.7			
	受験者数	257	290	297	383	376			
	合格者数	146	131	143	159	151	1.09	1.14	平成29年 度開設
	入学者数	68	66	60	55	37			
	入学定員	50	50	50	50	50			
	入学定員超過率	1.36	1.32	1.20	1.10	0.74			
情報学部(合 計)	志願者数	405	527	705	1380	1219			
	志願倍率	3.4	4.4	5.9	10.6	9.4			
	受験者数	394	523	682	1353	1192			
	合格者数	346	422	371	301	313	1.10	1.10	
	入学者数	136	165	144	124	115			
	入学定員	120	120	120	130	130			
	入学定員超過率	1.13	1.37	1.20	0.95	0.88			※情報学 部は学部 で一括募 集し、2年 進級時に 学科配属 を行う
コンピュー タシステム 学科	入学者数	57	69	60	57	53			
	入学定員	50	50	50	60	60			
	入学定員超過率	1.14	1.38	1.20	0.95	0.88			
情報デザイ ン学科	入学者数	79	96	84	67	62			
	入学定員	70	70	70	70	70			
	入学定員超過率	1.12	1.37	1.20	0.95	0.88			

超過率は小数点以下第2位（第3位を切捨て）

資料6 既設学部・学科の学生確保の状況グラフ



静岡理工科大学工学部土木工学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

令和3年1月

一般財団法人 日本開発構想研究所

静岡理工科大学工学部土木工学科（仮称）への 高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和4年4月に予定している静岡理工科大学工学部土木工学科（仮称）の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する静岡理工科大学工学部土木工学科（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象高等学校及び対象者

近隣に所在する高等学校、または、静岡理工科大学に進学実績のある高等学校を中心に、静岡県に所在する高等学校の在学者で令和4年度大学進学対象となる高校2年生。

(3) 調査方法

近隣に所在する高等学校、または、静岡理工科大学に進学実績のあるものを中心とした高等学校61校に18,585人分のアンケート用紙及び静岡理工科大学工学部土木工学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高等学校から直接郵送。

この結果、高校2年生12,376人から有効回答（有効回収率約66.6%）があった。

集計結果より、静岡理工科大学工学部土木工学科（仮称）への入学意向を分析した。

(4) 調査実施期間

令和2年10月～令和2年12月

(5) 有効回収率等

調査対象者数：高等学校61校18,585人

有効回答者数：高等学校57校12,434人の回答のうち、高校2年生12,376人

有効回収率：約66.6%（有効回答者12,376人÷調査対象者18,585人）

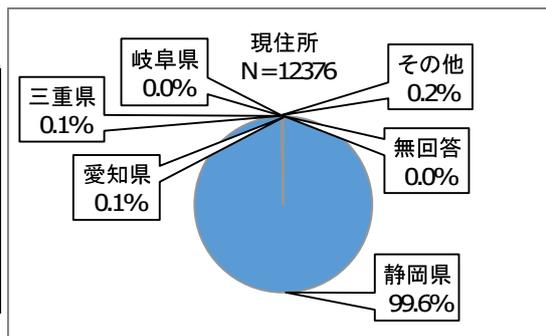
※静岡理工科大学にて設置を構想している工学部土木工学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校 2 年生 12,376 人のうち、「静岡県」が 12,327 人 (99.6%) と最も多く、次いで「その他」23 人 (0.2%)、「愛知県」13 人 (0.1%)、「三重県」8 人 (0.1%)、「岐阜県」2 人 (0.0%) の順になっている。 ※「無回答」3 人 (0.0%)

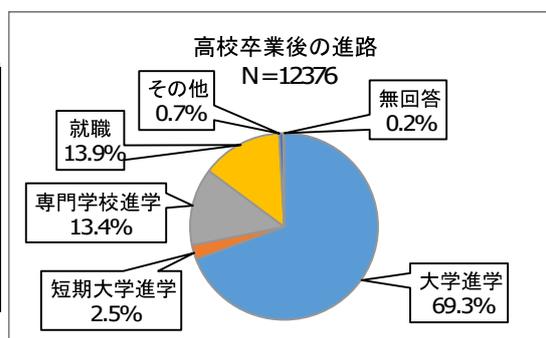
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	12,327	99.6
2	愛知県	13	0.1
3	三重県	8	0.1
4	岐阜県	2	0.0
5	その他	23	0.2
	無回答	3	0.0
	N (%ベース)	12,376	100



(2) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校 2 年生 12,376 人のうち、8,580 人 (69.3%) が「大学進学」を希望しており、「短期大学進学」は 305 人 (2.5%)、合わせて 8,885 人 (71.8%) が国内の高等教育機関への進学を希望している。さらに、「専門学校進学」1,662 人 (13.4%) を合わせると、10,547 人 (85.2%) が高等学校卒業後、進学を希望している。 ※「無回答」21 人 (0.2%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	8,580	69.3
2	短期大学進学	305	2.5
3	専門学校進学	1,662	13.4
4	就職	1,718	13.9
5	その他	90	0.7
	無回答	21	0.2
	N (%ベース)	12,376	100



(3) 興味のある分野について

3-1 興味のある分野（第1位）について

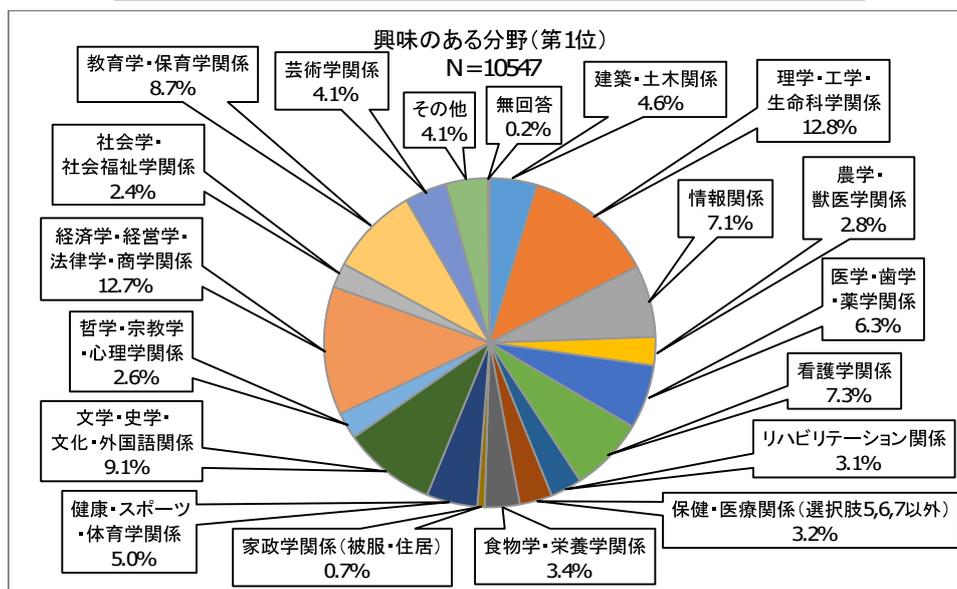
進学を希望する 10,547 人に、興味のある分野（第1位）について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「理学・工学・生命科学関係」が 1,346 人（12.8%）と最も多く、次いで「経済学・経営学・法律学・商学関係」1,342 人（12.7%）、「文学・史学・文化・外国語関係」959 人（9.1%）、「教育学・保育学関係」914 人（8.7%）、「看護学関係」771 人（7.3%）、「情報関係」744 人（7.1%）、「医学・歯学・薬学関係」661 人（6.3%）、「健康・スポーツ・体育学関係」531 人（5.0%）の順になっている。

※「無回答」25 人（0.2%）

興味のある分野（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	建築・土木関係	481	4.6
2	理学・工学・生命科学関係	1,346	12.8
3	情報関係	744	7.1
4	農学・獣医学関係	299	2.8
5	医学・歯学・薬学関係	661	6.3
6	看護学関係	771	7.3
7	リハビリテーション関係	327	3.1
8	保健・医療関係（選択肢5,6,7以外）	333	3.2
9	食物学・栄養学関係	362	3.4
10	家政学関係（被服・住居）	70	0.7
11	健康・スポーツ・体育学関係	531	5.0
12	文学・史学・文化・外国語関係	959	9.1
13	哲学・宗教学・心理学関係	272	2.6
14	経済学・経営学・法律学・商学関係	1,342	12.7
15	社会学・社会福祉学関係	249	2.4
16	教育学・保育学関係	914	8.7
17	芸術学関係	429	4.1
18	その他	432	4.1
	無回答	25	0.2
	N（%ベース）	10,547	100



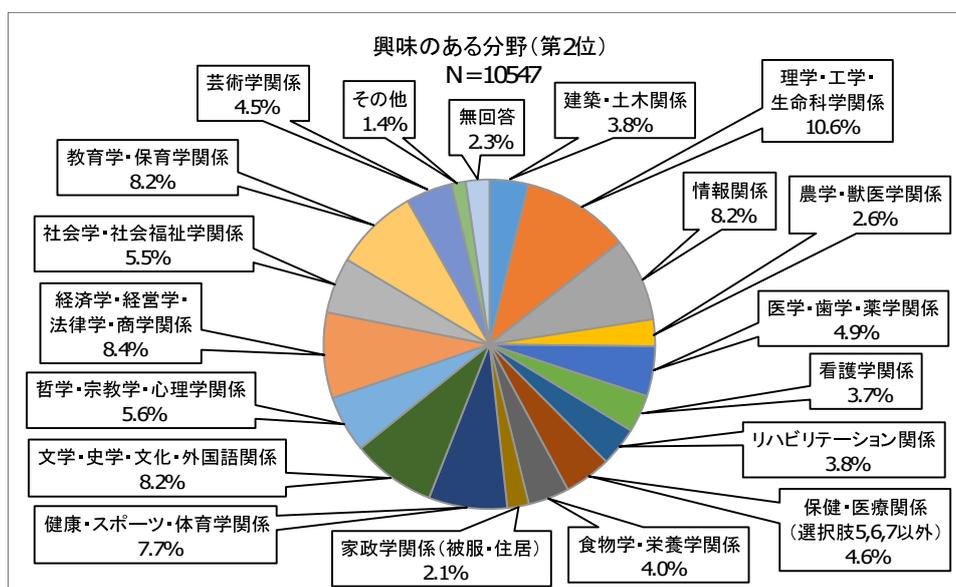
3-2 興味のある分野（第2位）について

進学を希望する 10,547 人に、興味のある分野（第2位）について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「理学・工学・生命科学関係」が 1,116 人（10.6%）と最も多く、次いで「経済学・経営学・法律学・商学関係」883 人（8.4%）、「情報関係」864 人（8.2%）、「教育学・保育学関係」864 人（8.2%）、「文学・史学・文化・外国語関係」862 人（8.2%）、「健康・スポーツ・体育学関係」817 人（7.7%）、「哲学・宗教学・心理学関係」593 人（5.6%）、「社会学・社会福祉学関係」585 人（5.5%）の順になっている。

※「無回答」240 人（2.3%）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	建築・土木関係	400	3.8
2	理学・工学・生命科学関係	1,116	10.6
3	情報関係	864	8.2
4	農学・獣医学関係	274	2.6
5	医学・歯学・薬学関係	518	4.9
6	看護学関係	387	3.7
7	リハビリテーション関係	396	3.8
8	保健・医療関係（選択肢5,6,7以外）	481	4.6
9	食物学・栄養学関係	426	4.0
10	家政学関係（被服・住居）	222	2.1
11	健康・スポーツ・体育学関係	817	7.7
12	文学・史学・文化・外国語関係	862	8.2
13	哲学・宗教学・心理学関係	593	5.6
14	経済学・経営学・法律学・商学関係	883	8.4
15	社会学・社会福祉学関係	585	5.5
16	教育学・保育学関係	864	8.2
17	芸術学関係	471	4.5
18	その他	148	1.4
	無回答	240	2.3
	N（%ベース）	10,547	100



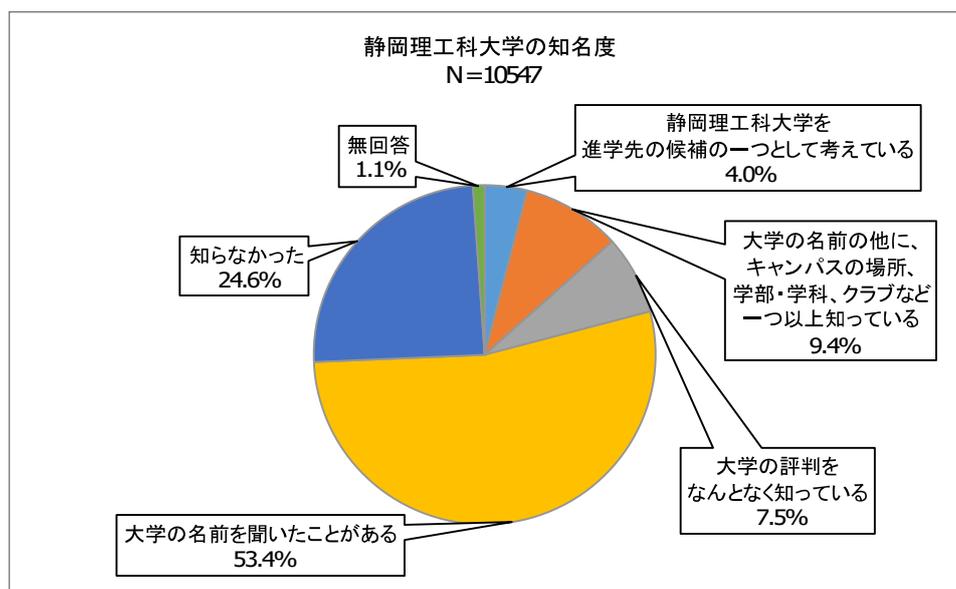
(4) 静岡理工科大学の知名度について

進学を希望する 10,547 人に、静岡理工科大学の知名度について調査した。

その結果は、「大学の名前を聞いたことがある」が 5,629 人 (53.4%) と最も多く、次いで「知らなかった」 2,595 人 (24.6%)、「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科、クラブなど一つ以上知っている」 993 人 (9.4%)、「大学の評判をなんとなく知っている」 793 人 (7.5%)、「静岡理工科大学を進学先の候補の一つとして考えている」 417 人 (4.0%) の順になっている。 ※「無回答」 120 人 (1.1%)

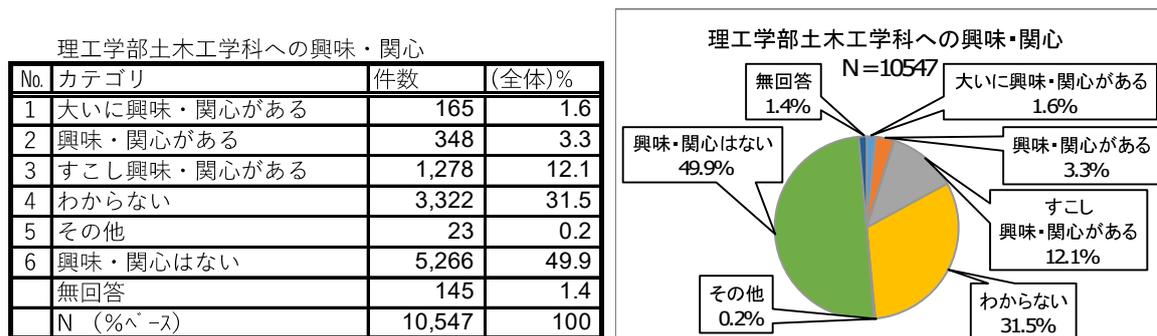
静岡理工科大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡理工科大学を進学先の候補の一つとして考えている	417	4.0
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科、クラブなど一つ以上知っている	993	9.4
3	大学の評判をなんとなく知っている	793	7.5
4	大学の名前を聞いたことがある	5,629	53.4
5	知らなかった	2,595	24.6
	無回答	120	1.1
	N (%ベース)	10,547	100



(5) 理工学部土木工学科への興味・関心について

進学を希望する 10,547 人のうち、静岡理科大学理工学部土木工学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは 165 人 (1.6%) である。また、「興味・関心がある」348 人 (3.3%)、「すこし興味・関心がある」1,278 人 (12.1%) との回答があり、「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」の合計 1,791 人 (17.0%) が静岡理科大学理工学部土木工学科に興味を示している。 ※「無回答」145 人 (1.4%)



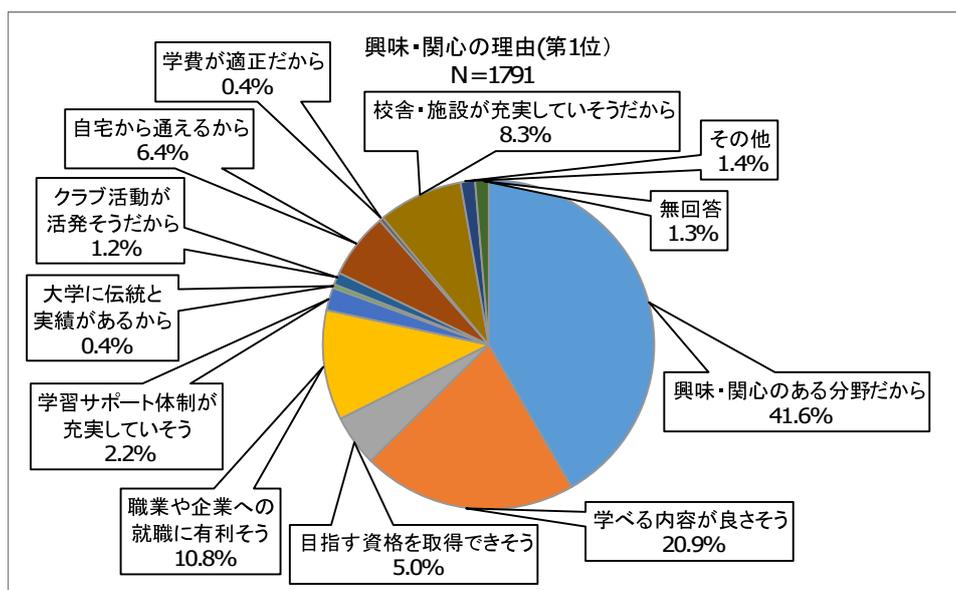
(6) 興味・関心の理由について

6-1 興味・関心の理由 (第1位) について

「(5) 理工学部土木工学科への興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」と回答した 1,791 人に、興味・関心の理由について調査した。

その結果「興味・関心のある分野だから」が 745 人 (41.6%) と最も多く、次いで「学べる内容が良さそう」374 人 (20.9%)、「職業や企業への就職に有利そう」194 人 (10.8%)、「校舎・施設が充実していそうだから」149 人 (8.3%)、「自宅から通えるから」115 人 (6.4%)、「目指す資格を取得できそう」89 人 (5.0%)、「学習サポート体制が充実していそう」40 人 (2.2%)、「その他」25 人 (1.4%)、「クラブ活動が活発そうだから」21 人 (1.2%)、「大学に伝統と実績があるから」8 人 (0.4%)、「学費が適正だから」8 人 (0.4%) の順になっている。 ※「無回答」23 人 (1.3%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	745	41.6
2	学べる内容が良さそう	374	20.9
3	目指す資格を取得できそう	89	5.0
4	職業や企業への就職に有利そう	194	10.8
5	学習サポート体制が充実していそう	40	2.2
6	大学に伝統と実績があるから	8	0.4
7	クラブ活動が活発そうだから	21	1.2
8	自宅から通えるから	115	6.4
9	学費が適正だから	8	0.4
10	校舎・施設が充実していそうだから	149	8.3
11	その他	25	1.4
	無回答	23	1.3
	N (%ベース)	1,791	100

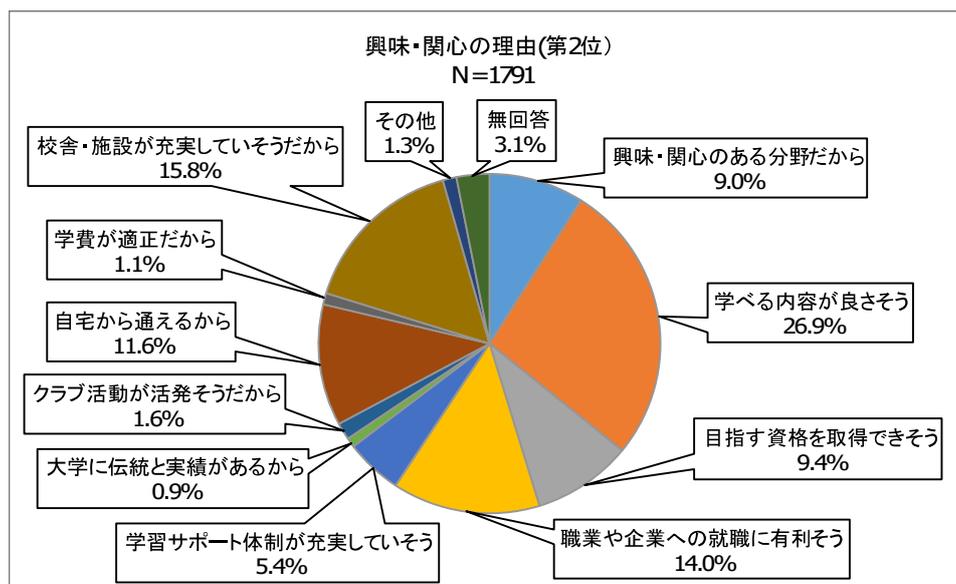


6-2 興味・関心の理由（第2位）について

「(5) 理工学部土木工学科への興味・関心について」にて「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」と回答した 1,791 人に、興味・関心の理由について調査した。

その結果「学べる内容が良さそう」が 481 人（26.9%）と最も多く、次いで「校舎・施設が充実していそうだから」283 人（15.8%）、「職業や企業への就職に有利そう」251 人（14.0%）、「自宅から通えるから」208 人（11.6%）、「目指す資格を取得できそう」169 人（9.4%）、「興味・関心のある分野だから」161 人（9.0%）、「学習サポート体制が充実していそう」96 人（5.4%）、「クラブ活動が活発そうだから」28 人（1.6%）、「その他」23 人（1.3%）、「学費が適正だから」19 人（1.1%）、「大学に伝統と実績があるから」17 人（0.9%）の順になっている。 ※「無回答」55 人（3.1%）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	161	9.0
2	学べる内容が良さそう	481	26.9
3	目指す資格を取得できそう	169	9.4
4	職業や企業への就職に有利そう	251	14.0
5	学習サポート体制が充実していそう	96	5.4
6	大学に伝統と実績があるから	17	0.9
7	クラブ活動が活発そうだから	28	1.6
8	自宅から通えるから	208	11.6
9	学費が適正だから	19	1.1
10	校舎・施設が充実していそうだから	283	15.8
11	その他	23	1.3
	無回答	55	3.1
	N (%ベース)	1,791	100



(7) 理工学部土木工学科への受験意向について

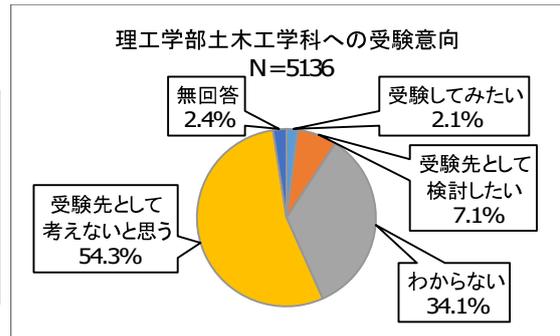
進学を希望する 10,547 人のうち、「興味・関心はない」と回答した 5,266 人と「無回答」であった 145 人を除いた 5,136 人に、静岡理工科大学理工学部土木工学科への受験意向について調査した。

その結果、「受験してみたい」110 人 (2.1%)、「受験先として検討したい」364 人 (7.1%) の合計 474 人 (9.2%) が静岡理工科大学理工学部土木工学科への受験意向を示している。

※「無回答」125 人 (2.4%)

理工学部土木工学科への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	110	2.1
2	受験先として検討したい	364	7.1
3	わからない	1,750	34.1
4	受験先として考えないと思う	2,787	54.3
	無回答	125	2.4
	N (%ベース)	5,136	100



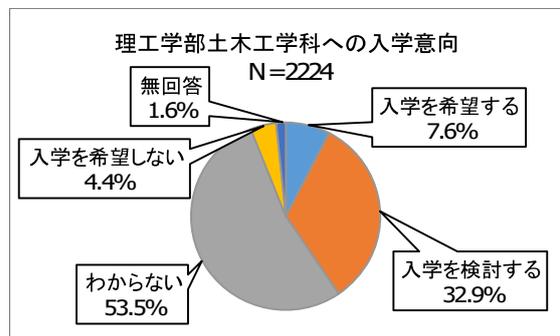
(8) 理工学部土木工学科への入学意向について

「(7) 理工学部土木工学科への受験意向について」にて、静岡理工科大学理工学部土木工学科への受験意向を示した 474 人と、「わからない」と回答した 1,750 人、合計 2,224 人に、静岡理工科大学理工学部土木工学科を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果、「入学を希望する」が 170 人 (7.6%)、「入学を検討する」が 732 人 (32.9%) となり、合計 902 人 (40.6%) が静岡理工科大学理工学部土木工学科への入学意向を示している。 ※「無回答」35 人 (1.6%)

理工学部土木工学科への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	170	7.6
2	入学を検討する	732	32.9
3	わからない	1,189	53.5
4	入学を希望しない	98	4.4
	無回答	35	1.6
	N (%ベース)	2,224	100



3. 調査結果のまとめ

「(8) 理工学部土木工学科への入学意向について」より、静岡理工科大学理工学部土木工学科へ「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 170 人いることがわかる。これによって、静岡理工科大学理工学部土木工学科の入学定員 50 名に対して 3.4 倍の入学意向を確保しているといえる。

また、「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生が、合算で 902 人いることから、静岡理工科大学理工学部土木工学科の入学定員 50 名に対して約 18.0 倍の入学意向を示したといえる。

さらに、「(7) 理工学部土木工学科への受験意向について」と「(8) 理工学部土木工学科への入学意向について」の調査結果のクロス集計を実施したところ、「受験してみたい」と回答した上で、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生が 71 名となり、これは静岡理工科大学理工学部土木工学科の入学定員 50 名に対して約 1.4 倍の入学意向を確保しているといえる。

受験意向 × 入学意向

上段:度数 下段:%		受験意向			
		合計	受験してみたい	受験先として 検討したい	わからない
入学意向	全体	2,224 100.0	110 4.9	364 16.4	1,750 78.7
	入学を希望する	170 100.0	71 41.8	43 25.3	56 32.9
	入学を検討する	732 100.0	25 3.4	246 33.6	461 63.0
	わからない	1,189 100.0	9 0.8	67 5.6	1,113 93.6
	入学を希望しない	98 100.0	4 4.1	6 6.1	88 89.8
	無回答	35 100.0	1 2.9	2 5.7	32 91.4

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、静岡理工科大学理工学部土木工学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものと考えられる。

調查票

ここからは理工学部 土木工学科(仮称)の概要(リーフレット)と、
類似する近隣の大学・学部・学科一覧をご覧ください。上記をお読みの上でお答えください。

問6 あなたは静岡理工科大学を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。 【回答欄】

- 1 静岡理工科大学を進学先の候補の一つとして考えている
- 2 大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科、クラブなど一つ以上知っている
- 3 大学の評判をなんとなく知っている
- 4 大学の名前を聞いたことがある
- 5 知らなかった

問7 あなたは、静岡理工科大学の理工学部土木工学科(仮称)について、どのように考えますか。

次の中から1つだけ選んでください。

- 1 大いに興味・関心がある
- 2 興味・関心がある
- 3 すこし興味・関心がある
- 4 わからない
- 5 その他(具体的に)
- 6 興味・関心はない

1、2、3を選ばれた方は問8へお進み下さい。
4、5を選ばれた方は問9へお進み下さい。
6を選ばれた方は問11へお進み下さい。

問8 (問7)で「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「すこし興味・関心がある」と回答された方にお聞きします。それは、どのような理由からですか。次の中から第2位まで選んでください。

回答後は問9へお進みください。

- | | | |
|--------------------|---------------------|--------------------------|
| 1 興味・関心のある分野だから | 7 クラブ活動が活発そうだから | |
| 2 学べる内容が良さそう | 8 自宅から通えるから | 第1位 |
| 3 目指す資格を取得できそう | 9 学費が適正だから | <input type="checkbox"/> |
| 4 職業や企業への就職に有利そう | 10 校舎・施設が充実していそうだから | 第2位 |
| 5 学習サポート体制が充実していそう | 11 その他 | <input type="checkbox"/> |
| 6 大学に伝統と実績があるから | (具体的に) | |

問9 あなたは静岡理工科大学の理工学部土木工学科(仮称)を受験したいと思いますか。次の中から

1つだけ選んでください。

- 1 受験してみたい
- 2 受験先として検討したい
- 3 わからない
- 4 受験先として考えないと思う

1、2、3を選ばれた方は問10へお進み下さい。
4を選ばれた方は問11へお進み下さい。

問10 静岡理工科大学の理工学部土木工学科(仮称)を受験し、合格した場合の入学について、次の中から

1つだけ選んでください。

- 1 入学を希望する
- 2 入学を検討する
- 3 わからない
- 4 入学を希望しない

問11 静岡理工科大学理工学部土木工学科(仮称)の設置計画にあたって、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

◆ご協力ありがとうございました。

類似する近隣の大学・学部・学科一覧

静岡理工科大学が設置を計画している学科：理工学部 土木工学科（仮称）

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	専攻・コース名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費 教育研究充実費 等	諸会費	初年次 合計金額 (円)
愛知県	私立	大同大学	工学部	建築学科	土木・環境専攻	55	300,000	890,000	315,000	76,300	1,581,300
愛知県	私立	愛知工業大学	工学部	土木工学科		120	250,000	880,000	460,000	49,010	1,639,010
愛知県	私立	中部大学	工学部	都市建設工学科		80	280,000	930,000	410,000	53,300	1,673,300
愛知県	私立	名城大学	理工学部	社会基盤デザイン工学科		90	200,000	935,000	310,000	30,000	1,475,000
神奈川県	私立	東海大学	工学部	土木工学科		120	300,000	855,000	449,000	59,200	1,663,200
神奈川県	私立	関東学院大学	理工学部	土木学系	土木・都市防災 コース	60	290,000	950,000	420,000	89,660	1,749,660
東京都	私立	日本大学	理工学部	土木工学科		220	260,000	1,150,000	320,000	40,000	1,770,000
静岡県	私立	静岡理工科大学	理工学部	土木工学科（仮称）		(予定) 50	300,000	1,240,000	0	72,390	1,612,390

抽出範囲：近隣4県（静岡、東京、神奈川、愛知）

注1) 各大学情報については、公式ウェブサイトおよび2020年度全国大学一覧より転載。（2020年8月6日時点調べ）

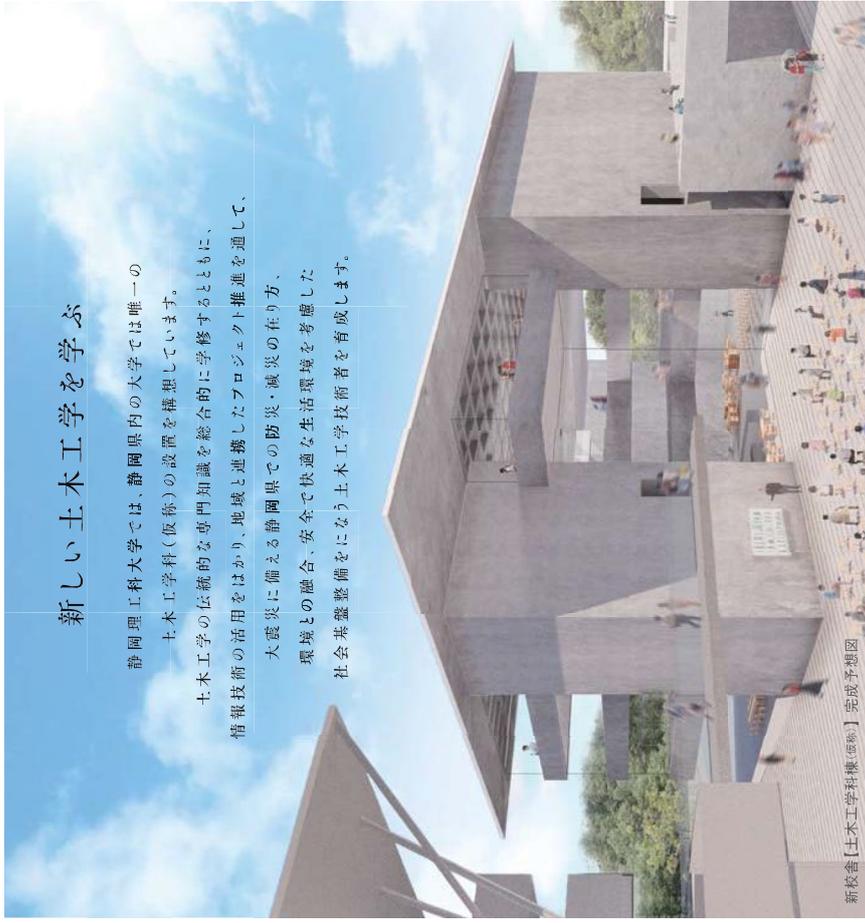
注2) 各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合があるため、概算として参考にして下さい。

注3) 静岡理工科大学の学費は予定であり、変更する場合があります。

計画概要

理工学部

Faculty of
Science and
Technology



新しい土木工学を学ぶ

静岡理科大学では、静岡県内の大学では唯一の土木工学科(仮称)の設置を構想しています。土木工学の伝統的な専門知識を総合的に学修するとともに、情報技術の活用をはかり、地域と連携したプロジェクト推進を通して、大震災に備える静岡県での防災・減災の在り方、環境との融合、安全で快適な生活環境を考慮した社会基盤整備をになう土木工学技術者を育成します。

新校舎【土木工学科棟(仮称)】完成予想図

土木工学科

Department
of
Civil
Engineering

(仮称)

※理工学部土木工学科(仮称)は、2022年4月1日の開設を目指して設置準備を進めています。学部・学科の概要等は予定であり、今後の検討の結果、本概要を変更する場合があります。

2022年4月 設置構想中



静岡理科大学




静岡理科大学

理工学部のピックアップ学科

建築学科

入学定員50名

建築計画・意匠

建築構造

建築材料

建築環境・設備

建築計画・意匠、建築構造、建築材料、建築環境・設備の4分野とこれらに関連した幅広い領域とのつながりがよりハイレベルに学修します。

静岡理科大学の学部・学科

理工学部

機械工学科 入学定員75名
ロボット、自動車、航空機分野に携わるエンジニアを育成する。

電気電子工学科 入学定員60名
情報技術、自動制御、エネルギー産業を支えるキーテクノロジーを学ぶ。

物質生命科学科 入学定員55名
化学をベースに新素材、バイオ、微生物技術の産業への活用を学ぶ。

建築学科 入学定員50名
建築デザイン、環境、構造を総合的に学び、建築士を目指す。

土木工学科(仮称) 予定入学定員50名
社会基盤整備や防災・減災の発展に貢献できるエンジニアを育成する。

情報学部

コンピュータシステム学科 入学定員60名
人工知能、ネットワーク、情報技術を専攻する。

データサイエンス専攻 入学定員15名
(コンピュータシステム学科)
ビッグデータを情報処理からアプローチする。(2020年設置)

情報デザイン学科 入学定員70名
情報技術を人間・社会に応用する人材を育成する。



Access [交通アクセス]

【車でアクセス】

- 東名高速「袋井IC」から 約20分
- 東名高速「掛川IC」から 約20分
- 新東名高速「藤掛川IC」から 約30分

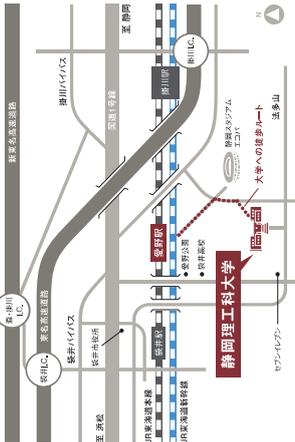
【新幹線を利用した場合】

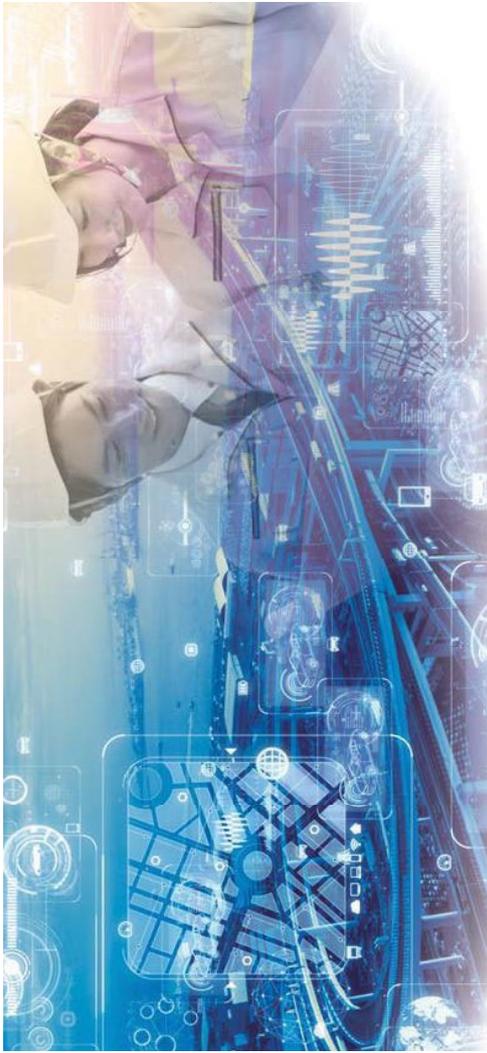
- 静岡駅～愛野駅 最速 28分
- 豊橋駅～愛野駅 最速 39分
- 名古屋駅～愛野駅 最速 60分
- 東京駅～愛野駅 最速 115分

【JR東海道本線「愛野駅」より】

無料シャトルバス 約20分
徒歩 徒歩 約30分

富士山静岡空港より
バス 35分





静岡県内大学唯一の「土木工学科(仮称)」
静岡をフィールドとした学びで、
人・生活を
自然災害から守る
土木工学

特色 | 情報技術を活用した
01. | 新しい土木を学ぶ

土木工学では、他分野に先んじてGPS、人工衛星、人感センサー、AI、ドローンを使った3D技術、自動操縦を活用しています。データ解析などを取り入れ、さらに環境への対応に取り組めます。

特色 | 静岡県内大学唯一の「土木工学科」
02. | で学ぶ防災・減災
(仮称)

静岡県は鉄道、港湾、空港を完備した交通の要所であり、大規模な災害発生時には日本全体が多大な影響を受けます。橋や道路など社会基盤の老朽化と災害の発生に対する地域防災に取り組めます。

特色 | **03.**
新たな校舎、実験棟

学生同士や教員との対話をもたらす開放的なワンルーム階層の校舎の中で、研究分野の垣根を越えて交流や協働を促進する学び舎を建設。

特色 | プロジェクト科目と
04. | フィールドワーク

富士山をはじめとして背後に高い山々が連なり海岸線が近く東西に長い地理的特徴をもつ静岡県をフィールドとしたプロジェクト科目で広範な視野と能動的な行動力を育成します。

地盤工学
液状化 / 土砂災害

▲液状化現象で隆起した建物

土木材料科学
コンクリート / 鋼 / 繊維補強材

▲トンネル工事現場の巨大ドリルマン

都市環境学
交通工学 / 国土計画 / 環境工学

▲耐震補強工事

土木構造学
構造工学 / 耐震 / 維持管理

水工学
河川 / 海岸

洪水氾濫シミュレーション▶

取得可能な資格

- 卒業とともに得られる主な資格 / 測量士補
- 卒業後、実務経験で受験資格を得られる主な資格 / 2級土木施工管理技士

卒業後の進路

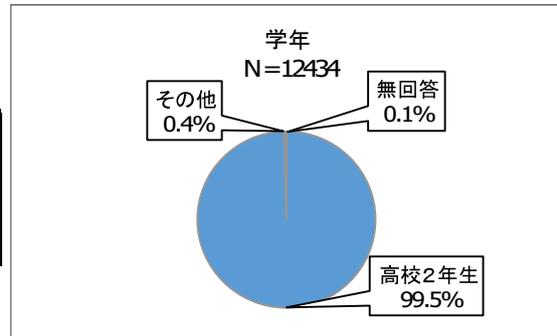
- 建設会社の土木施工管理技士
 - 公務員(技術職)
 - 鉄道会社、電力会社等のエンジニア
 - 大学院進学
- などを目指します。

静岡理工科大学 理工学部 土木工学科(仮称) 構想概要

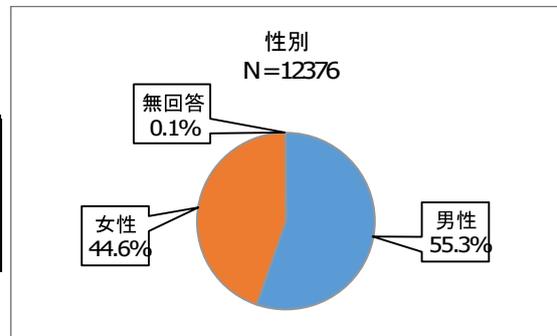
- 設置学科 / 理工学部土木工学科(仮称)
 - 開設場所 / 静岡県袋井市豊沢2200-2
 - 開設時期 / 2022年4月1日開設予定
 - 入学定員 / 50名(予定)
- ※理工学部土木工学科(仮称)の概要等は予定であり、今後変更になる場合があります。

單純集計表

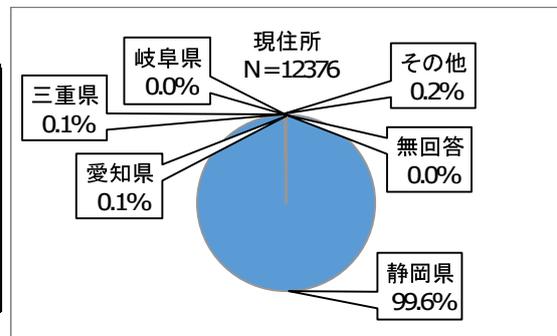
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	12,376	99.5
2	その他	46	0.4
	無回答	12	0.1
	N (%ベース)	12,434	100



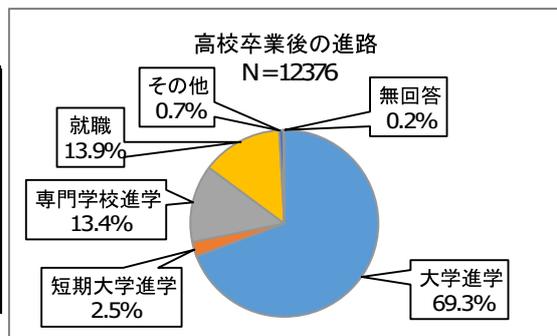
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男性	6,845	55.3
2	女性	5,523	44.6
	無回答	8	0.1
	N (%ベース)	12,376	100



No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	12,327	99.6
2	愛知県	13	0.1
3	三重県	8	0.1
4	岐阜県	2	0.0
5	その他	23	0.2
	無回答	3	0.0
	N (%ベース)	12,376	100

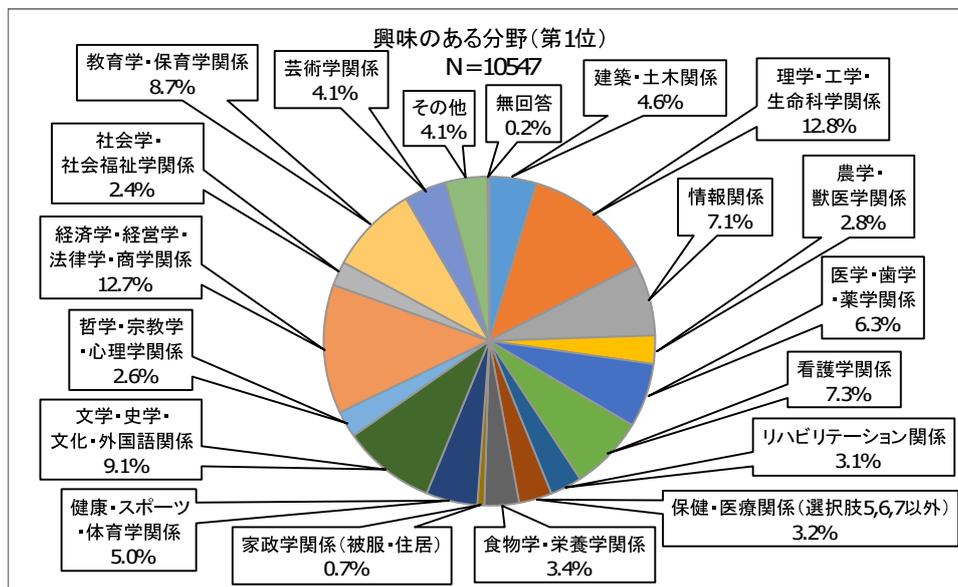


No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	8,580	69.3
2	短期大学進学	305	2.5
3	専門学校進学	1,662	13.4
4	就職	1,718	13.9
5	その他	90	0.7
	無回答	21	0.2
	N (%ベース)	12,376	100



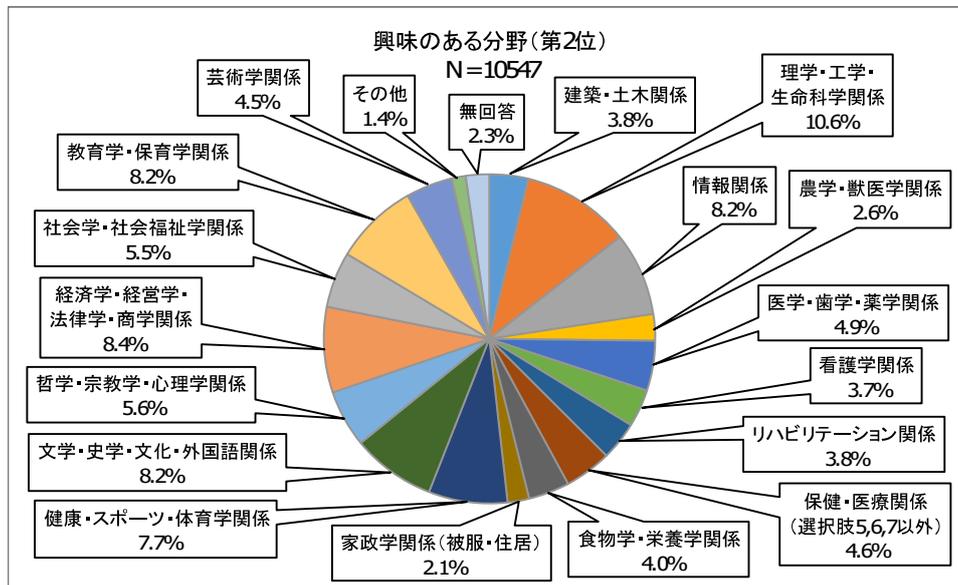
興味のある分野（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	建築・土木関係	481	4.6
2	理学・工学・生命科学関係	1,346	12.8
3	情報関係	744	7.1
4	農学・獣医学関係	299	2.8
5	医学・歯学・薬学関係	661	6.3
6	看護学関係	771	7.3
7	リハビリテーション関係	327	3.1
8	保健・医療関係（選択肢5,6,7以外）	333	3.2
9	食物学・栄養学関係	362	3.4
10	家政学関係（被服・住居）	70	0.7
11	健康・スポーツ・体育学関係	531	5.0
12	文学・史学・文化・外国語関係	959	9.1
13	哲学・宗教学・心理学関係	272	2.6
14	経済学・経営学・法律学・商学関係	1,342	12.7
15	社会学・社会福祉学関係	249	2.4
16	教育学・保育学関係	914	8.7
17	芸術学関係	429	4.1
18	その他	432	4.1
	無回答	25	0.2
	N（%へ-ス）	10,547	100



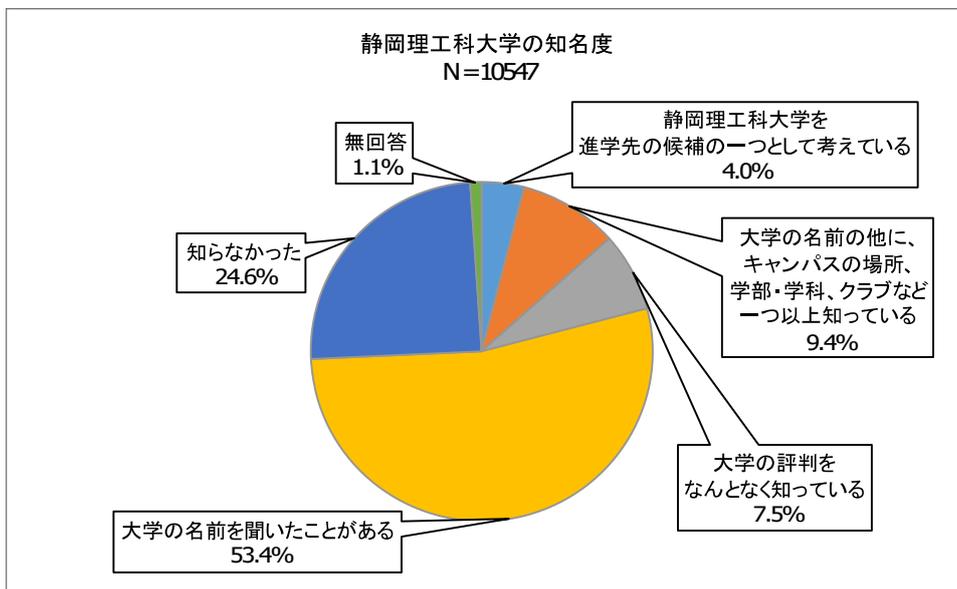
興味のある分野（第2位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	建築・土木関係	400	3.8
2	理学・工学・生命科学関係	1,116	10.6
3	情報関係	864	8.2
4	農学・獣医学関係	274	2.6
5	医学・歯学・薬学関係	518	4.9
6	看護学関係	387	3.7
7	リハビリテーション関係	396	3.8
8	保健・医療関係（選択肢5,6,7以外）	481	4.6
9	食物学・栄養学関係	426	4.0
10	家政学関係（被服・住居）	222	2.1
11	健康・スポーツ・体育学関係	817	7.7
12	文学・史学・文化・外国語関係	862	8.2
13	哲学・宗教学・心理学関係	593	5.6
14	経済学・経営学・法律学・商学関係	883	8.4
15	社会学・社会福祉学関係	585	5.5
16	教育学・保育学関係	864	8.2
17	芸術学関係	471	4.5
18	その他	148	1.4
	無回答	240	2.3
	N（%へ-ス）	10,547	100



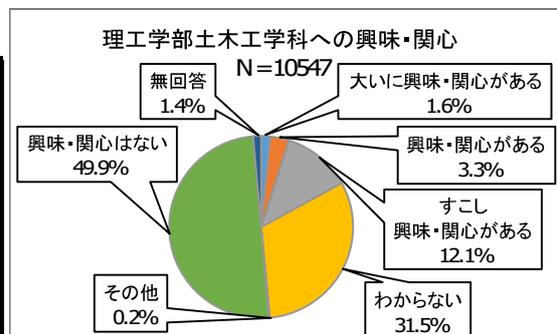
静岡理科大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡理科大学を進学先の候補の一つとして考えている	417	4.0
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部・学科、クラブなど一つ以上知っている	993	9.4
3	大学の評判をなんとなく知っている	793	7.5
4	大学の名前を聞いたことがある	5,629	53.4
5	知らなかった	2,595	24.6
	無回答	120	1.1
	N (%ベース)	10,547	100



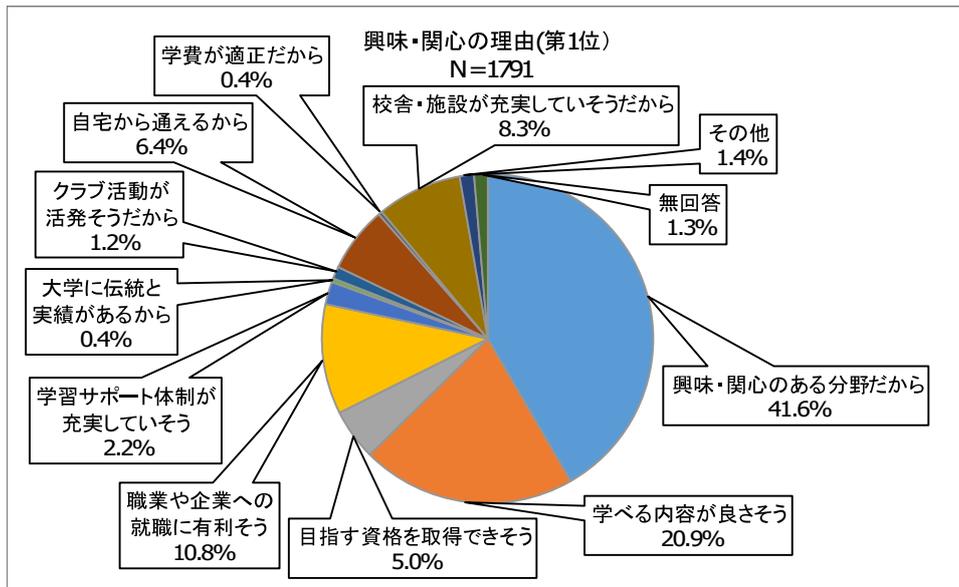
理工学部土木工学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	165	1.6
2	興味・関心がある	348	3.3
3	すこし興味・関心がある	1,278	12.1
4	わからない	3,322	31.5
5	その他	23	0.2
6	興味・関心はない	5,266	49.9
	無回答	145	1.4
	N (%ベース)	10,547	100



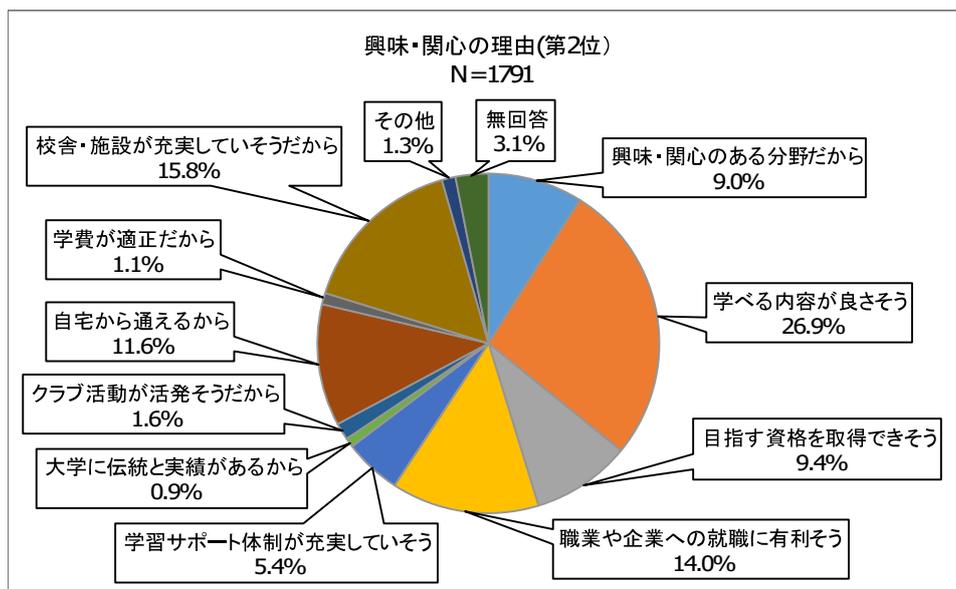
興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	745	41.6
2	学べる内容が良さそう	374	20.9
3	目指す資格を取得できそう	89	5.0
4	職業や企業への就職に有利そう	194	10.8
5	学習サポート体制が充実していそう	40	2.2
6	大学に伝統と実績があるから	8	0.4
7	クラブ活動が活発そうだから	21	1.2
8	自宅から通えるから	115	6.4
9	学費が適正だから	8	0.4
10	校舎・施設が充実していそうだから	149	8.3
11	その他	25	1.4
	無回答	23	1.3
	N (%ベース)	1,791	100



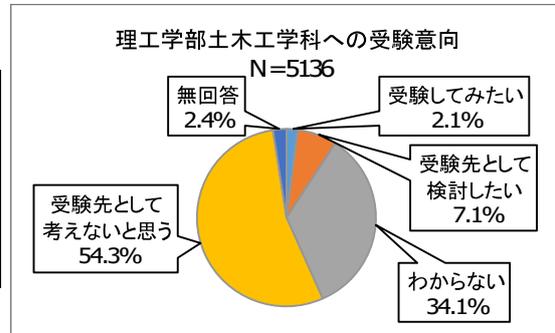
興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	161	9.0
2	学べる内容が良さそう	481	26.9
3	目指す資格を取得できそう	169	9.4
4	職業や企業への就職に有利そう	251	14.0
5	学習サポート体制が充実していそう	96	5.4
6	大学に伝統と実績があるから	17	0.9
7	クラブ活動が活発そうだから	28	1.6
8	自宅から通えるから	208	11.6
9	学費が適正だから	19	1.1
10	校舎・施設が充実していそうだから	283	15.8
11	その他	23	1.3
	無回答	55	3.1
	N (%ベース)	1,791	100



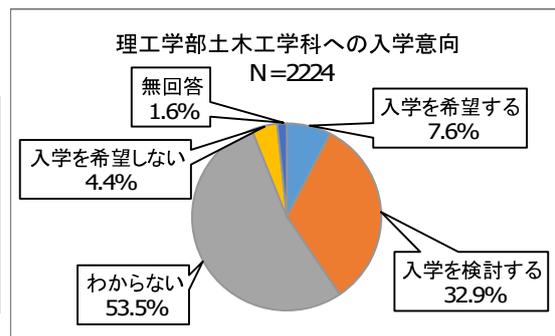
理工学部土木工学科への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	110	2.1
2	受験先として検討したい	364	7.1
3	わからない	1,750	34.1
4	受験先として考えないと思う	2,787	54.3
	無回答	125	2.4
	N (%ベース)	5,136	100



理工学部土木工学科への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	170	7.6
2	入学を検討する	732	32.9
3	わからない	1,189	53.5
4	入学を希望しない	98	4.4
	無回答	35	1.6
	N (%ベース)	2,224	100



省略

1. 書類名

資料 8 (p.35)

類似する近隣の大学・学部・学科の一覧

省略

1. 書類名

資料9 (p.36)

類似する近隣の大学・学部・学科の志願者状況

静岡理工科大学理工学部土木工学科（仮称）の卒業生に
対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

令和2年12月

一般財団法人 日本開発構想研究所

静岡理科大学工学部土木工学科（仮称）の卒業生に対する 企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和4年4月に予定している静岡理科大学工学部土木工学科（仮称）の開設に向けて、静岡理科大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる、1都1府9県（静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、山梨県、長野県、大阪府）に所在する企業等の採用担当者にアンケートを実施し、静岡理科大学工学部土木工学科（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

静岡理科大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる企業等1,659社の採用担当者にアンケートへの協力を依頼し、839件の有効回答があった。

(3) 調査方法

静岡理科大学卒業生の採用実績のある企業等、または卒業生の就職が見込まれる企業等1,659社の採用担当者にアンケート用紙及び静岡理科大学工学部土木工学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答は一般財団法人日本開発構想研究所へ企業等から直接郵送。

集計結果より、静岡理科大学工学部土木工学科（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

令和2年9月～令和2年11月

(5) 有効回収率等

配布数 : 1,659社

有効回答数 : 839件

有効回収率 : 約 50.6%

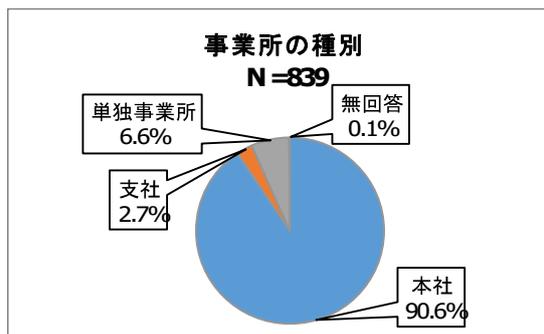
※静岡理科大学が工学部に設置を構想している土木工学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 事業所の種別について

事業所の種別について調査した結果、回答のあった企業等 839 件のうち、「本社」が 760 件（90.6%）と最も多く、次いで「単独事業所」55 件（6.6%）、「支社」23 件（2.7%）の順になっている。 ※「無回答」1 件（0.1%）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	760	90.6
2	支社	23	2.7
3	単独事業所	55	6.6
	無回答	1	0.1
	N（%ベース）	839	100

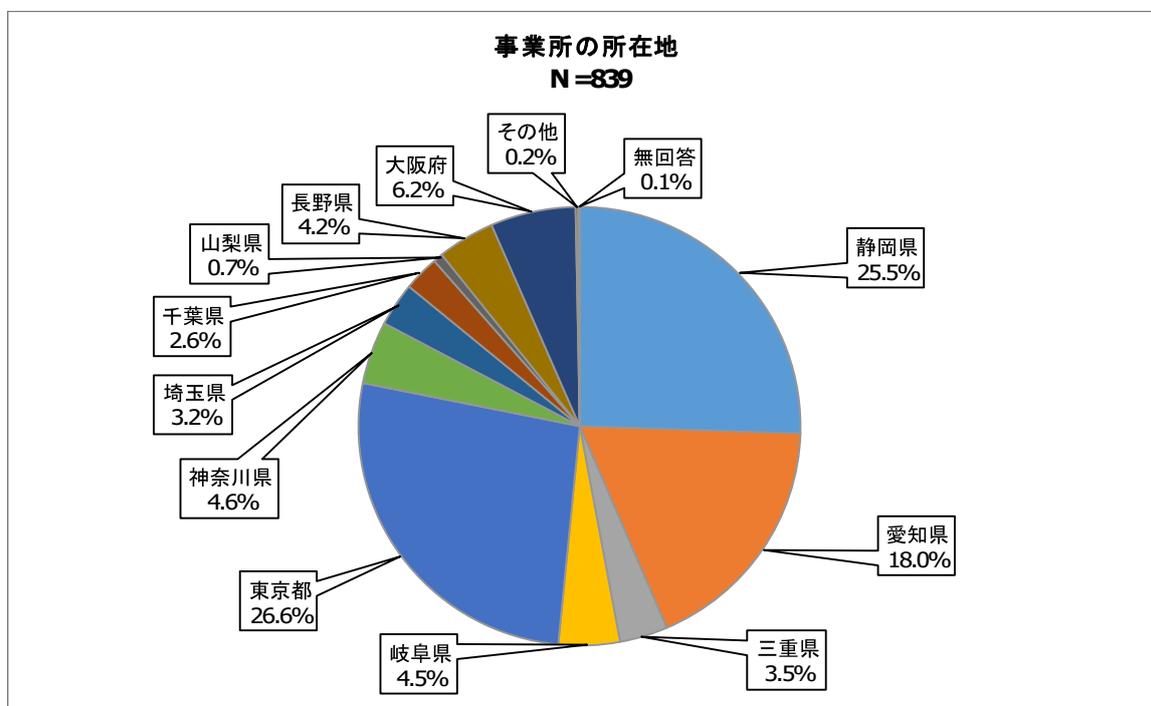


(2) 事業所の所在地について

事業所の所在地について調査した結果、回答のあった企業等 839 件のうち、「東京都」が 223 件 (26.6%) と最も多く、次いで「静岡県」214 件 (25.5%)、「愛知県」151 件 (18.0%)、「大阪府」52 件 (6.2%)、「神奈川県」39 件 (4.6%)、「岐阜県」38 件 (4.5%)、「長野県」35 件 (4.2%)、「三重県」29 件 (3.5%)、「埼玉県」27 件 (3.2%)、「千葉県」22 件 (2.6%)、「山梨県」6 件 (0.7%)、「その他」2 件 (0.2%) の順になっている。 ※「無回答」1 件 (0.1%)

事業所の所在地

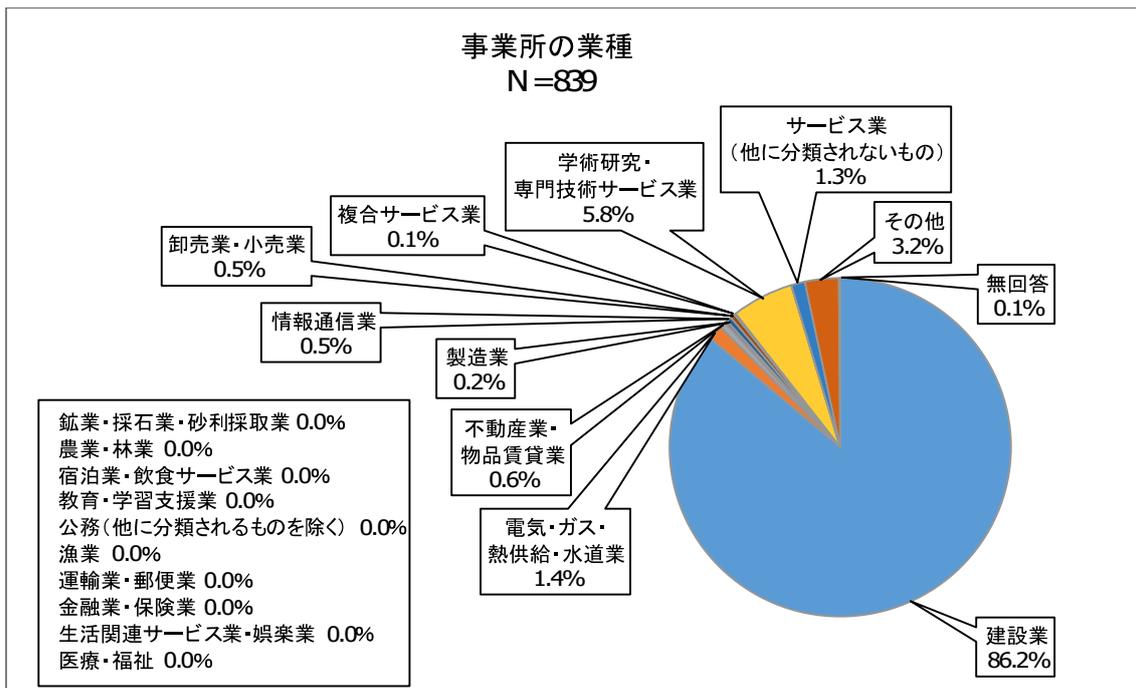
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	214	25.5
2	愛知県	151	18.0
3	三重県	29	3.5
4	岐阜県	38	4.5
5	東京都	223	26.6
6	神奈川県	39	4.6
7	埼玉県	27	3.2
8	千葉県	22	2.6
9	山梨県	6	0.7
10	長野県	35	4.2
11	大阪府	52	6.2
12	その他	2	0.2
	無回答	1	0.1
	N (%ベース)	839	100



(3) 事業所の業種について

事業所の業種について調査した結果、回答のあった企業等 839 件のうち、5 件以上の回答を得られたものを挙げると、「建設業」が 723 件（86.2%）と最も多く、次いで「学術研究・専門技術サービス業」49 件（5.8%）、「その他」27 件（3.2%）、「電気・ガス・熱供給・水道業」12 件（1.4%）、「サービス業（他に分類されないもの）」11 件（1.3%）、「不動産業・物品賃貸業」5 件（0.6%）の順になっている。 ※「無回答」1 件（0.1%）

事業所の業種		
No.	カテゴリ	(全体)%
1	建設業	723 86.2
2	電気・ガス・熱供給・水道業	12 1.4
3	不動産業・物品賃貸業	5 0.6
4	鉱業・採石業・砂利採取業	0 0.0
5	製造業	2 0.2
6	農業・林業	0 0.0
7	情報通信業	4 0.5
8	卸売業・小売業	4 0.5
9	宿泊業・飲食サービス業	0 0.0
10	教育・学習支援業	0 0.0
11	複合サービス業	1 0.1
12	公務（他に分類されるものを除く）	0 0.0
13	漁業	0 0.0
14	運輸業・郵便業	0 0.0
15	金融業・保険業	0 0.0
16	学術研究・専門技術サービス業	49 5.8
17	生活関連サービス業・娯楽業	0 0.0
18	医療・福祉	0 0.0
19	サービス業（他に分類されないもの）	11 1.3
20	その他	27 3.2
	無回答	1 0.1
	N（%ベース）	839 100

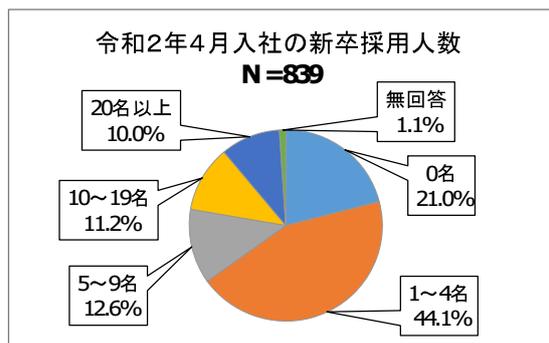


(4) 令和2年4月入社の新卒採用人数について

令和2年4月入社の新卒採用人数の採用人数について調査した結果、回答のあった企業等839件のうち、「1～4名」が370件（44.1%）と最も多く、次いで「0名」176件（21.0%）、「5～9名」106件（12.6%）、「10～19名」94件（11.2%）、「20名以上」84件（10.0%）の順になっている。 ※「無回答」9件（1.1%）

令和2年4月入社の新卒採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0名	176	21.0
2	1～4名	370	44.1
3	5～9名	106	12.6
4	10～19名	94	11.2
5	20名以上	84	10.0
	無回答	9	1.1
	N（%ベース）	839	100

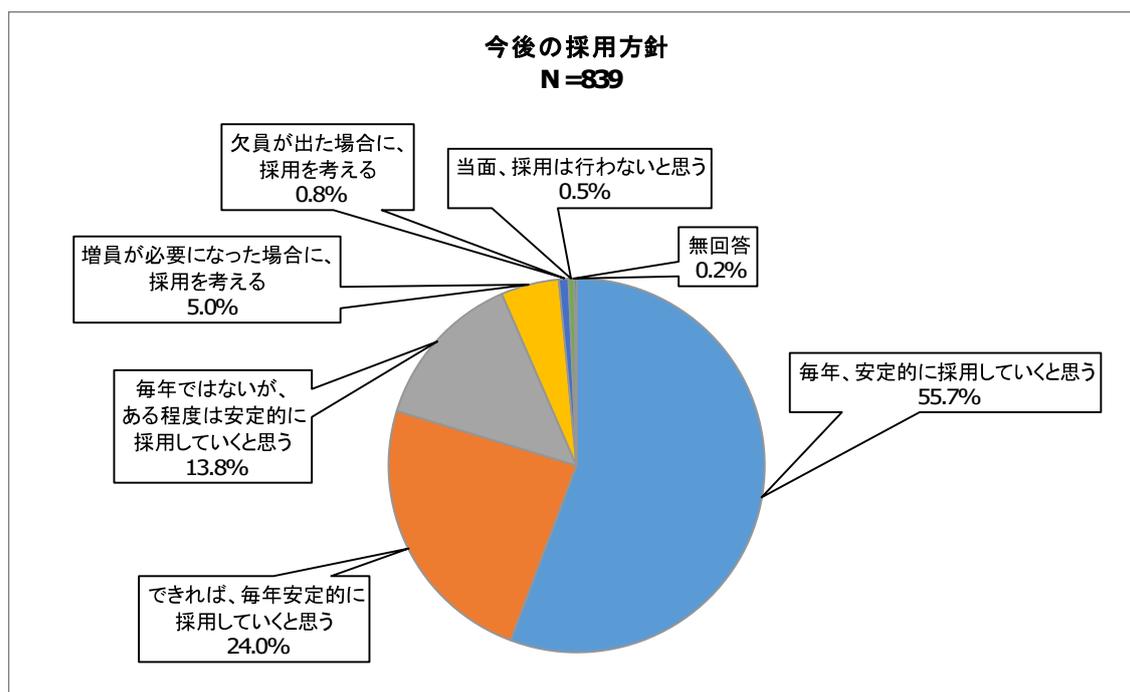


(5) 今後の採用方針について

今後の採用方針について調査した結果、回答のあった企業等 839 件のうち、「毎年、安定的に採用していくと思う」が 467 件（55.7%）と最も多く、次いで「できれば、毎年安定的に採用していくと思う」201 件（24.0%）、「毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していくと思う」116 件（13.8%）、「増員が必要になった場合に、採用を考える」42 件（5.0%）、「欠員が出た場合に、採用を考える」7 件（0.8%）、「当面、採用は行わないと思う」4 件（0.5%）の順になっている。 ※「無回答」2 件（0.2%）

今後の採用方針

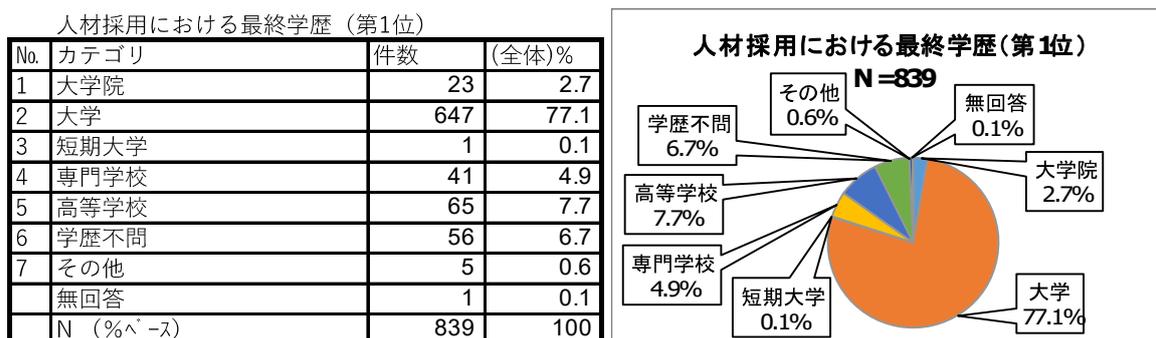
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	467	55.7
2	できれば、毎年安定的に採用していくと思う	201	24.0
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していくと思う	116	13.8
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	42	5.0
5	欠員が出た場合に、採用を考える	7	0.8
6	当面、採用は行わないと思う	4	0.5
	無回答	2	0.2
	N（%ベース）	839	100



(6) 人材採用における最終学歴について

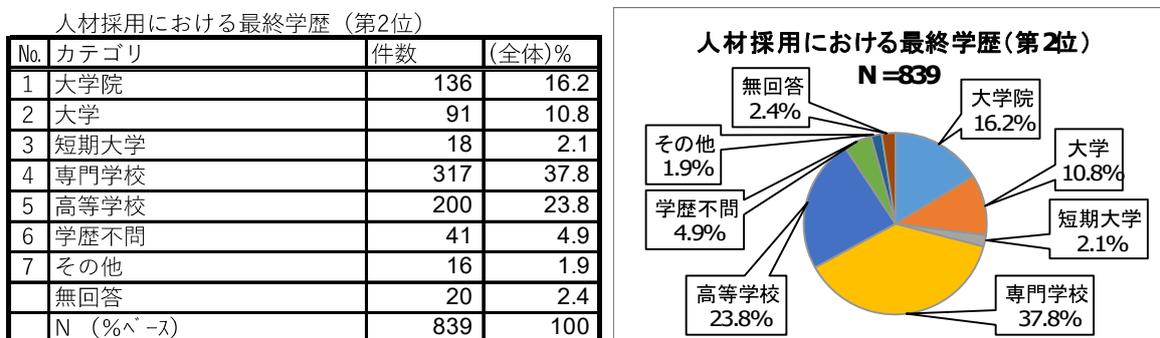
6-1 人材採用における最終学歴（第1位）について

人材採用における最終学歴（第1位）について調査したところ、回答のあった企業等 839 件のうち、「大学」が 647 件（77.1%）と最も多く、次いで「高等学校」65 件（7.7%）、「学歴不問」56 件（6.7%）、「専門学校」41 件（4.9%）、「大学院」23 件（2.7%）、「その他」5 件（0.6%）、「短期大学」1 件（0.1%）の順になっている。 ※「無回答」1 件（0.1%）



6-2 人材採用における最終学歴（第2位）について

人材採用における最終学歴（第2位）について調査したところ、回答のあった企業等 839 件のうち、「専門学校」が 317 件（37.8%）と最も多く、次いで「高等学校」200 件（23.8%）、「大学院」136 件（16.2%）、「大学」91 件（10.8%）、「学歴不問」41 件（4.9%）、「短期大学」18 件（2.1%）、「その他」16 件（1.9%）の順になっている。 ※「無回答」20 件（2.4%）



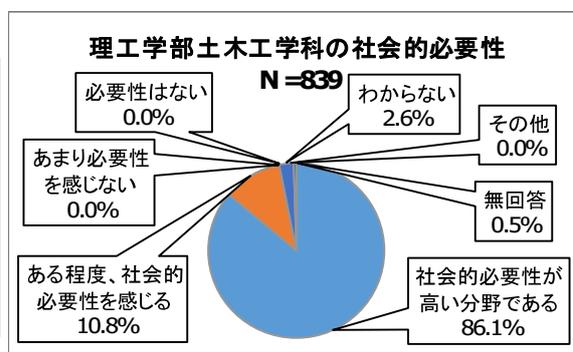
(7) 理工学部土木工学科の社会的必要性について

静岡理工科大学理工学部土木工学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 839 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 722 件 (86.1%) と最も多く、次いで「ある程度、社会的必要性を感じる」91 件 (10.8%)、「わからない」22 件 (2.6%) の順になっている。 ※「無回答」4 件 (0.5%)、

なお、静岡理工科大学理工学部土木工学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「ある程度、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、813 件 (96.9%) となっている。

理工学部土木工学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	722	86.1
2	ある程度、社会的必要性を感じる	91	10.8
3	あまり必要性を感じない	0	0.0
4	必要性はない	0	0.0
5	わからない	22	2.6
6	その他	0	0.0
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	839	100



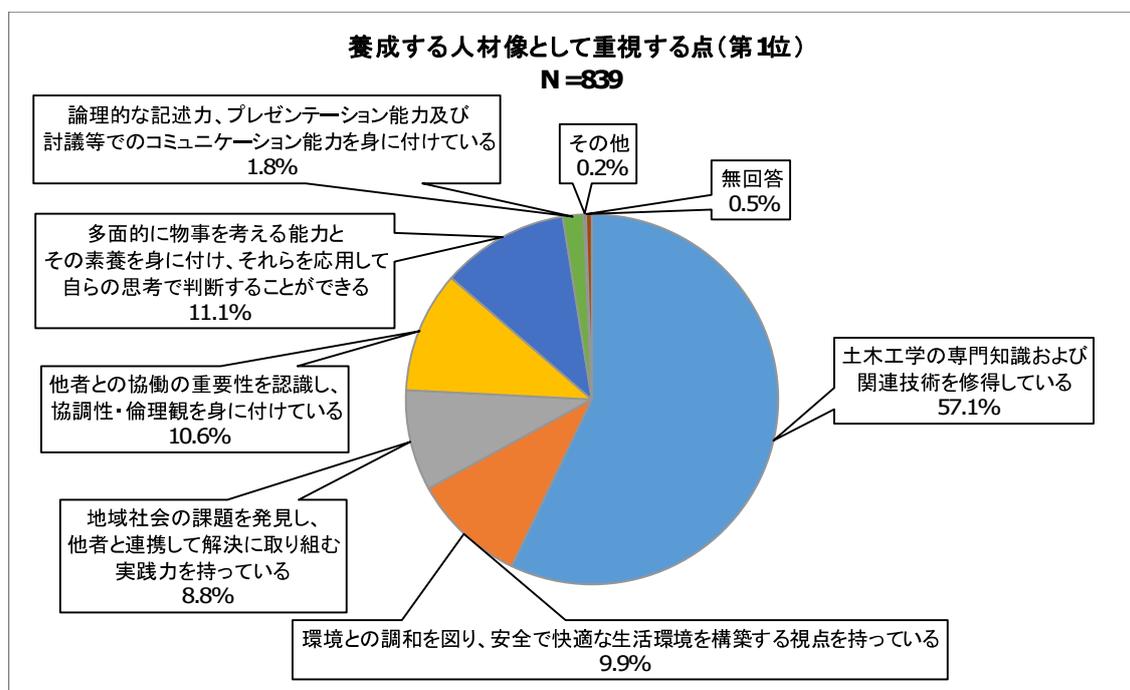
(8) 養成する人材像として重視する点について

8-1 養成する人材像として重視する点 (第1位)

「養成する人材像」などで、重要と考える点について調査した結果、回答のあった企業等 839 件のうち、「土木工学の専門知識および関連技術を修得している」が 479 件 (57.1%) と最も多く、次いで「多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、それらを応用して自らの思考で判断することができる」93 件 (11.1%)、「他者との協働の重要性を認識し、協調性・倫理観を身に付けている」89 件 (10.6%)、「環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する視点を持っている」83 件 (9.9%)、「地域社会の課題を発見し、他者と連携して解決に取り組む実践力を持っている」74 件 (8.8%)、「論理的な記述力、プレゼンテーション能力及び討議等でのコミュニケーション能力を身に付けている」15 件 (1.8%)、「その他」2 件 (0.2%) の順になっている。 ※「無回答」4 件 (0.5%)

養成する人材像として重視する点 (第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	土木工学の専門知識および関連技術を修得している	479	57.1
2	環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する視点を持っている	83	9.9
3	地域社会の課題を発見し、他者と連携して解決に取り組む実践力を持っている	74	8.8
4	他者との協働の重要性を認識し、協調性・倫理観を身に付けている	89	10.6
5	多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、それらを応用して自らの思考で判断することができる	93	11.1
6	論理的な記述力、プレゼンテーション能力及び討議等でのコミュニケーション能力を身に付けている	15	1.8
7	その他	2	0.2
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	839	100

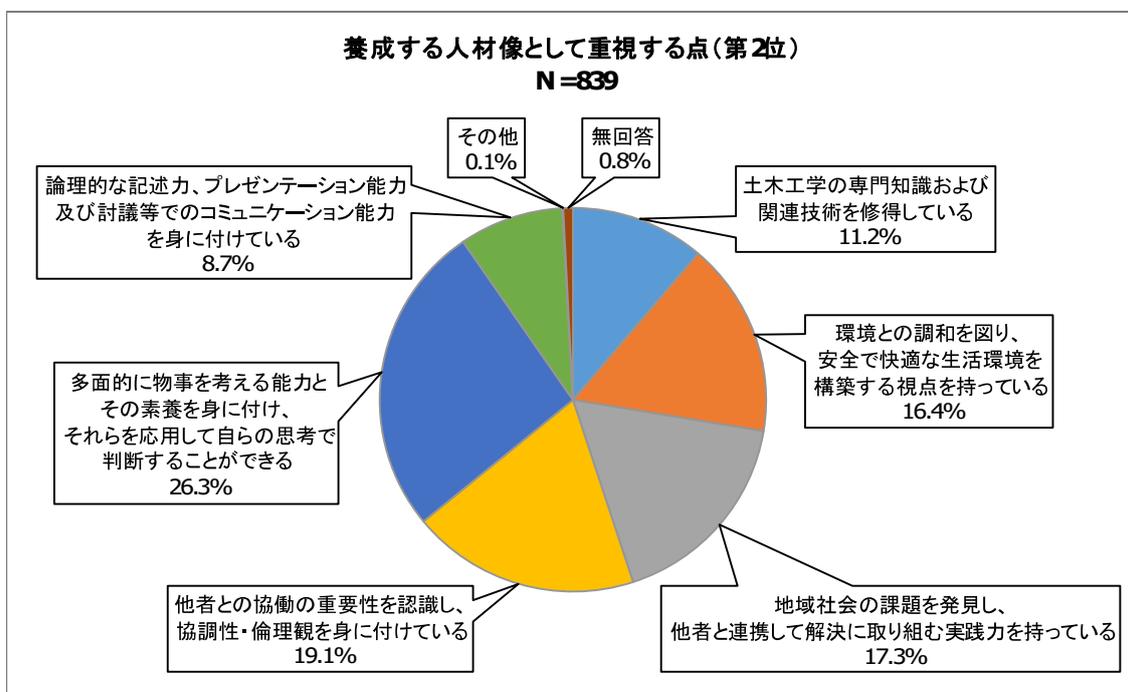


8-2 養成する人材像として重視する点（第2位）

「養成する人材像」などで、重要と考える点について調査した結果、回答のあった企業等 839 件のうち、「多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、それらを応用して自らの思考で判断することができる」が 221 件（26.3%）と最も多く、次いで「他者との協働の重要性を認識し、協調性・倫理観を身に付けている」160 件（19.1%）、「地域社会の課題を発見し、他者と連携して解決に取り組む実践力を持っている」145 件（17.3%）、「環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する視点を持っている」138 件（16.4%）、「土木工学の専門知識および関連技術を修得している」94 件（11.2%）、「論理的な記述力、プレゼンテーション能力及び討議等でのコミュニケーション能力を身に付けている」73 件（8.7%）、「その他」1 件（0.1%）の順になっている。 ※「無回答」7 件（0.8%）

養成する人材像として重視する点（第2位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	土木工学の専門知識および関連技術を修得している	94	11.2
2	環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する視点を持っている	138	16.4
3	地域社会の課題を発見し、他者と連携して解決に取り組む実践力を持っている	145	17.3
4	他者との協働の重要性を認識し、協調性・倫理観を身に付けている	160	19.1
5	多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、それらを応用して自らの思考で判断することができる	221	26.3
6	論理的な記述力、プレゼンテーション能力及び討議等でのコミュニケーション能力を身に付けている	73	8.7
7	その他	1	0.1
	無回答	7	0.8
	N（%ベース）	839	100



(9) 理工学部土木工学科の卒業生の採用意向について

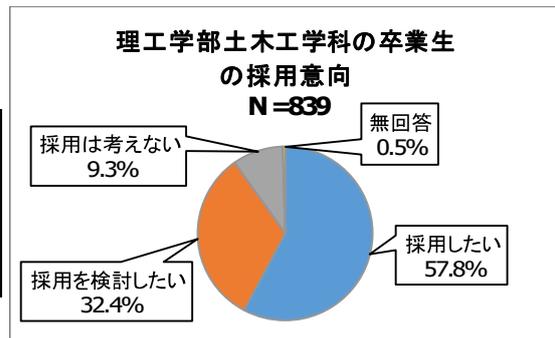
静岡理工科大学理工学部土木工学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 839 件のうち、「採用したい」が 485 件 (57.8%) と最も多く、次いで「採用を検討したい」272 件 (32.4%)、「採用は考えない」78 件 (9.3%) の順になっている。

※「無回答」4 件 (0.5%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、757 件 (90.2%) となっている。

理工学部土木工学科の卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	485	57.8
2	採用を検討したい	272	32.4
3	採用は考えない	78	9.3
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	839	100

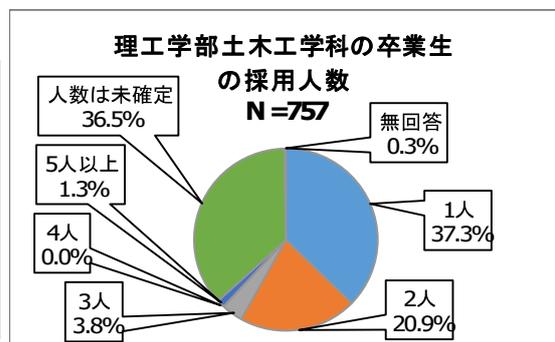


(10) 理工学部土木工学科の卒業生の採用人数について

「(9) 理工学部土木工学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 757 件に対して、静岡理工科大学理工学部土木工学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「1 人」が 282 件 (37.3%) と最も多く、次いで「人数は未確定」276 件 (36.5%)、「2 人」158 件 (20.9%)、「3 人」29 件 (3.8%)、「5 人以上」10 件 (1.3%) の順になっている。 ※「無回答」2 件 (0.3%)

理工学部土木工学科の卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	282	37.3
2	2人	158	20.9
3	3人	29	3.8
4	4人	0	0.0
5	5人以上	10	1.3
6	人数は未確定	276	36.5
	無回答	2	0.3
	N (%ベース)	757	100



3. 調査結果のまとめ

静岡理科大学理工学部土木工学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(9) 理工学部土木工学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(10) 理工学部土木工学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(9) 理工学部土木工学科の卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下記の表より、静岡理科大学理工学部土木工学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、716人分となる。入学定員は50名であるため、約14.3倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は1,011人となり、これは、入学定員50名に対して、約20.2倍となる。

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」のみ		合計	
1人(A)	179	(a)	$(A) \times (a)$	179
2人(B)	135	(b)	$(B) \times (b)$	270
3人(C)	29	(c)	$(C) \times (c)$	87
4人(D)	-	(d)	$(D) \times (d)$	-
5人以上(E)	10	(e)	$(E) \times (e)$	50
人数は未確定(F)	130	(f)	$(F) \times (f)$	130
無回答	2			

合計採用意向 716人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 「採用を検討したい」の合計		合計	
1人(A)	282	(a)	$(A) \times (a)$	282
2人(B)	158	(b)	$(B) \times (b)$	316
3人(C)	29	(c)	$(C) \times (c)$	87
4人(D)	-	(d)	$(D) \times (d)$	-
5人以上(E)	10	(e)	$(E) \times (e)$	50
人数は未確定(F)	276	(f)	$(F) \times (f)$	276
無回答	2			

合計採用意向 1011人

以上の調査結果と、今回の調査対象以外への進路も考えられることから、静岡理科大学理工学部土木工学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

調查票

静岡理科大学 理工学部土木工学科(仮称)の設置に係るアンケート調査

本調査は、2022年(令和4年)4月に設置を計画している静岡理科大学 理工学部土木工学科(仮称)について、設置の基礎資料とするため、貴社の採用状況・意向についてお聞きするものです。このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、その目的以外に利用することはありません。回答は、該当する番号を回答欄の □ の中へ直接記入下さい。

★調査回答締め切りのお願い★

2020年11月13日(金)までに、同封の返信用封筒にてご投函頂きますようお願いいたします。

【 貴社についてお聞きします 】

【回答欄】

Q1. 本社・支社・事業所等についてお聞きします。次の中から該当する番号を 1つ お選びください。

1. 本社 2. 支社 3. 単独事業所

Q2. 回答された方の事業所等の所在地についてお聞きします。次の中から該当する番号を 1つ お選びください。

- | | | |
|--------|---------|----------------------------------|
| 1. 静岡県 | 5. 東京都 | 9. 山梨県 |
| 2. 愛知県 | 6. 神奈川県 | 10. 長野県 |
| 3. 三重県 | 7. 埼玉県 | 11. 大阪府 |
| 4. 岐阜県 | 8. 千葉県 | 12. その他 () |

Q3. 貴社の業種についてお聞きします。次の中から 最も当てはまる番号 を 1つ お選びください。

- | | |
|------------------|--------------------------------------|
| 1. 建設業 | 11. 複合サービス業 |
| 2. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 12. 公務(他に分類されるものを除く) |
| 3. 不動産業・物品賃貸業 | 13. 漁業 |
| 4. 鉱業・採石業・砂利採取業 | 14. 運輸業・郵便業 |
| 5. 製造業 | 15. 金融業・保険業 |
| 6. 農業・林業 | 16. 学術研究・専門技術サービス業 |
| 7. 情報通信業 | 17. 生活関連サービス業・娯楽業 |
| 8. 卸売業・小売業 | 18. 医療・福祉 |
| 9. 宿泊業・飲食サービス業 | 19. サービス業(他に分類されないもの) |
| 10. 教育・学習支援業 | 20. その他(具体的に:) |

Q4. 令和2年4月入社の新卒採用人数について、該当する番号を 1つ お選びください。
(Q1で「支社」または「単独事業所」と回答された場合は、そちらでの採用数をご回答下さい)

1. 0名 2. 1～4名 3. 5～9名 4. 10～19名 5. 20名以上

番号でご回答ください

Q5. 今後の採用について、どのようにお考えですか。お考えに近い番号を 1つ お選びください。

1. 毎年、安定的に採用していくと思う
2. できれば、毎年安定的に採用していくと思う
3. 毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していくと思う
4. 増員が必要になった場合に、採用を考える
5. 欠員が出た場合に、採用を考える
6. 当面、採用は行わないと思う

⇨ 裏面へお進みください ⇨

Q6. 今後の採用にあたり、どのような最終学歴の方の採用をお考えですか。
「採用対象となる」と思われる番号を第2位までお選びください。

- | | | | | |
|---------|---------|------------|-----|----------------------|
| 1. 大学院 | 4. 専門学校 | 7. その他 () | 第1位 | <input type="text"/> |
| 2. 大学 | 5. 高等学校 | | 第2位 | <input type="text"/> |
| 3. 短期大学 | 6. 学歴不問 | | | |

**ここからは、同封の「理工学部土木工学科(仮称)の概要(リーフレット)」
をご覧になりながらお答えください**

Q7. 静岡理工科大学が設置を計画している土木工学科(仮称)の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | |
|--------------------|----------------|----------------------|
| 1. 社会的必要性が高い分野である | 4. 必要性はない | <input type="text"/> |
| 2. ある程度、社会的必要性を感じる | 5. わからない | |
| 3. あまり必要性を感じない | 6. その他(具体的に:) | |

Q8. 静岡理工科大学が設置を計画している土木工学科(仮称)の「養成する人材像」などで、重要と考えるものはどれですか。あてはまる番号を第2位までお選びください。

- | | | |
|--|-----|----------------------|
| 1. 土木工学の専門知識および関連技術を修得している | 第1位 | <input type="text"/> |
| 2. 環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する視点を持っている | | |
| 3. 地域社会の課題を発見し、他者と連携して解決に取り組む実践力を持っている | 第2位 | <input type="text"/> |
| 4. 他者との協働の重要性を認識し、協調性・倫理観を身に付けている | | |
| 5. 多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、それらを応用して自らの思考で判断することができる | | |
| 6. 論理的な記述力、プレゼンテーション能力及び討議等でのコミュニケーション能力を身に付けている | | |
| 7. その他 () | | |

Q9. 静岡理工科大学が設置を計画している土木工学科(仮称)の卒業生の採用についておたずねします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | |
|-------------|--|----------------------|
| 1. 採用したい | } 1、2を選ばれた方はQ10へお進みください。
3を選ばれた方はQ11へお進みください。 | <input type="text"/> |
| 2. 採用を検討したい | | |
| 3. 採用は考えない | | |

Q10. 静岡理工科大学が設置を計画している土木工学科(仮称)の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|---------|-----------|----------------------|
| 1. 1人 | 2. 2人 | 3. 3人 | 4. 4人 | 5. 5人以上 | 6. 人数は未確定 | <input type="text"/> |
|-------|-------|-------|-------|---------|-----------|----------------------|

Q11. 静岡理工科大学が設置を計画している土木工学科(仮称)の設置計画について、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。
その他、大学の教育内容・活動等について、ご意見等ございましたら、あわせてご記入ください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

本件に関する問合せ先

静岡理工科大学 企画室 (担当: 山下、望月) 〒437-8555 静岡県袋井市豊沢 2200-2

電話: 0538-45-0111

計画概要

理工学部

Faculty of
Science and
Technology



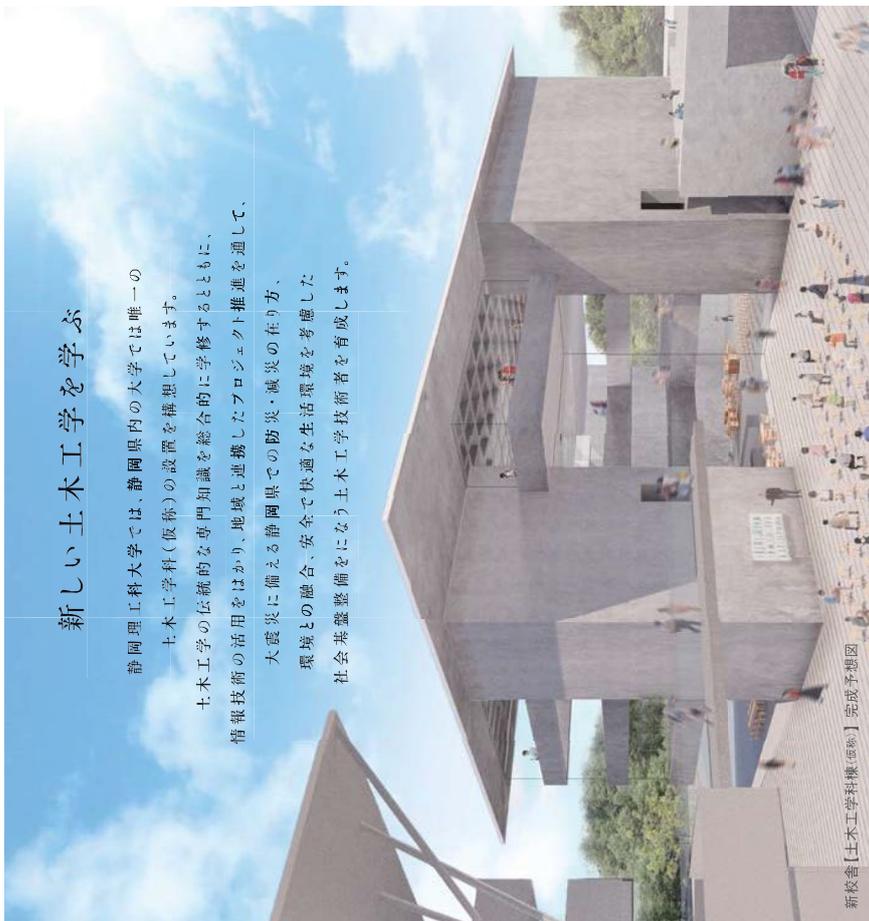
静岡理科大学
理工学部のピックアップ学科

建築学科

入学定員50名

建築計画・意匠
建築構造
建築材料
建築環境・設備

建築計画・意匠、建築構造、建築材料、建築環境・設備の4分野とこれらに関連した幅広い領域とのつながりがバリエーションよく学修します。



新しい土木工学を学ぶ

静岡理科大学では、静岡県内の大学では唯一の土木工学科(仮称)の設置を構想しています。

土木工学の伝統的な専門知識を総合的に学修するとともに、情報技術の活用をはかり、地域と連携したプロジェクト推進を通して、大震災に備える静岡県での防災・減災の在り方、環境との融合、安全で快適な生活環境を考慮した社会基盤整備をになう土木工学技術者を育成します。

新校舎【土木工学科棟(仮称)】完成予定図

土木工学部

Department of
Civil
Engineering (仮称)

※理工学部土木工学科(仮称)は、2022年4月1日の開設を目指して設備準備を進めています。学部学科の概要等は予定であり、今後の検討の結果、本概要を変更する場合があります。

2022年4月 設置構想中

SIST 静岡理科大学

静岡理科大学の学部・学科

<p>理工学部</p> <p>機械工学科 入学定員75名 ロボット、自動車、航空機分野に携わるエンジニアを育成する。</p> <p>電気電子工学科 入学定員60名 情報技術、自動制御、エネルギー産業を支えるキーテクノロジー/ロボットを学ぶ。</p> <p>物質生命科学科 入学定員55名 化学をベースに新素材、バイオ/微生物技術の産業への活用を学ぶ。</p> <p>建築学科 入学定員50名 建築デザイン、環境、構造を総合的に学び、建築士を目指す。</p> <p>土木工学科(仮称) 予定入学定員50名 社会基盤整備や防災・減災の発展に貢献できるエンジニアを育成する。</p>	<p>情報学部</p> <p>コンピュータシステム学科 入学定員60名 人工知能、ネットワーク、情報技術を専攻する。</p> <p>データサイエンス専攻 入学定員15名 (コンピュータシステム学科) ビッグデータを情報処理からアプローチする。(2020年設置)</p> <p>情報デザイン学科 入学定員70名 情報技術を人間・社会に応用する人材を育成する。</p>
--	--

Access [交通アクセス]



【車でのアクセス】

- 東名高速「袋井IC」から 約20分
- 東名高速「掛川IC」から 約20分
- 新東名高速「藤掛川IC」から 約30分

【新幹線を利用した場合】

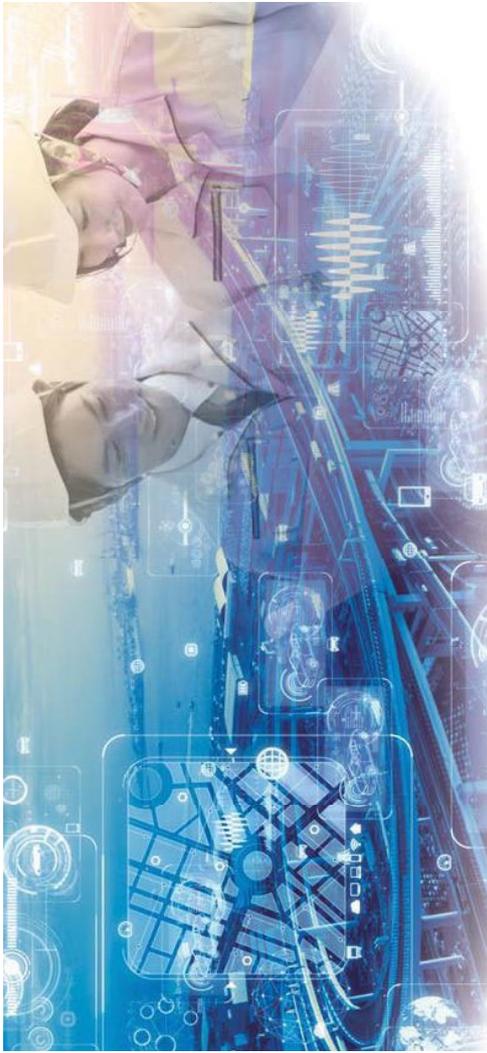
- 静岡駅～愛野駅 最速 28分
- 豊橋駅～愛野駅 最速 39分
- 名古屋駅～愛野駅 最速 60分
- 東京駅～愛野駅 最速115分

【JR東海道本線「愛野駅」より】

無料シャトルバス 約20分
徒歩 徒歩 約30分

富士山静岡空港より バス 35分

SIST 静岡理科大学 〒437-8555 静岡県森井市郷沢2200-2
TEL:0538-45-0111/FAX:0538-45-0110 <https://www.sist.ac.jp/>



静岡県内大学唯一の「土木工学科(仮称)」
静岡をフィールドとした学びで、
人・生活を
自然災害から守る
土木工学

特色 | 情報技術を活用した
01. | 新しい土木を学ぶ

土木工学では、他分野に先んじてGPS、人工衛星、人感センサー、AI、ドローンを使った3D技術、自動操縦を活用しています。データ解析などを取り入れ、さらに環境への対応に取り組めます。

特色 | 静岡県内大学唯一の「土木工学科」
02. | で学ぶ防災・減災
(仮称)

静岡県は鉄道、港湾、空港を完備した交通の要所であり、大規模な災害発生時には日本全体が多大な影響を受けます。橋や道路など社会基盤の老朽化と災害の発生に対する地域防災に取り組めます。

特色 | **03.**
新たな校舎、実験棟

学生同士や教員との対話をもたらす開放的なワンルーム階層の校舎の中で、研究分野の垣根を越えて交流や協働を促進する学び舎を建設。

特色 | プロジェクト科目と
04. | フィールドワーク

富士山をはじめとして背後に高い山々が連なり海岸線が近く東西に長い地理的特徴をもつ静岡県をフィールドとしたプロジェクト科目で広範な視野と能動的な行動力を育成します。

地盤工学
液状化 / 土砂災害

▲液状化現象で隆起した建物

土木材料科学
コンクリート / 鋼 / 繊維補強材

▲トンネル工事現場の巨大ドリルマン

都市環境学
交通工学 / 国土計画 / 環境工学

水工学
河川 / 海岸

洪水対策シミュレーション

▲耐震補強工事

土木構造学
構造工学 / 耐震 / 維持管理

取得可能な資格

- 卒業とともに得られる主な資格 / 測量士補
- 卒業後、実務経験で受験資格を得られる主な資格 / 2級土木施工管理技士

卒業後の進路

- 建設会社の土木施工管理技士
- 公務員(技術職)
- 大学院進学
- 鉄道会社、電力会社等のエンジニア
- などを目指します。

静岡理工科大学 理工学部 土木工学科(仮称) 構想概要

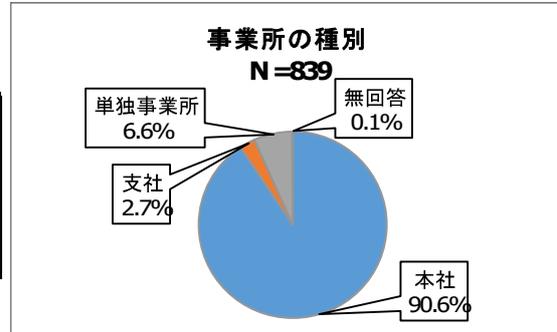
- 設置学科 / 理工学部土木工学科(仮称)
- 開設場所 / 静岡県袋井市豊沢2200-2
- 開設時期 / 2022年4月1日開設予定
- 入学定員 / 50名(予定)

※理工学部土木工学科(仮称)の概要等は予定であり、今後変更になる場合があります。

單純集計表

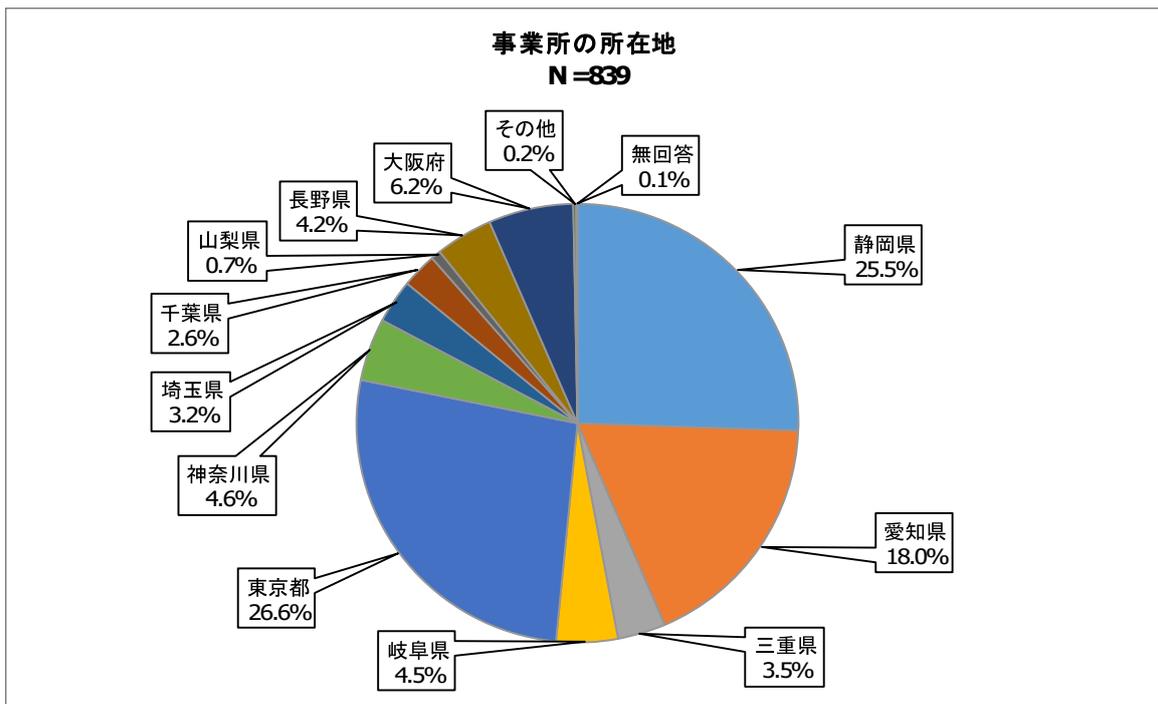
事業所の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	760	90.6
2	支社	23	2.7
3	単独事業所	55	6.6
	無回答	1	0.1
	N (% [^] -s)	839	100



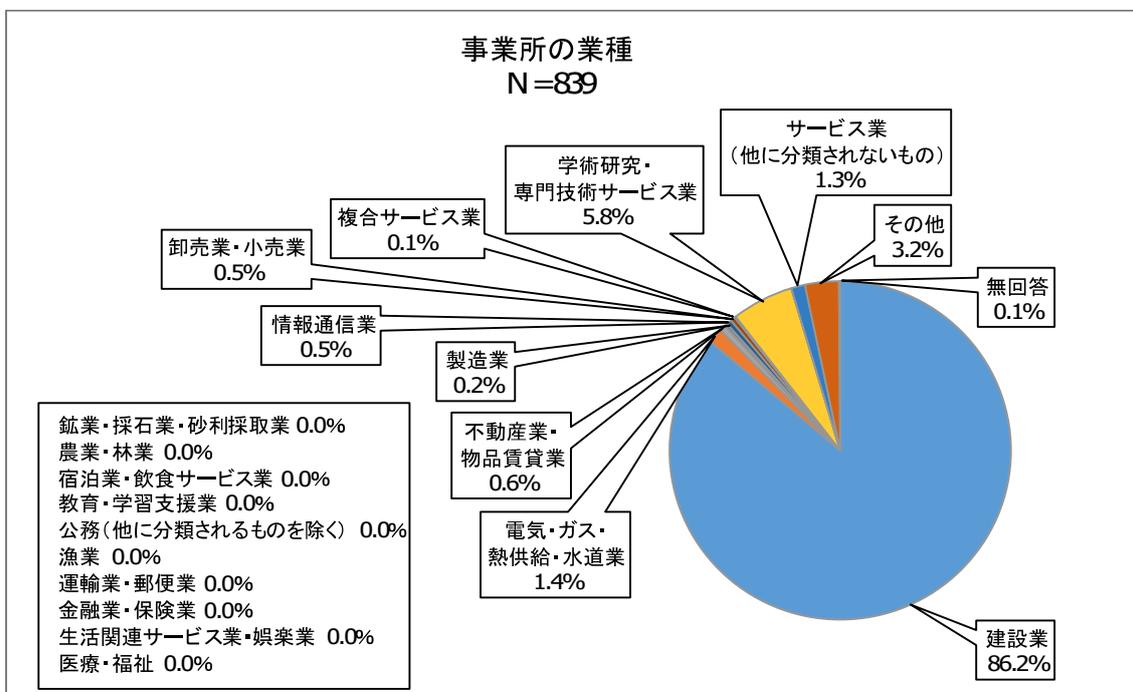
事業所の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	214	25.5
2	愛知県	151	18.0
3	三重県	29	3.5
4	岐阜県	38	4.5
5	東京都	223	26.6
6	神奈川県	39	4.6
7	埼玉県	27	3.2
8	千葉県	22	2.6
9	山梨県	6	0.7
10	長野県	35	4.2
11	大阪府	52	6.2
12	その他	2	0.2
	無回答	1	0.1
	N (% [^] -s)	839	100



事業所の業種

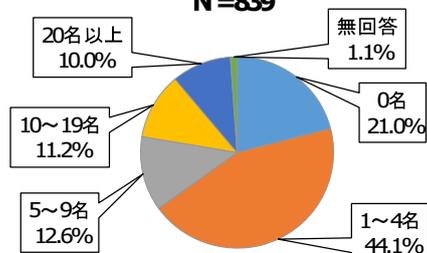
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	建設業	723	86.2
2	電気・ガス・熱供給・水道業	12	1.4
3	不動産業・物品賃貸業	5	0.6
4	鉱業・採石業・砂利採取業	0	0.0
5	製造業	2	0.2
6	農業・林業	0	0.0
7	情報通信業	4	0.5
8	卸売業・小売業	4	0.5
9	宿泊業・飲食サービス業	0	0.0
10	教育・学習支援業	0	0.0
11	複合サービス業	1	0.1
12	公務（他に分類されるものを除く）	0	0.0
13	漁業	0	0.0
14	運輸業・郵便業	0	0.0
15	金融業・保険業	0	0.0
16	学術研究・専門技術サービス業	49	5.8
17	生活関連サービス業・娯楽業	0	0.0
18	医療・福祉	0	0.0
19	サービス業（他に分類されないもの）	11	1.3
20	その他	27	3.2
	無回答	1	0.1
	N（%ベース）	839	100



令和2年4月入社の新卒採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0名	176	21.0
2	1~4名	370	44.1
3	5~9名	106	12.6
4	10~19名	94	11.2
5	20名以上	84	10.0
	無回答	9	1.1
	N (%ベース)	839	100

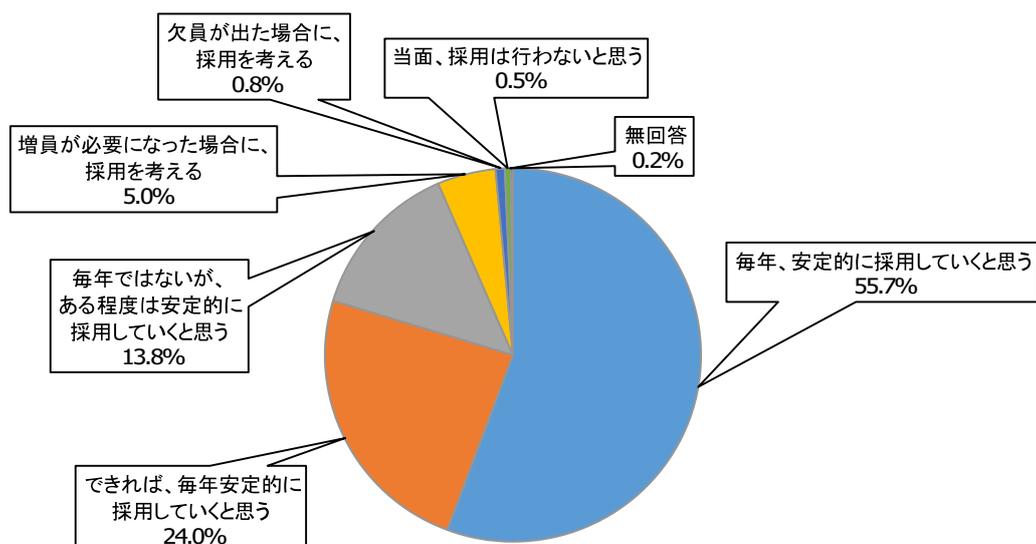
令和2年4月入社の新卒採用人数
N=839



今後の採用方針

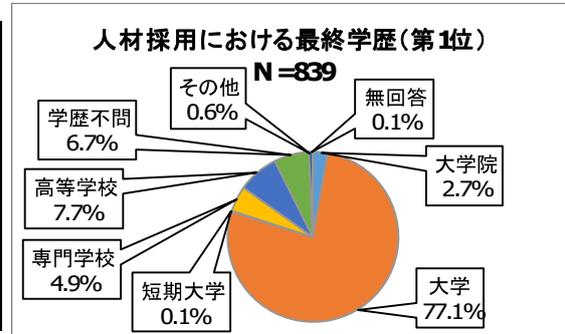
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎年、安定的に採用していくと思う	467	55.7
2	できれば、毎年安定的に採用していくと思う	201	24.0
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していくと思う	116	13.8
4	増員が必要になった場合に、採用を考える	42	5.0
5	欠員が出た場合に、採用を考える	7	0.8
6	当面、採用は行わないと思う	4	0.5
	無回答	2	0.2
	N (%ベース)	839	100

今後の採用方針
N=839



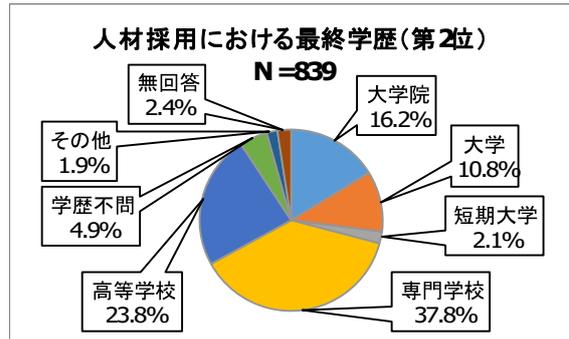
人材採用における最終学歴（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	23	2.7
2	大学	647	77.1
3	短期大学	1	0.1
4	専門学校	41	4.9
5	高等学校	65	7.7
6	学歴不問	56	6.7
7	その他	5	0.6
	無回答	1	0.1
	N (%ベース)	839	100



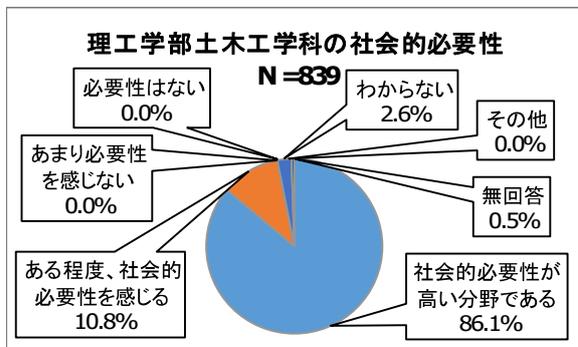
人材採用における最終学歴（第2位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学院	136	16.2
2	大学	91	10.8
3	短期大学	18	2.1
4	専門学校	317	37.8
5	高等学校	200	23.8
6	学歴不問	41	4.9
7	その他	16	1.9
	無回答	20	2.4
	N (%ベース)	839	100



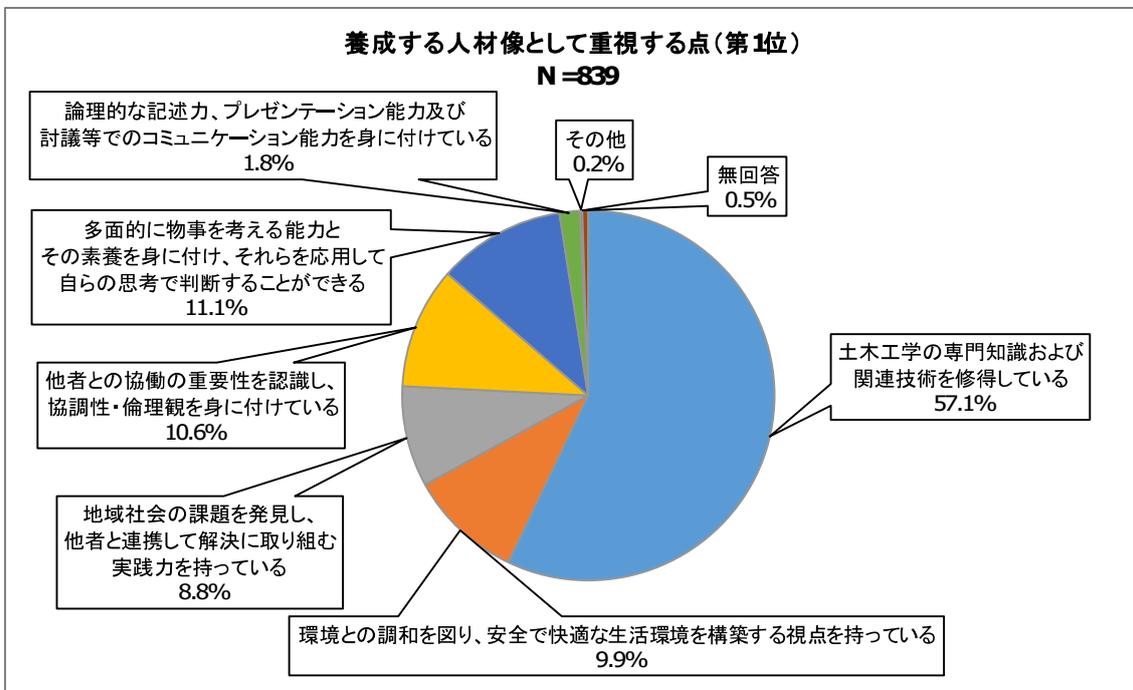
理工学部土木工学科の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	722	86.1
2	ある程度、社会的必要性を感じる	91	10.8
3	あまり必要性を感じない	0	0.0
4	必要性はない	0	0.0
5	わからない	22	2.6
6	その他	0	0.0
	無回答	4	0.5
	N (%ベース)	839	100



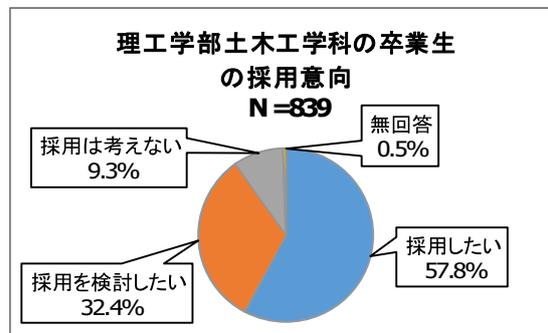
養成する人材像として重視する点（第1位）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	土木工学の専門知識および関連技術を修得している	479	57.1
2	環境との調和を図り、安全で快適な生活環境を構築する視点を持っている	83	9.9
3	地域社会の課題を発見し、他者と連携して解決に取り組む実践力を持っている	74	8.8
4	他者との協働の重要性を認識し、協調性・倫理観を身に付けている	89	10.6
5	多面的に物事を考える能力とその素養を身に付け、それらを応用して自らの思考で判断することができる	93	11.1
6	論理的な記述力、プレゼンテーション能力及び討議等でのコミュニケーション能力を身に付けている	15	1.8
7	その他	2	0.2
	無回答	4	0.5
	N（%ベース）	839	100



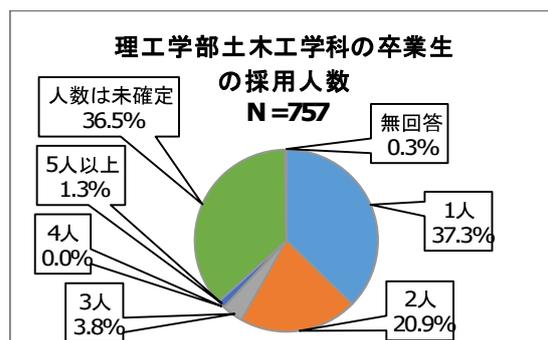
理工学部土木工学科の卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	485	57.8
2	採用を検討したい	272	32.4
3	採用は考えない	78	9.3
	無回答	4	0.5
	N (%^-)	839	100



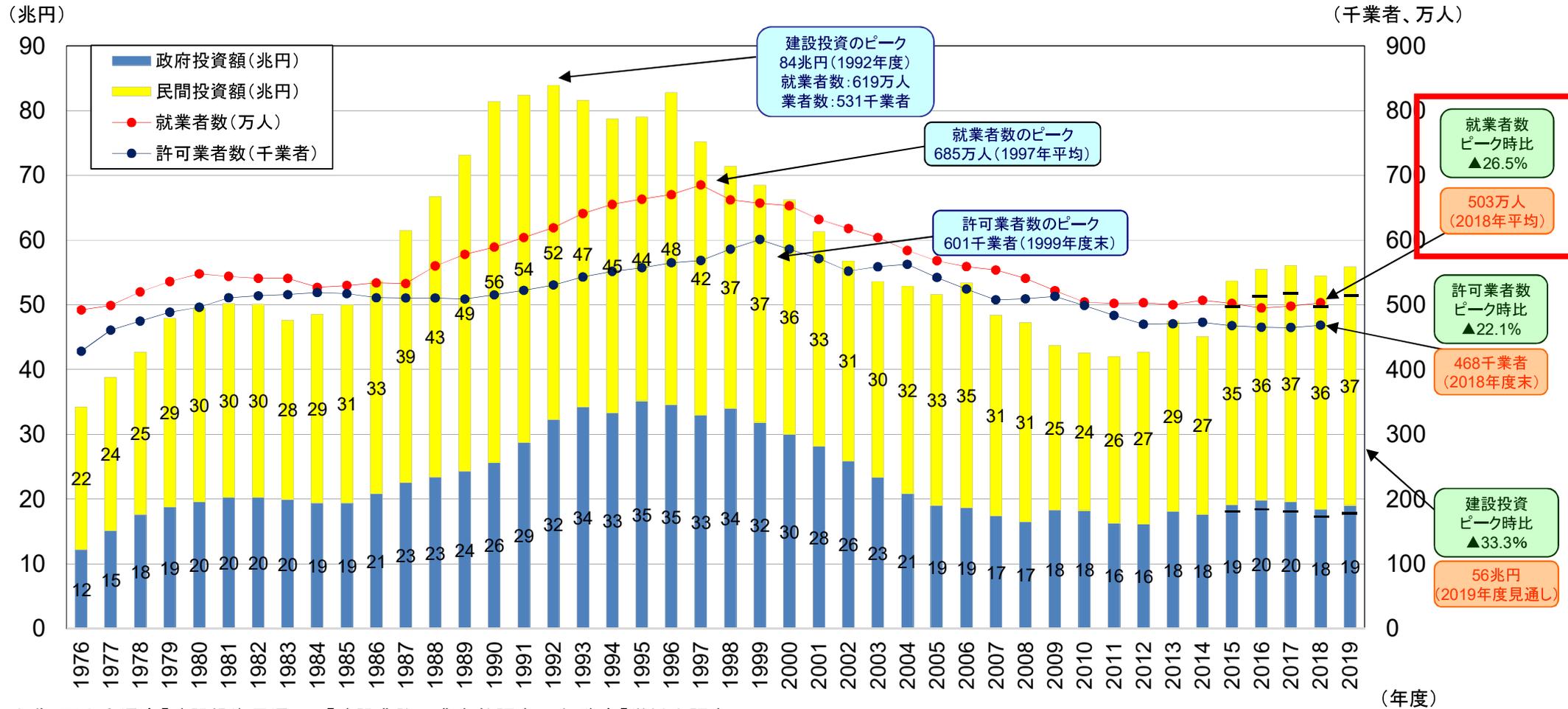
理工学部土木工学科の卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	282	37.3
2	2人	158	20.9
3	3人	29	3.8
4	4人	0	0.0
5	5人以上	10	1.3
6	人数は未確定	276	36.5
	無回答	2	0.3
	N (%^-)	757	100



建設投資、許可業者数及び就業者数の推移

- 建設投資額はピーク時の1992年度：約84兆円から2011年度：約42兆円まで落ち込んだが、その後、増加に転じ、2019年度は約56兆円となる見通し(ピーク時から約33%減)。
- 建設業者数(2017年度末)は約46万業者で、ピーク時(1999年度末)から約23%減。
- 建設業就業者数(2017年平均)は498万人で、ピーク時(1997年平均)から約27%減。



出典：国土交通省「建設投資見通し」・「建設業許可業者数調査」、総務省「労働力調査」
 注1 投資額については2016年度まで実績、2017年度・2018年度は見込み、2019年度は見通し
 注2 許可業者数は各年度末(翌年3月末)の値
 注3 就業者数は年平均。2011年は、被災3県(岩手県・宮城県・福島県)を補完推計した値について2010年国勢調査結果を基準とする推計人口で遡及推計した値注
 注4 平成27年(2015年)産業連関表の公表に伴い、2015年以降建築物リフォーム・リニューアルが追加されたとともに、2011年以降の投資額を遡及改定している

平成29(2017)年静岡県産業別就業者数

産業	総数（人）
総数	1,945,400
農業，林業	60,600
漁業	2,800
鉱業，採石業，砂利採取業	600
建設業	134,500
製造業	501,000
電気・ガス・熱供給・水道業	9,600
情報通信業	27,600
運輸業，郵便業	98,600
卸売業，小売業	280,100
金融業，保険業	38,100
不動産業，物品賃貸業	34,200
学術研究，専門・技術サービス業	57,700
宿泊業，飲食サービス業	116,800
生活関連サービス業，娯楽業	73,300
教育，学習支援業	83,700
医療，福祉	209,800
複合サービス事業	16,200
サービス業（他に分類されないもの）	109,000
公務（他に分類されるものを除く）	51,700
分類不能の産業	39,400

出典：平成29年度 就業構造基本調査（総務省統計局、静岡県）



[HOME](#) > [社会資本の現状と将来](#) > 社会資本の老朽化の現状と将来

社会資本の老朽化の現状と将来

我が国の社会資本ストックは高度経済成長期に集中的に整備され、今後急速に老朽化することが懸念されています。今後20年間で、建設後50年以上経過する施設の割合は加速度的に高くなる見込みであり、このように一斉に老朽化するインフラを戦略的に維持管理・更新することが求められています。

社会資本の老朽化の現状と将来予測

高度成長期以降に整備された道路橋、トンネル、河川、下水道、港湾等について、今後20年で建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に高くなります。

施設の老朽化の状況は、建設年度で一律に決まるのではなく、立地環境や維持管理の状況等によって異なるが、ここでは便宜的に建設後50年で整理します。

建設後50年以上経過する社会資本の割合

	2018年3月	2023年3月	2033年3月
道路橋 [約7.3万橋注1) (橋長2m以上の橋)]	約2.5%	約3.9%	約6.3%
トンネル [約1万1千本注2)]	約2.0%	約2.7%	約4.2%
河川管理施設(水門等) [約1万施設注3)]	約3.2%	約4.2%	約6.2%
下水道管きよ [総延長: 約4.7万km注4)]	約4%	約8%	約2.1%
港湾岸壁 [約5千施設注5) (水深-4.5m以深)]	約1.7%	約3.2%	約5.8%

注1) 建設年度不明橋梁の約23万橋については、割合の算出にあたり除いている。

注2) 建設年度不明トンネルの約400本については、割合の算出にあたり除いている。

注3) 国管理の施設のみ。建設年度が不明な約1,00施設を含む。(50年以内に整備された施設については概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約50年以上経過した施設として整理している。)

注4) 建設年度が不明な約2万kmを含む。(30年以内に布設された管きよについては概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約30年以上経過した施設として整理し、記録が確認できる経過年数毎の整備延長割合により不明な施設の整備延長を按分し、計上している。)

注5) 建設年度不明岸壁の約100施設については、割合の算出にあたり除いている。

資料) 国土交通省

出典: 国土交通省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/02research/02_01.html

省略

1. 書類名

資料 14 (p.67)

一般社団法人 海外建設協会ホームページ資料 (海外受注の増加)

2. 出典

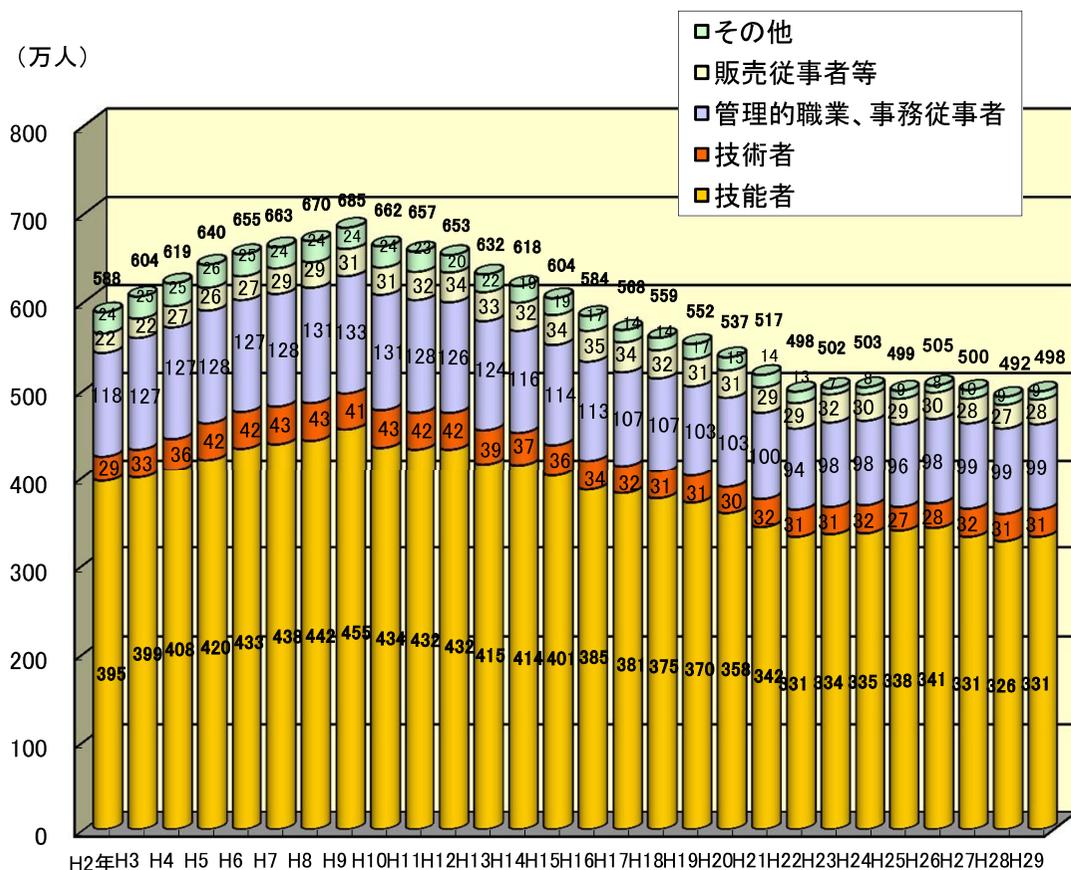
一社) 海外建設協会

3. 引用範囲

https://www.ocaji.or.jp/overseas_contract/

技能者等の推移

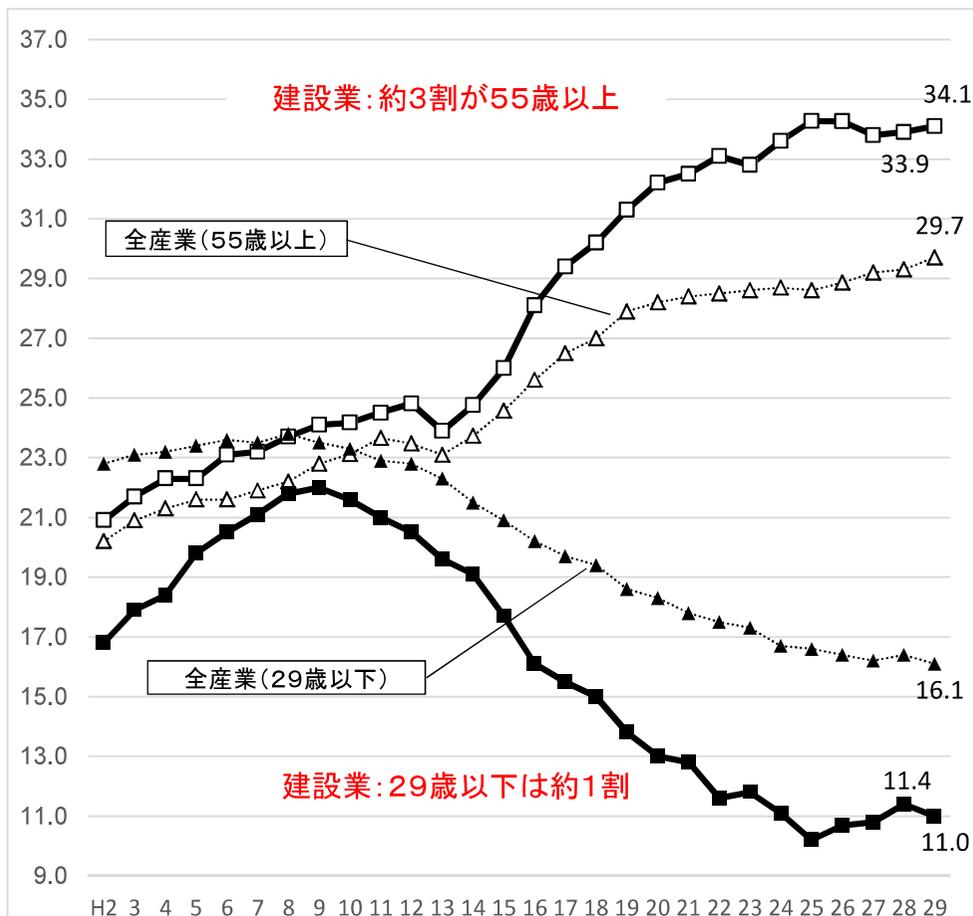
- 建設業就業者: 685万人(H9) → 498万人(H22) → 498万人(H29)
- 技術者: 41万人(H9) → 31万人(H22) → 31万人(H29)
- 技能者: 455万人(H9) → 331万人(H22) → 331万人(H29)



出典:総務省「労働力調査」(暦年平均)を基に国土交通省で算出
(※平成23年データは、東日本大震災の影響により推計値。)

建設業就業者の高齢化の進行

- 建設業就業者は、55歳以上が約34%、29歳以下が約11%と高齢化が進行し、次世代への技術承継が大きな課題。
※実数ベースでは、建設業就業者数のうち平成28年と比較して55歳以上が約3万人増加、29歳以下は約1万人減少。

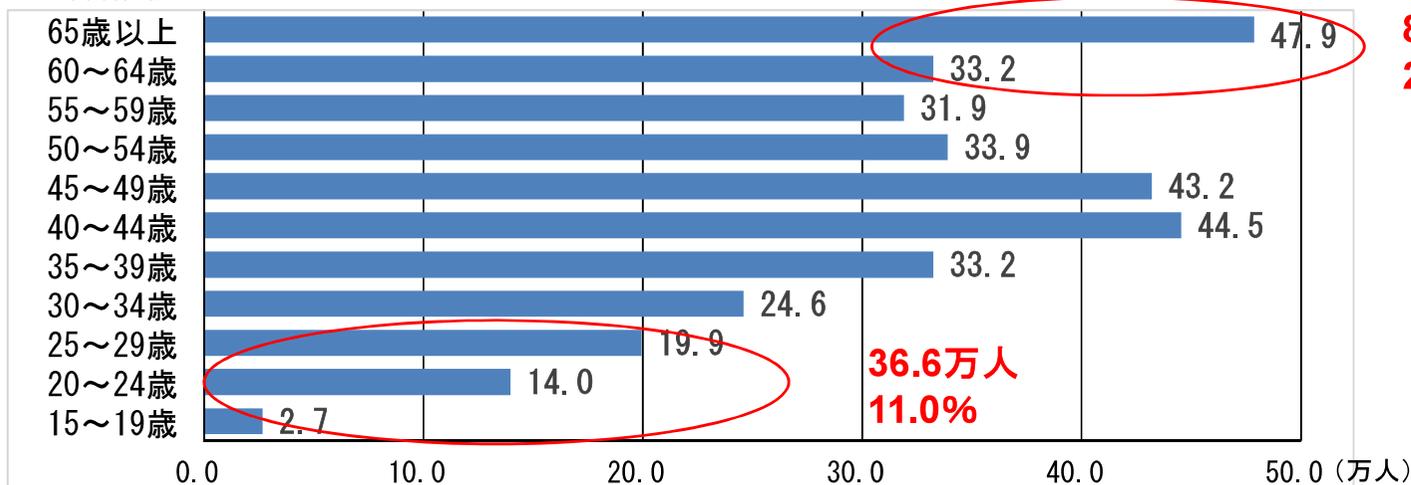


出典:総務省「労働力調査」を基に国土交通省で算出

年齢階層別の建設技能者数・建設業への入職状況

- 60歳以上の技能者は全体の約4分の1を占めており、10年後にはその大半が引退することが見込まれる。
- これからの建設業を支える29歳以下の割合は全体の約10%程度。若年入職者の確保・育成が喫緊の課題。

(年齢階層)

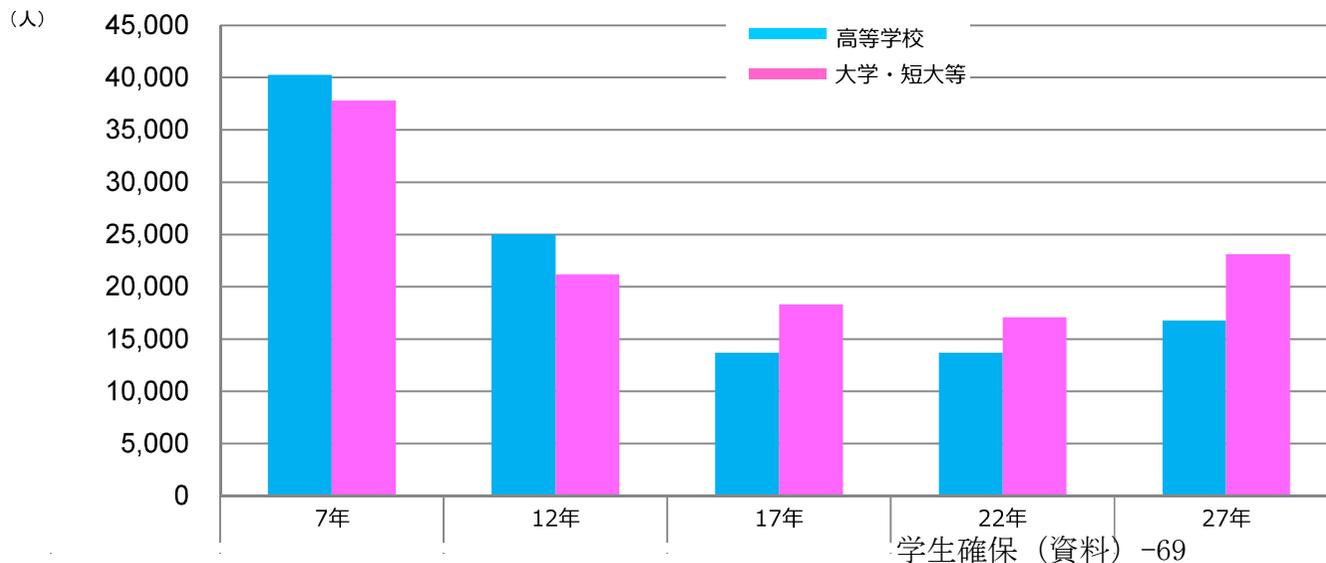


81.1万人
24.5%

36.6万人
11.0%

年齢階層別の建設技能者数
出所:総務省「労働力調査」(H29年平均)をもとに国土交通省で推計

- 建設業への入職者数は近年増加傾向にあるものの、H7年のピーク時から遠い水準



建設業への入職状況
出所:学校基本調査(文部科学省)をもとに国土交通省で作成

資料16 静岡県建設産業ビジョン2019（少子高齢化の進展）

II 建設産業を取り巻く環境変化

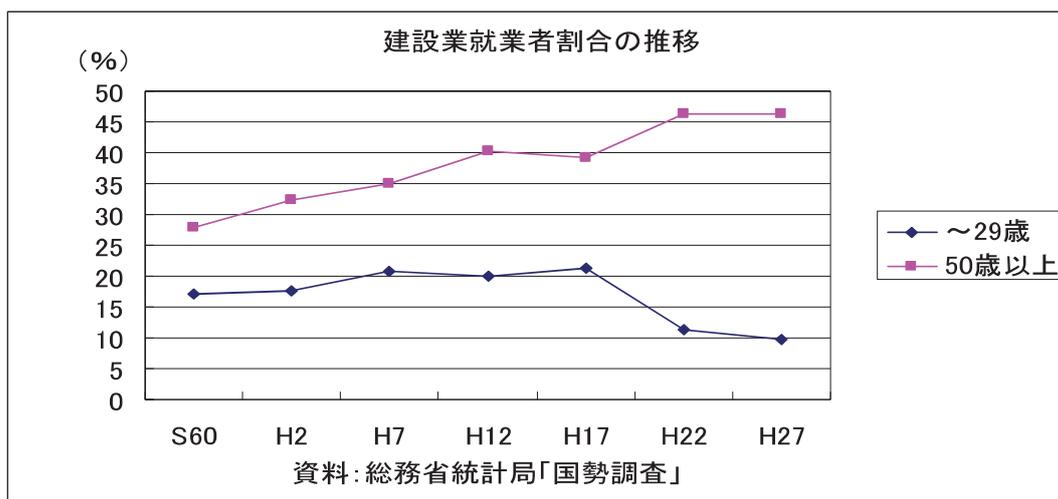
1 少子高齢化の進展

近年の出生率の低下による少子高齢化の進展に伴い、全産業的に生産年齢人口の減少が進む中で、国勢調査によると、県内の建設業についても、就業者数の年齢別の推移は、若年齢層の就業者の割合が減少し、高年齢層が増加する傾向にある。（図表2-1）

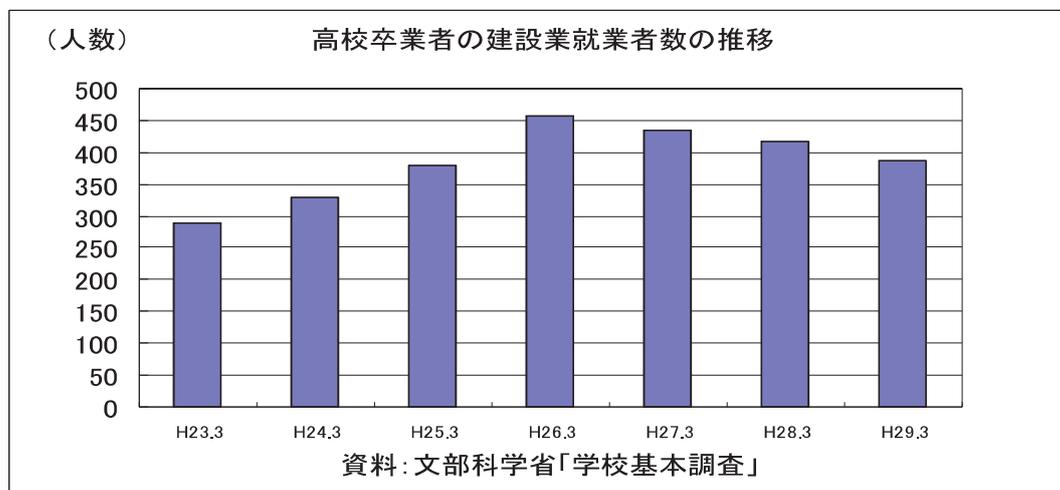
また、高校生の就職状況についても、建設業への就業者数は平成25年度までは増加傾向にあったものの、その後、減少傾向にある。（図表2-2）

若年技術者の減少は、優秀な技術者の育成、熟練者からの技術の継承に支障を生じさせるなど、建設産業の発展を阻む大きな要因になると考えられる。

図表2-1 建設業就業者割合の推移（静岡県）



図表2-2 高校卒業者の建設業就業者数の推移（静岡県）



資料17 令和2(2020年)厚生労働省「労働経済動向調査」

2 労働者の過不足状況

(1) 正社員等労働者

2020年11月1日現在の正社員等労働者過不足判断D.I.をみると、調査産業計で25ポイントと、2011年8月調査から38期連続して不足超過となった。特に「建設業」、「医療、福祉」、「運輸業、郵便業」で人手不足感が高い。(表5、第5図、付属統計表第3-1表)

表5 産業別正社員等労働者過不足状況と労働者過不足判断D.I.

(「不足」-「過剰」, 単位:%、ポイント)

産業	2020年5月調査 ¹⁾			2020年8月調査 ¹⁾			2020年11月調査 ¹⁾		
	不足	過剰	D.I.	不足	過剰	D.I.	不足	過剰	D.I.
調査産業計	33	9	24	29	8	21	31	6	25
建設業	49	3	46	41	2	39	48	0	48
製造業	26	15	11	19	15	4	24	11	13
情報通信業	36	3	33	30	5	25	33	4	29
運輸業, 郵便業	43	2	41	43	6	37	41	4	37
卸売業, 小売業	22	7	15	20	7	13	19	7	12
金融業, 保険業	15	2	13	15	1	14	16	1	15
不動産業, 物品賃貸業	33	5	28	37	4	33	27	3	24
学術研究, 専門・技術サービス業	34	3	31	32	2	30	37	4	33
宿泊業, 飲食サービス業	14	14	0	20	10	10	25	8	17
生活関連サービス業, 娯楽業	20	10	10	23	9	14	23	11	12
医療, 福祉	50	7	43	45	5	40	46	3	43
サービス業(他に分類されないもの)	33	5	28	25	6	19	29	3	26

注: 無回答を除いて集計している。

1) 5月調査は5月1日現在、8月調査は8月1日現在、11月調査は11月1日現在の状況である。

(2) パートタイム労働者

2020年11月1日現在のパートタイム労働者過不足判断D.I.をみると、調査産業計で16ポイントと、2009年11月調査から45期連続して不足超過となった。特に「サービス業(他に分類されないもの)」、「宿泊業、飲食サービス業」などで人手不足感が高い。(表6、第5図、付属統計表第3-1表)

表6 産業別パートタイム労働者過不足状況と労働者過不足判断D.I.

(「不足」-「過剰」, 単位:%、ポイント)

産業	2020年5月調査 ¹⁾			2020年8月調査 ¹⁾			2020年11月調査 ¹⁾		
	不足	過剰	D.I.	不足	過剰	D.I.	不足	過剰	D.I.
調査産業計	23	7	16	21	7	14	21	5	16
建設業	8	4	4	4	3	1	6	-	6
製造業	11	11	0	9	11	△2	12	7	5
情報通信業	6	2	4	6	1	5	3	3	0
運輸業, 郵便業	22	6	16	23	3	20	23	3	20
卸売業, 小売業	40	3	37	30	4	26	27	5	22
金融業, 保険業	9	-	9	10	-	10	5	-	5
不動産業, 物品賃貸業	32	1	31	28	2	26	19	-	19
学術研究, 専門・技術サービス業	5	1	4	7	3	4	7	3	4
宿泊業, 飲食サービス業	29	17	12	32	18	14	37	11	26
生活関連サービス業, 娯楽業	35	12	23	35	10	25	32	14	18
医療, 福祉	27	5	22	26	5	21	26	3	23
サービス業(他に分類されないもの)	40	4	36	32	6	26	33	3	30

注: 無回答を除いて集計している。

1) 5月調査は5月1日現在、8月調査は8月1日現在、11月調査は11月1日現在の状況である。

出典: 厚生労働省「労働経済動向調査(2020年11月)の概況」より

静岡県建設産業ビジョン2019

～夢や誇りのもてる魅力ある産業への転換に向けて～



平成31年3月

静岡県建設業審議会

静岡県建設産業ビジョンの改訂に寄せて



建設産業は、生活に密着したインフラや住宅等を整備し、災害から地域を守る重要な役割を担うとともに、多くの就業機会を提供する本県の基幹産業であります。

県では、平成23年に、力強く安全安心な“ふじのくに”づくりに向けた静岡県建設産業ビジョンを策定し、業界の皆様とも連携を図りながら、入札・契約制度の改善や県民への広報による建設産業の理解促進等に取り組んでまいりました。

近年、建設投資額はやや上昇傾向にあるものの、建設産業の経営環境は依然として厳しい状況が続き、担い手不足が深刻化する中で、働き方改革も急務となっております。また、多発する自然災害への迅速な対応や、地域の特性を踏まえた美しい景観・環境づくりなど、期待される役割も増大し、建設産業を取り巻く環境が大きく変化してきているため、昨年9月、静岡県建設業審議会にビジョンの改訂をお諮りいたしました。

学識経験者、建設業界、建設工事の需要者などから成る審議会の委員の皆様にご議論いただくとともに、パブリックコメントにより頂いた多くの御意見を踏まえ、この度、本ビジョンを取りまとめました。御協力を頂きました皆様に、厚くお礼を申し上げます。

県といたしましては、建設産業に関係する皆様と一体となって、本ビジョンの5つの柱「働き方改革の推進」、「担い手の確保・育成」、「建設現場における生産性の向上」、「経営の安定化と地域力の強化」及び「美しい景観の創造力向上」の各施策に取り組むことにより、「建設産業における新4K（給料・休暇・希望・きれい）の実現」と「夢や誇りのもてる魅力ある産業への転換」を目指してまいります。

地域の守り手である建設産業に携わる人材を持続的に確保することにより、暮らし・環境・景観が素晴らしいと感じることができる、安全・安心で魅力ある「富国有徳の美しい“ふじのくに”」づくりを進めてまいります。

平成31年3月

静岡県知事 川勝平太

出典 平成30年3月「静岡県建設産業ビジョン2019」より抜粋

はじめに

本審議会では、川勝平太静岡県知事から諮問を受け、平成23年11月に、長引く景気停滞による公共投資の減少などを踏まえ、「過剰供給構造の是正」や「建設産業の再生」などを柱とした「静岡県建設産業ビジョン」を取りまとめました。



それから7年以上が経過し、長時間労働が社会的な問題として注目されるなど、建設産業を取り巻く環境も大きく変化していることから、昨年9月5日、知事から「建設産業が魅力ある産業へ転換するための方策について（静岡県建設産業ビジョンの改訂）」の諮問を受け、約6ヶ月間にわたって審議・検討を行い、「静岡県建設産業ビジョン2019～夢や誇りのもてる魅力ある産業への転換に向けて～」を取りまとめました。

本ビジョンでは、あらためて本県建設産業を取り巻く環境変化や課題を整理いたしました。

少子高齢化の進展により、若年層を中心に担い手不足が深刻化する一方、自然災害の多発や高度経済成長期を中心に整備された社会インフラの維持管理・更新需要の増加への対応など、建設産業の担うべき役割がますます増大する中、働き方改革関連法の成立を受け、長時間労働の是正など働き方改革も待ったなしとされております。また、景観・環境に対する関心の高まりを受けて、美しい景観形成や環境の保全にも取り組む必要があります。

これらの課題を踏まえ、「働き方改革の推進」、「担い手の確保・育成」、「建設現場における生産性の向上」、「経営の安定化と地域力の強化」、「美しい景観の創造力向上」の具体的取組をまとめ、取組の緊急性に応じて短期・中期に区分するとともに、取組の担い手を行政・企業別に明確化し、更に、PDCAサイクルによる施策推進を徹底するため、数値目標を設定いたしました。

今後、行政、建設企業、関係団体など建設産業に携わる関係者が一体となり緊密に連携しながら、本ビジョンに示した具体的な方策に真摯に取り組む、新4K（給料、休暇、希望、きれい）を実現し、夢や誇りのもてる魅力ある産業へ転換することを目指してまい進されることを期待します。

平成31年3月

静岡県建設業審議会 会長 磯辺 剛彦

出典 平成30年3月「静岡県建設産業ビジョン2019」より抜粋

「静岡県建設産業ビジョン改訂」の概念図

＜現行ビジョン＞

課題・方策

成果

○過剰供給構造の是正
(1) 過剰供給構造の是正
(2) 不良不適格業者の排除

・県発注工事の下請契約から社会保険未加入業者を排除
・法定福利費を明示した請負代金内訳書の徴収を開始
・建設業許可、入札参加資格、指名、下請契約から暴力団関係企業を排除
・下請企業から元請企業へ法定福利費の内訳を明示した標準見積書等を使用することにより法定福利費を確保

○建設産業の再生
(1) 建設産業の健全な発展、地域社会との連携
(2) 建設企業の経営基盤強化
(3) ビジネス経営体への発展
(4) 若年技術者等の確保、育成
(5) 建設関連分野への広がり、新分野への展開

・産学官が連携した「建設産業担い手確保・育成対策支援コンソーシアム」において、若年者・女性に対する建設産業への理解促進の取組を検討して実施
・建設業者団体が実施する担い手確保・育成の新たな取組を支援
・建設産業再生支援事業による合併・新分野進出の取組支援
・道路や河川等の維持補修、更新工事等を計画的に実施し、地元雇用に貢献
・県内中学校・高校への建設産業ガイドブックの配布、しずおか「けんせつ小町」女子会の実施など
・「静岡どぼくらぶ」を活用した官民一体のPRを実施
・快適トイレ設置など若手や女性が働きやすい環境整備

○入札・契約制度の改善
(1) 価格と品質を総合的に評価する制度等の拡充
(2) 受発注者間の対等性の確保、協力関係の構築
(3) コンプライアンスの徹底と公正な競争環境の確保
(4) 地域で活躍する建設企業の評価

・担い手確保・育成入札や休日確保型入札を試行
・低入札調査基準価格、契約しない基準額の引き上げ等によるダンピング受注防止対策の強化
・過疎地域における地域を守る事業者維持・育成入札（旧ビジネス経営体を対象とした入札）を試行
・債務負担行為の活用、工事着手日選択型工事の試行、早期発注などによる発注・施工時期の平準化の取組
・総合評価方式における評価項目の事前審査登録制度採用による受発注者の事務軽減

○災害時対応力の向上
(1) 大規模災害を想定した実効性の高い災害対応システムの構築

・東日本大震災における復興支援活動で得られた教訓や知見を生かした「交通基盤部事前復興行動計画」を策定
・大規模地震災害が発生した際の迅速かつ適正な施工を確保するため、復旧・復興建設工事共同企業体取扱要領を制定
・総合評価方式において、企業の災害対応力の評価拡充

背景

・少子高齢化の進展
・自然災害の多発
・維持管理・更新需要の増大
・働き方改革関連法の成立

課題（ポイント・視点）

地域として

・景観への配慮
・地域インフラの老朽化
・地域の守り手の存続
・社会インフラの有効活用

業界として

・新設市場の縮小
・市場構造の変化（ストック市場へ）
・建設産業への理解不足

企業として

・収益性の低下
・マネジメント（経営力の向上）
・担い手の確保・育成
・事業・技能の継承
・労働時間の縮減

＜改訂版ビジョン＞

施策の柱と項目

● 働き方改革の推進

・就労環境や処遇の改善
・働き方改革を促す入札・契約制度
・工事現場における就業者の安全及び健康対策
・社会保険等未加入対策の更なる推進

● 担い手の確保・育成

・担い手の育成
・産学官が連携した理解促進
・「静岡どぼくらぶ」を活用した戦略的PR
・担い手確保・育成のための入札・契約制度
・就労環境や処遇の改善（再掲）

● 建設現場における生産性の向上

・建設生産プロセスにおけるICTや新技術の活用
・発注・施工時期の平準化の推進
・適正な工期設定
・市町への支援
・その他の取組

● 経営の安定化と地域力の強化

・建設市場に対応した地域建設企業の経営プロセスの改善
・地域の守り手に配慮した入札・契約制度
・増大する社会インフラの維持管理・更新需要への対応
・災害対応力の向上・国土強靱化
・地域の多様な主体との連携強化

● 美しい景観の創造力向上

・きれいな現場の実現
・新設・維持管理・更新における美しい景観形成への意識醸成
・美しい景観を創造する技術力向上
・美しい景観の創造に向けた入札・契約制度

建設産業が目指す姿
新4K（給料、休暇、希望、きれい）の実現により魅力ある産業へ転換

出典 平成30年3月「静岡県建設産業ビジョン2019」-より抜粋

省略

1. 書類名

資料 19 (p.76)

地方自治体からの書類

2. 出典

静岡県知事

静岡県教育長

袋井市長

3. 引用範囲

静岡県知事「静岡理工科大学工学部土木工学科の設置について」

静岡県教育長「静岡理工科大学工学部土木工学科の設置について」

袋井市長「静岡理工科大学工学部土木工学科設置に関する要望書」

4. その他の説明

静岡県知事、静岡県教育長、袋井市長からの静岡理工科大学工学部土木工学科の設置への期待や要望についての書面を、それぞれ添付した。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	ノグチ ヒロシ 野口 博 ＜平成26年4月＞		工学博士		静岡理工科大学 学長 ＜平成26年4月～令和4年3月＞

（注） 高等専門学校にあつては校長について記入すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	1人	4人	人	人	人	5人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	3人	人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	4人	4人	人	人	人	8人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。